



ネットワークビデオレコーダー

型
名

VR-X5100

Milestone XProtect
Smart Client
ユーザーマニュアル

本書では、ビューワー "Smart Client" について、VR-X5100 取扱説明書に掲載されていない詳しい操作方法や応用操作について説明しています。

目次

このマニュアルの対象ユーザー.....	12
監視システムの別の特徴.....	13
最低限のシステム要件.....	14
ようこそ	15
新機能	15
ヘルプの表示	19
バージョンおよびプラグイン情報の表示.....	20
XProtect Smart Client の開始.....	21
XProtect Smart Client のインストール.....	21
管理サーバーからのインストール	21
DVD からのインストール	21
ログインプロセス.....	22
ログインウィンドウ（説明付き）	22
ログイン認証（説明付き）	23
アクセスコントロールシステム（説明付き）	23
ログインおよびログアウト.....	24
トラブルシューティング	24
XProtect Smart Client の概要	26
XProtect Smart Client のモードについて	26
上級版ワークスペースを使う	27
簡易ワークスペースの使用.....	30
ライブタブ	32
再生タブ	35

セットアップモード	37
カメラツールバー	39
[ステータス]ダイアログボックス	40
System Monitor タブ	41
Milestone Federated Architecture	41
XProtect Smart Client の設定	42
設定ウィンドウ（説明付き）	42
ハードウェアアクセラレーションの有効化	54
XProtect Smart Client の操作	57
ユーザー権限によって、操作方法が決定されます	57
ライブビデオ（説明付き）	58
ビデオの手動録画	59
録画されたビデオ（説明付き）	59
設定モードに入る	61
ビューの選択	61
フル画面表示	62
単一の画像のコピー	62
キーボードのショートカット	62
デジタルズーム、パンチルトズーム、 360° レンズ画像	64
デジタルズーム	64
PTZ および魚眼レンズ画像	66
手動での出力のアクティブ化	76
監視と通信	78
ビュー（説明付き）	78
ビューの作成および管理	79
ビューおよびビューのグループ	80
ビューグループの作成	82
ビューの作成	82

ビューやグループをコピー、名前変更、または削除する	83
ビューヘショートカット番号を割り当てる	84
プライバシーマスク	84
ビューにコンテンツを追加する	85
ビューおよびカメラの検索.....	85
ビューにカメラを追加する.....	85
ビューまたは Smart Wall に HTML ページを追加する.....	86
Smart Wall に画像を表示する	88
ビューにオーバーレイボタンを追加する	89
ビューアイテムまたは Smart Wall へのテキストの追加	90
ビュー間でビデオを送信する.....	91
ビューのカメラを変更	91
カメラの切り替え.....	92
HTML ページを使ったナビゲーション.....	92
よくある質問：ビュー	95
画面自動切替	97
画面自動切替（説明付き）	97
ビューまたは Smart Wall に画面自動切替を追加する	97
自動切替設定	98
ホットスポット	98
ホットスポット（説明付き）	98
ビューまたは Smart Wall にホットスポットを追加する	99
ホットスポット設定	99
カメラ	99
ビューにカメラを追加する.....	99
カメラ名と色のインジケータ	100
仮想ジョイスティックおよび PTZ オーバーレイボタン.....	101
カメラ設定	101

よくある質問：カメラ	107
カメラナビゲータ	107
カメラナビゲータ（説明付き）	107
カメラナビゲータの設定	109
ビューまたは Smart Wall にカメラナビゲータを追加する	110
音声設定	111
オーディオ（説明付き）	111
音声設定	111
相手と話す	112
よくある質問：音声	113
マップ	114
地図の紹介	114
マップ設定	118
ツールボックス	120
右クリックメニュー	120
マップ概要ウィンドウ	121
よくある質問：マップ	121
マップの操作	122
Smart Map（説明付き）	128
マップとスマートマップ（説明付き）	129
背景地図入門	129
ビューにスマートマップを追加する	131
スマートマップの地理的背景を変更する	132
Smart Map 上の詳細レベルを上げるため、カスタムオーバーレイを利用します	132
Smart Map 上の背景地図を変更する。	134
OpenStreetMap タイルサーバーの変更	134
Smart Map でカスタムオーバーレイを追加または削除します	135
Smart Map にカメラを追加して視界を変える	137

スマートマップからのカメラの削除	138
スマートマップのリンクを追加または削除する.....	138
Smart Map 上のロケーションを追加、編集または削除する	139
Smart Map 上のレイヤーを扱う	140
スマートマップの既定の設定の管理	141
スマートマップをもっと知る	142
Smart Map 上のカメラの映像をプレビューする	143
Matrix	144
Matrix (説明付き)	144
Matrix 設定.....	145
ビューに Matrix のコンテンツを追加する	145
手動で Matrix の受信コンピュータにビデオを送信する	145
マルチウィンドウ	145
ディスプレイ間でビューを送信する	147
よくある質問：マルチウィンドウ	148
調査と文書.....	149
録画済みビデオの検索	149
個別再生を使用する録画済みビデオの表示	149
エクスポートされたビデオの表示	150
シーケンスエクスプローラを使用したビデオの検索.....	151
シーケンス検索	151
シーケンスの検索.....	152
検索の定義	153
タイムライン	153
録画検索ペインを使用した検索	153
ブックマークの検索.....	154
シーケンスのナビゲート	154

サムネイル概要のナビゲーション	156
録画されたビデオのモーションを検索する	157
シーケンスエクスプローラを使用したモーションの検索	157
スマートサーチを使用したモーション検索	159
時間の調整	160
モーションしきい値（説明付き）	160
スナップショットの作成	160
時間ナビ制御	161
タイムラインのボタンとコントロール	161
タイムライン	161
再生の日時	163
日付と時刻のナビゲーション	163
時間選択	163
再生スピード	163
再生ボタン	163
ナビゲーションボタン	164
時間幅	164
タイムラインのブックマーク	164
追加情報	164
詳細マーカ	165
ブックマーク	166
ブックマーク（説明付き）	166
ブックマークウィンドウ	166
ブックマークの追加および編集	167
イベントおよびアラーム	168
アラームの操作	168
イベント	170

証拠のエクスポート	171
エクスポートウィンドウの設定（説明付き）	171
ビデオクリップ、音声、 XProtect データ、静止画像のエクスポート	175
ストーリーボードのエクスポート	176
エクスポートウィンドウからアイテムを直接エクスポートする	176
エクスポート中に録画の領域をマスクする	177
よくある質問：エクスポート	177
証拠ロック	178
証拠を印刷する	183
Milestone Interconnect からデータを取得する	184
拡張	186
XProtect Smart Wall	186
XProtect Smart Wall （説明付き）	186
XProtect Smart Wall でのライブまたは録画されたコンテンツの表示	187
Smart Wall の操作を開始する	188
カメラからビデオを表示する	189
Smart Wall のコンテンツの追加と削除	190
ビューまたは Smart Wall でのアラームリストの表示	194
Smart Wall での個別のアラームの表示	194
ビューから Smart Wall にコンテンツを送信する	201
Smart Wall モニターのレイアウトの変更	202
XProtect Smart Client – Player	203
XProtect Smart Client – Player （説明付き）	203
XProtect Smart Client – Player クイックガイド	203
XProtect Smart Client – Player のビューの操作	204
データベースを開くウィザード	205
ビデオエビデンスの真偽の確認	205

XProtect Access	207
XProtect Access (説明付き)	207
アクセスコントロールイベントのライブビデオの表示	208
アクセスコントロールイベントの調査.....	210
アクセスリクエスト通知の操作	215
XProtect LPR	216
ライブタブの LPR	217
LPR タブ	218
アラームマネージャタブの LPR	221
XProtect Transact	223
XProtect Transact について	223
Transact ワークスペース (説明付き)	223
XProtect Transact の概要	224
XProtect Transact 試用版ライセンス	225
使用開始.....	226
トランザクションのビューの設定	226
ライブトランザクションの監視	229
トランザクションの調査	230
トランザクションの印刷	234
スクリプト	235
起動スクリプト	235
トラブルシューティング	238
スマートマップ (トラブルシューティング)	238
Smart Wall (トラブルシューティング)	238
XProtect Transact (トラブルシューティング)	239
用語集	240

索引	245
----------	------------

著作権、商標、および免責条項

著作権 : © 2017 Milestone Systems A/S

商標

XProtect は Milestone Systems A/S の登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の登録商標です。App Store は Apple Inc.のサービスマークです。Android は Google Inc.の商標です。

本書に記されているその他の商標はすべて、それぞれ該当する所有者の商標です。

免責条項

このマニュアルは一般的な情報を提供するためのものであり、その作成には細心の注意が払われています。

この情報を使用することにより発生する危険の責任はすべてその使用者にあるものとします。また、ここに記載されている内容はいずれも、いかなる事項も保証するものではありません。

Milestone Systems A/S は、事前の通知なしに変更を加える権利を有するものとします。

本書の例で使用されている人物および組織の名前はすべて架空のものです。実在する組織や人物に対する類似性は、それが現存しているかどうかにかかわらず、まったくの偶然であり、意図的なものではありません。

この製品では、特定の契約条件が適用される可能性があるサードパーティ製ソフトウェアを使用することがあります。その場合、詳細は Milestone 監視システムのインストールフォルダにあるファイル

3rd_party_software_terms_and_conditions.txt にあります。

このマニュアルの対象ユーザー

以下のドキュメントは、XProtect Smart Client のユーザーを対象として、XProtect Smart Client のインストール、設定、使用に関する詳細情報を提供しています。さらに、操作手順の例が数多く提供され、XProtect Smart Client の一般的なタスクを実行できるように解説されています。

接続している Milestone 監視システムの種類、ユーザー権限、組織におけるユーザーの役割などによっては、使用できない XProtect Smart Client の機能もあることに注意してください。詳しくは、システム管理者に確認してください。

ユーザー インターフェース要素の配置に関する記述では、左から右へ表示するインターフェースを使用していると想定しています。一部の言語では、これを右から左へのインターフェースへ変更することができます。インターフェースを右から左へ設定すると、ボタン、ツールバー、ペインはこのドキュメントでの説明と逆になります。

監視システム管理者がすでに、あるユーザーに必要なビューを設定していることが分かっている場合は、このマニュアルの一部を省略してもかまいません。XProtect Smart Client をインストールして、ログインした後、ライブビデオと録画ビデオの再生についての章に直接進んでください。詳しくは、監視システム管理者にお問い合わせください。

監視システムの別の特徴

XProtect Smart Client に搭載されている機能の多くは、接続されている Milestone 監視システムの種類に関係なく使用できます。ただし、一部の機能は、XProtect Smart Client が接続している監視システムの種類によって動作が異なります。接続している Milestone 監視システムの種類が分からない場合は、監視システムの管理者に詳細をお問い合わせください。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の XProtect 製品比較表を参照してください。 <http://www.milestonesys.com>.

一般的に、Milestone では、使用中の XProtect 監視システムにあるすべての新機能を使用するためには、常に最新バージョンの XProtect Smart Client を使用することをお勧めしています。

最低限のシステム要件

各種システムコンポーネントの最低システム要件については、Milestone Web サイト『<http://www.milestonesys.com/SystemRequirements>』をご覧ください。

どのバージョンの DirectX をインストールしているかを確認するには:

- スタートをクリックし、**実行...**を選択して **dxdiag** と入力します。**OK** をクリックすると、**DirectX 診断ツール**ウィンドウが開きます。

バージョン情報は、**システム**タブの最下部近くに表示されます。サーバーが DirectX のアップデートを必要とする場合は、最新版の DirectX を Microsoft Web サイト『<http://www.microsoft.com/downloads>』から入手できます。

ようこそ

新機能

以前に XProtect Smart Client をご利用いただいていた場合、既に XProtect Smart Client の 1 つまたは複数の新機能にお気づきのことと思います。

XProtect Smart Client 2017 R2 において

スマートマップ

※本機は、スマートマップには対応していません。

- Milestone Federated Architecture のサポート - サイトの階層があっても、ひとつのスマートマップがすべてのサイトからのカメラ全部の地理的な概要を提供します。これによって、スマートマップ上にあるカメラの生の映像を表示したり、録画を調査することができます。
- Milestone Federated Architecture に新しくサブサイトを追加すると、そのサブサイトのカメラが自動的にスマートマップに表示されます。
- また、カメラ階層または検索ペインから、スマートマップ上にあるサブサイトのカメラを手動で配置することができます。
- Management Client でまたは MIP SDK を通して設定されたカメラは、自動的にスマートマップに表示されます。
- スマートマップ上のカメラまたはカスタムオーバーレイに、手動で操作することなく素早くジャンプできます。
- ユーザー権限によって、オペレータがカメラの配置を変更できるかどうかを制御できます。
- 改善されたズーム機能 - カメラがマップに散在するのを防ぐため、カメラをズームレベルに従って適切にグループ化します。詳細については、スマートマップを探索する 『142ページ の"スマートマップをもっと知る"参照』、*ズームイン&ズームアウト*を参照してください。

XProtect Smart Client 2017 R1 において

スマートマップ

※本機は、スマートマップには対応していません。

- OpenStreetMap を使用する場合、例えば、ローカルサーバーに保存されているカスタム化されたマップを使うなど、 『134ページ の"OpenStreetMap タイルサーバーの変更"参照』 ご希望により、タイルサーバーを指定することができます。
- これで、特定のタイプの XProtect Smart Client ユーザーがスマートマップを編集するのを防ぐことができます。これには、関連した Smart Client プロファイルを Management Client で設定する必要があります。

アラームリストの右から左への言語のサポート

アラームリストが右から左への言語での要素を正しく表示するよう改善されました。設定の簡単な保存

- オプションウィンドウの見出しは**設定**になりました。新しい設定を行う場合、別のタブに移動したりウィンドウを閉じると、変更が自動的に保存されます。

XProtect Smart Client 2016 R3 において

スマートマップ

※本機は、スマートマップには対応していません。

Smart Map は、世界中の監視システムについて単一の概要を作成したり、リアルな映像で特定の一つの場所を表示するための、新しくパワフルな機能です。

- XProtect Smart Client で Bing Maps（ビングマップ）、Google Maps（グーグルマップ）、OpenStreetMap（オープンストリートマップ）を背景地図として使い、世界中のロケーションを地図にしましょう。Smart Map に表示する画像を変えて、希望する種類の詳細を追加しましょう。
- カスタムオーバーレイとして、画像、CAD 図面、シェープファイルを追加することにより背景地図を改善し、あなたの環境を反映させた画像や図面にしましょう。カスタムオーバーレイは地理参照することができ、背景地図上の正しい場所に自動的に表示されます。

特定のロケーションへのリンクや他の地図を使って、**Smart Map** を素早く使いこなしましょう。簡易モードでのビデオのエクスポート

- エクスポートダイアログが、より使いやすいエクスポートパネルに置き換えられました。このパネルは、ビューの隣に現れます。
- エクスポートパネルが開いている時、現在のビューはまだアクティブです。エクスポートにカメラを含める場合は、単に希望のカメラを選択してください。
- エクスポートパネルを終了させずに、他のビューからカメラを選択することもできます。

H.265

※本機は、H.265 には対応していません。

- H.265 映像コーデック HECV（高能率映像符号化）のサポートを追加
- 現在のデバイスパックでは、2 台のカメラしかサポートされていません。
- リソースインテンシブ。デコードには多くの GPU/CPU パワーを要する。
- ハードウェアアクセラレーションによるデコードが必要。
- インテル skylake（第 6 世代）プロセッサは H.265 のデコードに完全対応。
<https://software.intel.com/en-us/blogs/2015/12/11/codecs-are-they-slowng-you-down>
- UHD イネーブラ。

XProtect Essential 製品変更

XProtect Go は販売中止となり、XProtect Essential は無料でダウンロードおよびインストールすることができます。つまり：

- カメラの最大台数は 26 台から 48 台になり、8 台は無料となります。
- XProtect Essential システムは、XProtect Corporate システムに相互接続することができなくなります。
- XProtect Smart Client 2016 R2 またはそれ以前のバージョンは、XProtect Essential 2016 R3 システムまたはそれ以降のバージョンに接続することができなくなります。

詳細な情報については、弊社のウェブサイト

『<https://www.milestonesys.com/our-products/video-management-software/xprotect-essential/>』をご覧ください。

その他の特徴

- エクスポート、証拠ロックそして回収ボタンがタイムラインに近い位置に移動し、よりアクセスしやすくなりました。

XProtect Smart Client 2016 R2 において

簡略化されたワークスペース

- 高度なワークスペースの代わりに、簡略版のワークスペース 『30ページ の"簡易ワークスペースの使用"参照』で映像監視を扱うことができるようになりました。
- 簡略版では機能やタブの数を減らし、基本的なタスクに集中しやすくしています。
- トグルモードボタンを使うと、簡略版と上級版の切り替えができます。デフォルトでは、XProtect Smart Client がこれらのいずれかのモードで開きます。
- システム管理者は、トグルモードボタンを取り除くこともできます。

XProtect Smart Client 2016 は

Smart Wall を使ってもっと効率的に連携しましょう

※本機は、Smart Wall には対応していません。

- カメラに加えて、Smart Wall 『186ページ の"XProtect Smart Wall (説明付き)"参照』は、Smart Client サポートの全てのコンテンツを表示することができます。これには、HTML ページ、テキストメッセージ、画像、地図、アラーム、カルーセル、ホットスポットが含まれます。
- Smart Wall の概要にあるタイルは、表示項目がコンテンツを表示しているか否か、また表示している内容を判断しやすくします。青色のタイルはコンテンツを、灰色のタイルは空であることを示しています。タイルには、表示しているコンテンツの種類を示すアイコンが表示されます。
- コンテンツは、イベント発生時にのみ表示することができ、イベントの終了を基に、一定の時間が経過した後には削除することができます。例えば、カメラが動きを検知したときの応答チェックリストを表示することができます。イベントの終了後、モニターは再び空になります。これを行うには、システム管理者が開始イベントと終了イベントを設定する必要があります。

- 再生許可では、Smart Wall で他の人が閲覧する内容に影響を与えずに、生の映像と録画された映像を調査することができます。調査中、共有映像から切り離し、終了した後再度接続することができます。これを行うには、システム管理者があなたの役割用に再生許可を有効にする必要があります。

XProtect Transact 2016

※本機は、XProtect Transact には対応していません。

- 改善された簡単なインストールとライセンシング。
- 最適化された外観と操作感。
- フィルターをかけてフリーテキストの検索を行うことができる新しいワークスペースでは、例えば、過去 7 日間に購入した特定のアイテムを探すことができます。
- ライブと再生モードで改善された閲覧オプション。

向上された PTZ 機能

お持ちのシステムとユーザー権により、以下が可能です：

- PTZ セッションの予約とリリース。予約した PTZ セッション中は、あなたがカメラを操作することができます。あなたがセッションをリリースすると、他の人もカメラを操作できるようになります。これを行うには、システム管理者が、あなたの役割用に **PTZ セッションの予約**と **PTZ セッションのリリース** 許可を有効にする必要があります。
- カメラを操作する時間がもっと必要な場合は、誰が開始したかに関わらず、システム巡回またはマニュアル巡回を一時停止します。
- 既存のものが要求を満たしていない場合は、自分の PTZ プリセットと巡回プロファイルを作成します。これを行うには、システム管理者があなたの役割用に **PTZ プリセット**または**巡回プロファイルの管理**許可を有効にする必要があります。
- あなたまたはシステム管理者が作成する PTZ プリセットと巡回プロファイルは、あなたも他のユーザーも作動させることができます。これを行うには、システム管理者が関連する役割用に **PTZ プリセット**または**巡回プロファイルの作動**許可を有効にする必要があります。

更新システムモニター機能

- 色分けされたタイルを閲覧してサーバーやカメラの現在の状況を監視します。赤色はサーバーまたはカメラが危険な状態に達したことを示し、黄色は危険な状態に近いことを、緑色は全て正常に作動していることを示します。

XProtect Smart Client 2014 年

ビデオシーケンスの削除からの保護

- 証拠ロック 『178ページの"証拠ロック（説明付き）"参照』機能で、たとえば調査や試行を行っているときに、ビデオシーケンスやその他のデータを削除から保護することができます。

デュアルログイン認証

- ログインをさらに別のユーザーによって認証を受ける『23ページ の"ログイン認証 (説明付き)"参照』のように要求する、追加のセキュリティのレイヤーです。

スマートサーチの改良

- 強化されたスマートサーチ機能『157ページ の"録画されたビデオのモーションを検索する"参照』では、一度の検索でさらに多くの検索結果が得られ、結果はシーケンスエクスプローラに表示されます。

カメラおよびビューの検索

- この新しい検索機能では、カメラの特定のビュー『85ページ の"ビューおよびカメラの検索"参照』を検索し、関連するビューやモニターするカメラを選択できます。

エクスポート機能の改良

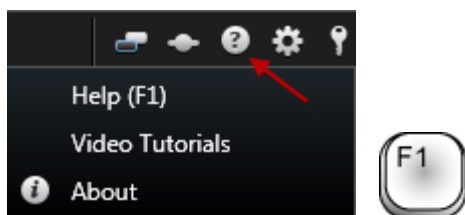
- 同じカメラからの、あるいは複数のカメラからの証拠のシーケンスを、結合力がある1つのストーリーボード『174ページ の"ストーリーボードのエクスポート (説明付き)"参照』と一緒に貼り付けることができます。ストーリーボードは、法廷や内部利用で使用できます。

簡易再生タイムラインと高度な再生のタイムラインの間での切り替え

- 新しい切り替えボタンでは、再生モードでの録画の作業で、さらに簡易のタイムライン『161ページ の"タイムライン"参照』に切り替えることができます。

ヘルプの表示

- XProtect Smart Client ヘルプシステムにアクセスするには、XProtect Smart Client ツールバーでヘルプ > ヘルプをクリックするか、キーボードの F1 キーを押します。



- ブラウザウィンドウでオンラインビデオチュートリアルにアクセスするには、XProtect Smart Client ツールバーでヘルプ > ビデオチュートリアルをクリックします。

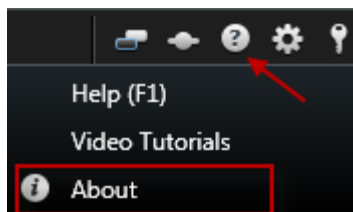
ヘルプシステムはコンテキスト依存であり、ユーザーが作業をしているエリアに関連するヘルプトピックが自動的に表示されます。ヘルプトピックにはさまざまな種類のリンクがありますが、その中でも、クリックすると展開して詳細情報を表示する、ドロップダウンリンクと呼ばれるリンク、他のトピックへのリンク、およびインターネットリンクがあります。

ヘルプトピックを印刷すると、そのトピックは画面に表示された状態で印刷されます。そのため、トピックに拡張ドロップダウンリンクが含まれている場合、必要なドロップダウンリンクをクリックしてテキストを表示させて、印刷に含めてください。

バージョンおよびプラグイン情報の表示

使用している XProtect Smart Client の正確なバージョンを知ることは、サポートが必要なときや、アップグレードするときなどに重要になります。そのような場合、XProtect Smart Client がどのプラグインを使用しているかについても知っておく必要があります。

- この情報を表示するには、XProtect Smart Client のツールバーのヘルプ > バージョン情報をクリックしてください。



XProtect Smart Client のバージョンは、XProtect サーバーのどのバージョンと互換性があるかに影響します。最新の XProtect Smart Client は、最新バージョンと旧バージョンのサーバーと互換性があります。

XProtect Smart Client の開始

このセクションのトピックでは、XProtect 監視システムを理解する方法を説明します。たとえば、ニーズに合わせて XProtect Smart Client を構成する方法、コントロールの使用法、さまざまなタスクを実行する場所について確認できます。

XProtect Smart Client のインストール

XProtect Smart Client を使用するには、事前にコンピュータにインストールする必要があります。XProtect Smart Client を監視システムサーバーからダウンロードして使用するコンピュータへインストールするか、DVD から直接インストールします。

管理サーバーからのインストール

開始する前に、MilestoneWeb サイトにアクセスし、使用している PC が XProtect Smart Client の最低限のシステム要件を満たしていることを確認して下さい『<http://www.milestonesys.com/SystemRequirements>』。

1. Internet Explorer を開き、URL またはサーバーの IP アドレスを使用して管理サーバーに接続します。
 - ローカルサーバー (<http://localhost/installation/admin>) または
 - リモートサーバーの IP アドレス (http://IP_address/installation/admin)。
2. ようこそページで、言語をクリックして、使用する言語を選択します。
3. **XProtect Smart Client 設定**ウィザードが起動されます。ウィザードで、インストール手順に従ってください。

ウィザードがインストールパスを推奨します。通常は、推奨されたインストールパスを使用します。ただし、アドオン製品を以前に使用したことがある場合、このパスが有効ではなくなっていることがあります『21ページ の "参照" 』。

DVD からのインストール

※本機は、DVD からのインストールには対応していません。

1. 使用している PC が XProtect Smart Client の最低限のシステム要件を満たしていることを確認して下さい。
2. 監視システムソフトウェア DVD を PC に挿入し、使用する言語を選択してから、**XProtect Smart Client のインストール**をクリックします。
3. セキュリティの警告（「このファイルを実行または保存しますか?」、「このソフトウェアを実行しますか?」など）が表示される場合、これを受け入れます（実行などをクリックする正確な言葉は使用しているブラウザのバージョンによって異なります）。
4. **XProtect Smart Client** のインストールウィザードが起動されます。ウィザードで、インストール手順に従ってください。

MIP プラグイン

※本機は、MIP プラグインには対応していません。

XProtect Smart Client には **MIP プラグイン** タブが含まれている場合があります。このタブは、通常はサードパーティのアプリケーションのプラグイン機能の処理に使用され、XProtect Smart Client によって制御できます。

監視システムによっては、XProtect Smart Client のビューに他のタイプのコンテンツを追加することもできます。これは、会社で監視システム機能を改善するためにアドオン製品を使用する場合などに活用できます。

ログインプロセス

ログインウィンドウ（説明付き）

初めてログインする場合、ビューが存在するかどうか確認する必要があります。ビューによって、ビデオの再生方法が決定されるため、XProtect Smart Client を使用するにはビューが必要です。1 つまたは複数のビューがすでに作成されている場合もありますし、自分で作成しなければならない場合もあります。ビューがすでに作成されているかどうか確認する方法を含め、ビューの詳細についてはビュー 『29ページ』 で確認してください。

ユーザー設定(ビューを含む)は、監視システム上で中央管理されています。これは、XProtect Smart Client がインストールされているコンピュータであれば、どのコンピュータへもログインでき、最後のログイン時のビューを復元できることを意味します。

ログイン中に 2 番目のダイアログが表示されたら、にアクセスするための追加の『23ページ の"ログイン認証(説明付き)"参照』 ログイン認証 XProtect Smart Client が必要になります。

ログイン設定

名前	詳細
コンピュータ	監視システムサーバーを実行するコンピュータを選択します。
認証	3 つの認証方法（ユーザーの ID を確認するための方法）があります。
	すべての監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』 が、3 つの認証方法をすべてサポートしているわけではありません。
	Windows authentication (current user) 「Windows 認証（現行ユーザー）」： 使用中の Windows ログイン情報を使って認証されるため、ユーザー名やパスワードを指定する必要はありません。これはデフォルトの認証方法です。 Windows authentication 「Windows 認証」： Windows のログイン情報を使って認証されますが、Windows で使用しているユーザー名とパスワードを入力する必要があります。 Basic authentication 「基本認証」： ユーザー名とパスワードを使用して、監視システムで設定する必要があります。

ユーザー名	認証方法として Windows 認証 または 基本認証 を選択した場合のみ必要となります。 Windows 認証 を使用する場合は、Windows のユーザー名を入力します。 基本認証 を使用する場合は、監視システムの管理者が指定したユーザー名を入力してください。ユーザー名では大文字と小文字が区別されるため、「amanda」と「Amanda」では異なるユーザー名となります。
パスワード	認証方法として Windows 認証 または 基本認証 を選択した場合のみ必要となります。 Windows 認証 を使用する場合は、Windows のパスワードを入力します。 基本認証 を使用する場合は、監視システムの管理者が指定したパスワードを入力してください。
パスワードを保存	Windows 認証 または 基本認証 を使用する場合に使用できます。パスワードを保存できるため、次回以降、接続 をクリックするだけでログインできます。 セキュリティの制約が適用される場合があります。不明な点がある場合は、監視システムの管理者にお問い合わせください。
自動ログイン	プロファイルに割り当てられているデフォルトのエクスポート設定を復元します。選択すると、Windows へログインすると、前回のログインでの認証情報を使って XProtect Smart Client に自動的にログインします。 Windows 認証 を使用している場合は、この自動ログイン機能を有効にするために パスワードを保存 を選択しておく必要があります。 セキュリティの制約が適用される場合があります。不明な点がある場合は、監視システムの管理者にお問い合わせください。

ログイン認証（説明付き）

XProtect Smart Client にログインする場合、追加のログイン認証が要求されることがあります。スーパーバイザー、システム管理者、またはその他のあなたを認証できる権限を持つ人に、ログインフォームにあなたの資格情報と共にその人たちの資格情報を入力するよう依頼する必要があります。その後、あなたもログインできるようになります。

誰があなたを認証できるか分からない場合は、スーパーバイザーかシステム管理者に問い合わせてください。

アクセスコントロールシステム（説明付き）

※本機は、アクセスコントロールシステムには対応していません。

XProtect Smart Client にログインする際に、そのように設定されていると、アクセスコントロールシステムへの追加のログインを要求されることがあります。

ログインによって、たとえばドアなど、アクセスコントロールのどの部分を管理、操作できるかが決まります。

アクセスコントロールシステムに対するログインの資格情報を知らない場合、システム管理者に問い合わせてください。

システムはあなたのログイン資格情報を覚えているので、ログイン資格情報を入力する必要があるのは、最初にログインする時、またはログインが失敗した場合だけです。

ログインおよびログアウト

1. XProtect Smart Client を開きます。
2. ログイン情報を指定して、**接続**をクリックします。ログイン時に問題が発生するとエラーメッセージ『24ページ の"トラブルシューティング"参照 』が表示されることがあります。
3. 以前にログインしたことがある場合は、前回使用したビューを復元できます。設定によって、XProtect Smart Client は、最後に使用したビューを復元するか確認します。オプションは以下のとおりです。
 - **メインビュー:** これを選択すると、XProtect Smart Client のメインウィンドウで前回使用したビューが復元されます。
 - **分離ビュー:** 特定の Milestone 監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照 』に接続していて、前回のログイン時に分離ウィンドウ 『145ページ の"マルチウィンドウ"参照 』でビューを使用していた場合にのみ使用できます。分離ウィンドウで前回使用していたビューを復元する場合に選択してください。
4. しばらくすると、XProtect Smart Client ウィンドウが開きます。
5. XProtect Smart Client からログアウトするには、XProtect Smart Client のタイトルバーで**ログアウト**ボタンをクリックするだけです。



ログイン中に 2 番目のダイアログが表示されたら、XProtect Smart Client にアクセスするための追加のログイン認証 『23ページ の"ログイン認証（説明付き）"参照 』が必要になります。

トラブルシューティング

XProtect Smart Client へのログイン時に何らかの問題が発生した場合は、次のようなエラーメッセージが表示されます。

現在のユーザー権限では、ログインが認められません。ユーザー権限は、時間帯や曜日などによって異なる場合があります。

問題： ログインが認められていないユーザー権限でログインしようとしてしました。

対処法： ログインが許可されるまでお待ちください。ユーザー権限に関して不明な点は、監視システムの管理者にお問い合わせください。

アプリケーションのどの部分にもアクセスする権限がありません。システム管理者にお問い合わせください。

問題： 現時点では XProtect Smart Client のどの部分にもアクセスする権限がないため、ログインできません。

対処法： 必要に応じて、アクセス権限を変更できる監視システムの管理者に連絡してください。

認証失敗：自分自身を認証することはできません。

問題： 自分の資格情報を承認者に入力しました。field。自分自身を認証することはできません。

対処法： 認証権限を持つ人に連絡する必要があります。これは、スーパーバイザーかシステム管理者になります。この人は、自分の資格情報を入力して、あなたのログインを認証する必要があります。

認証失敗：認証する権限がありません。

問題： あるユーザーを認証しようとしたのですが、それを実行できる権限がありませんでした。

対処法： 他のユーザーを認証するのに必要な権限を持っていることを確認するようにシステム管理者に依頼する。あるいは、十分な権限を持っている他の人にユーザーの認証を依頼する。

接続に失敗しました。サーバーのアドレスを確認してください。

問題： 指定されたサーバーアドレスの監視システムサーバーに接続できませんでした。

対処法： 入力したサーバーアドレスが正しいか確認してください。サーバーアドレスには、プレフィクスとして「http://」を付け、ポート番号を指定する必要があります(例：http://123.123.123.123:80、ここで:80はポート番号を示します)。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

接続に失敗しました。ユーザー名とパスワードを確認してください。

問題： 指定されたユーザー名またはパスワードでログインできませんでした。

対処法： 入力したユーザー名が正しいことを確認してから、正しいパスワードを入力してください。ユーザー名とパスワードでは大文字と小文字が区別されます(例：「Amanda」と「amanda」では異なるユーザー名となります)。

接続に失敗しました。最大限の数のクライアントがすでに接続しています。

問題： 同時に監視システムサーバーへ接続できるクライアントの最大数に達しています。

対処法： しばらく待ってからもう一度接続してください。すぐに監視システムへ接続する必要がある場合は、監視システムの管理者へ連絡してください。同時に接続できる許容クライアント数を変更できる可能性があります。

新しいクライアントが使用できます。アップグレードをお勧めします/アップグレードが必要です。から新しいバージョンをダウンロードできます。

問題： 新しいバージョンの XProtect Smart Client が使用できます。通常このメッセージには、更新が推奨されるか、更新が必須である（例：重要な最新機能が、使用中の XProtect Smart Client のバージョンでは動作しない）ことを示す情報が含まれています。また多くの場合、新しいバージョンをダウンロードできる場所に関する情報も含まれています。

対処法： メッセージに含まれている指示に従ってください。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

2 台（以上）のカメラが同じ名前または ID を使用しているため、アプリケーションが起動できません...

このエラーメッセージは、1 つの監視システムからバックアップされた設定が、何も変更を加えられずに他の監視システムに対して誤って使用された、という非常にまれな状況で発生します。これによって、同じ ID を持つ異なるカメラが「競合」し、XProtect Smart Client からの監視システムへのアクセスがブロックされます。このメッセージが表示されたら、ユーザーでは問題を解決できません。この問題を処理できる監視システムの管理者にお問い合わせください。

一部のメッセージは、ビューの上にオレンジ色の帯で表示されます：

この操作を行う権限がありません。

時間によって変わるユーザー権限で、以前は可能だったことが許可されなくなった場合に発生します。これは、特定のタイプの監視システム『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合、ユーザー権限が、時間帯、曜日などによって異なる場合があります。このため、後で再びアクションを実行できるようになる場合もあります。

監視システムの設定により、XProtect Smart Client のセッションは次の[...]で終了します。

現在の XProtect Smart Client セッションの終了が近い場合に、発生します。特定タイプの監視システム『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合、XProtect Smart Client を使用する権限は、時間帯、曜日などによって異なる場合があります。

この場合、通常はセッションが終了する数分または数秒前にこのメッセージが表示されます。具体的な分数/秒数は監視システムサーバーで定義します。

ユーザー操作が最近検出されなかったため、XProtect Smart Client のセッションは次の[...]で終了します。

XProtect Smart Client をしばらく使用していない場合に発生します（具体的な時間は監視システムサーバーで定義します）。この場合、XProtect Smart Client のセッションはセキュリティの理由のため、終了します。

この場合、通常はセッションが終了する数分または数秒前にこのメッセージが表示されます。具体的な分数/秒数は監視システムサーバーで定義します。

XProtect Smart Client の概要

XProtect Smart Client のモードについて

XProtect Smart Client には 2 つのモードがあります。

- 簡易モード - ライブおよび再生タブのみ使用できます。制限されたタスクを実行できます。詳細については、「簡易ワークスペースの使用『30ページ』」を参照してください。
- 詳細モード - すべての機能とタブを使用できます。セットアップモードにアクセスできます。詳細については、「詳細ワークスペースの使用『27ページ の"上級版ワークスペースを使う"参照』」を参照してください。

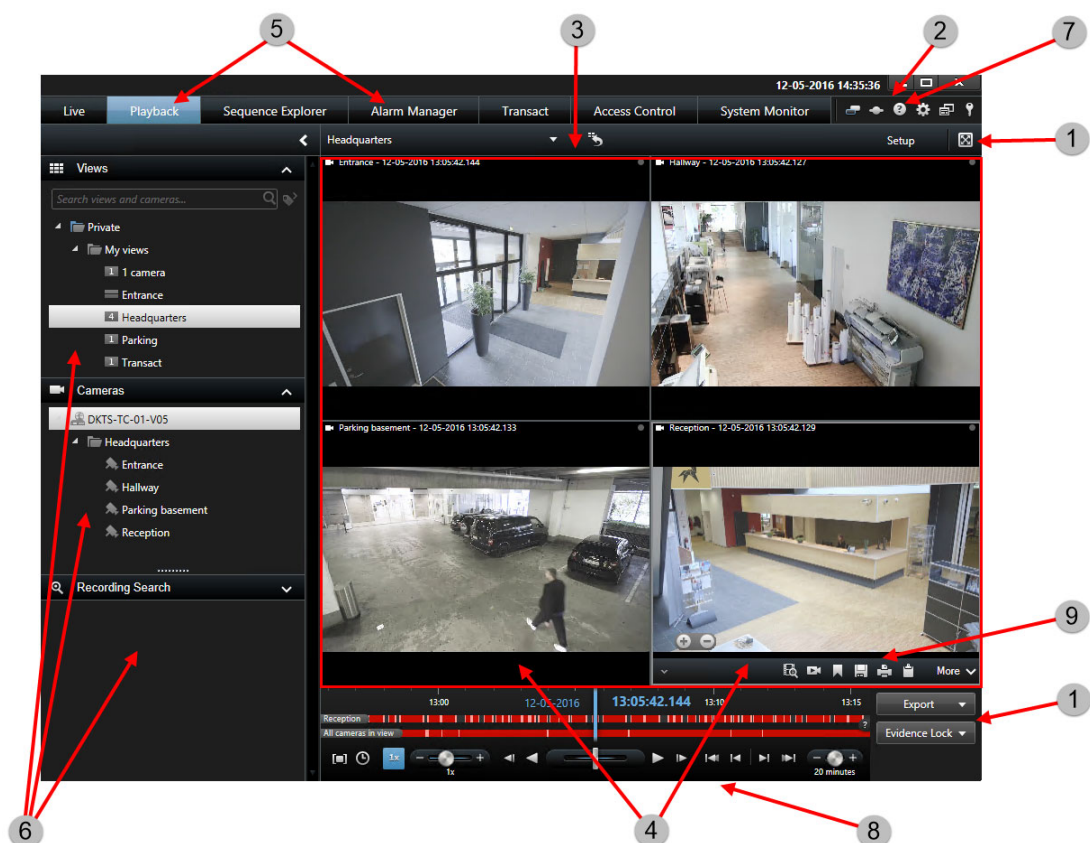
製品により、XProtect Smart Client は簡易モードまたは詳細モードで開きます。【モードの切り替え】ボタンでデフォルトモードを変更すると、XProtect Smart Client は、次回プログラムを開くと、変更されたモードで開きます。

テーブルには、製品に応じて、XProtect Smart Client デフォルトモードの概要が表示されます。

製品	モード
XProtect Corporate	詳細
XProtect Expert	詳細
XProtect Professional+	簡易
XProtect Express+	簡易

XProtect Essential+	簡易
XProtect Professional	簡易
XProtect Express	簡易
XProtect Essential	簡易

上級版ワークスペースを使う



XProtect Smart Client ウィンドウ 『27ページ の"上級版ワークスペースを使う"参照』で、XProtect Smart Client の**ライブ**タブで、生の映像を閲覧し、**再生**タブで、録画された映像を閲覧します。**ライブ**タブを選択すると、XProtect Smart Client が監視システムのサーバーへ接続し、選択されたビューのカメラの生の映像が表示されます。

お持ちのパソコンに、2 台以上のディスプレイが搭載されている場合、個別のビューを別のウィンドウに 『145 ページ の"マルチウィンドウ"参照』に送り、一度に一つ以上のビューを閲覧することができます。

1	タスクボタン	さらに読む 『29ページ の "タスクボタン"参照』
2	アプリケーション・ツールバー	

1	タスクボタン	さらに読む 『29ページ の "タスクボタン"参照 』
3	ビュー	さらに読む 『29ページ の "ビュー"参照 』
4	表示項目	さらに読む 『29ページ の "ビュー"参照 』
5	タブ	さらに読む 『28ページ の "タブ"参照 』
6	ペイン	さらに読む 『28ページ の "パネル"参照 』
7	アプリケーション・ボタン	さらに読む 『30ページ の "アプリケーションボタン" 参照 』
8	タイムライン	さらに読む 『161ページ の"タイムライン"参照 』
9	カメラ・ツールバー	さらに読む 『39ページ の "カメラツールバー"参照 』

パネル

ペインから、XProtect Smart Client のほぼすべての機能にアクセスできます。表示されるペインは、使用している XProtect Smart Client の設定やタスクに応じて異なります。

ペインを最小化することにより、スペースを節約し、使用しているペインの概要をより分かりやすく表示できます。ペインのタイトルバーにある**最小化/展開**のアイコンをクリックして、最小化または展開します。

タブ

XProtect Smart Client には、以下の主要なエリアがあります。

- **ライブタブ** 『32ページ 』はライブビデオを再生します。
- **再生タブ** 『35ページ 』は、録画されたビデオを表示するエリアです。
- ビデオシーケンスをナビゲートする**シーケンスエクスプローラタブ** 『151ページ の"シーケンスエクスプローラを使用したビデオの検索"参照 』
- インシデントやアラームを調査する**アラームマネージャタブ**
- システム情報を表示する**システムモニタータブ** 『41ページ の"System Monitor タブ"参照 』

一部のタブが使用できない場合は、すべてのエリアにアクセスできる権限がないためです。

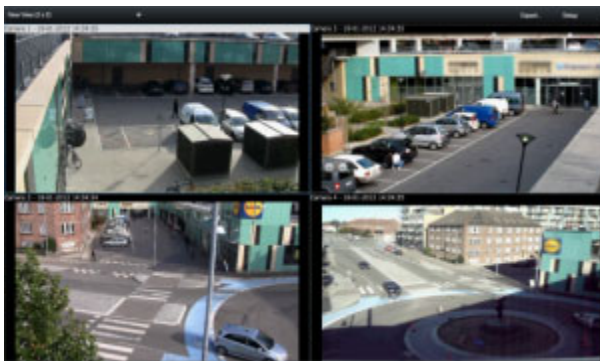
ビュー

XProtect Smart Client でビデオを再生する方法をビューと呼びます。監視システムによって異なりますが、1つのビューには最高で 100 台のカメラからのビデオを含めることができます。XProtect Smart Client では無制限の数のビューを処理することが可能であり、さまざまなグループのカメラからのビデオの間で切り替えることができます。各ビューのレイアウトは、内容に合わせてカスタイズできます。分かりやすい全体図を維持するため、すべてのビューは**グループ**と呼ばれるフォルダに分類されます。1つのグループには、無制限の数のビューと、必要に応じてサブグループを含めることができます。

ビューには、個人ビューと他のユーザーとの共有ビューがあります。

ビデオだけでなく、ビューでは **Web** ページや静止画像（顔写真など）を表示できます。監視システムによっては、他のアプリケーションからのデータ（レジからのレシートなど）をビデオと同時にビューに表示できる場合もあります。

ビューに関する情報を含むユーザー設定は、監視システムサーバー上で中央管理されているので、自分のユーザー名とパスワードを使ってログインすれば、XProtect Smart Client がインストールされているどのコンピュータでも、個人ビューと共有ビューを使用できます。



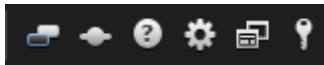
例：XProtect Smart Client4 台の異なるカメラ(2x2 ビュー)からのビューをビデオで表示している

タスクボタン

タスクボタンは XProtect Smart Client ツールバーにあり、タイムラインの右にあります。使用できるタスクボタンは、ユーザーが使用中のタブに応じて異なります。たとえば、**設定**はすべてのタブでは使用できません。以下はタスクボタンです。

- **セットアップ**: クリックすると、セットアップモード 『61ページ の"設定モードに入る"参照』 になります。
- **エクスポート**: クリックすると、ビデオをエクスポート 『175ページ の"ビデオクリップ、音声、XProtect データ、静止画像のエクスポート"参照』 します。
- **エビデンスロック**: クリックすると、エビデンスロック 『179ページ の"エビデンスロックを作成する"参照』 が作成されます。
- **取得**: クリックすると、エッジストレージをサポートする相互接続されたデバイスまたはカメラから録画を取得します。
- **フル画面モードの切り替え** : クリックすると、フル画面 『62ページ の"フル画面表示"参照』 と、ドラッグしてサイズを変更できる小さいウィンドウとの間で切り替わります。

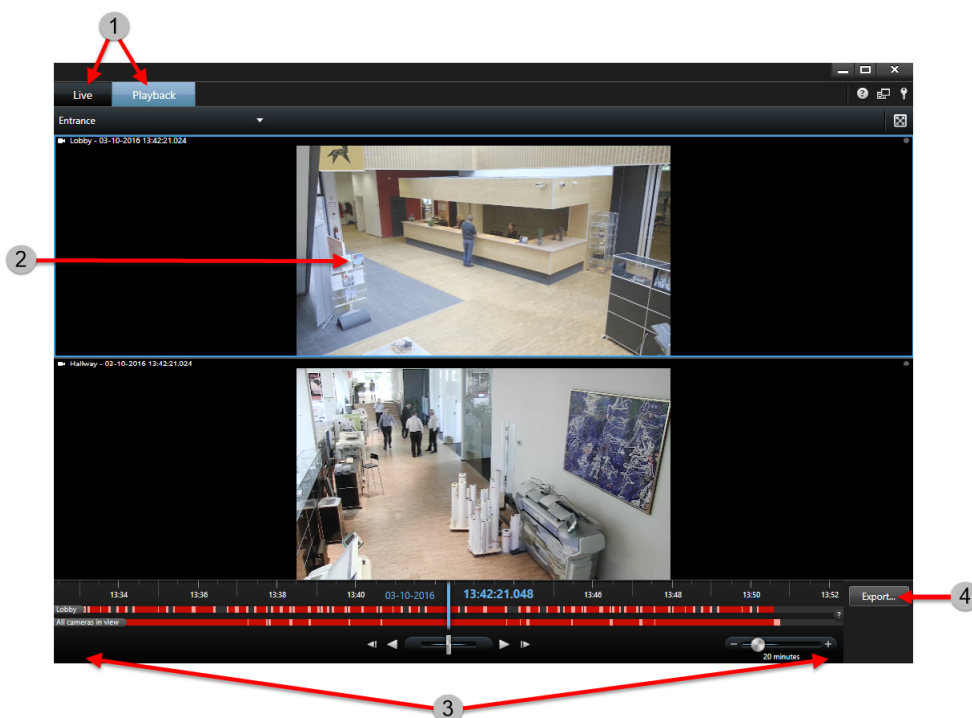
アプリケーションボタン



ツールバーにあるアプリケーションボタンを使用して、XProtect Smart Client の基本操作を選択できます。

- **テーマの切り替え:** XProtect Smart Client のテーマを暗から明に切り替えます。
- **ステータス:** ステータス 『40ページ の"【ステータス】ダイアログボックス"参照』 ウィンドウにアクセスします。
- **ヘルプ:** ヘルプシステム 『19ページ の"ヘルプの表示"参照』 にアクセスし、オンラインビデオチュートリアルを再生するか、バージョン番号およびプラグイン情報を表示します 『20ページ の"バージョンおよびプラグイン情報の表示"参照』
- **設定:** XProtect Smart Client の設定と動作 『42ページ の"設定ウィンドウ (説明付き)"参照』、ジョイスティック、キーボードのショートカット、および言語を設定します。
- **モードの切り替え:** 簡易モードと詳細モード 『26ページ の"XProtect Smart Client のモードについて"参照』 を切り替えます。
- **ログアウト:** XProtect Smart Client からログアウト 『22ページ の"ログインプロセス"参照』 します。

簡易ワークスペースの使用



1	ビデオの再生 ライブビデオを表示するか、録画ビデオを再生し、インシデントを調査します。別のビューを選択し、別の領域または他のコンテンツからビデオを表示します。	ビデオの表示 https://youtu.be/sn1voRJxXEO 詳細『31ページ の"簡易モードでのビューの変更"参照』
2	詳細の表示 ビデオをタップまたはダブルクリックすると、全画面モードで表示されます。もう一度タップまたはダブルクリックすると、全画面モードを終了します。	
3	録画の調査 順方向または逆方向でビデオを再生するか、時間軸の順方向または逆方向でズームまたはスクロールして、タイムスパンを調整します。この操作は 【再生】 タブで行います。	ビデオの表示 『 https://www.youtube.com/watch?v=Ev4LZwLAI4c 』 詳細『163ページ の"再生ボタン"参照』
4	文書の作成 発生した事象を示すビデオクリップまたは静止画像をエクスポートします。この操作は 【再生】 タブで行います。	ビデオの表示 『 https://www.youtube.com/watch?v=r1BIp1PrWJ8 』 詳細『31ページ の"簡易モードでのビデオのエクスポート"参照』

簡易モードでのビューの変更

ビューの**選択**リストで既存のビューまたはカメラを選択または検索できます。ただし、ビューを追加または修正するには、 ボタンで詳細モードに切り替える必要があります。

 ボタンを使用できない場合は、詳細モードに切り替えることができません。その場合、システム管理者にご連絡ください。

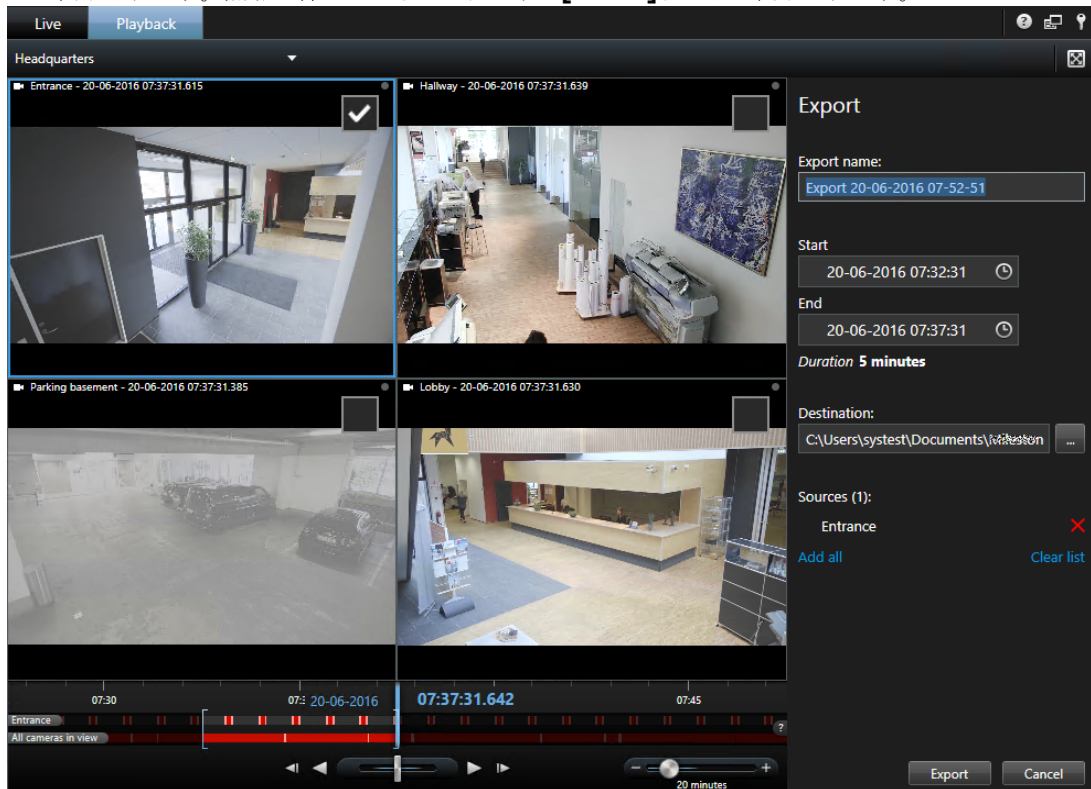
詳細については、XProtect のモード（説明付き）Smart Client 『26ページ の"XProtect Smart Client のモードについて"参照』を参照してください。

簡易モードでのビデオのエクスポート

簡易モードで、ビデオをエクスポートし、インシデントを文書化できます。

プライバシーマスク、メディアプレーヤー形式、および静止画像は、詳細モードでのみ使用できる機能です。 ボタンをクリックすると、詳細モードになります。

1. インシデントを取得したカメラを含むビューを選択します。
2. **【再生】**タブで、タイムラインの右にある**【エクスポート】**ボタンをクリックします。**【エクスポート】**パネルが表示されます。焦点が合っているカメラのみが**【ソース】**リストに表示されます。



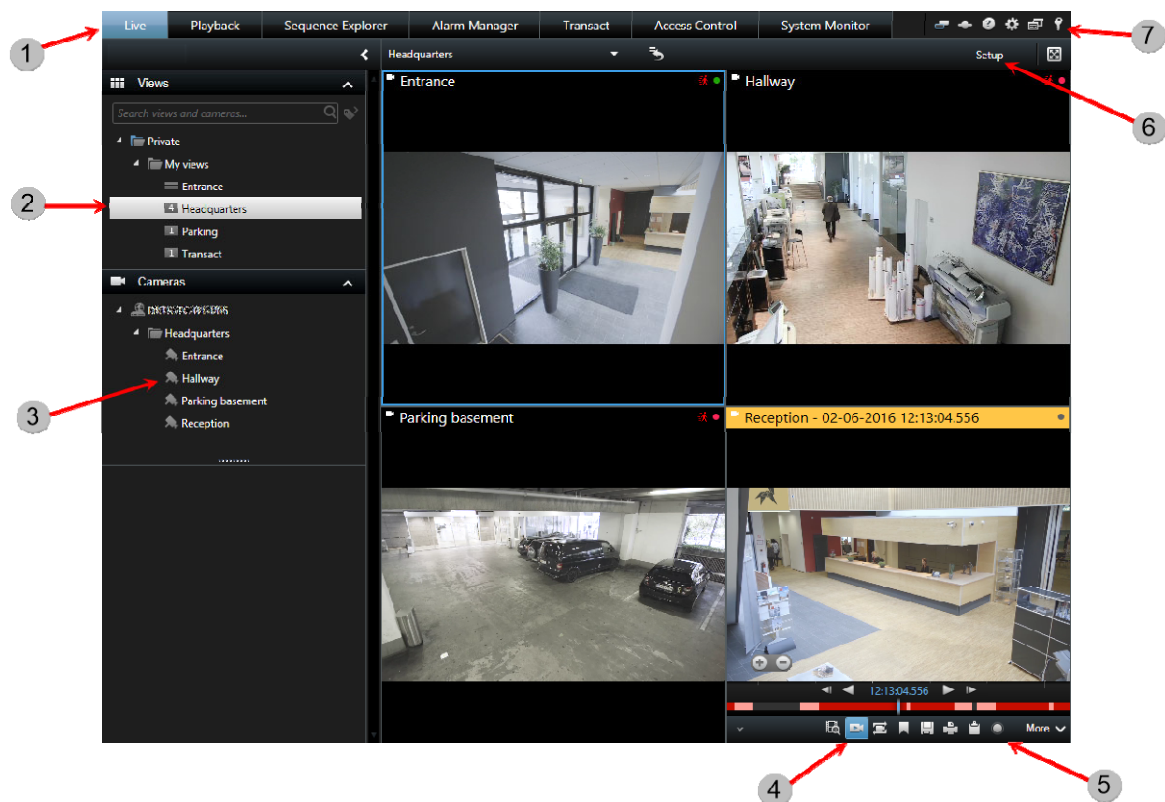
3. エクスポートに含めるカメラごとに、関連付けられているチェックボックスを選択します。ビューに同一のカメラが複数表示される場合は、該当するすべてのカメラが自動的に選択されます。
4. その他のビューのカメラを含めることもできます。ビューを変更しても、エクスポート設定は失われません。
5. 開始時刻と終了時刻を指定します。また、角括弧を左右にドラッグすると、タイムラインの時間間隔を設定することもできます。
6. **【エクスポート】**をクリックします。パネルが閉じ、右上端の緑のステータスバーがエクスポートの進行状況を示します。
7. エクスポートが完了すると、ステータスバーの**【詳細】**ボタンをクリックすれば、エクスポートされたビデオを表示できます。

それがサポートするプラグインは、輸出がエクスポート・リストに追加された場合、任意の関連カメラが自動的に含まれています。

ライブタブ

ライブタブには、音声 『111ページ の"音声設定"参照』、自動切替 『97ページ の"画面自動切替"参照』、ホットスポット 『98ページ』、Matrix、カメラのショートカットメニュー、パン/チルト/ズーム(PTZ 『66ページ の"PTZ および魚眼レンズ画像"参照』)制御、デジタルズーム、イベント起動、出力起動、クイック再生など、ライブビデオフィードを操作するためのさまざまな機能があります。

注: XProtect Smart Wall アドオンを使用している場合は、**【ライブ】**および**【再生】**タブでこれらの機能を使用できます。詳細については、XProtectSmart Wall（説明付き）を参照してください。



1	さまざまな作業領域	続きを読む『28ページ の"タブ"参照』
2	ビューの選択	続きを読む『61ページ の"ビューの選択"参照』
3	ビューのカメラを変更	続きを読む『91ページ の"ビューのカメラを変更"参照』
4	個別再生を使用する録画済みビデオの表示	続きを読む『149ページ の"個別再生を使用する録画済みビデオの表示"参照』
5	カメラツールバー	続きを読む『39ページ の"カメラツールバー"参照』

6	セットアップモードに入る	続きを読む 『61ページ』 の"設定モードに入る"参照
7	アプリケーションボタン	続きを読む 『30ページ』 の"アプリケーションボタン"参照

ライブタブの一般的なタスク

ビュー間でビデオを送信する 『91ページ』

スナップショットの作成 『160ページ』

単一の画像のコピー 『62ページ』

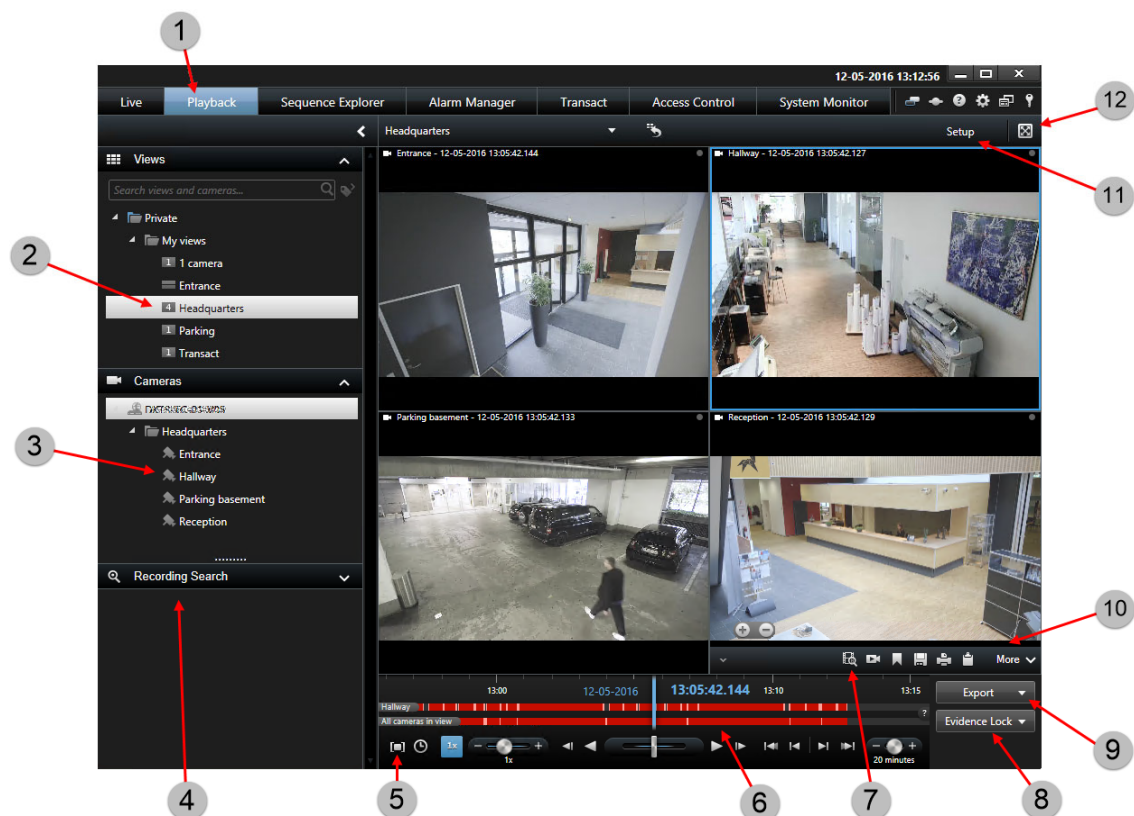
ビデオの録画 『59ページ』 の"ビデオの手動録画"参照

デジタルズームの使用 『64ページ』

PTZ プリセットを作成 『68ページ』 の"PTZ プリセットの管理"参照

再生タブ

注: XProtect Smart Wall アドオンを使用している場合は、**【ライブ】**および**【再生】**タブでこれらの機能を使用できます。詳細については、XProtectSmart Wall（説明付き）『186ページ』の"XProtect Smart Wall（説明付き）"参照』を参照してください。



1	[再生] タブ	録画されたビデオ（説明付き）『59ページ』
2	ビュー	ビューの選択
3	カメラ	ビューのカメラを変更『91ページ』
4	[記録の検索] ペイン	
5	時間選択	ビデオエクスポートのための時間選択『163ページ』

6	タイムライン	タイムライン 『161ページ』
7	スマートサーチ	スマートサーチペインを使用した検索 『159ページ』の"スマートサーチを使用したモーション検索"参照 『
8	証拠ロック	証拠ロック（説明付き）『178ページ』
9	エクスポート	ビデオクリップ、音声、データ、静止画像のエクスポート 『175ページ』の"ビデオクリップ、音声、XProtectデータ、静止画像のエクスポート"参照 『
10	カメラツールバー	カメラツールバー 『39ページ』
11	設定	セットアップモードに入る 『61ページ』の"設定モードに入る"参照 『
12	フル画面の切り替え	フル画面表示 『62ページ』

参照

個別再生を使用する録画済みビデオの表示 『149ページ』

証拠を印刷する 『183ページ』

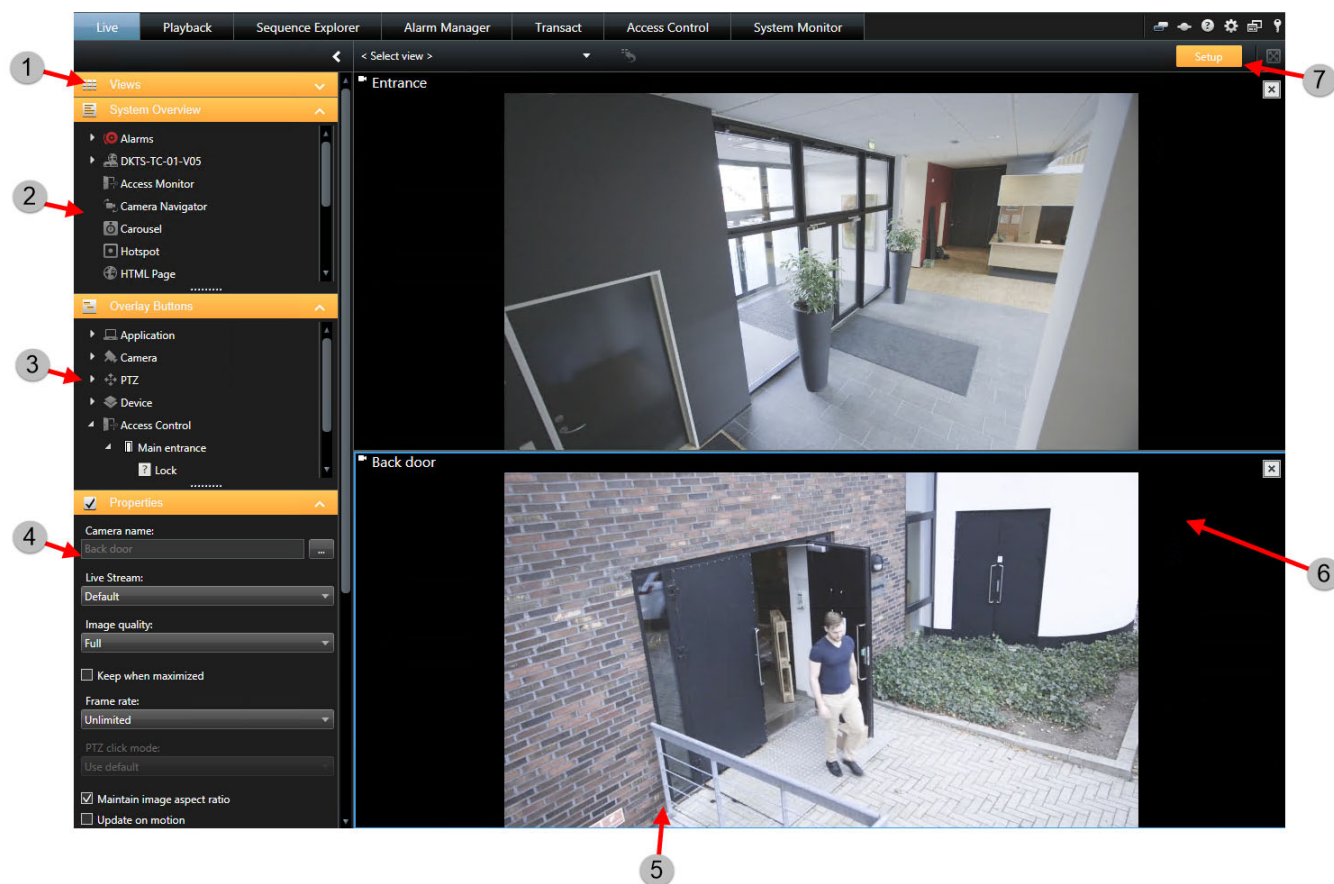
ブックマークの追加および編集 『167ページ』

録画済みビデオの検索 『149ページ』

スナップショットの作成 『160ページ』

証拠ロックの作成 『179ページ』の"エビデンスロックを作成する"参照 『

セットアップモード



1	ビューの作成	もっと読む 『82ページの"ビューの作成"参照』
2	ビューにコンテンツを追加する	もっと読む 『85ページの"ビューにコンテンツを追加する"参照』
3	オーバーレイボタンの追加	もっと読む 『106ページの"オーバーレイボタン"参照』
4	プロパティの設定	もっと読む 『101ページの"カメラ設定"参照』
5	ビューの作成および管理	もっと読む 『79ページの"ビューの作成および管理"参照』
6	ビューにカメラを追加する	もっと読む 『99ページの"ビューにカメラを追加する"参照』

7	設定モードを終了する	もっと読む 『61ページの"設定モードに入る"参照』
---	------------	----------------------------

参照

ビューにマップを追加する

既存のマップを追加するか、新しいマップを作成することができます。

1. セットアップモードで、**システム概要**ペインで、ビューの位置へ**マップ**のアイテムをドラッグします。
2. 表示される**マップ設定**ウィンドウで、**新規マップを作成**または**既存のマップ使用**のいずれかを選択します。

三角記号がマップ名の横に付いている場合は、マップに 1 つ以上のサブマップがある可能性があることを示します。含まれるサブマップと要素も追加されます。

3. **名前**フィールドにマップの名前を入力します。名前は、マップ位置のタイトルバーに表示されます。

ヒント: **[名前]**フィールドを空欄にし、**[参照...]**をクリックすると、**[名前]**フィールドには、選択した画像の名前が表示されます。

4. **[参照...]**をクリックして、マップとして使用する画像ファイルを参照します。
5. **開く**をクリックして、画像ファイルを選択します。
6. **[OK]**をクリックします。

Smart Wall でマップを表示する

※本機は、Smart Wall には対応していません。

XProtect Smart Wall を使用している場合は、マップを表示できます。

1. ビューにマップを追加する手順に従います。
2. **[詳細]**、**[Smart Wall に送信]**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント: ビューに Smart Wall 概要が含まれている場合は、マップを概要のタイルまでドラッグできます。

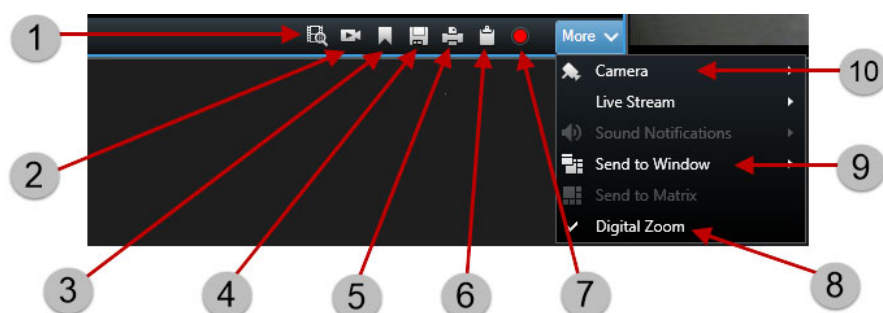
カメラナビゲータをビューに追加する 『110ページの"ビューまたは Smart Wall にカメラナビゲータを追加する"参照』

ビューに Matrix のコンテンツを追加する 『145ページ』

ビューに Smart Wall を追加する 『188ページの"Smart Wall の操作を開始する"参照』

ビューにコンテンツを追加する 『85ページ』

カメラツールバー



1	スマートサーチの使用	続きを読む 『157ページ の"録画されたビデオのモーションを検索する"参照』
2	個別再生を使用する録画済みビデオの表示	続きを読む 『149ページ の"個別再生を使用する録画済みビデオの表示"参照』
3	ブックマークの追加	続きを読む 『166ページ の"ブックマーク（説明付き）"参照』
4	スナップショットの作成	続きを読む 『160ページ の"スナップショットの作成"参照』
5	証拠を印刷する	続きを読む 『183ページ の"証拠を印刷する"参照』
6	単一の画像のコピー	続きを読む 『62ページ の"単一の画像のコピー"参照』
7	ビデオの手動録画	続きを読む 『59ページ の"ビデオの手動録画"参照』
8	デジタルズームの使用	続きを読む 『64ページ の"デジタルズームの使用"参照』
9	ビュー間でビデオを送信する	続きを読む 『91ページ の"ビュー間でビデオを送信する"参照』
10	ビューのカメラを変更	続きを読む 『91ページ の"ビューのカメラを変更"参照』

【ステータス】ダイアログボックス

【ステータス】ダイアログボックスには、次の情報があります。

- Milestone Federated Architecture 経由で XProtect Smart Client が接続されている監視サーバーのステータス。詳細については、以下の「**ログイン情報**」を参照してください。
- エッジ ストレージをサポートする相互接続されたデバイスまたはカメラからデータを取得するために作成されたジョブ。詳細については、以下の「**ジョブ**」を参照してください。
- ユーザー権限が割り当てられている既存の証拠ロック。詳細については、以下の「**証拠ロックリスト**」を参照してください。

ログイン情報

ここでは、XProtect Smart Client が接続されている監視サーバーのステータスを確認できます。このダイアログボックスは、Milestone Federated Architecture をサポートしている監視システムに接続する場合に便利です。Milestone Federated Architecture は、関連しているが物理的には離れている監視システムの親/子の設定です。たとえば、多数の別個の（ただし関連している）監視システムのある店舗チェーンがこのような関係に該当します。

ステータスウィンドウを開くには、アプリケーションのツールバーにある**ステータス**ボタンをクリックします。



ヒント：ボタンが赤色で点滅する場合は、1 台または複数のサーバーが使用不可です。ステータスを表示すると、サーバーが使用不可の場合でも、ボタンの赤色点滅が停止します。

サーバーが使用できる場合は、青色で表示されます：



ログイン時にサーバーが使用できない場合、サーバーに付属するカメラまたは機能も使用できなくなります。使用できないサーバーは、赤色で表示されます。



表示されるサーバー数は、ログインしたときに監視システムから取得できるサーバーの数を反映しています。特に、大規模なサーバー階層に接続している場合、ログイン後に使用できるサーバー数が増える場合があります。サーバーのリストは、サーバーステータスの静的表示になります。サーバーが使用できない場合、クリックすると**ステータス**フィールドに理由が表示されます。サーバーに接続するには、**サーバーをロードする**ボタンをクリックします。そのサーバーのサーバーステータスが更新されます。サーバーが使用できない状態が長期間続く場合は、監視システム管理者にお問い合わせください。

ジョブ

Milestone Interconnect

※本機は、Milestone Interconnect には対応していません。

XProtect Smart Client が Milestone Interconnect™ システムに含まれ、エッジ ストレージをサポートする内部接続されたハードウェアデバイスまたはカメラからデータを取得する権限がある場合、これらのデバイスの各データ取得要求に対して作成されたジョブを表示できます。

取得要求のあった各カメラは、個別のジョブとして表示されます。ここで、実行中のジョブの進行状況を表示し、ジョブを停止できます。関連付けられた音声は自動的に取得されますが、これらのジョブは表示されません。ジョブが完了すると、デバイスのタイムライン 『161ページ』 が自動的に更新されます。

要求したジョブのみを表示する場合、**自分のジョブのみ表示**フィルターをクリックします。

証拠ロック リスト

証拠ロックリストをソート、フィルタリング、および検索し、詳細情報を確認できます。ユーザー権限が割り当てられているデバイスの証拠ロックのみが表示されます。詳細については、「既存の証拠ロックの表示 『179ページ』 の"既存のエビデンスロックを表示する"参照」を参照してください。

System Monitor タブ

※本機は、System Monitor タブには対応していません。

<, >, およびホームアイコンを使用して System Monitor をナビゲートできます。

System Monitor では、システムのサーバーとカメラの現在の状態の概要が、システムハードウェアを表す色付きのタイルによって視覚的に表示され、確認できます。既定では、XProtect Smart Client では、**すべてのサーバー、すべてのサーバーおよびすべてのカメラ**を表すタイルを表示できます。システム管理者は XProtectSmart Client に表示されるタイルと、各状態の値を指定します。

次の表は、タイルの色が示す意味を説明します。

カラー	説明
緑	正常状態。すべてが正常に動作しています。
黄色	警告状態。1 つ以上の監視パラメータが正常状態の定義済みの値を超えています。
赤	重大状態。1 つ以上の監視パラメータが正常と警告状態の定義済みの値を超えています。

タイルの色を変更し、色の変化につながるサーバー/パラメータを確認する場合は、タイルをクリックします。これにより、画面の下に概要が開き、タイルで有効にした各監視パラメータの色(赤、黄、緑)が表示されます。状態変化の理由を表示するには、**詳細**ボタンをクリックします。

タイルに警告記号が表示される場合は、監視対象のサーバーまたはカメラのいずれかのデータコレクタが実行されていない可能性があります。タイルの上にマウスを置くと、該当するタイルで最後にデータが収集された日時が表示されます。

Milestone Federated Architecture

※本機は、Milestone Federated Architecture には対応していません。

Milestone Federated Architecture™ を使用している場合、**システム監視**タブは 2 つの部分に分割されます。

一方のペインにフェデレーテッドアーキテクチャを表す階層ツリー構造が表示されます。もう一方のペインは選択したサーバーの関連システムデータのためのブラウザベースのエリアです。

サイトペインで任意のサーバーをクリックすると、システムデータが表示されます。

タブから離れるか、システムをログアウトして戻ると、**システム監視**タブは、フェデレーテッドアーキテクチャで選択されたサーバーを記憶し、そのサーバーからのシステムデータを引き続き表示します。

システム監視タブを独立したウィンドウへドラッグして、複数のサーバーをモニターすることができます。

XProtect Smart Client の設定

設定ウィンドウ（説明付き）

設定ウィンドウによって、たとえば、言語の選択、ジョイスティックの設定、キーボードショートカットの設定などそれぞれの XProtect Smart Client タブで使用する機能や要素を管理できます。通常、右から左へ読み書きする言語では、ここで表示を左から右へのインターフェースに変更できます。

アプリケーションツールバーで**設定**ボタンをクリックして、**設定ウィンドウ**を開きます。



アプリケーション設定

アプリケーションの設定を使用すると、XProtect Smart Client の全体的な動作や外観をカスタマイズできます。

使用できる場合、**サーバーに従う**列で、XProtect Smart Client がサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

氏名	説明
アプリケーションの最大化	アプリケーションのツールバーで最大化/元に戻すボタンをクリックして、最大化した場合に XProtect Smart Client がどのように反応するか選択します。全画面に最大化を選択すると、XProtect Smart Client を最大化したとき、スクリーン上にある Windows のタスクバーが覆われます。  最大化は、全画面表示 『62ページ の"フル画面表示"参照』と同じではありません。
カメラエラーメッセージ	XProtect Smart Client が、どのようにカメラ関連のメッセージテキストを表示するか選択します。これらは、カメラからの画像の上へのオーバーレイとして、あるいは黒い背景上のオーバーレイとして表示できます。また、このようなメッセージを完全に非表示にするように選択することもできます。
サーバーエラーメッセージ	XProtect Smart Client が、どのようにサーバー関連のメッセージテキストを表示するか選択します。これらは、オーバーレイとして表示することもできますし、完全に非表示にすることもできます。
ビデオインジケータのデフォルト	緑色のインジケータをカメラのタイトルバーの上に表示するか、あるいは非表示にするかを選択します。カメラへの接続が確立されると、ライトが点灯します。 セットアップモードで、カメラに対してカメラプロパティを調整 『101ページ の"カメラ設定"参照』することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。

氏名	説明
カメラのタイトルバーのデフォルト	カメラのタイトルバーを表示するか、または非表示にするかを選択します。タイトルバーには、カメラの名前が表示され、色付きのインジケータ『100ページ の"カメラ名と色のインジケータ"参照』はイベント、検出されたモーションやビデオを意味します。 設定モードで、カメラに対してカメラプロパティを調整『101ページ の"カメラ設定"参照』することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。
タイトルバーに現在の時刻を表示	タイトルバーに、(XProtect Smart Client を実行しているコンピュータの)現在の時刻および日付を表示するか、または非表示にするかを選択します。
空のビュー位置に表示	ビューに空白のスペースがある場合に表示するものを選択します。たとえば、ロゴを選択したり、単に黒い背景だけを表示することができます。
グリッドスペーサーの表示	ビューのカメラ位置の間の境界線の太さを選択します。
デフォルトの画質	XProtect Smart Client で表示されるビデオ画質のデフォルトを選択します。画質は帯域幅の使用にも影響する点に注意してください。XProtect Smart Client をインターネットや低速ネットワーク接続で使用しているか、その他の理由で帯域幅の使用を制限しなければならない場合、低または中を選択してサーバー側で画質を低くすることができます。 設定モードで、カメラに対してカメラプロパティを調整『101ページ の"カメラ設定"参照』することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。
デフォルトのフレームレート	XProtect Smart Client で表示されるビデオのデフォルトフレームレートを選択します。 設定モードで、カメラに対してカメラプロパティを調整『101ページ の"カメラ設定"参照』することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。
PTZ クリックモード	使用している PTZ カメラに対するデフォルトの PTZ クリックモードを選択します。オプションは、クリックして中央揃えまたは仮想ジョイスティックです。個々のカメラで異なるデフォルト PTZ クリックモードを選択すると、個々のカメラの設定を上書きできます。
開始モード	ログインした後、XProtect Smart Client がどのように開始するかを選択します。オプションは、全画面モード、ウィンドウモード、または最後に使用したモードです。
ビューを開始	ログインした直後に、XProtect Smart Client がどのようにビューを表示するかを選択します。オプションは、最後に使用したビュー、ビューなし、またはログインした後に決定するビューです。

氏名	説明
マウスポインタを非表示	アイドル状態の後、マウスポインタを非表示にするかどうかを選択できます。マウスポインタを非表示にするまでの経過時間を指定できます。デフォルトオプションは5秒後です。選択肢は以下のとおりです： - 設定しない 5 秒後 10 秒後 20 秒後 30 秒後 アイドル時間の後にマウスを動かすと、ただちに有効になります。
スナップショット	スナップショット機能を使用するかどうかを指定します。スナップショットとは、特定の時点における、カメラからのビデオのフレームをその場でキャプチャしたものです。
スナップショットへのパス	スナップショットを保存する場所を示すパスを指定します。

ペイン設定

ペインの設定では、特定のタブでペインを表示するかどうかを指定できます。

一部のペインには、使用できない機能も含まれていますが、これはユーザー権限か、接続している監視システム『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』のどちらかが原因です。

モード列には、ペインがどこで使用可能であるかが表示され、機能列には、ペインの名前が一覧表示されます。さらに、設定列では、ペインを使用できるか、できないかを指定します。

使用できる場合、サーバーに従う列で、XProtect Smart Client がサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はすでにサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

機能設定

機能の設定では、特定のタブに表示する機能（たとえば、ライブ XProtect Smart Client タブに再生）を指定できます。

モード列には、ペインがどこで使用可能であるかが表示され、機能列には、機能の名前が一覧表示されます。さらに、設定列では、ペインを使用できるか、できないかを指定します。

使用できる場合、サーバーに従う列で、XProtect Smart Client がサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

機能：

氏名	説明
ライブ > カメラ再生	ライブタブで、個別のカメラで録画されたビデオを再生できる機能。

氏名	説明
ライブ > オーバーレイボタン	スピーカーの起動、イベント、出力、PTZ カメラの移動、カメラからのインジケータを消去する際に、 ライブ タブでオーバーレイボタンを表示および使用する機能。
ライブ & 再生 > ブックマークオーバーレイボタン & ビュー位置ツールバー	簡易または詳細ブックマーク 『166ページ の"ブックマーク（説明付き）"参照 』を、ビュー位置ツールバーから追加するか、ライブおよび/または再生タブにある、用意されたオーバーレイボタンで追加するかを選択します。再生タブでこのオプションを有効/無効にすることで、シーケンスエクスプローラタブで対応するボタンが有効であるかどうかを制御されます。 ブックマーク機能は、特定の監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照 』に接続している場合にのみ使用できます。ユーザー権限によっては、一部のカメラからブックマーク追加へアクセスできない場合があります。ブックマークを追加できなくても表示される場合があります、この逆もある点に注意してください。
ライブ & 再生 > 印刷	ライブ および 再生 タブから印刷する機能。 再生 タブでこのオプションを有効/無効にすることで、 シーケンスエクスプローラ タブで対応するボタンが有効であるかどうかを制御されます。
ライブ & 再生 > 境界ボックス	すべてのカメラで、境界ボックスをライブビデオで表示する機能はライブタブにあり、録画済みのビデオで表示する機能は再生タブにあります。境界ボックスは、たとえば対象物を追跡する場合などに便利です。 境界ボックス機能を使用できるのは、特定の監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照 』およびメタデータをサポートしているカメラに接続されている場合だけです。お持ちのユーザー権限によっては、一部のカメラから境界ボックスへのアクセスが制限される場合があります。
再生 > 独立再生	デフォルトではビュー内のすべてのカメラが時間内の同じ点（再生時刻）から録画を再生するのに対し、 再生 タブで個別のカメラの録画を独立して再生する機能です。
設定 > オーバーレイボタンの編集	設定モードで、新規または既存のオーバーレイボタンを追加する機能。オーバーレイボタンを追加するには、 オーバーレイ のリストが 利用可能 に設定されている必要があります（これは 設定 ウィンドウの ペイン タブで行います）。
設定 > ビデオバッファの編集	設定モードで、カメラプロパティ 『101ページ の"カメラ設定"参照 』の一部としてビデオバッファを編集する機能。ライブビデオバッファを編集するには、 セットアップ タブの プロパティ ペインが利用できるようになっていなければならない点に注意してください（これは、 設定 ウィンドウの ペイン タブで設定します）。

タイムライン設定

タイムラインの設定では、一般的なタイムラインの設定を指定できます。

使用できる場合、**サーバーに従う**列で、XProtect Smart Client がサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

氏名	説明
受信音声	タイムラインに受信音声を表示するか、または非表示にするかを選択します。
送信音声	タイムラインに送信音声を表示するか、または非表示にするかを選択します。
追加情報	追加情報を他のソースに表示するか非表示にするかを選択します。
追加マーカー	追加マーカーを他のソースに表示するか非表示にするかを選択します。
ブックマーク	タイムラインにブックマークを表示するか、非表示にするかを選択します。
モーション表示	タイムラインにモーションインジケータを表示するか、非表示にするかを選択します。
すべてのカメラのタイムライン	すべてのカメラのタイムラインを表示するか、非表示にするかを選択します。
再生	再生中に空白をスキップするかどうかを選択します。

エクスポート設定

エクスポートの設定では、一般的なエクスポートの設定を指定できます。

使用できる場合、[サーバーに従う]列で、XProtect Smart Client がサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はすでにサーバー制御であり、この場合、サーバーの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうかが決まります。

氏名	説明
エクスポート先	エクスポート先のパスを選択します。 「ディスクへ」「メディアバーナーへ」「ディスクとメディアバーナーへ」を選択することができますが、エクスポート画面のエクスポート先には“ディスク”と“メディアバーナー”の両方のパスが常に表示されます。
プライバシーマスク	エクスポートでプライバシーマスクを使用可能にするかどうかを選択します。
メディアプレーヤーのフォーマット	メディアプレーヤーのフォーマットでエクスポートできるかどうかを選択します。
メディアプレーヤーのフォーマット - ビデオのテキスト	メディアプレーヤーのフォーマットでエクスポートする場合に、ビデオのテキストをオプション、必須または使用不可のどれにするかを選択します。
XProtect フォーマット	XProtect フォーマットでエクスポートできるかどうかを選択します。
XProtect フォーマット - プロジェクトのコメント	XProtect フォーマットでエクスポートする場合に、プロジェクトのコメントをオプション、必須または使用不可のどれにするかを選択します。
XProtect フォーマット - デバイスのコメント	XProtect フォーマットでエクスポートする場合に、デバイスのコメントをオプション、必須または使用不可のどれにするかを選択します。
静止画像エクスポート	静止画像をエクスポートできるかどうかを選択します。

Smart Map 設定

※本機は、Smart Map には対応していません。

使用する Bing Map キーまたは Google Map クライアント ID または Bing Maps API または Google Maps API 用のキーを入力します。

注: これらの設定は、管理者によって Management Client で許可されている場合に限り編集できます。

氏名	説明
OpenStreetMap 背景地図	OpenStreetMap を背景地図として利用できるかどうかを特定します。利用不可を選択すると、XProtect Smart Client はオプションとして表示しません。
代替 OpenStreetMap タイルサーバー	OpenStreetMap 用に、構成で指定された以外の別のタイルサーバーを使用 『134ページ の"OpenStreetMap タイルサーバーの変更"参照』 するには、ここにサーバーのアドレスを入力します。
レイヤー追加時にロケーションを作成する	ユーザーがカスタムオーバーレイを追加時、ロケーションを作成するかどうかを特定します。詳細な情報については、Smart Map 上にカスタムオーバーレイを追加または削除する 『135ページ の"Smart Map でカスタムオーバーレイを追加または削除します"参照』 を参照してください。
Bing マップキー	Bing マップ API 用に生成されたプライベート暗号化キーを入力または編集します。
Google Map 用クライアント ID	Google Static Map API 用に生成したクライアント ID を入力または編集します。
Google Map 用プライベートキー	Google Static Map API 用に生成したプライベート暗号キーを入力または編集します。
キャッシュされた Smart Map ファイルを削除する	Smart Map は、速く読み込ませるため、ローカル・コンピュータのキャッシュに保存されます。キャッシュされたファイルをどのくらい頻繁に削除するかを指定する際、この設定を利用します。

キーボード設定

キーボードの設定によって、XProtect Smart Client の特定の操作に対して独自のショートカットキーの組み合わせを割り当てることができます。XProtect Smart Client には、すぐに使用できる少数の標準のキーボードショートカット 『62ページ の"キーボードのショートカット"参照』 も用意されています。

氏名	説明
ショートカットキーを押す	特定のアクションに対するショートカットとして使用するキーの組み合わせを入力します。

新しいショートカットを使用	選択すると、ショートカットの適用方法を定義します。 - グローバル : XProtect Smart Client のすべてのタブで。 - 再生モード : 再生タブでのみ。 - ライブモード : ライブタブでのみ。 - 設定モード : 設定モードでのみ。
カテゴリ	コマンドカテゴリを選択してから、関連付けられたコマンドを 1 つ選択します。リストされているすべてのビューについて、個々のビューのキーボードショートカットを作成する場合は、すべてを表示のカテゴリを選択します。 コマンドの中には、特定の条件でキーボードショートカットを使用したときだけ動作するものがあります。たとえば、PTZ 関連のコマンドに割り当てたキーボードショートカットは、PTZ カメラを使用しているときにしか機能しません。
パラメータ	該当する場合、コマンドまたはアクションのパラメータを指定します。例えば、選択されたカメラビュー項目をコピーするパラメータのウィンドウとビュー位置を指定する場合、2;1 を入力すると、最初のビュー位置（ビュー位置 1）で、カメラがフロートウィンドウ（ウィンドウ 2）にコピーされます。

ジョイスティック設定

PTZ カメラの多くはジョイスティックに対応していますが、中にはジョイスティックでコントロールできないカメラもあります。

XProtect Smart Client が新しいジョイスティックを検知すると、そのジョイスティックに対するデフォルトのパン/チルト/ズーム (PTZ) 設定が自動的に追加されます。ただし、XProtect Smart Client ジョイスティックの設定によって、使用しているすべてのジョイスティックの設定をカスタマイズできます。

氏名	説明
ジョイスティックの選択	使用可能なジョイスティックのリストから選択します。
軸のセットアップ : 名前	次の 3 つの軸があります。 - X 軸 (水平) - Y 軸 (垂直) - Z 軸 (奥行きまたはズームレベル)。
軸のセットアップ : 反転表示	選択すると、ジョイスティックを移動するときにカメラが移動するデフォルトの方向を変更します。例えば、ジョイスティックを右へ動かすと PTZ カメラが左へ移動し、ジョイスティックを手前へ動かすと PTZ カメラは下へ移動するよう選択します。
軸のセットアップ : 絶対値	選択すると、相対位置方式（ジョイスティックを移動すると、オブジェクトの現在の位置に基づいて、ジョイスティック制御オブジェクトが移動）ではなく、固定位置を使用します。

軸のセットアップ：アクション	軸の機能を選択します。カメラの PTZ パン、カメラの PTZ チルト、カメラの PTZ ズーム、またはアクションなし。
軸のセットアップ：プレビュー	選択した設定の効果をテストできます。テストする軸の機能を選択したら、ジョイスティックを該当する軸に沿って動かすと、青のバーの動きによって効果を確認できます。
デッドゾーン設定：パン/チルト	ジョイスティックのパンおよびチルト機能のデッドゾーンを指定できます。スライダーを右へドラッグするほど、デッドゾーンが拡大し、情報をカメラに送信するために必要なジョイスティックの動きが大きくなります。スライダーを左端の方へドラッグすると、デッドゾーンが無効になります(高精度のジョイスティックの場合にしか推奨できません)。軸のセットアッププレビューを使って、デッドゾーンの設定の効果を確認してください。
デッドゾーン設定：ズーム	ジョイスティックのズーム機能のデッドゾーンを指定できます。スライダーを右へドラッグするほど、デッドゾーンが拡大し、情報をカメラに送信するために必要なジョイスティックの動きが大きくなります。スライダーを左端の方へドラッグすると、デッドゾーンが無効になります(高精度のジョイスティックの場合にしか推奨できません)。軸のセットアッププレビューを使って、デッドゾーンの設定の効果を確認してください。
ボタンセットアップ：名前	ボタンの名前。
ボタンセットアップ：アクション	目的のジョイスティックボタンのうち、使用可能なアクションを 1 つ選択します。
ボタンセットアップ：パラメータ	該当する場合、コマンドまたはアクションのパラメータを指定します。例えば、 選択されたカメラビュー項目をコピーする パラメータのウィンドウとビュー位置を指定する場合、2;1 を入力すると、最初のビュー位置（ビュー位置 1）で、カメラがフロートウィンドウ（ウィンドウ 2）にコピーされます。
ボタンセットアップ：プレビュー	適切なボタンを設定しているか確認するには、ジョイスティックで該当するボタンを押します。関連するボタンが、プレビュー列で青色で表示されます。

アクセスコントロール設定

※本機は、アクセスコントロールには対応していません。

アクセスリクエスト通知を XProtect Smart Client でポップアップ表示させるかどうかを選択します。

【サーバーに従う】フィールドが選択されている場合は、システム管理者が**【アクセスコントロール通知を表示する】**設定を制御します。

アラーム設定

アラームで音声による通知を再生するかどうかを選択します。

拡張設定

【拡張】設定では、XProtect Smart Client の設定を詳細にカスタマイズできます。詳細設定とその操作方法がよく分からない場合は、デフォルト設定のままにしてください。一部の監視システム『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』に接続する場合は、**【サーバーに従う】**列を確認してください。この列を使用して、

Management Client の Smart Client プロファイルで設定された XProtect Smart Client が監視システムサーバーの推奨設定に従うようにすることができます。特定の設定がすでにサーバーによって制御されているという場合もあります。この場合、サーバーの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

氏名	説明
マルチキャスト	システムでは、録画サーバーからクライアントへのライブストリームのマルチキャストをサポートしています。多数の XProtect Smart Client ユーザーが同じカメラからのライブビデオを再生しようとする場合に、マルチキャストによってシステムリソースの消費量を大幅に低減できます。マルチキャストは、複数のクライアントが同じカメラからのライブビデオを頻繁に要求し、Matrix 機能を使用する場合に特に便利です。 マルチキャストは、記録されたビデオ/音声ではなく、ライブストリームでのみ可能です。 【有効】がデフォルトの設定です。Management Client では、サーバーからクライアントへのマルチキャストを使用可能にするには、録画サーバーおよびカメラを有効にする機能を持たせる必要があります。 【無効】:マルチキャストは使用できません。
ハードウェアアクセラレーション	ハードウェアアクセラレーションデコードが使用されているかどうかを制御します。多数のカメラがあるビューでは、CPU の負荷が高くなります。ハードウェアアクセラレーションは、一部の CPU 負荷をグラフィックスプロセッシングユニット(GPU)に移動します。これにより、コンピュータのデコード能力とパフォーマンスが上がります。主に、高フレームレートおよび高解像度の複数の H.264/H.265 ビデオストリームを表示する場合に便利です。 【自動】がデフォルトの設定です。コンピュータのデコードリソースをスキャンし、使用可能な場合は常にハードウェアアクセラレーションを有効にします。 【オフ】はハードウェアアクセラレーションを無効にします。CPU のみがデコードを処理します。

氏名	説明
最大デコードスレッド	ビデオストリームのデコードに使用されるデコードスレッドの数を制御します。このオプションによって、ライブおよび再生モードのマルチコアコンピュータのパフォーマンスが改善できます。実際のパフォーマンスの改善は、ビデオストリームによって異なります。この設定は、H.264/H.265のような高度にコード化された高解像度ビデオストリームを使用している場合に主に適用されます。この場合、大幅なパフォーマンスの改善が見られる可能性があります。たとえば、JPEG または MPEG-4 などを使用している場合は効果が低くなります。マルチスレッドでのデコードには一般に大量のメモリが必要になることに注意してください。最善の設定は、使用しているコンピュータのタイプ、表示する必要があるカメラの数、これらのカメラに使用される解像度およびフレームレートによって異なります。 【標準】では、コンピュータのコア数にかかわらず、カメラ位置当たり 1 つのコアのみが使用されます。 【自動】がデフォルトの設定です。自動では、コンピュータはコアと同じカメラ位置当たりの数のスレッドを使用します。ただし、最大スレッド数は 8 であり、実際に使用されるスレッド数は、使用するコーデック（圧縮/解凍テクノロジー）によってこれより少なくなることがあります。 上級ユーザーは、8 スレッドを上限に、使用するスレッド数を手動で選択できます。選択する数は最大数を表し、実際に使用されるスレッド数は、使用するコーデック（圧縮/解凍テクノロジー）によってこれより少なくなることがあります。 この設定は、すべてのビュー、ライブおよび再生モードでのすべてのカメラ位置に影響を与えます。カメラ位置またはビューの設定を個別に指定することはできません。この設定は、すべてのカメラ位置およびビューに対し同様に適しているとは限らないため、効果を監視し、必要に応じて、パフォーマンスの改善とメモリー使用量との最適なバランスを達成するように設定を再調節することをお勧めします。

氏名	説明
インターレースの解除	インターレースは、画面で画像をどのように更新するかを決定します。まず画像の奇数行をスキャンして画像を更新し、次にすべての行をスキャンしていきます。スキャン時に処理する情報が少なくなるため、より高速のリフレッシュレートが可能になります。ただし、インターレースによってちらつきが発生したり、画像のラインの半分だけが変わる場合があります。インターレースを無効化すると、ビデオはノンインターレース形式に変換されます。多くのカメラでインターレースビデオが生成されないため、このオプションがインターレースされていないビデオの質やパフォーマンスに影響を与えることはありません。 フィルターなしがデフォルト設定です。インターレースの無効化が適用され、オブジェクトを移動したときの画像の端が特徴的なギザギザ状に表示されます。これは、画像全体の偶数および奇数の行を組み合わせることで完全な解像度の画像が構成されるためです。ただし、これらは同時にカメラによってキャプチャされないため、物体が動いていると、2本の行間で調整されないため、端がギザギザに見えます。パフォーマンスへの影響：なし。 トップフィールドの垂直伸張：このオプションでは、偶数行のみを使用します。各奇数行は前の（偶数）行から「コピー」されます。効果として、ギザギザ状の端がなくなりますが、垂直解像度が減少します。パフォーマンスへの影響：ポスト処理が必要な行数が半分になるため、【フィルターなし】オプションと比較してパフォーマンスへの影響は少なくなります。 ボトムフィールドの垂直伸張：このオプションでは、奇数行のみを使用します。各偶数行は前のライン（奇数）から「コピー」されます。効果として、ギザギザ状の端がなくなりますが、垂直解像度が減少します。パフォーマンスへの影響：ポスト処理が必要な行数が半分になるため、【フィルターなし】オプションと比較してパフォーマンスへの影響は少なくなります。 コンテンツの適応：このオプションでは、端がギザギザに表示される画像部分にフィルターを適用します。端がギザギザに表示される領域が検知されなければ、画像は処理されず渡されます。端のギザギザがなくなり、端がギザギザになる傾向がない画像部分では完全垂直解像度が維持される効果があります。パフォーマンスへの影響：デコードおよびレンダリングされるフレーム当たりの総 CPU 使用量がおおよそ 10% 上がるため、【フィルターなし】オプションに比べ影響が大きくなります。
ビデオ診断オーバーレイ	選択したビューでビデオストリームの設定とパフォーマンスレベルを表示します。設定の検証または問題の診断を行う必要がある場合に便利です。 次のオプションから選択します。 非表示：ビデオ診断オーバーレイはありません。デフォルト設定。 レベル 1：フレーム数/秒、ビデオコーデック、およびビデオ解像度。 レベル 2：フレーム数/秒、ビデオコーデック、ビデオ解像度、マルチキャスト、およびハードウェアアクセラレーション状態。 レベル 3：デバッグレベル。主にシステム管理者がシステムパフォーマンスをトラブルシューティングまたは最適化するためのものです。

氏名	説明
時間ゾーン	事前に定義された時間帯またはカスタム時間ゾーンを選択します。使用できるオプションは以下のとおりです。 ローカル:XProtect Smart Client を実行しているコンピュータの時間帯 マスターサーバーの時間ゾーン:サーバーの時間帯 UTC カスタム時間ゾーン: 特定の時間帯が必要な場合、このオプションを選択してから、【カスタム時間ゾーン】フィールドの使用可能な時間帯のリストから選択します。
カスタム時間ゾーン	時間帯フィールドでカスタムを選択していると、コンピュータに知られている任意の時間帯を選択できます。別の時間帯にいる 2 人のユーザーがインシデントを表示したい場合、同じ時間帯にすれば同じインシデントを見ていることを簡単に確認できるので、これが便利です。
PDF レポートのフォーマット	PDF レポートのフォーマットとして、A4 または レター を選択します。たとえば、XProtect Access からのイベントのレポートを作成できます。
PDF レポートのフォント	PDF レポートで使用するフォントを選択します。

言語設定

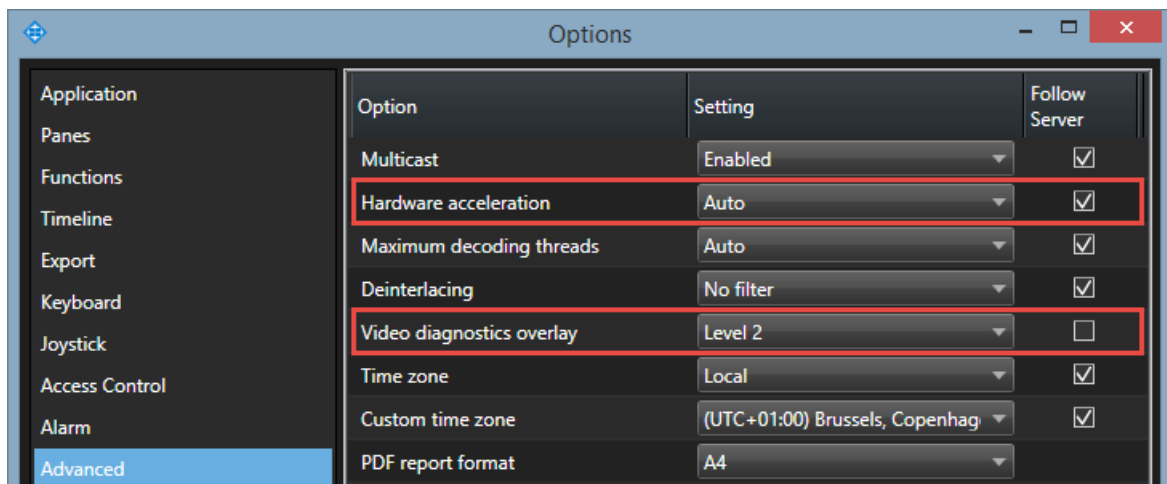
XProtect Smart Client の言語バージョンを指定します。使用できる言語のリストから選択し、XProtect Smart Client を再起動して変更を反映します。

ハードウェアアクセラレーションの有効化

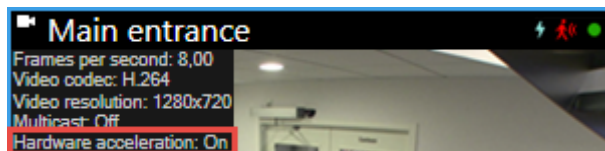
ハードウェアアクセラレーション（説明付き）

XProtect Smart Client ではハードウェアアクセラレーション用に 2 つの設定があります。自動およびオフ。【オプション】>【拡張】>【ハードウェアアクセラレーション】の順に移動します。【自動】がデフォルトの設定です。

ハードウェアアクセラレーションの状態を含め、ストリームの現行ステータスはビデオ診断オーバーレイ>レベル 2 を有効にすることで表示して確認できるようにします。



ハードウェアアクセラレーションにはビューアイテムのビデオ診断オーバーレイにオンまたはオフのステータス項目があります。



ハードウェアアクセラレーションがオフの場合は、ハードウェアアクセラレーションが利用可能かどうかを確認するための手順を使用してください。ご使用のコンピューターでハードウェアアクセラレーションを使用できるか確認するには、Intel® Quick Sync がサポートされていることを確認する必要があります。これはご使用のコンピュータの次の領域を見ることで確認できます。

1. オペレーティングシステム 『55ページ の"オペレーティングシステムの確認"参照 』
2. CPU 『55ページ の"CPU Quick Sync のサポート確認"参照 』
3. デバイスマネージャ 『56ページ の"デバイスマネージャの確認"参照 』
4. BIOS 『56ページ の"BIOS での Intel HD アダプタの有効化"参照 』
5. ビデオドライバ 『57ページ の"Intel ビデオドライバの更新"参照 』
6. メモリ 『57ページ の"モジュール設定の確認"参照 』

オペレーティングシステムの確認

オペレーティングシステムが Microsoft® Windows® 8.1、Windows® Server 2012 以降であることを確認します。

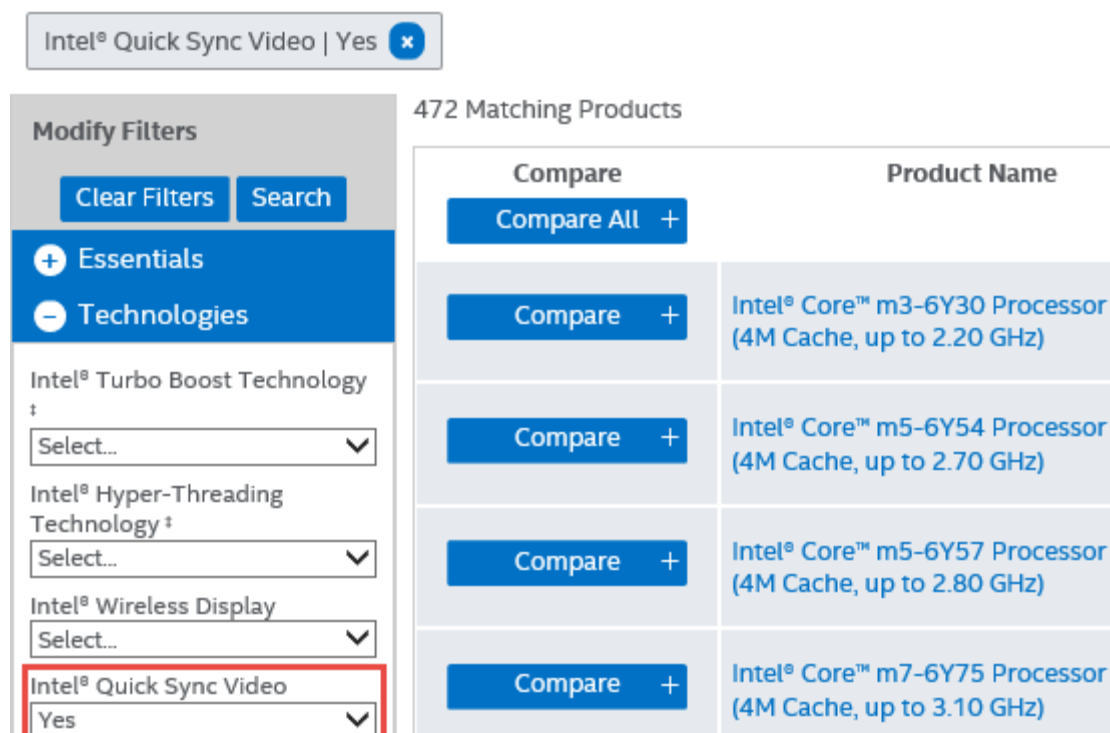
非仮想環境のみがサポートされています。

次に、プロセッサが Intel Quick Sync Video をサポートするかを確認してください 『55ページ の"CPU Quick Sync のサポート確認"参照』。

CPU Quick Sync のサポート確認

プロセッサが Intel Quick Sync Video をサポートしているか確認するには、Intel のウェブサイト 『<http://ark.intel.com/search/advanced?s=t&quicksyncvideo=true>』 にアクセスします。

メニューで、[技術]>[Intel Quick Sync Video]フィルターが[はい]に設定されていることを確認します。



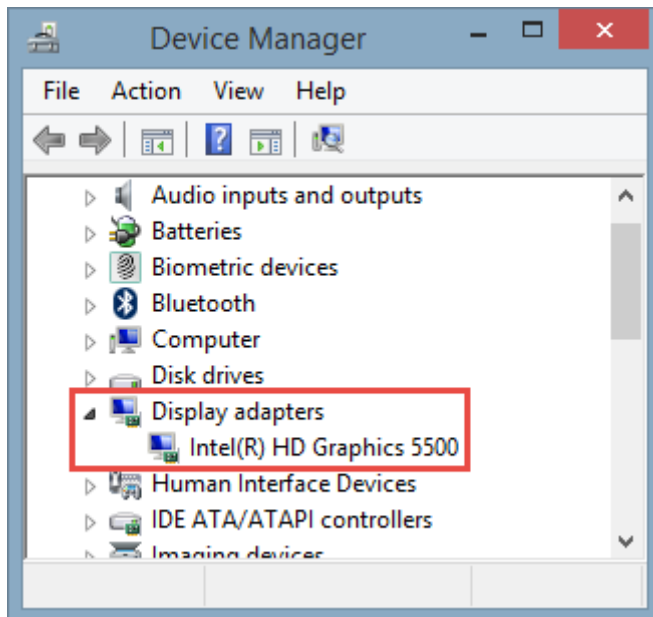
The screenshot shows the Intel ARK website interface. At the top, there is a search bar with the text "Intel® Quick Sync Video | Yes" and a close button. Below the search bar, there is a "Modify Filters" section with a "Clear Filters" button and a "Search" button. Under "Essentials", the "Technologies" filter is expanded. In the "Technologies" list, "Intel® Quick Sync Video" is selected with a dropdown menu showing "Yes". To the right of the filter section, there is a table titled "472 Matching Products". The table has two columns: "Compare" and "Product Name". The "Compare" column contains a "Compare All +" button and four "Compare +" buttons. The "Product Name" column lists four Intel processors: Intel® Core™ m3-6Y30 Processor (4M Cache, up to 2.20 GHz), Intel® Core™ m5-6Y54 Processor (4M Cache, up to 2.70 GHz), Intel® Core™ m5-6Y57 Processor (4M Cache, up to 2.80 GHz), and Intel® Core™ m7-6Y75 Processor (4M Cache, up to 3.10 GHz).

次に、デバイスマネージャを確認します 『56ページ の"デバイスマネージャの確認"参照』。

デバイスマネージャの確認

Windows デバイスマネージャが Intel HD ディスプレイアダプタを検出する必要があります。

ディスプレイを使用可能な任意のディスプレイアダプタに接続します。お使いのコンピュータ上に、たとえば、NVIDIA®や AMD®などさらにパワフルなディスプレイアダプタがある場合は、ディスプレイをこのアダプタに接続し、両方のリソースを使用します。ハードウェアアクセラレーションデコードおよびレンダリングのための NVIDIA または AMD の Intel HD アダプタ。



Intel HD アダプタが搭載されていない場合は、コンピュータの BIOS でディスプレイアダプタを有効化する『56 ページ の"BIOS での Intel HD アダプタの有効化"参照』必要があります。

BIOS での Intel HD アダプタの有効化

たとえば、NVIDIA または AMD など、ご使用のコンピュータに別のディスプレイアダプタカードが搭載されている場合は、ボード上の Intel HD ディスプレイアダプタが無効になっていることがあり、その場合は有効化する必要があります。

Intel HD ディスプレイアダプタは、CPU の一部としてマザーボード上に配置されています。有効化するためには、コンピュータの BIOS で、グラフィックス、CPU またはディスプレイの設定をご覧ください。関連設定を見つけるには、ベンダーのマザーボードマニュアルが役立つこともあります。

設定を変更してもボード上の Intel HD ディスプレイアダプタが有効化されない場合は、ディスプレイアダプタカードを別のスロットに移動し、マザーボードへのディスプレイの接続をお試しください。ときに、これによってボード上のディスプレイアダプタが有効になることがあります。

次に、Intel ビデオドライバを更新します『57ページ の"Intel ビデオドライバの更新"参照』。

Intel ビデオドライバの更新

Intel HD ディスプレイアダプタのドライババージョンが Intel Quick Sync Video をサポートしているか確認してください。これはドライバのバージョンを Intel の最新バージョンに更新することで、実行できます。

PC ベンダーの提供するドライババージョンが古い、もしくは、Intel Quick Sync Video をサポートしていない可能性があります。

Intel ドライバの更新方法は次の 2 つです。手動でダウンロードしてインストールするか、Intel Driver Update Utility を使用する。

手動でのダウンロードとインストール：

1. Intel ダウンロードウェブサイト 『<https://downloadcenter.intel.com/>』 にアクセスします。
2. 一体型のディスプレイアダプタの名前を入力します。
3. ドライバを手動でダウンロードし、インストールします。

Intel コンポーネントおよびドライバの自動検出と更新：

1. Intel Driver Update Utility 『http://www.intel.com/p/en_us/support/detect』 をダウンロードします。
2. ドライバを自動検索します。
3. Intel HD グラフィックスのドライバの更新を選択します。

最後に、メモリモジュールの設定状態を確認できます 『57ページ の"モジュール設定の確認"参照 』。

モジュール設定の確認

システムでサポートしているのが、1 つのメモリチャンネルである場合は、最低 2 つのチャンネルでメモリモジュールが正しい DIMM スロットに挿入されていることを確認することで、システムパフォーマンスを上げることができる場合があります。正しい DIMM スロットを見つけるにはマザーボードのマニュアルを参照してください。

例：

メモリチャンネルが 2 つあるシステムで、メモリの合計量が 8GB あるときは、2x4GB のメモリモジュール構成を使用したときに最高のパフォーマンスを得ることができます。

1 x 8GB メモリモジュール構成を使用するときは、使用するメモリチャンネルは 1 つになります。

XProtect Smart Client の操作

ユーザー権限によって、操作方法が決定されます

各ユーザーの権限は、監視システムの管理者によって一元的に指定され、これらの権限によって XProtect Smart Client の特定の機能を使用できるかどうかが決まります。

基本的に、システム管理者が制限できるユーザー権限には次のものがあります。

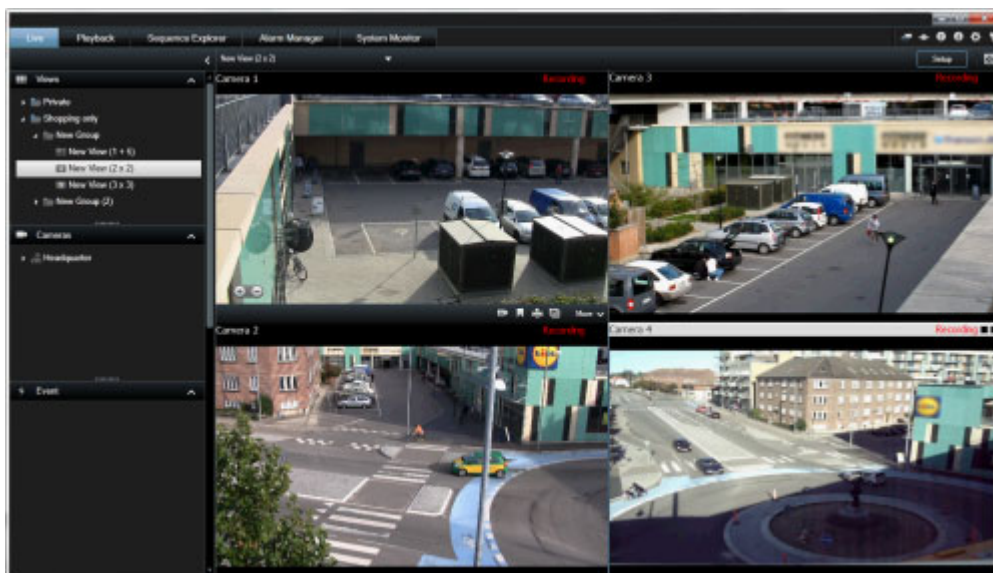
- XProtect Smart Client へのアクセス
- それぞれのタブへのアクセス：ライブ、再生、アラームマネージャ、およびシーケンスエクスプローラ

- 特定の機能の使用
- ビューの作成（ビューは1つまたは複数のカメラを表示する形態を決定します）
- 特定のカメラからのビデオの表示

XProtect Smart Client の機能を使用する権限は、ユーザーによってかなり異なることがあります。特定の監視システム『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合、ユーザー権限は、時刻、曜日などによっても異なります。たとえば、月曜から金曜の特定の時間内は特定のカメラからのビデオを再生できても、この時間外は再生できないことがあります。

ライブビデオ（説明付き）

特定のユーザー権限がないと、**ライブタブ**にアクセスできないことがあります。XProtect Smart Client でビデオを再生するには、監視システムのレコーディングサーバーが実行中である必要があります。ユーザー権限によっては、一部のカメラからのビデオを再生できない場合があります。



例：4 台のカメラからのビデオを再生するライブタブ

ライブタブには『32ページ の"ライブタブ"参照』、音声『111ページ の"音声設定"参照』、自動切替『97ページ の"画面自動切替"参照』、ホットスポット『98ページ』、Matrix、カメラのショートカットメニュー、パン/チルト/ズーム (PTZ)『66ページ の"PTZ および魚眼レンズ画像"参照』制御、デジタルズーム、イベント起動、出力起動、クイック再生など、さまざまな機能があります。

ライブタブに、カメラからのライブビデオが再生されていても、そのカメラからのビデオストリームが録画中であるとは限りません。通常、ビデオは監視システムサーバーの設定に従って録画されます。一般に、録画は、スケジュール(毎朝 10:00～11:30 など)に従って、および/または監視システムが特別なイベント(誰かが部屋に入ってきたことによってモーションが発生した、窓が開いたことをセンサーが認識した、XProtect Smart Client で手動イベントが起動された)を検知したときに行われます。通常は、録画ビデオは**再生タブ**で表示しますが、**ライブタブ**で再生『149ページ の"個別再生を使用する録画済みビデオの表示"参照』することも可能です。

設定モードで、カメラのプロパティ『101ページ の"カメラ設定"参照』のタイトルバーが有効になっている場合は、ビデオの録画中に、カメラ画像の上にあるタイトルバーに「**録画中**」と表示されます。

ヒント：特定のビューアイテムのカメラ位置からビデオを最大化するには、そのカメラ位置をダブルクリックします。通常のビューに戻すには、カメラ位置をもう 1 度ダブルクリックするだけです。

カメラが短時間しか録画していない場合があります。これは、ドアが開いた場合など、モーションが発生したときのみカメラからのビデオストリームを録画するよう監視システムサーバーが設定されているために、録画時間が短くなっている場合です。

したがって、カメラからのビデオストリームがすでに録画中であっても、**#分の記録開始**を選択できます。そうすれば、指定の分数が経過するまで、中断されることなく確実にカメラからのビデオストリームを録画できます。

サーバーで複数のストリームが設定されている場合、カメラツールバーから選択すると、一時的に別のストリームを表示できます。カメラのツールバーで、**詳細**をクリックして、使用可能なリストからストリームを選択します。

ビデオの手動録画

手動録画の機能は、接続している監視システムとユーザー権限によります。ライブビデオを見ながらの録画は、何かを発見した場合に便利です。録画するビューの位置のカメラのツールバーで、以下を選択します。

-  #分の記録開始

いったん開始されると、監視システムの管理者によって指定された分数だけ録画が行われます。ユーザーが分数を変更することや、指定の分数が経過する前に録画を停止することはできません。

-  手動録画を開始

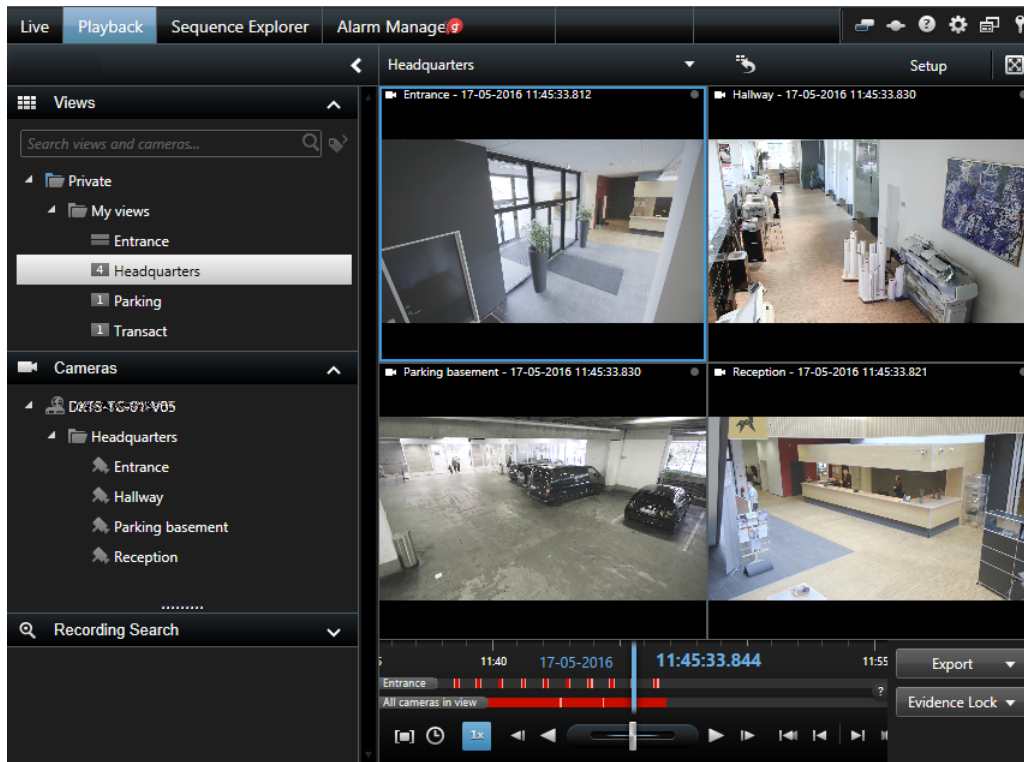
いったん開始されると、監視システムの管理者によって決められた分数だけ録画が継続します。または、アイコンを再度クリックして  手動で録画を停止することができます。

ヒント：複数のカメラからのビデオストリームを同時に録画することもできますが、その場合は1つずつ選択する必要があります。

録画されたビデオ（説明付き）

録画ビデオは、の[再生]XProtect Smart Client タブで表示します。**【再生】**タブを選択すると、XProtect Smart Client は、監視システムサーバーに接続し、カメラで録画されたビデオを選択したビューで再生します。この方法で、録画されたビデオを再生できます。

【再生】タブを使用するには特定のユーザー権限が必要となる場合があります、ユーザー権限によっては一部のカメラからのビデオの参照が制限されている場合があります。



【再生】タブには、タイムライン 『161ページ の"時間ナビ制御"参照 』、スマートサーチ(特定のカメラからの録画内の指定範囲におけるモーションを検索)、および 2 種類のシーケンスブラウズ機能(プレビューオプション付き簡易リストまたはシーケンスエクスプローラ 『151ページ の"シーケンスエクスプローラを使用したビデオの検索"参照 』の複数シーケンスのサムネイルビューを使用)など、録画済みのビデオを参照するための高度な機能が数多くあります。

ビデオを参照する機能以外にも、**【再生】**タブでは、音声を聴く(選択した Milestone 監視システムに接続して(いる場合のみ)、ホットスポットの使用、デジタルズームの使用 『64ページ 』、魚眼レンズ画像内のナビゲート 『66ページ の"PTZ および魚眼レンズ画像"参照 』、画像の印刷 『183ページ の"証拠を印刷する"参照 』、AVI(ムービークリップ)、JPEG(静止画像)やフォーマットでの 『172ページ の"XProtect フォーマットの設定"参照 』エビデンスビデオのエクスポート XProtect など実行できます。

ヒント: ビュー内の特定のカメラ位置からのビデオを最大化するには、そのカメラ位置をダブルクリックします。通常のビューに戻すには、カメラ位置をもう 1 度ダブルクリックします。

【再生】タブでは、デフォルトでは、ビューにあるすべてのカメラが同じ時刻のポイント(マスター時刻)での録画が表示されます。ただし、マスター時刻とは無関係に各カメラの録画を再生、ナビゲートすることができます(設定 『44ページ の"機能設定"参照 』ウィンドウで有効に設定されている場合)。

独立再生を使用して、**【ライブ】**タブから録画済みビデオを再生することもできますし、マスター時刻とは無関係にビデオを再生することもできます。

個別再生を使用する録画済みビデオの表示

この機能は、ホットスポット、画面自動切替、または **Matrix** 位置ではなく、通常の単一のカメラ位置に対してのみ使用可能です。

1. 録画ビデオを再生するカメラをマウスで横切ります。表示されるツールバーで、**独立再生**ボタンをクリックします。



独立再生のタイムラインが表示されます：



2. タイムライン 『161ページ』をドラッグして、再生するビデオが含まれる時間を選択します。
3. 選択した時間のすべてのカメラの録画ビデオをビューで同時に再生するには、**再生タブで選択された時間の録画を表示**をクリックします。この操作で、すべてのカメラが選択した時間に同期されて再生タブで再生されます。

設定モードに入る

- 設定モードに入るには、XProtect Smart Client のツールバーで、**設定**をクリックします。

設定モードでは、**設定**のボタンやペイン（プロパティ 『101ページ の"カメラ設定"参照』ペインなど）は、左側のペインにオレンジ色で表示されます。



デフォルトビューへ戻るには、**設定**ボタンを再度クリックします。

ビューの選択

ライブおよび再生タブのビューペインで、ビューを選択できます。ビューにショートカット番号が割り当てられている 『84ページ の"ビューへショートカット番号を割り当てる"参照』場合は、キーボードショートカットを使用して 『62ページ の"キーボードのショートカット"参照』ビューを選択することもできます。

1. ビューペインで、**個人**または**共有**ビューのいずれかを選択します。
2. 関連するグループで使用可能なビューをいずれか選択します。

ペインもショートカットも表示されていない場合は、設定 『44ページ の"ペイン設定"参照』ウィンドウでペインが使用可能かどうかを確認してください。

フル画面表示

使用している XProtect Smart Client をフル画面モードで表示するには、XProtect Smart Client のツールバーで、**フル画面表示**  ボタンをクリックします(またはキーボードの **F11** を押します)。

フル画面モードに変更すると、ツールバーやペインは非表示になります。ツールバーやペインを再度表示するには、マウスを画面の最上部へ移動させます。

デフォルトビューへ戻るには、**ESC** キーまたは **F11** キーを押します。

単一の画像のコピー

選択したカメラから **1** つの静止画像をコピーできます。コピーした画像はその後、ワープロソフトや E メールクライアントなど、他のアプリケーションに（ビットマップ画像として）貼り付けることができます。**1** 台のカメラからコピーできる画像は **1** 度に **1** つだけです。

- カメラのツールバーで、**クリップボードへコピー** アイコンをクリックして画像をコピーします。



キーボードのショートカット

ライブタブや再生タブで作業する場合、簡単なキーボードのショートカットを多数使用できます。

以下のショートカットのプラス記号は、キーを示しているのではなく、**2** つ以上のキーを押すことを意味しています。たとえば、「**/+ENTER**」というキーボードショートカットは、スラッシュ(/)キーを押してから **ENTER** キーを押すことを示します。

こうしたショートカットは、**Matrix** コンテンツや静止画像を含んでいるビュー位置では使用できません。

押すキー	実行される操作
ENTER	選択されたビュー位置の最大表示と標準表示を切り替えます。
ALT	特定のビューアイテムを選択します。ALT を使用すると、画面に表示される数字を入力して、ビューアイテムに移動できます。ビューアイテムがフォーカスされている場合には、青色のフレームでマークされています。 PTZ 『241ページ』カメラやホットスポット 『98ページ』を使用している場合、ジョイスティックでカメラをコントロールしたり、マウスを使用せずにホットスポットに直接ビューアイテムを送信できます。
/+<camera shortcut number>+ENTER	選択されたビューアイテムに表示されているカメラを、押したショートカット番号のカメラと置き換えます。例：表示するカメラのショートカット番号が 6 の場合、/+6+ENTER を押します。 監視システムによってはカメラのショートカット番号を使用していない場合があります。カメラのショートカット番号はサーバーで定義されます。
/+ENTER	選択されたビューアイテムに表示されているカメラを、デフォルトのカメラと置き換えます。

押すキー	実行される操作
/+ /+ENTER	すべてのビューアイテムに表示されているカメラを、デフォルトのカメラと置き換えます。
+<view shortcut number>+ENTER	選択されたビューを、ショートカット番号が一致するビューに変更します。例：表示するカメラのショートカット番号が 8 の場合、+ 8+ENTER を押します。 ビューのショートカット番号を使用していない場合があります。ビューのショートカット番号を使用している場合は、ビューペインのライブタブで、ビュー名の前に括弧で囲まれて表示されます。ビューのショートカット番号は、設定モードで、ライブタブで定義します。
6 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を 1 つ右へ移動させます。
4 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を 1 つ左へ移動させます。
8 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を 1 つ上へ移動させます。
2 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を 1 つ下へ移動させます。

また、の特定の操作に対して 『47ページ の"キーボード設定"参照 』 カスタムのショートカットキーの組み合わせを割り当てる XProtect Smart Client こともできます。

デジタルズーム、パンチルトズーム、360°レンズ画像

デジタルズーム

デジタルズーム（説明付き）

デジタルズームを使って画像の一部だけを拡大表示できるため、その部分を詳しく見ることができます。デジタルズームは、カメラ自体に光学ズーム機能が搭載されていない場合に便利な機能です。デジタルズームを使用してもビデオの録画には影響はありません。カメラの標準フォーマットで録画されます。後で録画を再生する場合、再生タブで同じようにデジタルズームを使用することができます。

PTZ ではないカメラでは、デジタルズームはデフォルトで有効になっています。1 台のカメラでデジタルズームを有効または無効にすると、ビューにあるすべてのカメラに影響します。PTZ カメラでは、この設定は一度に 1 台のカメラにだけ適用されます。

証拠をエクスポート 『172ページ の"XProtect フォーマットの設定"参照』する場合、AVI または JPEG フォーマットであれば、標準の画像またはデジタルズームした画像のどちらかをエクスポートするか選択できます。データベースフォーマットでエクスポートする場合は、受信者が、エクスポートされた記録をデジタルズームできるため、この選択はできません。デジタルズームを使用した画像を印刷 『183ページ の"証拠を印刷する"参照』する場合は、その画像のデジタルズームされた部分が印刷されます。

デジタルズームの使用

1. 画面自動切替またはマッププレビューのカメラのツールバーのライブまたは再生タブで、詳細 > デジタルズームをクリックして有効にします。



ヒント：マウスをビューへ移動させた時にカメラのツールバーをポップアップ表示させたくない場合は、CTRL キーを押したまま、マウスを動かします。

ビューの右下隅に小さな概要フレーム（ズームインジケータ）が表示され、エリアにズームインした場合に画像全体の概要を表示します。



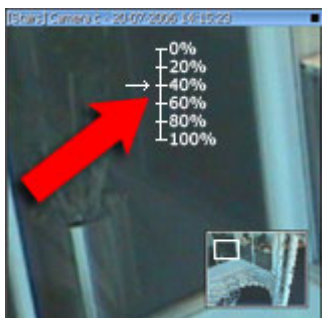
2. ズームする画像の内側で、マウスボタンを押したままにします。選択されたエリアは、白い枠線で強調表示されます。マウスボタンを離すと、ズームが適用されます。



3. ズームレベルを維持したままその画像の他のエリアへ移動する場合は、全体図フレーム内で、強調表示されているエリアをドラッグして必要な位置へ移動させてください。



4. ズームレベルスライダーを使用してズームレベルを調整するには、**SHIF** キーを押したまま画像の内側をクリックし、両方とも押したまま、マウスを動かしてズームレベルスライダーを上下させます。



5. **0%**のズームレベルを選択すると、画像全体が再表示されます。

ヒント：マウスにスクロールホイールが付いている場合は、それを使ってズームレベルを調整できます。多くのマウスで、スクロールホイールまたは中央ボタンをクリックすると画像全体の表示に簡単に戻れます。

よくある質問：デジタルズーム

光学ズームとデジタルズームの違いは何ですか？

光学ズームの場合、カメラのレンズ部分が物理的に動作して、画質を低下させることなく必要なビューアングルを提供します。デジタルズームの場合、画像を一部だけを切り取って拡大表示し、元の画像のピクセルサイズへ戻すことができます。これは補間と呼ばれるプロセスです。そのため、デジタルズームは光学ズームと同じように動作しますが、デジタルズームされた部分は元の画像よりも画質が低くなります。

デジタルズームは PTZ カメラに関係がありますか？

パン/チルト/ズーム (PTZ) カメラのライブビデオを見る場合、PTZ カメラの光学ズームを使用できるため、デジタルズームは PTZ カメラにはあまり関係がありません。ただしデジタルズーム機能は、たとえば、PTZ カメラの光学ズーム機能を使用するユーザー権限がない場合に使用できます。

ナビゲーションボタンが表示されないのはなぜですか？

ビデオを再生しているカメラが PTZ カメラでなければ、ズームインできるエリアは 1 つだけであり、ズームボタンは 1 つしかありません。画像のあるエリアにズームインすると、PTZ ナビゲーションボタンへのアクセスが可能となり、このズームエリア内で移動できます。

PTZ および魚眼レンズ画像

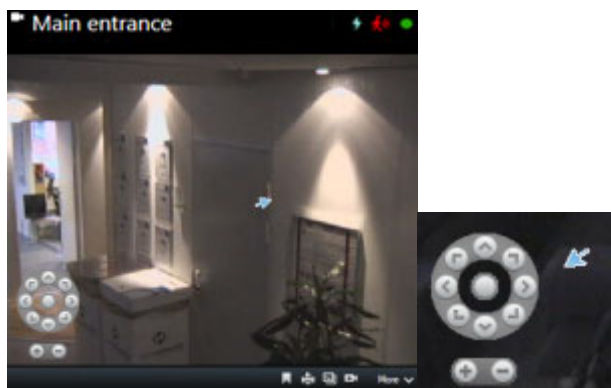
監視システムによっては、魚眼カメラの使用がサポートされていない場合があります。また、魚眼カメラによっては、Microsoft Windows の 64 ビットバージョンでサポートされていない場合があります。

ユーザー権限によっては、一部のカメラからパン/チルト/ズーム(PTZ)管理へアクセスできない場合があります。PTZ 機能は、特定の監視システムに接続している場合に制限されることがあります。

特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の XProtect 製品比較表を参照してください。
<http://www.milestonesys.com>

魚眼レンズ画像

魚眼カメラや魚眼レンズがビューに含まれている場合、矢印マウスポインタ(仮想ジョイスティック)または画像の内側に表示される PTZ ナビゲーションボタン(魚眼カメラの種類によっては、独自のズームボタンがあります)をクリックして、魚眼カメラ画像をナビゲートすることができます。PTZ の丸いボタンを使うと、カメラをすばやくデフォルト位置へ移動できます。ズームインやズームアウトは、**プラス (+)**および**マイナス (-)**ボタンを使用します。マウスにスクロールホイールが付いている場合は、スクロールさせてズームインやズームアウトを行うことができます。スクロールホイールまたは中央ボタンをクリックするとデフォルトビューに戻ります。



PTZ ナビゲーションボタンおよび仮想ジョイスティックのマウスポインタ

マウスによっては、スクロールホイールが特定の操作に割り当てられている場合があります、その場合はズームできません。マウスの設定マニュアルを参照してください。

魚眼レンズ画像のナビゲーションでプリセット 『67ページ』の"定義済みの PTZ プリセット位置までカメラを移動する"参照』を使用することはできませんが、お気に入りの位置を保存することができます。

お気に入りの魚眼レンズの位置の定義

魚眼レンズカメラの位置のみを保存できます。

1. 保存する魚眼レンズ画像内の位置に移動します。
2. カメラのツールバーで、**詳細 > 魚眼レンズの位置の保存**をクリックして、位置を保存します。



3. 魚眼レンズの位置に戻るには、カメラのツールバーで**詳細 > 魚眼レンズの位置のロード**をクリックします。

PTZ 画像

ビュー (画面自動切替またはマッププレビューのビューを含む) に PTZ カメラ画像がある場合、オーバーレイ PTZ ナビゲーションボタンを使用して PTZ カメラを制御することができます。

セットアップモードでは、**プロパティペイン**でビューアイテムの PTZ クリックモードを定義できます。クリックして中央揃えおよび仮想ジョイスティックから選択できます。クリックして中央揃えは XProtect Smart Client の使用を開始したときのデフォルトモードです。XProtect Smart Client 設定『42ページ の"設定ウィンドウ(説明付き)"参照』でデフォルトの選択を変更できます。

ヒント: ほとんどの PTZ カメラはジョイスティックとポイントアンドクリックコントロールをサポートします。ジョイスティックコントロールはカスタマイズ『48ページ の"ジョイスティック設定"参照』できます。

ほとんどの PTZ カメラは、カメラ画像内をポイントアンドクリックするだけで、制御することができます。PTZ カメラからの画像にマウスポインタを移動させたときに、次のような十字カーソルに変わる場合は、カメラがポインタなどクリックコントロールをサポートしています。



十字カーソルはポイントアンドクリックコントロールを意味します。カメラによって、この十字カーソルの外観が異なります。

一部のカメラでは長方形で囲まれたクロスヘアが表示されます。この場合、拡大する画像の周囲の四角形をドラッグして、特定のエリアをズームすることができます。このタイプのカメラは、キーボードの **Shift** キーを押したままマウスを上下に動かすと画像内にズームレベルスライダーが表示され、ズームレベルを調整できます。

定義済みの PTZ プリセット位置までカメラを移動する

PTZ カメラをあらかじめ定義された位置に移動するには、PTZ カメラに定義された使用可能なプリセットのリストから PTZ プリセット位置を選択します。

1. ライブタブでのカメラツールバーで、PTZ アイコン  をクリックして、PTZ プリセット位置メニューを開きます。
2. メニューの PTZ プリセット位置を選択して、カメラを必要な位置へ移動させます。

アイコンが緑色になります。

プリセットホームを選択した場合、カメラが既定の位置まで移動します。

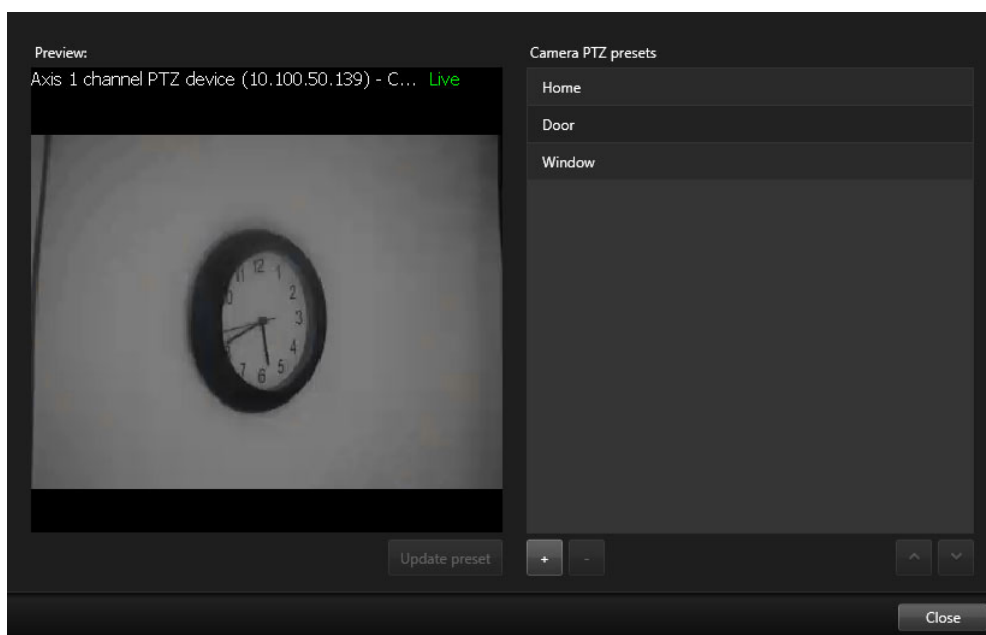
PTZ プリセットの管理

監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照 』によっては、PTZ プリセットの作成、編集、および削除ができます。

PTZ プリセットの追加

追加の PTZ プリセットを定義できます。

1. ビューで、新しい PTZ プリセット位置を追加する対象の PTZ カメラを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ アイコン  をクリックし、PTZ メニューを開きます。
3. **[PTZ プリセットの管理]** をクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。



4.  をクリックして、新しいプリセットエントリを追加します。
5. PTZ プリセット位置名を選択し、PTZ プリセット位置の名前を入力します。
6. PTZ ボタンを使用して、必要な位置に移動し、**[プリセットの更新]** をクリックして保存します。
7. 矢印を使用して、リスト内で PTZ プリセット位置を上下に移動します。リストに含まれるプリセットが多い場合は、この操作が便利です。

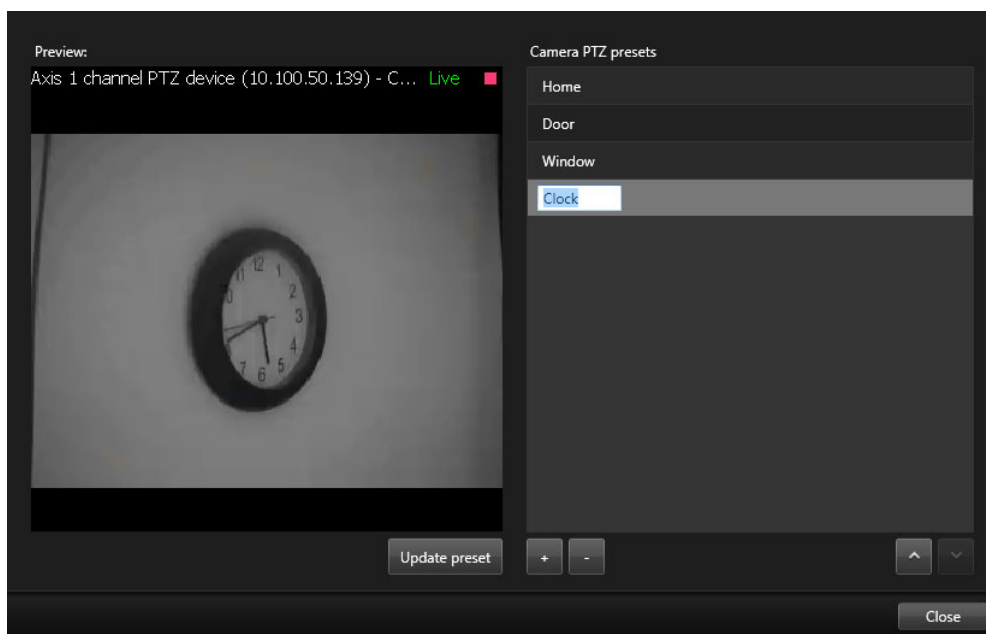
PTZ プリセットの削除

既存のプリセットを削除するには、プリセットを選択し、 をクリックします。

PTZ プリセットの編集

1. PTZ プリセット位置の名前を編集するには、PTZ プリセット位置名を選択します。

2. テキストをダブルクリックし、既存の名前を上書きします。



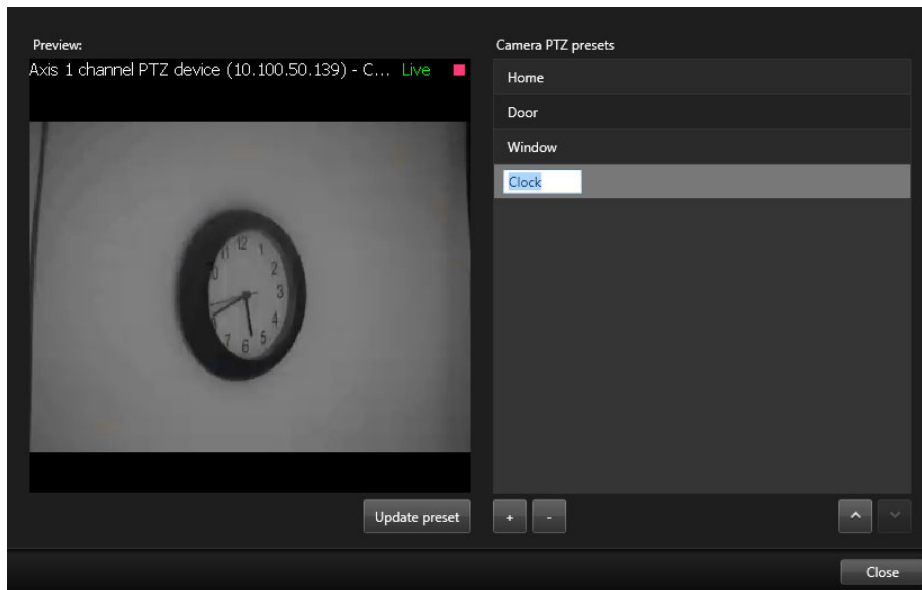
3. PTZ ボタンを使用して、必要な位置に移動し、**【プリセットの更新】**をクリックして保存します。
4. **閉じる**をクリックします。

PTZ プリセットの編集

プリセットの名前変更やプリセット位置の変更など、既存の PTZ プリセットを変更できます。

1. ビューで、PTZ プリセット位置を修正したい PTZ カメラを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ アイコン  をクリックし、PTZ メニューを開きます。
3. **PTZ プリセット位置の管理**をクリックし、ダイアログボックスで PTZ プリセット位置を選択します。

4. プリセット名を編集するには、**PTZ** プリセット位置名が強調表示されているのを確認します。テキストをクリックし、既存の名前を上書きします。

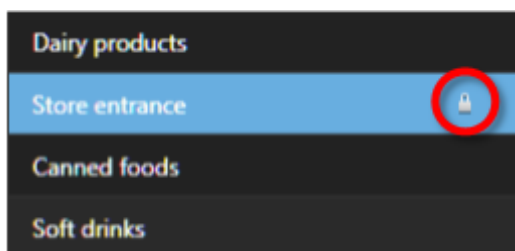


5. カメラが正しい位置にない場合は、**PTZ** ボタンを使用して目的の位置に移動してから、**プリセットの更新**をクリックして保存します。
6. 上下矢印を使用して、リスト内で **PTZ** プリセット位置を移動します。
7. **閉じる**をクリックします。

ロックされた **PTZ** プリセット

お持ちの監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照 』により、**PTZ** プリセットがロックされている場合があります。

システム管理者は、**PTZ** プリセットをロックして、名前の変更や削除から保護し、第三者によるポジションの変更を防止することができます。



システム管理者は、**PTZ** プリセットがロックされているか否かを決定します。

PTZ パトロールの停止

PTZ カメラは、スケジュールに従い、複数の **PTZ** プリセット間を継続的に移動できます。継続するシステムパトロールを停止できます。

重要な理由がある場合にのみ、システムパトロールを停止してください。通常、システム管理者はパトロールを綿密に計画し、組織の監視ニーズに対応させています。

1. ライブタブで、目的のビューを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ アイコンをクリックし、PTZ メニューを開きます。
3. **[PTZ パトロールの停止]**を選択すると、手動でパトロールを停止できます。
4. システムパトロールを再開するには、もう一度**[PTZ パトロールの停止]**コマンドを選択します。

手動パトロールの開始および停止

監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照 』によっては、パトロールを手動で開始および停止できます。

たとえば、システムパトロールでは部屋の領域が適切に映し出されない場合や、システムパトロールがない場合に、手動でパトロールを開始できます。カメラが既にパトロール中の場合に、手動パトロールセッションを開始するには、パトロール中のユーザーまたはルールに基づくパトロールよりも高い **PTZ 優先度**が必要です。

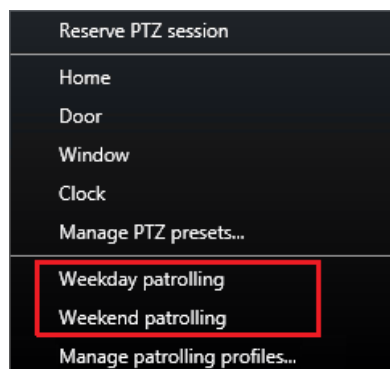
パトロールプロファイルは、システム管理者、他のユーザー、または自分 『72ページ の"パトロールプロファイルの管理"参照 』（必要なユーザー権限がある場合）が作成できます。

自分よりも高い **PTZ 優先度**を持つユーザーは、自分が手動パトロールを実行しているときに、カメラを制御できます。このようなユーザーがセッションをもう一度リリースすると、自分の手動パトロールが再開されます。

十分な **PTZ 優先度**がある場合は、パトロール設定をクリックすると、他のユーザーが開始した手動パトロールを停止または一時停止 『74ページ の"パトロールの一時停止"参照 』したり、別の手動パトロールを開始することができます。自分が開始した手動パトロールはいつでも停止できます。

手動パトロールを開始するには：

1. ビューで、パトロールを開始する **PTZ カメラ**を選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ アイコンをクリックし、PTZ メニューを開きます。
3. **[PTZ プリセットの管理]**エントリの下には、このカメラに設定されたパトロールプロファイルが一覧表示されます。



PTZ メニューの例

4. 開始するパトロール設定を選択します。

パトロール設定が実行中のときには、すべてのユーザーで、プロファイルの前にチェックマークが表示されます。自分の **PTZ アイコン**が緑色になり、他のすべてのユーザーの **PTZ アイコン**は赤色になります。このように、他のユーザーは別のユーザーがカメラを制御していることがわかります。

5. 手動パトロールを停止するには、もう一度プロファイルを選択します。

定期パトロールが再開されるか、他のユーザーがカメラを使用できるようになります。

カメラが使用可能で、十分な PTZ 権限がある場合は、ビューアイテム内のビデオをクリックするかジョイスティックを動かすと、カメラを制御できます。15 秒間移動が行われなくなるまで制御は維持されます。手動制御のタイムアウトはデフォルトで 15 秒ですが、システム管理者は変更できます。

これよりも長い時間カメラを制御する場合は、PTZ メニューから**【パトロールの一時停止】**『74ページ の"パトロールの一時停止"参照』を選択します。

パトロールプロファイルの管理

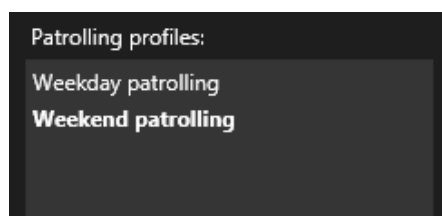
監視システム『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』によっては、パトロールプロファイルの作成、編集、および削除ができます。

1. ビューで、該当する PTZ カメラを選択し、新しいパトロール設定を追加します。
2. カメラツールバーで、PTZ アイコンをクリックし、PTZ メニューを開きます。
3. **【パトロールプロファイルの管理】**をクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。
4. 次の手順に従い、**【OK】**をクリックして**【パトロールプロファイルの管理】**ウィンドウを閉じます。

自分と他のユーザーは PTZ メニューで新しいパトロール設定を確認できます。

パトロールプロファイルの作成

1. **【パトロール設定】**の下にをクリックし、新しいパトロール設定を追加します。
2. プロファイル名を入力し、**Enter** キーを押します。この名前は後からいつでも変更できます。



新しいパトロール設定が**パトロールプロファイル**リストに追加されます。これで、位置とパトロール設定の他の設定を指定できます。

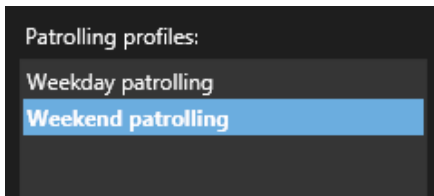
【OK】をクリックしないと、変更は保存されません。そのときまでは、すべての変更をキャンセルできます。

パトロールプロファイルの削除

既存のプロファイルを削除するには、プロファイルを選択し、をクリックします。

パトロール設定での位置の指定

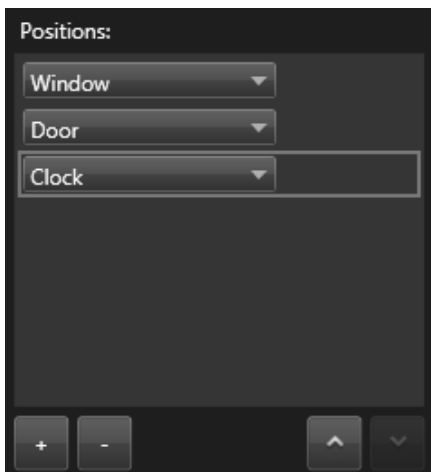
1. パトロール設定の選択：



2. **【位置】**リストの下に  をクリックし、PTZ プリセット位置を追加します。

PTZ プリセットは管理者によって定義されます。また、ユーザー権限によっては、**【PTZ プリセットの管理】**『68ページ の"PTZ プリセットの管理"参照』 ボタンをクリックして定義できます。

3. ドロップダウンリストで PTZ プリセット位置を選択します。
4. パトロール設定ですべての必要な位置を選択するまで、プリセットを追加し続けます。



5. 上下矢印を使用して、リスト内で PTZ プリセット位置を移動します。

カメラはリストの最上位の PTZ プリセット位置を、カメラがパトロール設定に従ってパトロールを行うときの最初の停止位置として使用します。上から 2 番目の位置の PTZ プリセット位置は、2 番目の停止位置というようになっています。

各位置での時間の指定

パトロール時に、PTZ カメラはパトロール設定で指定された各位置にデフォルトでは 5 秒間とどまります。

秒数を変更するには：

1. **パトロール設定** リストからパトロール設定を選択します。

2. **【位置】**リストで時間を変更する PTZ プリセット位置を選択します。



3. **【位置の時間（秒）】**フィールドに任意の時間を入力します。
4. 必要に応じて、他のプリセットでも繰り返します。

終了位置の指定

パトロールが終了するときにカメラを特定に位置に移動するように指定できます。この場合は、パトロール設定で終了位置を選択します。

1. **パトロール設定**リストからパトロール設定を選択します。
2. **【終了時に移動】**の下で、ドロップダウンリストから終了位置としてプリセットのいずれかを選択します。

任意のカメラの PTZ プリセットを終了位置として指定できます。パトロール設定で使用するプリセットに制限はありません。

終了位置を指定せず、デフォルト設定の**【終了位置なし】**を使用することもできます。

PTZ プリセットの追加または編集

選択可能な既存の PTZ プリセットがニーズに合わない場合は、カメラの追加プリセットを作成するか、既存のプリセットを編集できます。

1. **【PTZ プリセットの管理】**ボタンをクリックします。
2. **【PTZ プリセットの管理】**『68ページ の"PTZ プリセットの管理"参照』ダイアログボックスで、プリセットを変更し、**【OK】**をクリックします。

【パトロールプロファイルの管理】ダイアログボックスが表示されます。

3. パトロールプロファイルの管理を続け、**OK** をクリックして保存します。

パトロールの一時停止

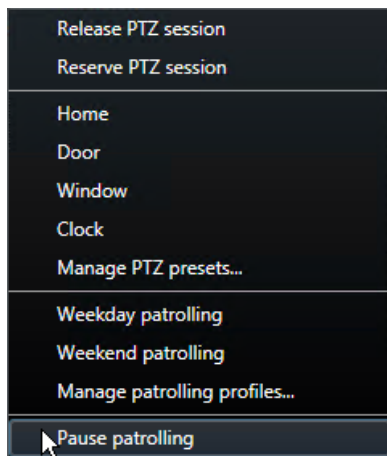
監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』によっては、パトロールを一時停止できます。

必要な PTZ 優先度がある場合は、システムパトロールをまたは他のユーザーが開始した手動パトロールを一時停止できます。自分の手動パトロールはいつでも一時停止できます。これは、カメラを制御するのにタイムアウトを長くする必要がある場合に有効です。

デフォルトではパトロールは 10 分間一時停止しますが、システム管理者がこの値を変更している場合があります。

1. ビューで、パトロールを一時停止する PTZ カメラを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ アイコン  をクリックし、PTZ メニューを開きます。

3. **【パトロールの一時停止】**をクリックします。



パトロールの一時停止中は、すべてのユーザーの**【パトロールの一時停止】**メニュー項目の前にチェックマーク  が表示されます。自分の PTZ アイコンが緑色になり、他のすべてのユーザーの PTZ アイコンは赤色になります。このように、他のユーザーは別のユーザーがカメラを制御していることがわかります。

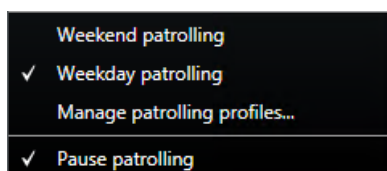
カメラを定義済みの PTZ プリセット位置まで移動するか、手動で移動した場合は、パトロールの一時停止によりタイムアウトがリセットされます。手動パトロール設定を選択すると、パトロールの一時停止セッションが失われます。

4. 一時停止を解除するには、**【パトロールの一時停止】**をもう一度選択します。

前のパトロールが再開されるか、他のユーザーがカメラを使用できるようになります。

自分よりも低い PTZ 優先度のユーザーが平日などの手動パトロールを開始した場合は、それを一時停止し、カメラを制御できます。

1. **【パトロールの一時停止】**をクリックします。



別のユーザーの手動パトロールを一時停止すると、すべてのユーザーの**【パトロールの一時停止】**メニュー項目とパトロール設定の前にチェックマーク  が表示されます。自分の PTZ アイコンが緑色になり、他のユーザーの PTZ アイコンは赤色になります。このように、他のユーザーは別のユーザーがカメラを制御していることがわかります。

2. 一時停止を解除するには、**【パトロールの一時停止】**をもう一度選択します。

手動パトロールが再開されます（この例では平日）。

予約済み PTZ セッション(解説済み)

監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照 』によっては、PTZ セッションを予約できます。

予約された PTZ セッションを実行するセキュリティ権限を持つ管理者は、このモードで PTZ カメラを実行できます。これにより、他のユーザーはカメラを制御できなくなります。予約済み PTZ セッションでは、標準 PTZ 優先度システムが無視され、より高い PTZ 優先度のユーザーがセッションを中断しないようになります。

XProtect Smart Client と Management Client の両方から予約済み PTZ セッションでカメラを操作できます。

PTZ セッションの予約は、他のユーザーによって中断されずに、PTZ カメラまたはプリセットで緊急の更新またはメンテナンスを行う必要がある場合に有効です。

自分よりも高い優先度のユーザーがカメラを制御している場合や、別のユーザーが既にカメラを予約している場合は、予約済み PTZ セッションを開始できません。

PTZ セッションの予約

PTZ セッションを予約するには：

1. **【ライブ】**タブで、目的のビューアイテムを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ アイコンをクリックし、PTZ メニューを開きます。
3. **【PTZ セッションの予約】**を選択します。手動パトロールを開始した場合は、自動的に停止します。

PTZ カメラが予約され、タイマーがセッションの残り時間を示します。

完了したら必ずセッションをリリースしてください。現在のセッションがタイムアウトするまで、PTZ カメラは予約された状態になります。

PTZ セッションのリリース

PTZ カメラの制御が完了したら、PTZ セッションを手動でリリースできます。これで、より低い優先度の他のユーザーがカメラを制御したり、システムが定期パトロールを再開できます。リリースしない場合、セッションがタイムアウトするまでカメラを使用できません。

1. 制御している PTZ カメラのカメラツールバーで、PTZ アイコンをクリックして、PTZ メニューを開きます。（緑色は現在自分が PTZ セッションを実行していることを示します。）
2. メニューで**【PTZ セッションのリリース】**を選択します。

PTZ セッションがリリースされ、他のユーザーまたはシステムパトロールが使用できます。PTZ アイコンは灰色に変わります。

手動での出力のアクティブ化

照明の点灯やサイレンの始動など、監視システムで外部出力が定義されている場合は、**ライブ**タブからこれらの外部出力をアクティブ化できます。ユーザー権限によっては、出力の開始が制限される場合があることに注意してください。

手動で出力を開始するには、2つの方法があります。出力ペインを使用するか、使用可能である場合、オーバーレイボタンを使用します(オーバーレイボタンが使用可能である場合は、ビューの上にマウスを移動させると表示されます)。

- **ライブ**の出力ペインで、必要な出力を選択してから、**アクティブ化**をクリックします。一部の監視システムでは、選択可能な出力のリストはサーバー別にグループ化され、その他のシステムでは、カメラ別に

グループ化されます。サーバーが赤色のアイコンで表示されている場合は使用することができず、その場合、そのサーバーでは出力をアクティブ化できません。

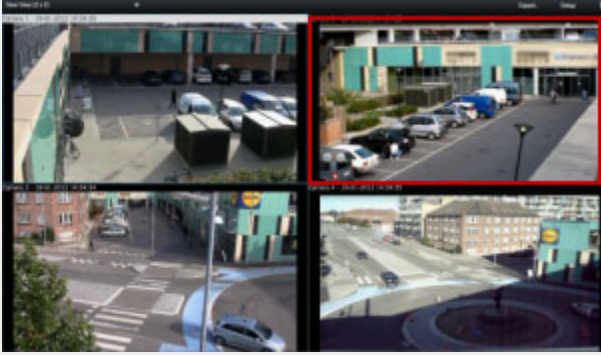
アクティブ化が失敗すると、メッセージが表示されます。

監視と通信

ワンルームの店舗か大規模な産業施設を警備しているかどうかに関係なく、XProtect システムでは、環境内で発生している事象を常に監視できます。このセクションのトピックでは、XProtect Smart Client のコンテンツを表示して操作する方法について説明します。

ビュー（説明付き）

XProtect Smart Client は、**ライブ**と**再生**モードで異なる機能を表示することができます。この設定を始める前に、あなたの条件に合致するワーキングエリアを生成するために設定できる内容や、閲覧できる対象を示す用語を知っておくと便利です。

	ビュー コンテンツを表示する地理的レイアウトのことを、ビューと呼びます。 表示したい内容により、ビューには、100 台以上のカメラからのコンテンツ、ウェブページ、静止画像、テキストなどを含めることができます。 XProtect Smart Client が扱うことのできるビューの数は無制限で、様々なグループのコンテンツとその他のコンテンツ間を切り替えることができます。 各ビューのレイアウトは、コンテンツに合わせてカスタマイズすることができます。
	表示項目 図中の赤い四角は、このビューにある 4 つの表示項目のうちの 1 つを示しています。 ビューには、いくつもの表示項目、つまりあなたが追加するコンテンツを含むセルが含まれています。 コンテンツは、表示項目に個別に追加されます。

	ビュー コンテンツを表示する地理的レイアウトのことを、ビューと呼びます。 表示したい内容により、ビューには、100 台以上のカメラからのコンテンツ、ウェブページ、静止画像、テキストなどを含めることができます。 XProtect Smart Client が扱うことのできるビューの数は無制限で、様々なグループのコンテンツとその他のコンテンツ間を切り替えることができます。 各ビューのレイアウトは、コンテンツに合わせてカスタマイズすることができます。
• 配信映像（生のカメラまたは再生したビデオファイルからのもの） • アクセスモニター • カメラ ナビゲータ • 画面自動切替 • ホットスポット • HTML ページ • LPR（アドオン） • マップ • Matrix • Smart Wall(システムへのアドオンである場合があります) • テキスト • Transact（アドオン）	コンテンツ 希望のレイアウトのビューを設定したら、機能やコンテンツを表示項目に追加することができます。 XProtect Smart Client の左柄のペインから関連するコンテンツをドラッグして、表示項目にコンテンツを追加します。

概要の維持がしやすいように、全てのビューは、グループと呼ばれるフォルダに保管されています。1つのグループには、無制限の数のビューと、必要に応じてサブグループを含めることができます。ビューには、個人ビューと他のユーザーとの共有ビューがあります。

ビューに関する情報を含めたユーザー設定は、監視システムサーバーの中心に保管されているので、XProtect Smart Client をインストールしているパソコンなら、プライベートでも共有でもビューを使うことができます。ただし、自分のユーザー名とパスワードでログインした場合に限ります。

ビューの作成および管理

ビューを作成するには、特定のユーザー権限が必要です。

セットアップモードでは、グループやビューを作成し、どのカメラがそれぞれのビューに含まれるかを指定することができます。第 1 階層フォルダの背景が赤色であれば、保護されていることを意味します。



保護されている第 1 階層フォルダでビューにアクセスすることはできますが、新しいビューを作成したり、既存のビューを編集することはできません。

ビューとグループを編集できるかどうかは、割り当てられたユーザー権限によって異なります。基本的に、ビューまたはグループを作成できる場合は編集する権限もあります。詳しくは、監視システム管理者にお問い合わせください。

ビューを作成するには、まず追加先のグループがなければなりません。既存のグループ内に新しいビューを作成するか、ビューのための新しいグループを作成することができます。第 1 階層の共有フォルダの下にビューを作成するには、まずその共有フォルダでグループを作成する必要があります。

1 つのグループで作成できるビューの数に制限はありません。必要に応じて、任意の数のサブグループも作成できます。

個人ビューと共有ビューの作成

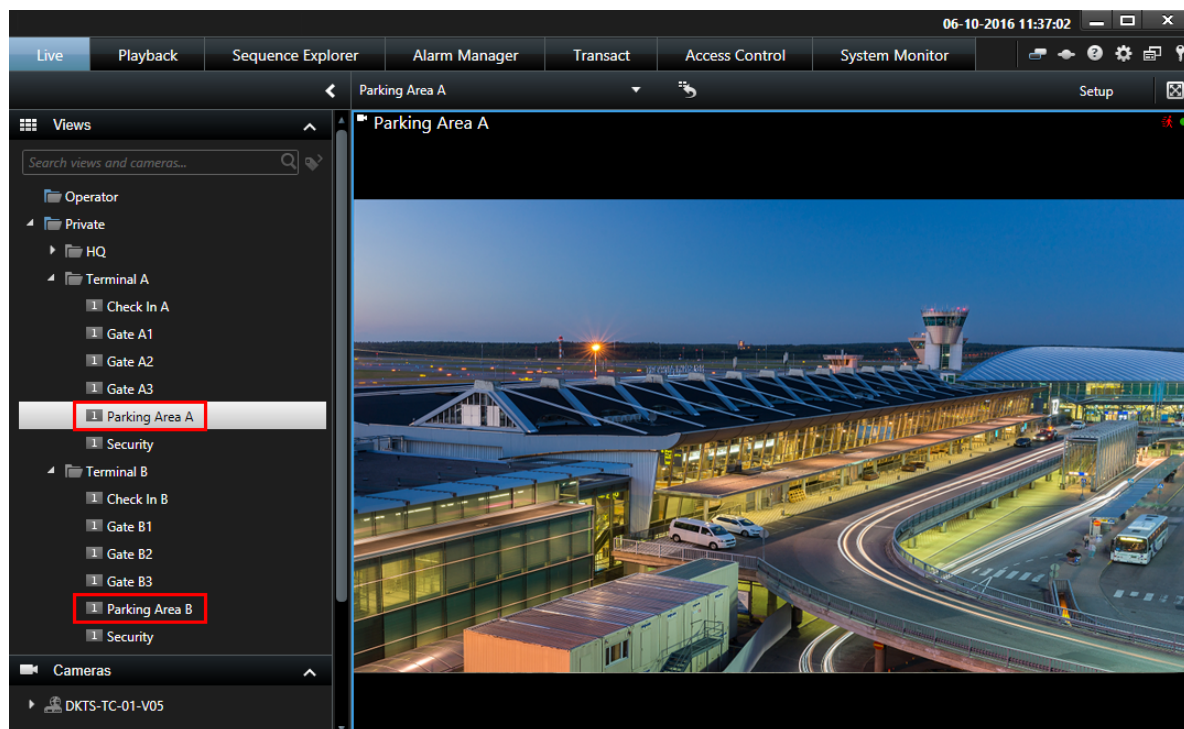
ビューには、個人ビューと共有ビューがあります。

- **個人ビュー**は、そのビューを作成したユーザーだけがアクセスできます。
- **共有ビュー**は、同じビューを多数の XProtect Smart Client ユーザーと共有できます。共有するには、すべてのビューを監視システムサーバーに保存しておく必要があります。使用している監視システムの種類 『13 ページ の"監視システムの別の特徴"参照』によって、共有ビューをすべての XProtect Smart Client ユーザーで共有できる場合と、特定の XProtect Smart Client ユーザーが選択された共有ビューにアクセスできる場合があります。

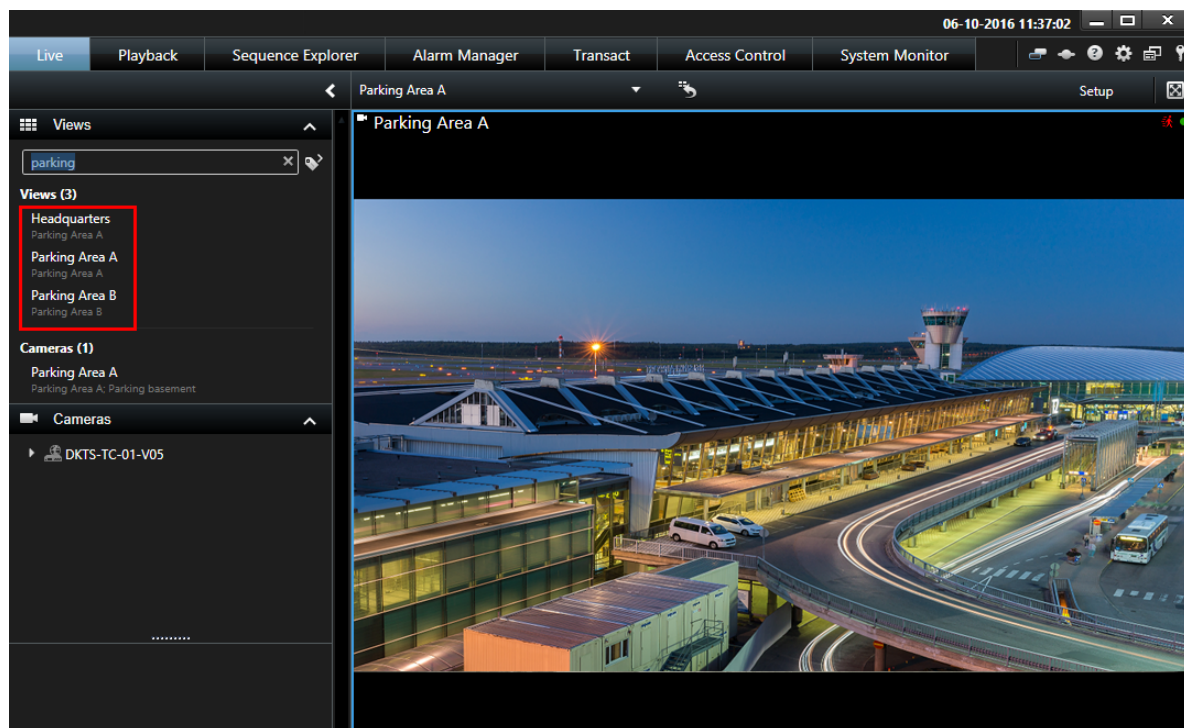
通常、組織内で、共有ビューを作成して編集できる権限を持つユーザーは限られています。たとえば、ユーザーが独自のビューを作成する必要がないよう、監視システム管理者は多数の共有ビューを作成して保持します。

ビューおよびビューのグループ

ビューのグループのより大きい、あるいはより複雑な階層構造があると、検索機能はナビゲーションを容易にするだけでありません。既存の構造にわたる検索機能も追加されています。この機能がどのように機能するかは、組織がビューやカメラに対してよく検討されて一貫性のある名前付け規則を持つかどうかによります。



下の例は、関連するビューの概要が必要な場合に、複雑な階層構造をナビゲートする代わりに検索のメリットを示しています。



特定のカメラまたはビュー項目のタイプを含んでいるビューを検索することができます。たとえば、PTZ カメラ、特定のメーカーのカメラを含んでいるすべてのビュー、あるいはこれらのビュー項目タイプを含んでいるビューなどを表示したい場合：

- マップ
- アラーム
- Matrix
- HTML
- ビューでのカメラの名前

最後に、キーワードを検索することもできます。

ビューグループの作成

1. 設定モードのビューペインで、グループを追加する**個人**または**共有**の第 1 階層フォルダを選択します。
2. **グループの新規作成**をクリックします。



新グループという名前の新しいグループが作成されます。

3. 選択して、**新グループ**をクリックして、名前を上書きします。
4. これで、このグループ内でビューを作成できるようになりました。

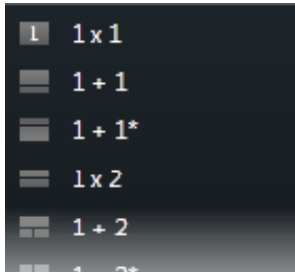
ビューの作成

すべてのユーザーが監視システムのすべてのカメラへアクセスできるわけではないので、共有ビューに含める機能のうち、一部の機能は旧バージョンの XProtect Smart Client ではサポートされていない場合があります。したがって、共有するユーザーに必要な権限があり、同じバージョンの XProtect Smart Client を実行していることを必ず確認してください。XProtect Smart Client のバージョンを確認するには、XProtect Smart Client ウィンドウの右上隅の ⓘ をクリックします。

1. 設定モードのビューペインで、ビューを作成するグループを選択します。
2. **新規ビューを作成**ボタンをクリックします。



3. 新しいビューのレイアウトを選択します。1つのビューでは、最高で100個(10×10)のカメラを表示するレイアウトを選択できます。使用可能なレイアウトは縦横比(高さとの関係、4:3または16:9)、通常のコンテンツまたは縦長のコンテンツ(高さが幅より大きい場合)に対して最適化されているかどうかに基づいてグループ化されます。



4. デフォルトの新しいビューの名前を上書きして、ビューの名前を入力します。

ビューやグループをコピー、名前変更、または削除する

重要: ビューは、同一のセッション内でコピーできます。ビューを XProtect Smart Client から別のクライアントへコピーすることはできません。

ビューがあり、それを再利用する場合、コピーすることができます。また、ビューのグループや個人ビューを共有ビューにコピーすることもできます。

1. 設定モードのナビゲーションペインで、ビューを選択します。
2. コピーをクリックします。



あるいは、CTRL+C を押します。

3. ビューをコピーする場所に移動して、貼り付けを選択します。



あるいは、CTRL+V を押します。

ヒント: 代わりに、ビューを選択して、別のフォルダへドラッグすることも可能です。

4. コピーしたビューの名前は、デフォルトで、元の名前に (2) が付きます。名前を変更するには、名前の変更をクリックします。



あるいは、右クリックして、名前変更を選択します。

- ビューを削除するには、関連するビューを選択し、削除をクリックするか、



右クリックして、削除を選択します。

重要：グループを削除すると、そのグループ内のすべてのビューとサブグループも削除されます。

ビューへショートカット番号を割り当てる

設定モードで、ビューにショートカット番号を割り当てて、ユーザーが標準のキーボードショートカット 『62ページ の"キーボードのショートカット"参照 』を使用してビューを選択できるようにすることが可能です。

1. 設定モードで、**ビュー**で、ショートカットを割り当てたいビューを選択します。
2. **ショートカット**フィールドに指定するショートカット番号を入力し、**ENTER** キーを押します。指定されたショートカット番号が、ビューの名前の前に括弧付きで表示されます。
3. 必要に応じて、他のビューにも同じ操作を繰り返します。

プライバシーマスク

プライバシーマスクは、選択した監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照 』でのみ使用できます。

プライバシーマスクを使用して、録画されたビデオの機密情報を保護するには、カメラの視野の特定の領域を遮断します。たとえば、個人の住宅の窓がカメラに写っている場合は、プライバシーマスクをウィンドウに適用できます。

次の例では、プライバシーマスクが隣接する建物の 5 つの窓に適用されています。



プライバシーマスクはシステム管理者によってカメラに適用されます。XProtect Smart Client のビューではマスクの追加または削除はできません。ただし、ビデオをエクスポート 『172ページ の"XProtect フォーマットの設定"参照 』するときには、プライバシーマスクを追加できます。詳細については、「エクスポート中に録画の領域をマスクする 『177ページ 』」を参照してください。

注意：プライバシーマスクを含むビデオをエクスポートすると、特に XProtect フォーマットでエクスポートする場合に、エクスポートプロセスにかかる時間がかなり長くなり、エクスポートファイルのサイズが大きくなる場合があります。

ビューにコンテンツを追加する

ビューおよびカメラの検索

ビューおよびカメラに関する検索機能で、使用可能なビューおよびカメラを直接検索できます。名前での検索だけでなく、説明、タイプ、キーワードによる検索も可能です。

検索フィールドの横にある  をクリックすると、共通キーワードの概要を検索できます。

入力中に、ビューやカメラの一致結果を表示できます。

カメラの検索

ライブおよび再生モードでカメラを検索すると、選択したカメラの量に最適化された一時的ビューでカメラを表示できます。

単一のカメラをクリックして **1:1** ビューで表示したり、カメラの結果の見出しをクリックして、検出されたカメラをすべて(あるいは最初の **25**)表示することもできます。また、**1** つまたは複数のカメラをクリックしながら、**CTRL** または **Shift** を押すと、手動でカメラを選択することもできます。**Enter** を押して、カメラを表示します。

一時的ビューに基づいて新しいビューを作成することはできません。

以下のカメラの特性を検索することができます：

- 名前
- 説明
- 機能：
 - PTZ
 - 音声
 - 入力
 - 出力
- 特定のカメラを含んでいるビュー
- レコーディングサーバーの名前またはアドレス(接続されているカメラの表示)

ヒント：システム管理者は、監視サーバーのカメラの説明フィールドに自由なテキストタグを追加して、カメラのグループ化やこうしたタグの検索を可能にすることができます。例としては、説明フィールドに「アウトドア」というタグを使用するすべてのアウトドアカメラなどがあります。こうした場合、このタイプのカメラがすべて簡単に検索できます。

ビューにカメラを追加する

1. 設定モードで、カメラを追加するビューを選択します。
2. **概要**ペインで、該当するサーバー  を展開して、そのサーバーで使用できるカメラを一覧表示します。

多くの場合、一つのサーバーしか表示されませんが、大規模な監視システムと接続されている場合は、複数のサーバーの階層構造が表示されます。サーバーが赤色のアイコンで表示されている場合は、利用できず、そのサーバーのカメラからは表示できません。

3. リストからカメラを選択し、ビューで追加する位置までドラッグします。接続が確立されていれば、カメラからの画像が選択した位置に表示されます。接続が確立されていなければ、カメラの名前だけが表示されます。画像の一部が黒く表示されるのは、プライバシーマスク 『84ページ』が使用されているからです。

プロパティペインで、カメラのプロパティ(画質やフレームレートなど)を指定できます 『101ページ の"カメラ設定"参照』。ビューで使用するすべてのカメラについて同様に設定します。

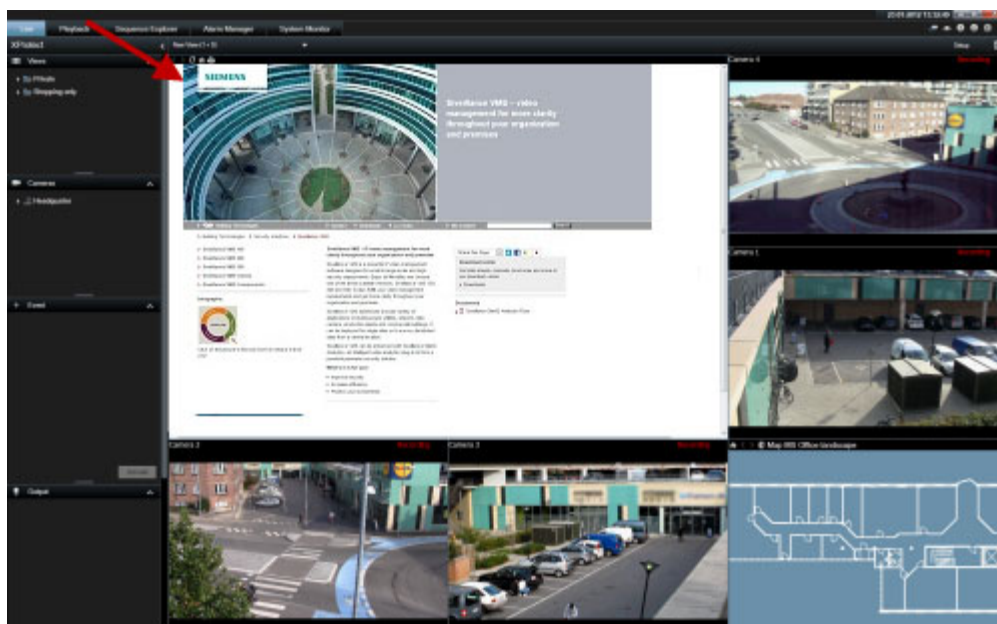
複数のカメラを一度にビューに追加する場合は(たとえば、サーバーのカメラフォルダにあるすべてのカメラ)、フォルダをビューにドラッグするだけです。この場合、選択した位置から自動的にすべてのカメラがビューに追加されます。すべてを表示するのに十分な数の位置がビューにあることを確認してください。

別のカメラを位置にドラッグすることで、使用するビューに含まれるカメラを簡単に変更できます。

ビューまたは Smart Wall に HTML ページを追加する

※本機は、Smart Wall には対応していません。

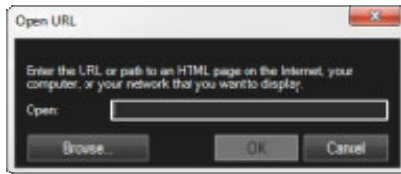
ビューおよび Smart Wall には HTML ページを追加できます。たとえば、これは、企業の Web ページ、インターネット地図サービス、リンクのコレクション、E ラーニングページなどで手順を表示する場合に有用です。



例：ビューに挿入された会社のホームページ

1. セットアップモードで、システム概要ペインで、ビューへ **HTML ページ**のアイテムをクリックして、ドラッグします。

2. **URL を開く** ウィンドウが開きます。



3. **URL を開く** ウィンドウの**開く**フィールドに、表示する HTML ページの場所を入力します（例：
http://www.mywebsite.com/mywebpage.htm）。

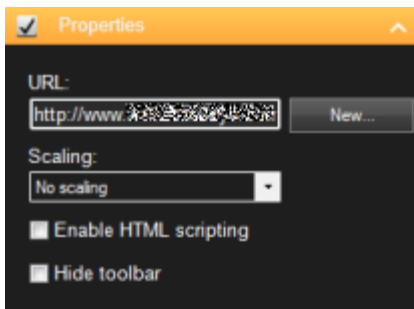
- または -

HTML ページが使用しているコンピュータにローカルに保存されている場合は、コンピュータ上のその場所を指定するか(例：C:\¥myfiles¥mywebpage.htm)、または**参照...**をクリックして、必要な HTML ページを参照します。

4. **[OK]**をクリックします。

ビューに HTML ページを追加した後に、ページのプロパティを指定できます。

1. セットアップモードで、ビューへインポートした HTML ページを選択します。**プロパティ**ペインで、必要なプロパティを変更します。



- **URL** : **新規**をクリックして、新しい URL または HTML ページの場所を指定します。
- **スケーリング** : HTML ページのスケーリングを選択します。最適なスケーリングは、インポートされた HTML ページのコンテンツとその表示法によってまったく異なります。

原則として、1280×1024 のような高スケーリング値の場合は HTML ページのテキストが比較的小さく表示され、スクロールしなくても多くのコンテンツを見ることができます。反対に、320×200 のような低スケーリング値では、HTML ページのテキストが比較的大きく表示されるため、スクロールせずに表示できるコンテンツ量が比較的に少なくなります。

- **HTML スクリプトを有効化** : この機能は、HTML ページが XProtect Smart Client 内でナビゲートしたり機能をトリガするためにカスタマイズされている HTML ページである場合にのみ、使用してください(HTML ページを使ってナビゲートする『92ページ の"HTML ページを使ったナビゲーション"参照』にあるカスタム HTML ページの例を参照)。

この機能を選択すると、XProtect Smart Client 内でのナビゲーションや多数の機能のコントロールに必要なクライアントスクリプトが、HTML ページに追加されます。このような目的に使用しない HTML ページの場合は、クライアントスクリプトを使用できないだけでなく、HTML ページが正しく動作しない場合があります。

- **ツールバーを隠す**：デフォルトで、インポートされた各 HTML ページに、単純なナビゲーションバーが挿入されます。ナビゲーションバーには、以下の 5 つのボタンがあります。巻き戻し、早送り、更新、ホーム、印刷。



ナビゲーションバーが必要ない場合は、**ツールバーを隠す**を使って非表示にできます。

インポートした HTML ページにリンクが含まれている場合は、それらのリンクに `target='blank'` 属性を含めることをお勧めします(例：`<a href="otherwebpage.htm" target="blank">Link</a>`)。これにより、リンクをクリックすると新しいウィンドウで開くようになり、XProtect Smart Client と同じブラウザウィンドウにリンク先の Web ページが表示されて現在の XProtect Smart Client のビューが失われることはありません。

Smart Wall に HTML ページを表示する

※本機は、Smart Wall には対応していません。

XProtect Smart Wall を使用している場合は、HTML ページを表示できます。

1. ビューに HTML ページを追加する手順に従います。
2. **【詳細】**、**【Smart Wall に送信】**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

Smart Wall に画像を表示する

※本機は、Smart Wall には対応していません。

Smart Wall には静的な画像を表示できます。たとえば、不審者のスナップショットまたは緊急避難用出口の図を共有する場合に有効です。

画像ファイルのネットワークロケーションにアクセスできないユーザーまたは Smart Wall と画像を共有している場合は、**【プロパティ】**の**【埋め込む】**をクリックして、画像を埋め込むことができます。画像を埋め込むと、Smart Client に保存され、元のファイルの場所への接続は削除されます。埋め込まれた画像を Smart Wall から削除するか置換して、再表示する場合は、もう一度 Smart Wall に画像ファイルを追加する必要があります。

ヒント：フロアプランまたはマップを共有する場合は、マップ機能『114ページ の"マップ"参照』の使用を検討してください。マップ機能は、特定の監視システム『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』でのみ使用できます。

このトピックの手順は、Smart Wall 概要が既にビューに追加されていることを前提としています。詳細については、「Smart Wall の操作を開始する『188ページ』」を参照してください。

Smart Wall で画像を表示するには、次の手順に従います。

1. コンピュータで、画像ファイルの場所に移動します。
2. Smart Client のナビゲーションペインで、Smart Wall 概要を含むビューを選択します。
3. 画像を表示する概要のタイルまで画像ファイルをドラッグします。

注意：画像を Smart Wall 概要までドラッグすると、画像が自動的に埋め込まれ、[プロパティ]ペインは使用できません。

複数の Smart Wall で画像を表示するには、次の手順に従います。

1. Smart Wall 概要を含むビューを選択し、**【設定】**をクリックします。
2. システム概要ペインで、ビューの特定の位置まで**画像**項目をドラッグします。

3. 追加する画像ファイルを選択し、**【開く】**をクリックします。

注意：ビューに画像を追加すると、位置に合わせて、画像のサイズが変更されます。これにより、画像がゆがむ場合があります。ゆがみを回避するには、画像の**【プロパティ】**ペインで、**【画像のアスペクト比を維持】**チェックボックスを選択します。

4. **【プロパティ】**ペインで**【埋め込む】**をクリックします。
5. **【詳細】**、**【Smart Wall に送信】**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。この手順を繰り返し、各 Smart Wall に画像を送信します。

スナップショットを作成し、Smart Wall に表示します。

※本機は、Smart Wall には対応していません。

次の方法で、インシデントのスナップショットを共有できます。

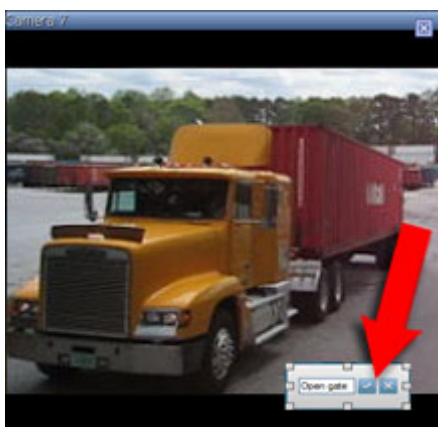
1. **【ライブ】**または**【再生】**タブで、映像を表示するビューアイテムの上にマウスカースルを置きます。
2. ビューアイテムツールバーで、**スナップショットの作成アイコン**  をクリックします。画像は、**【アプリケーションオプション】**『42ページ の"アプリケーション設定"参照 』で指定された場所に保存されます。
3. スナップショットを表示するには、Smart Wall 概要でフォルダからタイルにスナップショットをドラッグします。

ビューにオーバーレイボタンを追加する

ライブタブのビュー内の個別のカメラ位置にマウスを移動させた時に表示されるオーバーレイボタンで、スピーカー、イベント、出力などをアクティブ化することができます。

必要な数のボタンを追加できます。

1. セットアップモードで、**オーバーレイボタン**ペインで、アクションを選択してカメラ位置にドラッグします。
2. マウスを離すと、オーバーレイボタンが表示されます。ボタンのサイズを変更する場合は、表示されるハンドルをドラッグします。



3. オーバーレイボタンのテキストを変更する場合は、テキストをダブルクリックしてから、チェックマークボタンをクリックして保存します。元に戻すには、キャンセルボタンをクリックします。保存するときには、テキストはボタンで最大限のサイズになります。

ビューアイテムまたは Smart Wall へのテキストの追加

※本機は、Smart Wall には対応していません。

ビューの位置にテキストを追加できます。たとえば、メッセージまたは手順をオペレータに送信したり、セキュリティ担当者の作業スケジュールを投稿する場合に有効です。最大 1000 文字まで使用できます。

ビューアイテムにテキストを追加するには、次の手順に従います。

1. **【設定】**をクリックします。
2. **【システム概要】**ペインで、テキストコンテンツをビューにドラッグします。
3. **【テキストエディタ】**ウィンドウでは次の操作ができます。
 - 表示するテキストを入力する
 - **【貼り付け】**を右クリックして選択し、Microsoft Word や WordPad などの外部テキストエディタからコピーしたテキストを貼り付ける。
 - フォントタイプ、サイズ、色などの基本書式設定をテキストに適用する。
4. テキストを保存し、表示するには、**【保存】**をクリックします。保存した後にテキストを変更する場合は、**【編集】**をクリックして、**【プロパティ】**ペインからもう一度テキストエディタを開くことができます。

注意：

[テキストエディタ]ウィンドウのサイズを変更すると、テキストのサイズが変わります。表示されるときには、ビューアイテムに追加されたコンテンツのサイズがビューに合わせて変更されます。

Microsoft Word や Microsoft Excel などの製品から表を挿入することはできますが、表の変更はできません。たとえば、行のサイズ変更、行の追加と削除はできません。また、XProtect Smart Client の暗いテーマと明るいテーマに対応するために、明るいテキストまたは暗いテキストの色が変更されます。テキストが表示されない場合は、テキストに別の色を適用してください。

Smart Wall でのテキストの表示

※本機は、Smart Wall には対応していません。

XProtect Smart Wall アドオンを使用している場合は、ビデオウォールでテキストを表示することもできます。たとえば、ビデオウォールを表示できるユーザー全員に情報を提供する場合に有効です。テキストを共有する最適な方法は、1 つの Smart Wall にテキストを表示するか、複数の Smart Wall に送信するかによって異なります。

注意：テキストを Smart Wall に表示するときには、元のテキストのみが表示されます。つまり、ビューのテキストを編集する場合は、Smart Wall に変更が表示されません。

複数の Smart Wall でテキストを表示するには、次の手順に従います。

1. ビューアイテムにテキストを追加するトピックで説明している手順を実行します。
2. 保存した後に、**【詳細】**、**【Smart Wall へ送信する】**をクリックし、Smart Wall 設定を選択し、モニターを選択してから、モニターの位置を選択します。この手順を繰り返し、各 Smart Wall にテキストを送信します。

1 つの Smart Wall でテキストを表示するには、次の手順に従います。

注意：この手順では、テキストエディタがドラッグアンドドロップ操作をサポートする必要があります。サポートされていない場合は、このセクションの前の手順でテキストを **Smart Wall** に送信してください。

1. XProtect Smart Client のナビゲーションペインで、**Smart Wall** 概要を含むビューを選択します。
2. テキストエディタで、表示するテキストを入力し、選択します。テキストが既に存在する場合は、選択します。
3. テキストを表示する概要のタイルまでテキストをドラッグします。
4. テキストエディタで、テキストを確認し、必要に応じて変更を行います。
5. テキストを保存し、表示するには、**【保存】**をクリックします。保存した後にテキストを変更する場合は、**【編集】**をクリックして、**【プロパティ】**ペインからもう一度テキストエディタを開くことができます。

ビュー間でビデオを送信する

フロートウィンドウやセカンダリディスプレイ内のビューを含め、1 つのビュー内で、選択したカメラ位置から別のカメラ位置にビデオを送信できます。この機能は、ホットスポット 『98ページ』、自動切替 『97ページ』の"画面自動切替参照』、または **Matrix** 『144ページ』位置では使用できません。

- カメラのツールバーで、**詳細 > カメラを送る**をクリックし、送信先のビューの位置を選択してから、そのカメラのビデオを再生する位置を選択します。

カメラ位置の一部が選択できない場合、それらの位置は使用不能であるか、ホットスポット、画面自動切替、**Matrix** のコンテンツが使用している可能性があります。

また、ビデオのコンテンツを個別のウィンドウ 『145ページ』の"マルチウィンドウ"参照』またはディスプレイに送ることもできます。

ビューのカメラを変更

ビューに表示されるカメラを一時的に変更することができます。ただし、この機能はカメラの一時的な切り替えを目的としており、ビューを恒久的に変更するものではありません。元のビューを復元するには、ワークスペースツールバーのビューの読み込みボタンをクリックします。  ビューの内容を恒久的に変更 『85ページ』の"ビューにカメラを追加する"参照』するには、設定モードに入る必要があります。

ビューがホットスポット 『98ページ』、自動切替 『97ページ』の"画面自動切替"参照』、または **Matrix** 『144ページ』コンテンツを含む場合は、カメラを変更できません。**カメラ**ペインから使用した場合、この機能は **Smart Wall** 『186ページ』の"XProtect Smart Wall"参照』位置でも機能します。

この方法は、カメラを **Smart Wall** の位置にドラッグする代わりに使用できますが、**ライブタブ**で使用された場合にのみ有効です。

1. 関連するカメラをビューで選択します。
2. **カメラ**ペインで、関連するカメラをビューの位置へドラッグします。

あるいは、カメラのツールバーで、**詳細 > カメラ**をクリックして、関連するサーバーとカメラを選択します。

元のカメラが、右クリックサブメニューの一番上に(デフォルト)と名前が表示されます。これにより、元のビューにすばやく戻すことができます。

カメラペインで、カメラのリストはサーバー別にグループ化されます。サーバーが赤いアイコンで表示されている場合は利用できません。この場合、そのサーバーからのカメラは選択できません。

ヒント：カメラのショートカット番号が定義されている場合は、キーボードショートカット『62ページの"キーボードのショートカット"参照』を使用してカメラを切り替えることができます。カメラのショートカット番号が割り当てられている場合は、カメラの名前の前に括弧付きで表示されます。

カメラの切り替え『92ページ』

カメラの切り替え

いずれかのカメラを別の位置にドラッグすることで、ビューの2つのカメラを一時的に切り替えることができます。その位置のカメラは、交換するカメラの場所と入れ替わります。あるカメラと、他のカメラを切り替えることだけができます。これは、最も重要なカメラすべてをビューの特定の位置に表示したい場合などに便利です。ビューを恒久的に変更するには、まず設定モードに入る必要があります。

- カメラを切り替えるには、該当するカメラのタイトルバーをクリックし、目的の位置にドラッグします。
- 元のビューを復元するには、ワークスペースツールバーのビューを読み込むボタンをクリックします。



ビューでカメラを切り替える『91ページの"ビューのカメラを変更"参照』

HTML ページを使ったナビゲーション

XProtect Smart Client では、ビデオだけでなく、静止画像や HTML ページも表示できます。このような HTML ページを使って、XProtect Smart Client のビューを直感的に切り替えることができます。

たとえば、クリックできる建物の見取り図を挿入すると、その見取り図の一部をクリックするだけでそのビルに必要な部分のビデオを表示するビューに簡単に切り替えることができます。

以下は、XProtect Smart Client ナビゲーションのための HTML ページの例です。ボタンの付いた単純な HTML ページと、クリック可能な画像マップ付きのより高度な HTML ページです。監視システムの管理者が XProtect Smart Client ユーザーに対してこのような HTML ページを作成して配信する際に実行しなければならない手順を説明したチェックリストも提供されています。

ヒント： XProtect Smart Client では、ナビゲーションやその他の機能を非常に柔軟にカスタマイズできます。上級ユーザーの場合、XProtect Smart Client で約 100 種類の関数呼び出しを作成できます。

ボタンを使った HTML ページのナビゲーション例

簡単な解決策として、ナビゲーションボタンのある HTML ページを作成する方法があります。HTML ページでは、さまざまなボタンを作成できます。この例では、2 種類のボタンを作成しています。

- XProtect Smart Client のビューを切り替えるボタン**

使用する HTML 構文：

```
<input type="button" value=" Buttontext"
onclick="SCS.Views.SelectView('Viewstatus.Groupname.Viewname') ;">
```

ここで、**Viewstatus** はビューが共有ビューか個人ビューかを示します（HTML ページを複数のユーザーへ配信する場合は、ビューが共有である必要があります）。

実際のボタン例：

```
<input type="button" value="Go to Shared Group1 View2"
onclick="SCS.Views.SelectView('Shared.Group1.View2') ;">
```

このボタンを使って、ユーザーは **Group1** という名前の共有グループにある **View2** というビューへ移動することができます。

- タブを切り替えるボタン：ライブおよび再生

ユーザー権限によって、この 3 つのタブすべてにアクセスできない場合があります。

使用する HTML 構文：

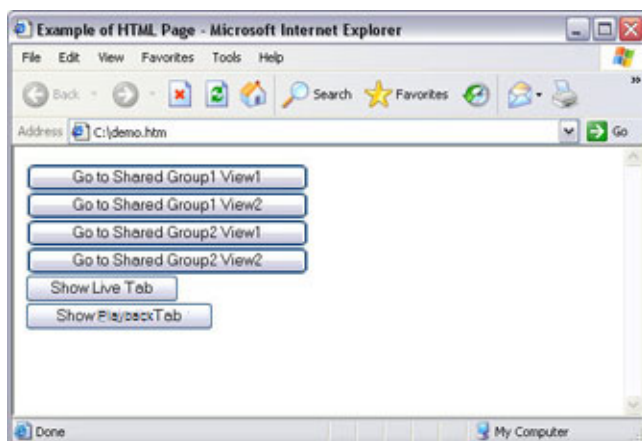
ライブタブ： `<input type="button" value="Buttontext" onclick="SCS.Application.ShowLive();">`

再生タブ： `<input type="button" value="Buttontext" onclick="SCS.Application.ShowPlayback();">`

ヒント： 上級ユーザーの場合、XProtect Smart Client で提供されているおよそ 100 種類の関数呼び出しを使って、他にも多くの種類のボタンを作成できます。詳細については、スクリプトを参照してください。

ここでは、XProtect Smart Client で 2 つの共有グループを作成します。この 2 つのグループを **Group1** と **Group2** とします。各グループには、**View1** と **View2** という 2 つのビューがあります。

4 つの異なるビューの間、XProtect Smart Client のライブタブと再生タブの 2 つのタブ間で切り替えられるボタンが付いた HTML ページも作成しました。ブラウザで開くと、作成した HTML ページは次のようになります。

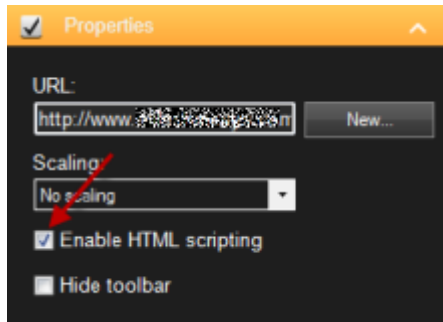


ビューとタブの間を移動するためのボタンが付いた HTML ページ

HTML ページをローカル（ここではユーザーの C ドライブ）に保存します。HTML ページを使ってナビゲートする場合、Internet Explorer のセキュリティ機能を有効にするため HTML ページをローカルに保存する必要があります。

HTML ページをローカルに保存する場合、一意のパスを定義できる場所へ保存します。たとえば、ユーザーの C: ドライブにあるフォルダ（例：C:\myfolder\file.htm）などです。ユーザーのデスクトップや **My Documents** フォルダなどに HTML ページを保存すると、これらの場所に Windows がパスを構築する方法が原因で、HTML ページが正しく動作しない場合があります。

次に、必要な XProtect Smart Client ビューへ HTML ページをインポートします。HTML ページをインポートする際、設定モードで、HTML ページのプロパティで **HTML スクリプトを有効化**が選択されていることを確認します。

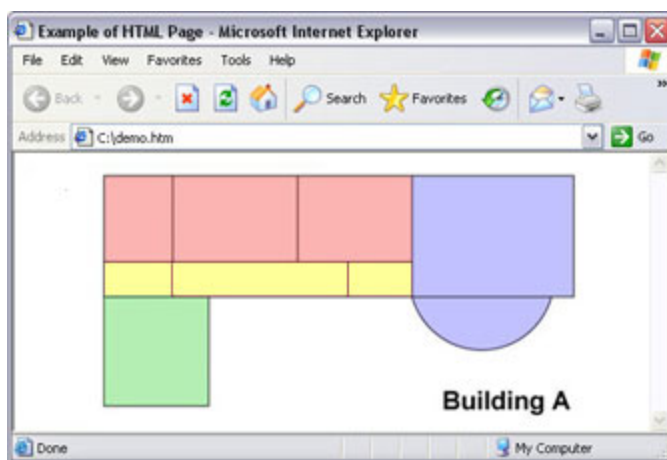


HTML スクリプトを有効化を選択すると、ボタンの動作に必要なスクリプトが自動的に HTML ページへ挿入されます。

画像マップ付きの HTML ページのナビゲーション例

ビューを切り替えるためのイメージマップなど、より高度なコンテンツを含む HTML ページを作成することもできます。

次の例では、前述の例で使用した 2 つのグループと 2 つのビューを使用します。ボタンを使用する代わりに、間取り図の画像のある HTML ページを作成し、その間取り図に基づいてイメージマップを作成します。ブラウザで開くと、作成した HTML ページは次のようになります。



ビューをナビゲートするためのイメージマップを含む HTML ページ

この例では、間取り図を 4 つに色分けし、それぞれのゾーンにイメージマップエリアを定義しています。ゾーンをクリックするだけで、そのゾーンのカメラが表示されたビューへ移動することができます。

たとえば、このイメージマップの赤いゾーンは、前述の例の共有 **Group2** の **View2** へ移動ボタンに該当します。この赤いゾーンをクリックすると、ユーザーは **Group2** の **View2** へ移動します。

HTML ページのインポート

ナビゲーション HTML ページのビューへのインポートは、他の種類の HTML ページの XProtect Smart Client にあるビューへのインポートと基本的に同じです。インポートする際に重要な点は次の 2 つです。

- HTML ページは使用している PC にローカルに保存する必要があります

- インポートする際に、HTML のスクリプトが HTML ページで有効になっていることを確認してください。

HTML ページをインポートするには：

1. 設定モードで、**システム概要**ペインで、必要なビューの位置へ **HTML ページ**のアイテムをドラッグします。
2. **URL を開く**ウィンドウで、HTML ページを指定します。
3. ビューで位置を選択し、**プロパティ**ペインで、**HTML スクリプトの有効化**を選択します。

HTML スクリプトの有効化を選択すると、ボタンやその他のナビゲーション機能が動作するために必要なスクリプトが自動的に HTML ページへ挿入されます。

4. HTML ページへ挿入したナビゲーション機能によっては、ナビゲーションを完全に機能させるために HTML ページを複数のビューへインポートしなければならない場合があります。

システム管理者のためのチェックリスト

監視システムの管理者がナビゲーション HTML ページを作成して XProtect Smart Client ユーザーへ配信するには、次の手順を実行してください。

1. 必要な HTML ページを作成します。HTML ページに含まれているナビゲーションコントロールは、XProtect Smart Client でユーザーに表示されるビューと一致している必要があります。たとえば、**View1** につながるボタンを作動させるには、**View1** と呼ばれるビューがユーザーの XProtect Smart Client にある必要があります。ユーザーのグループに HTML ページを配布する場合は、HTML ページによって使用されるビューが共有グループに配置されている必要があります。
2. HTML ページを使用するコンピュータに、HTML ページをローカルに**保存**します。HTML ページをローカルに保存する場合、一意のパスを定義できる場所へ保存します。たとえば、ユーザーの **C:** ドライブにあるフォルダ（例：C:\¥ myfolder¥file.htm）などです。ユーザーのデスクトップや **My Documents** フォルダなどに HTML ページを保存すると、これらの場所に Windows がパスを構築する方法が原因で、HTML ページが正しく動作しない場合があります。
3. HTML ページを、それが使用される XProtect Smart Client ビューへ**インポート**します。HTML ページをインポートし、ビューでそのポジションを選択したら、**設定**タブの**プロパティ**ペインで **HTML スクリプトの有効化**が選択されていることを確認します。
4. インポートされた HTML ページのナビゲーションコントロールが正しく動作するかどうか**テスト**します。
5. 組織のニーズに合ったシンプルで直感的な XProtect Smart Client ナビゲーションが作成できます。

トラブルシューティング

HTML ページのナビゲーションコントロールが正しく動作しない場合は、次の点を確認してください。

- HTML で正しい構文が使用されているか。
- HTML ページをインポートしてから、**HTML スクリプトの有効化**を選択したか。
- 対象ユーザーに、HTML ナビゲーションページを使用できる権限があるか。ユーザー権限によって、XProtect Smart Client の特定のカメラやビュー、機能、タブなどにアクセスできない場合があります。

よくある質問：ビュー

ビューを設定せずにすぐにビデオを再生することはできますか？

可能です。多くの XProtect Smart Client ユーザーが、まずビューを設定することなく、XProtect Smart Client ですぐにビデオを再生することができます。

個人ビュー： 特定の種類の監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照 』（主として数台のカメラが付いた小規模の監視システム）に接続されている場合、監視システムサーバーは、システムのすべてのカメラを使用して、単一のプライベートビューを自動的に生成できます。そのようなビューは**デフォルトビュー**と呼ばれます。デフォルトビューへのアクセス権がある場合、XProtect Smart Client に初めてログインしたときにデフォルトビューが自動的に表示されるため、ビデオの再生をすぐに XProtect Smart Client で開始できます。

共有ビュー： 共有ビューは、監視システムの管理者または同僚によって、すでに作成されていることがあります。共有ビューがすでに存在し、共有ビューおよび、それに含まれているカメラへのアクセス権がある場合は、XProtect Smart Client でビデオの再生をすぐに開始できます。

ビューを再作成する必要がある理由は何ですか？

監視システムの管理者が、監視システム側でカメラやユーザープロパティを変更する場合があります。こうした変更が XProtect Smart Client で有効になるのは、変更後に初めてログインしたときであり、ビューを作り直すなければならないことがあります。

個人ビューや共有できる共有ビューを作成できないと、何が起きますか？

通常、組織内で、共有ビューを作成して編集できる権限を持つユーザーは限られています。監視システムの管理者は、共有ビューを多数作成して保持できます。ユーザーがログインすると、共有ビューが自動的に使用可能になり、それ以上ビューを作成する必要はありません。

どのビューにアクセスできるか確認する方法は？

通常、ユーザーが共有ビューへアクセスできるかどうかは監視システムの管理者によって通知されます。まだ通知されていない場合でも、共有ビューが使用できる場合は、簡単に確認できます。

ライブまたは**再生**タブのビューペインには必ず個人フォルダという名前の第1階層フォルダが表示されています。この個人フォルダはプライベートビューへアクセスするための第1階層フォルダであり、内容は作成したビューによって(作成した場合)異なります。

ビューペインにある他の第1階層フォルダは、共有ビューへアクセスするためのフォルダです。これらの第1階層フォルダの名前は、設定によって異なります。

ビューペインに共有ビューへアクセスするための第1階層フォルダが1つまたは複数あっても、実際にそれらの共有ビューを見ることができるとは限りません。第1階層フォルダの下にある共有ビューへアクセスできるかどうか確認するには、フォルダを展開します。

どのビューを編集できるか確認する方法は？

フォルダに錠前アイコンが付いている場合は、保護されているため、新しいビューを作成したり、既存のビューを編集することはできません。

ビューを別のコンピュータで表示できますか？

ビューに関する情報を含むユーザー設定は、監視システムサーバー上で中央管理されています。これは、ユーザー名とパスワードを使って XProtect Smart Client へログインすれば、個人ビューと共有ビューのどちらも XProtect Smart Client がインストールされているコンピュータで使用できることを意味しています。

アクションを実行する権限を持っていない場合でも、そのアクションに対するオーバーレイボタンを追加できますか？

可能です。これによって、ボタンを共有ビューで表示することが可能になり、自分は使用する権限がなくても、必要な権限を持っている同僚はボタンを使用できます。

権限を持っていないアクションのボタンを追加すると、設定モードではボタンは灰色表示され、**ライブ**タブを使用する場合は表示されません。必要な権限を持っている同僚は、**ライブ**タブのボタンを使用できます。

オーバーレイボタンを追加した後に、自分の権限を変更するとどうなりますか？

権限を変更すると、ボタンをどのように使用できるかが変わり、アクションに対する権限があるかないかによって、灰色表示されるか、使用可能になります。たとえば、自分自身が実行する権限を持っていないアクションのボタンを追加した後、必要な権限を持てるようにユーザー権限が変更されると、ボタンも使用可能に変わります。

オーバーレイボタンはどうやって削除できますか？

設定モードで、ボタンを右クリックして、**削除**を選択します。

オーバーレイボタンは、エクスポートしたビデオでも表示されますか？

いいえ。ビデオをエクスポート『27ページ の"上級版ワークスペースを使う"参照』する場合、オーバーレイボタンはエクスポートには含まれません。

画面自動切替

画面自動切替（説明付き）

画面自動切替を使用すると、ビューの**1**つの位置で複数のカメラからのビデオを次々に再生することができます。画面自動切替に含めるカメラと、カメラ間で切り替える間隔を指定できます。画面自動切替はツールバーの画面自動切替アイコンとともに表示されます：.

魚眼レンズカメラは画面自動切替には含められません。

画面自動切替位置をダブルクリックすると、画面自動切替を最大化できます。この場合、選択している画質の設定に関係なく、自動切替に含まれているカメラのビデオは、デフォルトで最高の画質で表示されます。この自動切替のデフォルト設定を上書きすることはできません。

画面自動切替ツールバーの上にマウスを置くと、現在の画面自動切替の画像のコピーをクリップボードにコピーできる画面自動切替ボタンにアクセスすることができます。また、スナップショットを作成したり、画面自動切替を一時停止または再生したり、あるいはカメラシーケンスの前後に移動できます。



カメラがサポートしている場合は、画面自動切替でデジタルズームと PTZ コントロールを使用できます。表示される PTZ 『67ページ の"PTZ 画像"参照』またはデジタルズームを使用すると、画面自動切替が自動的に一時停止します。

ビューまたは Smart Wall に画面自動切替を追加する

※本機は、Smart Wall には対応していません。

1. セットアップモードの**システム概要**ペインで、ビュー内の位置へ**画面自動切替**のアイテムをクリックして、ドラッグします。
2. **画面自動切替設定**ウィンドウの左側で、サーバーをクリックして展開してから、自動切替に含めるカメラを選択します。追加をクリックします。画面自動切替に含める各カメラについて、同じ操作を繰り返します。

サーバーが赤いアイコンで表示されている場合は使用できない状態であり、この場合そのサーバーのカメラは一覧表示できません。

3. 画面自動切替でカメラが表示される順序を指定するには、**選択したカメラ**のリストで、カメラを選択して、上下に移動させます。

4. 各カメラが画面自動切替に表示される秒数を入力します。すべてのカメラで同じ値を指定するか、カメラごとに異なる値を指定することができます。
5. **[OK]**をクリックして画面自動切替設定ウィンドウを閉じます。

画面自動切替の設定を変更するには、**[設定]**をクリックし、**[プロパティ]**ペインで**[画面自動切替設定]**をクリックして、**[画面自動切替設定]**ウィンドウを開きます。

Smart Wall で画面自動切替を表示する

※本機は、Smart Wall には対応していません。

XProtect Smart Wall を使用している場合は、画面自動切替を表示できます。

1. ビューに画面自動切替を追加する手順に従います。
2. **[詳細]**、**[Smart Wall に送信]**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント: ビューに Smart Wall 概要が含まれている場合は、画面自動切替を概要のタイルまでドラッグできます。

自動切替設定

プロパティ 『**101** ページ の**"カメラ設定"参照**』ペインで、画面自動切替の設定を指定できます。ライブストリーム、画質、フレームレート、および**画像の縦横比を維持**などの設定が、画面自動切替のすべてのカメラに適用されます。

ホットスポット

ホットスポット（説明付き）

ホットスポットでは、ビューの専用の位置で選択したカメラからの拡大表示/高画質ビデオを表示できます。ホットスポットは、ビューの通常位置にあるカメラで低画質や低フレームレートを使用でき、ホットスポットで高画質や高フレームレートを使用できるので便利です。これによって、リモート接続の帯域幅を節減できます。

以下の 2 種類のホットスポットがあります。

- グローバルホットスポット。カメラがメインウィンドウかセカンダリディスプレイかに関係なく、選択されたカメラを表示します。
- ローカルホットスポット。ローカルディスプレイの選択されたカメラのみを表示します。

1+7 ビュー内の大きなカメラ位置などビュー内の広い方の位置にホットスポットを配置することをお勧めします: .

ビュー内の位置にホットスポットがあると、以下のようになります。

- ビュー内のカメラをクリックすると、ホットスポットの位置がカメラからのフィードで更新されます。
- タイトルバーにはホットスポットアイコンが表示されます。 .

ライブビデオまたは録画ビデオを再生している場合、ホットスポット(またはビュー内の他のカメラの位置)をダブルクリックして最大化できます。この場合、選択している画質に関係なく、ホットスポットのビデオが最高の

画質で表示されます。最大化した場合でも、選択している画質が適用されることを確認するには、**設定モードのプロパティペインで、最大画面で画質を保持**を選択します。

ビューまたは **Smart Wall** にホットスポットを追加する

※本機は、**Smart Wall** には対応していません。

1. セットアップモードの**システム概要**ペインで、ビュー内の位置へ**ホットスポット**のアイテムをクリックして、ドラッグします。

ヒント：位置には**ホットスポット**アイコンが表示され（）、**ホットスポット**であることを示します。

2. **プロパティ**ペインで、**ホットスポット**のプロパティ 『99ページ の"**ホットスポット設定**"参照』を指定します。**ホットスポット**には高画質を指定し、ビューの他の位置には低画質を指定して、帯域幅を節約することができます。

Smart Wall にホットスポットを追加する

※本機は、**Smart Wall** には対応していません。

XProtect **Smart Wall** を使用している場合は、**ホットスポット**を表示できます。

1. ビューに**ホットスポット**を追加する手順に従います。
2. **[詳細]**、**[Smart Wall へ送信する]**をクリックし、**Smart Wall** 設定を選択し、モニターを選択してから、モニターの位置を選択します。

ヒント：ビューに **Smart Wall** 概要が含まれている場合は、**ホットスポット**を概要のタイルまでドラッグできます。

ホットスポット設定

プロパティ 『101ページ の"**カメラ設定**"参照』ペインで、**ホットスポット**の設定を指定できます。**ライブストリーム**、**画質**、**フレームレート**、および**画像の縦横比を維持**などの設定が、**ホットスポット**のすべての**カメラ**に適用されます。

カメラ

以下の機能の一部は、特定の監視システム 『13ページ の"**監視システムの別の特徴**"参照』でしか使用できません。

ビューに**カメラ**を追加する

1. 設定モードで、**カメラ**を追加するビューを選択します。
2. **概要**ペインで、該当するサーバーを展開して、そのサーバーで使用できる**カメラ**を一覧表示します。

多くの場合、一つのサーバーしか表示されませんが、大規模な監視システムと接続されている場合は、複数のサーバーの階層構造が表示されます。サーバーが赤色のアイコンで表示されている場合は、利用できず、そのサーバーの**カメラ**からは表示できません。

3. リストから**カメラ**を選択し、ビューで追加する位置までドラッグします。

接続が確立されていれば、そのカメラの映像が選択した位置に表示されます。接続が確立されていなければ、カメラの名前だけが表示されます。

ヒント：画像の一部が黒く表示されるのは、プライバシーマスク 『84ページ』が使用されているからです。

プロパティペインで、カメラのプロパティ(画質やフレームレートなど)を指定できます 『101ページ の"カメラ設定"参照』。

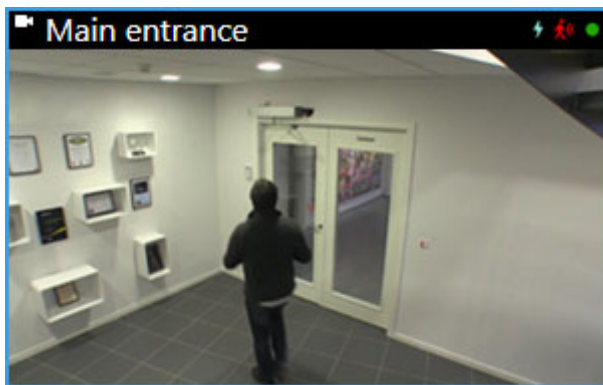
ビューで使用するすべてのカメラについて同様に設定します。

ヒント：複数のカメラを一度にビューに追加するには、(たとえば、サーバーのカメラフォルダにあるすべてのカメラ)、フォルダをビューにドラッグするだけです。この場合、選択した位置から自動的にすべてのカメラがビューに追加されます。すべてを表示するのに十分な数の位置がビューにあることを確認してください。

ヒント：別のカメラを位置にドラッグすることで、使用するビューに含まれるカメラを簡単に変更できます。

カメラ名と色のインジケータ

デフォルトでは、カメラのタイトルバーにカメラの名前が表示されます。セットアップモードで、[プロパティ] ペイン 『101ページ の"カメラ設定"参照』 の[ライブ]タブでこれを変更できます。



円形のビデオインジケータは、カメラのタイトルバーの右上端に配置されます。このインジケータの色が変わり、ビューアイテムのビデオの現在のステータスを示します。次の一覧は、異なる色について説明します。

- 緑 - カメラへの接続が確立されています。
- 赤 - カメラからのビデオが録画されています。
- 黄 - 録画したビデオを再生します。
- 灰色 - 2 秒よりも長くビデオが変更されていません。

モーションが検出されたときには、モーションインジケータ  が表示されます。画像の内側をクリックすると、モーションインジケータがリセットされます。このインジケータは、モーションが何も検知されていない場合は表示されません。

特定のイベントが発生すると、イベントインジケータ  が表示されます。これは監視システム管理者によって定義されます。画像の内側をクリックすると、イベントインジケータがリセットされます。このインジケータは、カメラに対してイベント通知が指定されていない場合や、指定されたイベントが発生していない場合は、表示されません。

注意：この機能は、特定の監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』でのみ使用可能であり、イベントの通知がサーバーで設定されている必要があります。

ヒント：イベントおよびモーションインジケータは、音声による通知 『106ページ の"音による通知"参照 』と組み合わせることができます。

カメラへのサーバー接続が失われた場合は、カメラ接続インジケータが表示されます。一日のうち特定の時間だけ使用できるよう設定されていたり、カメラやネットワークがメンテナンス中であつたり、監視システムサーバーで設定が変更された場合など、さまざまな理由でカメラが動作しない場合があります。

仮想ジョイスティックおよび PTZ オーバーレイボタン

ビューに魚眼カメラや魚眼レンズや PTZ デバイス 『66ページ の"PTZ および魚眼レンズ画像"参照 』が含まれている場合、矢印マウスポインタ(仮想ジョイスティック)または画像の内側に表示される PTZ ナビゲーションボタンをクリックして、画像をナビゲートすることができます。



仮想ジョイスティック



PTZ オーバーレイ

ヒント：マウスをビューへ移動させた時にカメラのツールバーをポップアップ表示させたくない場合は、CTRL キーを押したまま、マウスを動かします。

カメラ設定

プロパティペインの**設定**モードで、選択したカメラのプロパティを表示、編集することができます（ビューで、選択したカメラは太い枠線で示されます）。

名前	説明
カメラ名	選択したカメラの名前を表示します。 カメラを変更するには、省略記号ボタンをクリックしてカメラの選択ダイアログを開き、別のカメラを選択します。カメラのみを変更し、設定は保持する場合、この方法が便利です。
ライブストリーム	使用可能である場合は、ビューに表示するライブストリームを選択します。サーバーで複数のストリームが設定されている場合、デフォルトまたは使用可能なストリームオプションのいずれかを使用できます。デフォルト以外のオプションを選択する場合、画質またはフレームレート設定を変更できません。

名前	説明
画質	再生されるビデオ画質だけでなく、帯域幅の使用にも影響します。XProtect Smart Client をインターネットや低速ネットワーク接続で使用しているか、その他の理由で帯域幅の使用を制限しなければならない場合、低または中を選択してサーバー側で画質を低くすることができます。 低画質を選択した場合、選択されたカメラのビデオは監視システムサーバー上で JPEG フォーマットへ再エンコードされてから、XProtect Smart Client へ送信されます。再エンコードには、次のような種類があります。 フル：デフォルトの設定で、元のビデオと同じ完全な画質です。 高詳細（メガピクセル用）：640 ピクセル(VGA)、25%の JPEG 画質レベルの出力幅に再エンコードされます。 高：320 ピクセル(QVGA)、25%の JPEG 画質レベルの出力幅に再エンコードされます。 中：200 ピクセル、25%の JPEG 画質レベルの出力幅に再エンコードされます。 低：160 ピクセル、20%の JPEG 画質レベルの出力幅に再エンコードされます。 高さは、元のビデオの幅と縦横比に合わせて縮尺されます。 ここで選択した画質は、ライブビデオだけでなく録画されたビデオにも適用され、JPEG だけでなく MPEG にも適用されます。ただし、ライブビデオを見ている場合はキーフレームだけが再エンコードされ、録画済みのビデオを見ている場合はすべてのフレームが再エンコードされます。 使用する帯域幅を制限するために低めの画質を使用している場合、画像を再エンコードする必要があるため、監視システムサーバーでより多くのリソースを使用します。 ヒント：ビューにあるカメラの帯域幅使用レベルをすばやく低減させるには、1つのカメラの画質を低くしてからすべての適用ボタンをクリックします。
最大画面で画質を保持	ライブビデオまたは録画ビデオを再生している場合、特定のビュー内の他のカメラの位置をダブルクリックして最大化できます。この場合、選択している画質の設定に関係なく、デフォルトでカメラのビデオが最高の画質で表示されます。 選択した画質設定が拡大表示中にも適用されるようにするには、画質設定のすぐ下にある最大画面で画質を保持ボックスをオンにしてください。
フレームレート	選択したカメラのフレームレートを選択できます。無制限（デフォルト）、中、または低のいずれかを選択してください。選択するフレームレートと監視システムの設定方法の組み合わせ『105ページ の"フレームレート効果（説明付き）"参照』により、ビデオの画質が異なります。
PTZ クリックモード	使用している PTZ カメラに対するデフォルトの PTZ クリックモードを選択します。オプションは、クリックして中央揃えまたは仮想ジョイスティックです。個々のカメラで異なるデフォルト PTZ クリックモードを選択すると、個々のカメラの設定を上書きできます。

名前	説明
魚眼スプリットモード	選択したカメラが魚眼カメラの場合にのみ使用できます。魚眼パノラマ画像を作成、表示できる魚眼レンズテクノロジーです。XProtect Smart Client は、1 台の魚眼レンズカメラからの最高 4 つの異なるビューポイントに対応しています。魚眼分割モードのリストを使って、使用する分割モードを選択します： 分割なしではビューポイントが 1 つ表示されます。 2 つずつでは、同時に 4 つの異なるビューポイントを表示します。 XProtect Smart Client のタブのいずれで表示しても、魚眼レンズカメラは同じ画像の 1 つまたは 4 つのビューポイントで、指定された通りに表示されます。 ヒント：魚眼レンズカメラから異なるビューポイントを表示している場合、各ビューポイントの内側をクリックするか、カメラツールバーの PTZ プリセット メニューを使用して、各ビューポイントを個別にナビゲートできます。
画像の縦横比を維持	選択すると、カメラポジションのサイズに合わせてビデオが引き伸ばされることはありません。ビデオは録画された時の縦横比（高さとの関係）で表示されます。 この場合、カメラによっては、画像の周囲に縦または横向きの黒いバーが表示されることがあります。 このチェックボックスをオフにすると、ビデオはビューの位置に合わせて縮尺されるため若干歪む場合がありますが、ビデオのまわりに黒い棒は表示されません。
モーションで更新	このオプションを選択すると、モーションを検知したときのみ、選択されたカメラのビデオが XProtect Smart Client のライブタブで更新されます。カメラのモーション検知感度（監視システムサーバーで設定）によっては、CPU の使用量を大幅に減らすことができます。 モーションを感知したときだけビデオを更新するように設定すると、モーションが感知されるまで、カメラのビューの位置に静止画像と一緒に「モーションなし」というメッセージが表示されます。静止画像は灰色でオーバーレイされるので、どのカメラで動きがないかが簡単に識別できます。
モーション検知で音を鳴らす	カメラからのビデオをライブタブで表示している場合、モーションを検知した際に音で通知を受けることができます。 カメラのビデオが実際に XProtect Smart Client に表示されている場合のみ、音の通知が機能します。そのため、該当するカメラを含むウィンドウを最小化していると、音の通知は機能しません。同様に、あるカメラを最大化しており、そのカメラだけが表示されている場合、他のカメラの音の通知は鳴りません。 常にオフ：モーションを検知しても音声による通知を使用しません。 常にオン：カメラがモーションを検知するたびに音声による通知を実行します。

名前	説明
イベント発生時に音を鳴らす	この機能は、特定の監視システムでのみ使用できます。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の XProtect 製品比較表を参照してください。 http://www.milestonesys.com. この機能を使用するには、イベント通知が監視システムサーバーで設定されていなければなりません。 カメラのビデオが実際に XProtect Smart Client に表示されている場合のみ、音の通知が機能します。そのため、該当するカメラを含むウィンドウを最小化していると、音の通知は機能しません。同様に、あるカメラを最大化しており、そのカメラだけが表示されている場合、他のカメラの音の通知は鳴りません。 カメラからのビデオをライブタブで再生している場合、選択したカメラに関連するイベントが発生したときに、音で通知を受けることができます。 常にオフ：カメラに関連するイベントが発生しても音声による通知を実行しません。 常にオン：カメラに関連するイベントが発生するたびに音声による通知を実行します。
表示設定	デフォルトの表示設定を使用する：オプションダイアログで定義されるように、デフォルトの設定を使用して、選択したカメラのタイトルバーやビデオインジケータを表示します。選択したカメラをデフォルトの設定以外で動作させたい場合は、チェックボックスをオフにして、希望するタイトルバーおよび/またはビデオインジケータを選択します。 タイトルバーの表示：各カメラ位置の最上部にタイトルバーが表示されます。タイトルバーにより、ユーザーはカメラを簡単に識別できます。ライブタブに表示されるタイトルバーには、さらに、検知したモーションやイベント、カメラが録画しているかなどについての情報が表示されます。カメラ名と色のインジケータ 『100ページ』を参照してください。 注：タイトルバーを表示しないことを選択した場合は、モーションやイベントの視覚的インジケータは表示されません。代わりに、音声による通知を使用できます。 境界のボックスレイヤーを表示する：個々のカメラで、境界のボックスを表示します。境界ボックスプロバイダー 『106ページ』の"境界ボックスプロバイダー（説明付き）"参照』ダイアログボックスを開いて、カメラにデータを提供するメタデータデバイスを指定します。

名前	説明
ビデオバッファリング	プロパティペインのこの部分は表示されません。表示するには、オプションウィンドウの『42ページの"設定ウィンドウ（説明付き）"参照』関数タブに移動して、設定 > ライブビデオバッファリングの編集が利用可能に設定されていることを確認します。 ライブビデオをジッターなく滑らかに表示するためのビデオバッファを構築できます。 可能であれば、ビデオバッファリングの使用は避けてください。ビデオバッファリングによって、ビューに表示されるそれぞれのカメラのメモリ使用を大幅に増加できます。ビデオバッファを使用しない場合は、バッファリングレベルをできるだけ低く保ってください。 ライブビデオをバッファに保存すると、ジッターなく滑らかに表示されますが、バッファを構築することでライブビデオの再生にわずかな遅延が生じます。多くの場合、この遅延は、ビデオで人を見るには問題になりません。ただし、カメラがパン/チルト/ズーム（PTZ）カメラであり、ジョイスティックを使用してカメラを操作している場合は遅延していることが明らかになります。 ビデオバッファリングの量を制御できるため、ライブビデオを滑らかに再生することを優先するか（バッファが必要で、わずかな遅延が生じます）、即時 PTZ およびジョイスティック操作を優先するか（バッファを必要としませんが、バッファを使用しないためにライブビデオにわずかにジッターが生じることがあります）を選択できます。 ビデオバッファリングを使用する場合、デフォルトのビデオバッファを使用を選択し、次に必要なバッファをなしから最大 2 フレームから 2 秒の間で選択します。
すべてに適用	すべてに適用ボタンを使って、選択したカメラに対する設定内容をビューにあるすべてのカメラに対して簡単に適用できます。

フレームレート効果（説明付き）

フレームレートの選択の効果は以下の通りです：

効果	無制限	中	ロー
JPEG	すべてのフレームを送信	4 フレームおきに送信	20 フレームおきに送信
MPEG/ H.264/H.265	すべてのフレームを送信	主要フレームのみを送信	主要フレームのみを送信

例：

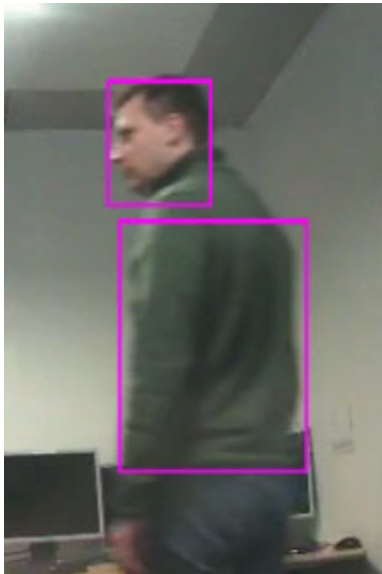
で[フレームレート]オプションを[低]XProtect Smart Client に設定しており、システムの管理者がカメラが 1 秒あたり 20 フレームのフレームレートで JPEG 画像をフィードするよう設定した場合、ホットスポットでカメラからのビデオを再生すると 1 秒あたり平均 1 フレームで再生されます。次に、システムの管理者がフィードを 1 秒あたり 4 フレームと低い値に設定すると、カメラからのビデオを再生すると 1 秒あたり平均 0.2 フレームで再生されます。

境界ボックスプロバイダー（説明付き）

境界ボックスレイヤーを表示するが選択されている必要があります。ダイアログボックスで、このカメラからのビデオで境界ボックスのデータを提供するメタデータデバイスを有効にします。システム管理者によって定義されたデバイスのリストです。

境界ボックス

境界ボックスとは、たとえばカメラの画像にある対象物を囲む長方形の境界です。XProtect Smart Client では、境界ボックスはビデオにピンク色の境界で表示されます。



カメラのプロパティの**表示設定**で、個々のカメラの境界ボックスを表示/非表示にすることができます。

境界ボックスが画面に表示されている場合は、ビデオを XProtect フォーマットでエクスポート 『172ページ の "XProtect フォーマットの設定"参照 』したり、静止画像を印刷 『183ページ の"証拠を印刷する"参照 』する場合にも表示されます。

オーバーレイボタン

ビューのカメラ位置にオーバーレイボタンを追加し、補助コマンド（カメラが定義するコマンド）をトリガーできます。オーバーレイボタンは、監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照 』によって異なる場合があります。補助コマンドはカメラごとに異なります。詳細については、カメラのマニュアルをご覧ください。

音による通知

使用している XProtect Smart Client で、次の状態が発生すると音声による通知を受信するよう設定されている場合があります。

- 1 台または複数の指定されたカメラでモーションが検知された場合
 - および/または -
- 1 台または複数の指定されたカメラに関連するイベント 『170ページ の"イベント"参照 』が発生した場合

音声による通知が聞こえたら、特別な注意が必要です。組織内で、音声による通知が使用されているかどうか、またその使用法については、監視システムの管理者までお問い合わせください。

特定のカメラからの音声による通知を一時的に消音することができます：カメラのツールバーで、**詳細 > 音声による通知 > 消音**の順にクリックします。

XProtect Smart Client ウィンドウを最小化すると、音声による通知は無効になります。

カメラからの音声による通知を有効に戻すには、再度**詳細 > 音声による通知 > 消音**とクリックします。

音声による通知を消音する機能は、ホットスポット 『98ページ』、自動切替 『97ページ』の"画面自動切替"参照』、または Matrix 『144ページ』位置では使用できません。

よくある質問：カメラ

音声による通知は頻繁に実行されますか？

常にオンを選択している場合、モーションを感知したことを知らせる音声通知は、そのカメラに対して設定されているモーション検知の感度によって頻度を設定できます。モーション検知の感度を高に設定すると、非常に頻繁に通知を受けることもあります。カメラのモーション検知感度は監視システムサーバーで設定します。複数のカメラに対して音声による通知を設定すると、より頻繁に通知を受ける可能性があります、これもカメラに設定されている感度によって異なります。

ジッターとは何ですか？

ジッターは、ビデオにおける小さな変動であり、見ている人は、たとえば、歩行中の人物などの異常な動きとして認識します。

イベントとは何ですか？

イベントは、監視システム上で発生する、あらかじめ定義されたインシデントです。監視システムの設定によっては、カメラに接続された外部センサーからの入力、モーションの検知、あるいは他のアプリケーションから受け取ったデータによってイベントが発生します。また、ユーザーの入力を通じて手動でイベントを発生させることも可能です。イベントは、**アクション**をトリガするために監視システムによって使用されます。通常、監視システム上の大部分のイベントは自動的に生成されます。たとえば、検知されたモーションをイベントとして定義し、録画などのアクションをトリガできます。

通知音を変更することはできますか？

デフォルトでは、XProtect Smart Client は音声による通知に単純なサウンドファイルを使用しています。このサウンドファイルの名前は **Notification.wav** で、XProtect Smart Client のインストールフォルダ（通常は **C:\Program Files\Milestone\XProtect Smart Client**）にあります。別の.wav ファイルを通知音として使用する場合は、そのファイルの名前を **Notification.wav** に変更して、XProtect Smart Client のインストールフォルダにある元のファイルと置き換えてください。**Notification.wav** ファイルは、モーション検知の通知以外のイベントでも使用されます。カメラによって音を変えたり、イベントとモーション検知の通知に異なる音を使用することはできません。

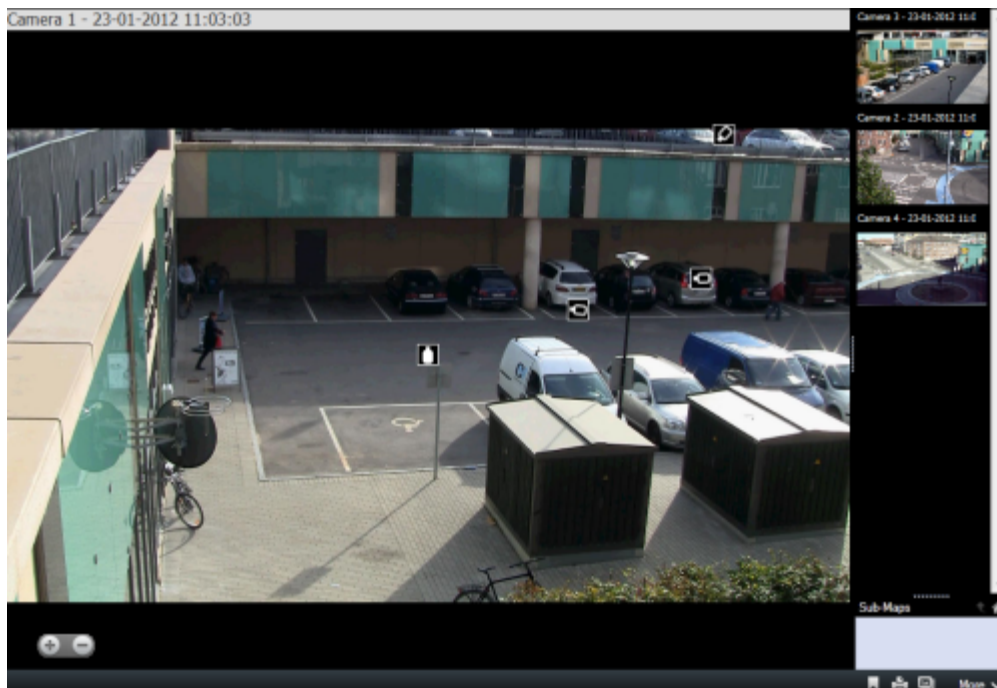
カメラナビゲータ

この機能は選択した監視システムでのみ使用できます。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の XProtect 製品比較表を参照してください。 <http://www.milestonesys.com>。

カメラナビゲータ（説明付き）

カメラナビゲータにより、たとえば、間取り図に基づいて配置されているかなど、複数のカメラの相対関係を表示して確認することができます。この機能は、1つのカメラから別のカメラに移動して対象（人、物）を追跡する

場合、たとえば、容疑者の建物の周囲での動きを追跡するなどの場合に便利です。地図または間取り図に従ってカメラを設定することで、1つのビューから1つのカメラから次のカメラに移動できます。



ライブおよび**再生**タブでは、カメラナビゲータ ビューで現在のカメラからのビデオを再生すると同時に、右側のペイン上で近接性に従って並び替えられて、近隣にあるすべてのカメラのサムネイルビューが表示されます。他のカメラをポイントすると、メインビューまたは右側のペインにカメラが赤い枠で囲まれて表示されます。カメラアイコンを直接クリックするか、右側のペインをクリックして、カメラを切り替えることができます。

ホットゾーンを通して相互に関連付けられている複数のマップに基づいてビューを定義することで、1つの階から別の階へ移動したり、建物から出て行く人物を追跡する場合のように、あるマップ上のカメラから、サブマップ上の別のカメラへ動きを追跡することができます。**サブマップ**ペインからは、マップのホットゾーンを通して関連付けられているマップに設定されたカメラにアクセスできます。

1つのカメラから次のカメラをクリックすると、カメラプレビューペインの上の**ホーム**ボタンの隣に**戻る**ボタンが表示されます。これにより、前のカメラをクリックして選択したり、デフォルトのカメラビューに戻ることができます。また**サブマップ**ビューでは、**上**へをクリックして前のマップを表示したり、**ホーム**でデフォルトビューを表示できます。

注: カメラナビゲーターのツールバーにて、PTZ メニューから[PTZ パトロールの停止]を選択しても、PTZ パトロールの停止／再開ができない場合があります。この場合は、表示しているビューの“カメラナビゲーター以外の位置”に、PTZ パトロール動作を制御したいカメラを表示してください。

カメラナビゲータを使用する

カメラナビゲータを使用する前に、マップを設定し、そのマップにカメラを追加する必要があります。ビューにカメラナビゲータを追加 『110ページ の"ビューまたは Smart Wall にカメラナビゲータを追加する"参照』すると、プロパティを定義 『109ページ の"カメラナビゲータの設定"参照』して、カメラナビゲータでビューを表示する方法を定義できます。

既存のマップを追加するか、新しいマップを作成することができます。

1. セットアップモードで、**システム概要**ペインで、ビューの位置へ**マップ**のアイテムをドラッグします。
2. 表示される**マップ設定**ウィンドウで、**新規マップを作成**または**既存のマップ使用**のいずれかを選択します。
三角記号がマップ名の横に付いている場合は、マップに 1 つ以上のサブマップがある可能性があることを示します。含まれるサブマップと要素も追加されます。
3. **名前**フィールドにマップの名前を入力します。名前は、マップ位置のタイトルバーに表示されます。
ヒント：**名前**フィールドを空欄にし、**参照...**をクリックすると、**名前**フィールドには、選択した画像の名前が表示されます。
4. **参照...**をクリックして、マップとして使用する画像ファイルを参照します。
5. **開く**をクリックして、画像ファイルを選択します。
6. **[OK]**をクリックします。

Smart Wall でマップを表示する

※本機は、Smart Wall には対応していません。

XProtect Smart Wall を使用している場合は、マップを表示できます。

1. ビューにマップを追加する手順に従います。
2. **【詳細】**、**【Smart Wall に送信】**をクリックし、**Smart Wall** のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント: ビューに Smart Wall 概要が含まれている場合は、マップを概要のタイルまでドラッグできます。

カメラナビゲータの設定

プロパティ 『**101**ページ の"**カメラ設定**"参照』ペインで、カメラナビゲータの設定を指定できます。

名前	詳細
ホーム マップとカメラ	カメラナビゲータが使用するマップとデフォルトのカメラを表示します。 この設定を変更するには、  ボタンをクリックして、 ホームマップとカメラを選択する ウィンドウを開きます。
カメラインジケータの最大台数	メインビューに含めるカメラの最大台数を選択します。各カメラはカメラのアイコン  と共に表示されます。無制限の台数のカメラを表示することができます。
カメラインジケータの方向	カメラから見た実際の視点を反映して、カメラの位置や方向を表示する場合は、 選択したカメラと関連 を選択します。 あるいは、カメラの位置や方向に、常に上から見たマップのレイアウトを反映させる場合は、 マップに関連 を選択します。 現在選択されているカメラが常に中央に表示されます。

名前	詳細
プレビューカメラの最大台数	プレビューペインに表示するカメラの最大台数を選択します。画面に表示されるカメラのみがシステムリソースを使用します。表示できるカメラの最大台数は 20 台です。 プレビューするカメラの台数が増えるほど、より多くのシステムリソースが必要になります。

ビューまたは Smart Wall にカメラナビゲータを追加する

※本機は、Smart Wall には対応していません。

カメラナビゲータにより、1 つのビューの領域に対応するすべてのカメラを追加して、領域の完全な概要を設定できます。たとえば、建物周辺の誰かを追跡する場合に有用です。その人が移動すると、次のカメラに切り替えることができます。詳細については、カメラナビゲータ（説明付き）『107ページ』を参照してください。

カメラナビゲータをビューに追加するには、次の手順に従います。

1. **【設定】**をクリックします。

ヒント：カメラナビゲータを最大限に活用して、右側のペインにカメラビューを表示できるようにするには、1x1 ビューを選択してください。

2. システム概要ペインで、カメラナビゲータをビューにドラッグします。
3. ホームマップとカメラの選択ウィンドウで、ナビゲーションに使用するマップを選択します。
4. カメラナビゲータを開くたびに、デフォルトのカメラとして選択するカメラをクリックして、**OK** をクリックします。
5. **【設定】**をクリックし、セットアップモードを解除します。

Smart Wall でカメラナビゲータを表示する

※本機は、Smart Wall には対応していません。

XProtect Smart Wall を使用している場合は、カメラナビゲータを表示できます。

注：カメラナビゲータを Smart Wall に送信するときには、ナビゲータは元の設定のみを使用します。つまり、ビューの別のカメラを選択すると、Smart Wall は変更を表示しません。

1. ビューにカメラナビゲータを追加する手順に従います。
2. **【詳細】**、**【Smart Wall に送信】**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント：ビューに Smart Wall 概要が含まれている場合は、カメラナビゲータを概要のタイルまでドラッグできます。

音声設定

特定の音声機能に対するサポートはシステムによって異なります 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』。録音された音声や特定の録音された音声機能へのアクセスは、ユーザー権限に応じて制限されている場合があります。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

オーディオ（説明付き）

XProtect Smart Client は、入力音声と出力音声の両方に対応しています。カメラ付属のマイクからライブ録音を聞くことができるだけでなく、カメラに接続されたラウドスピーカーを通して話すことも可能です。録画済みのビデオを再生する場合、カメラにマイクおよび/またはスピーカーが付いていれば、対応する音声を聞くことができます。カメラまたはビューを選択すると、対応するマイクおよび/またはスピーカーもデフォルトで選択されます。

ヒント：ビューにマップが含まれている場合は、これらのマップにマイクやスピーカーが含まれることがあります。この場合、関連するマイクやスピーカーエレメントをクリックするだけで、音声を聞くことができます。クリックして、聞いたり話す間、マウスボタンを押したままにします。

音声設定

ヒント：現在表示しているビューやカメラと関係なく、録音した音声を聞くことができます。**再生**タブのナビゲーション機能で時間を指定して、どの録音音声を聞くか指定する必要があります。

名前	詳細
マイク	音声を聞くマイクを選択します。 マイクのリストにマイク（ハードウェア）なしと表示されている場合は、使用しているコンピュータに、監視システムからの音声を再生するために必要なハードウェアがインストールされていないことを意味します。通常、これは使用しているコンピュータに音声カードが搭載されていないことが原因です。リストにマイクソースなしと表示された場合は、カメラに付いているマイクが使用できないことを意味します。
消音	選択すると、マイクまたはスピーカーを消音します(スピーカーの消音は再生タブでのみ可能です)。
スピーカー	話すスピーカーを選択します。 スピーカーのリストにスピーカー（ハードウェア）なしと表示されている場合は、使用しているコンピュータに、監視システムからの音声を再生するために必要なハードウェアがインストールされていないことを意味します。通常、これは使用しているコンピュータに音声カードが搭載されていないことが原因です。リストにスピーカーソースなしと表示された場合は、カメラに付いているスピーカーが使用できないことを意味します。 監視システムで複数のカメラにスピーカーが付いており(それらにアクセスするために必要な権限がある場合)、スピーカーのリストですべてのスピーカーを選択すると、すべてのスピーカーを通して同時に話すことができます。
出力	クリックして、話す間だけマウスボタンを押したままにします。

名前	詳細
レベルメーター	レベルメーターは、話し手の音声のレベルを示します。レベルが非常に低い場合は、マイクにもっと近づくか、 Windows で音声設定を調整する必要があります。レベルメーターがまったくレベルを示さない場合は、マイクが接続され、正しく設定されていることを確認してください。
選択した音声デバイスへロック	カメラまたはビューを選択すると、対応するマイクおよび/またはスピーカーもデフォルトで選択されます。ただし、再生しているカメラに関わらず、特定のカメラの音声を聞きたい場合は、 選択した音声デバイスにロック を選択することができます。 例： 犯罪の被害者に対して、カメラ A に付いているマイクとスピーカーを通して話を聞き、話しかける必要があるにも関わらず、カメラ X 、カメラ Y 、およびカメラ Z を至急確認する必要があります。そして、これらのカメラの一部は別のビューの位置に表示されています。 選択した音声デバイスにロック を選択して、カメラ A で被害者と話をすると同時に別のカメラを見ることができます。
現在のビューのデバイスのみをリスト	使用している監視システムに多数のマイクやスピーカーがある場合、音声ペインで選択するマイクおよびスピーカーのリストは、非常に長くなる場合があります。これを避けるために、 現在のビューのデバイスのみをリスト を選択して、現在使用しているビューに関連するマイクおよびスピーカーのみが含まれるように、リストを制限することができます。 この場合、 現在のビュー には、フロートビューとして開いているビュー、および一次、セカンダリディスプレイのビューも含まれることに注意してください 『145ページ の"マルチウィンドウ"参照 』。

相手と話す

重要： 監視システムは、ビデオを録画していなくても、カメラに付いているマイクからの入力音声を録音することができます。ただし、カメラに付いているスピーカーを通して出力される音声は、特定の監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照 』でのみ録音されます。

カメラに付いているスピーカーを通して相手に話しかけるには、**3**つの方法があります。**音声ペイン**を使用するか、オーバーレイボタンを使用するか、マップのスピーカー機能を使用します。

スピーカーを通して話す

1. ライブタブの**音声ペインのスピーカー**で、**音声出力**のリストから関連するスピーカーを選択します。スピーカーの設定に関する固有の情報については、音声設定 『111ページ 』を参照してください。

監視システムで複数のカメラにスピーカーが付いており(さらに、必要な権限がある場合)、**すべてのスピーカー**を選択すると、すべてのスピーカーを通して同時に話すことができます。

または、ビューの位置にオーバーレイボタンがあるか、マップにスピーカーエレメントがある場合、これらをクリックすることができます。

2. 話している間は**会話**ボタンを押したままにします。話している間ボタンを押したままにしておくと、スピーカーを通して実際に出力される内容を完全にコントロールできます。

よくある質問：音声

なぜスピーカーリストを使用できないのですか？

監視システムによっては、双方向音声に対応していないものもあります。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の XProtect 製品比較表を参照してください。 <http://www.milestonesys.com>。

カメラに接続しているマイクの録音音量を調整することはできますか？

この機能は、XProtect Smart Client にはありません。ただし、マイク、あるいはマイクが付いているカメラデバイスの設定インターフェースを使って録音音量を調整することができます。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

カメラに接続しているスピーカーの出力音量を調整することはできますか？

この機能は、XProtect Smart Client にはありません。ただし、音声ペインのレベルメーターで入力レベルを確認できるので、出力レベルを推測できます。

スピーカー、あるいはスピーカーが付いているカメラデバイスの設定インターフェースを使って出力音量を調整することができます。Windows で、音声設定を調整することも可能です。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

他の XProtect Smart Client ユーザーはスピーカーを通して会話を聞くことができますか？

概して、XProtect Smart Client ユーザーはスピーカーを通して話しかけている声を聞くことはできません。ただし、話しかけているスピーカーの近くにマイクがあれば、聞くことができます。

同時に複数のスピーカーを通して話すことはできますか？

はい。監視システムで複数のカメラにスピーカーが付いており（それらにアクセスするために必要な権限がある場合）、すべてのスピーカーを通して同時に話すことができます。音声ペインのスピーカーリストで、すべてのスピーカーを選択し、会話ボタンを押したまま話します。

音声ペインで[現在のビューのデバイスのみをリスト]を選択している場合は、[すべてのスピーカー]は表示されません。

カメラに付いているマイクの音声は録音されますか？

ビデオを録画していなくても、カメラに付いているマイクから入ってくる音声を録音します。

スピーカーを通して話したことは録音されますか？

監視システムは、ビデオを録画していなくても、マイクから入ってくる音声を録音できます。ただし、スピーカーを通して送信される出力音声は特定の監視システムでしか録音、再生、エクスポートできません。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の XProtect 製品比較表を参照してください。

<http://www.milestonesys.com>。

そのため、使用する監視システムによっては、たとえば、録音を使用して、XProtect Smart Client のオペレータがスピーカーを通して相手に特定の指示を与えたことを証明できる場合があります。

スピーカーを通して話す場合、自分の声の音声レベルは表示されますか？

はい。音声ペインのレベルメーターが、話し手の音声のレベルを示します。レベルが非常に低い場合は、マイクに近づく必要があることがあります。レベルメーターがまったくレベルを示さない場合は、マイクが接続され、正しく設定されていることを確認してください。

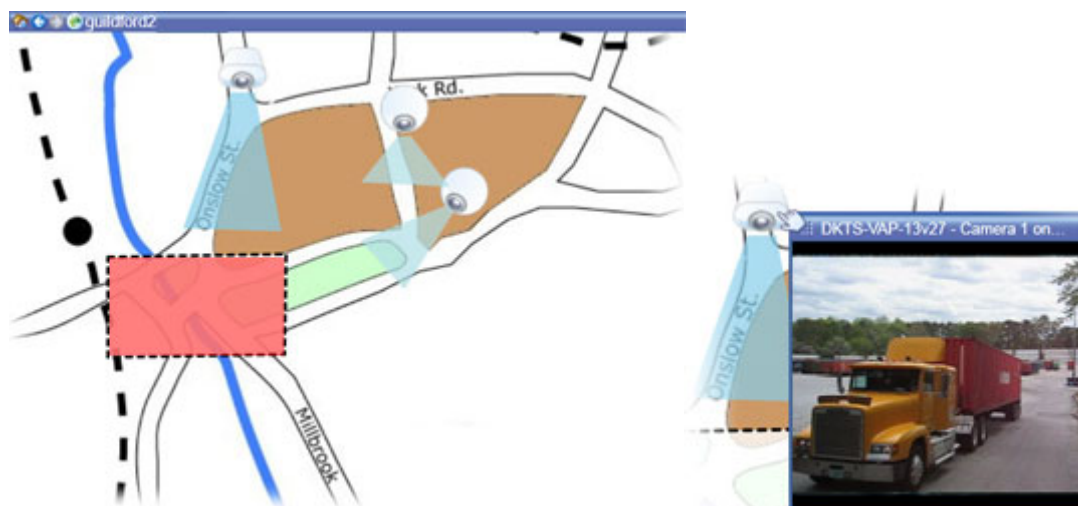
マップ

地図の紹介

地図機能は、選ばれた監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』でのみ利用が可能です。地図位置には、生の映像は表示されず、常に静止画像が表示されます。

地図では、監視システムの物理的概要を把握することができます。どのカメラがどこに配置されていて、どの方向を向いているのかが、一瞬でわかります。地図は、ナビゲーションに利用することができます。地図は階層によりグループ化して、例えば、街から道路レベルへ、建物から部屋レベルへ、といった具合に拡大縮小を行いながら、ホットゾーンへと進むことができます。

地図には、カメラやマイク、類似の機器を占めるエレメントが含まれている場合があります。地図上のカメラアイコン上にマウスを移動させると、プレビューウィンドウでカメラに録画されている映像を閲覧 『124ページ の"マップのカメラから録画されたビデオを表示"参照』することができます。再生モードにおけるステータス情報は、録画されたデータに基づいていませんが、ライブモードで表示される通り、エレメントの現在のステータスから回収されます。



カメラ・エレメントとホットゾーンがある地図

地図は、ほとんどの場合が地勢図となっていますが、相である必要はありません。所属する組織のニーズにより、写真や他の種類の画像を地図として利用することもできます。

注意： 地図は、Smart Map と同じではありません。詳細な情報については、XProtect Smart Client の地図と Smart Map の特徴 『129ページ の"マップとスマートマップ（説明付き）"参照』をご覧ください。

以下の方法で、マップエレメントを使用して実際のデバイスを操作できます：

カメラ

マウスポインタをマップのカメラの上に置くと、カメラからのライブプレビューが表示されます。プレビューのタイトルバーをクリックすると、別のフローティングウィンドウに表示します。フローティングウィンドウのサイズは、その隅を引っ張って変更できます。録画を開始するには、必要なカメラを右クリックして、**#分間録画を開始**を選択します。この機能を使用するには、特定のユーザー権限が必要な場合があります。

固定カメラは、関連付けられたビューゾーンと共にマップに表示され、カメラのビューアングルが表示されます。カメラのビューアングルと一致するように、マップ上の角度を調節する必要があることに注意してください。角度を調節するには、ドラッグして適切なサイズと位置にするだけです。

PTZ カメラは、監視システムのカメラに対して定義されている PTZ プリセットを使用して、マップに表示されます。プリセットは、PTZ カメラのアイコンから放射状に広がる色付きの角度で図示されます。それぞれの角度は、特定のプリセットを表しています。カメラのプリセット角度と一致するように、角度を調節する必要があることに注意してください。角度を調節するには、ドラッグして適切なサイズと位置にするだけです。カメラに 25 以上のプリセットがある場合、角度が小さすぎるので最初は角度は表示されません。このような場合、**エレメントの選択**ウィンドウからマップへ、該当するカメラからプリセットを個別にドラッグして必要な角度を追加することができます。マップ上のプリセットをクリックするだけで、PTZ カメラのプリセットのいずれかに移行できます。これは、マップ自体のフローティングプレビューウィンドウおよびホットスポット位置 『98ページ の"ホットスポット"参照 』で、機能します。または、カメラを右クリックし、**PTZ プリセット**を選択してから、必要なプリセットを選択します。

マイク

マイクの上にマウスを置き、左マウスボタンを押したままにすると、マイクからの受信音声を聞くことができます。または、マイクを右クリックし、**マイクの使用**を選択します。再生モードのマップビューでマイクを使用することはできません。

スピーカー

スピーカーにマウスを置き、左マウスボタンを押したままにすると、スピーカーから話すことができます。再生モードのマップビューでスピーカーを使用することはできません。

イベント

マップにあるイベントをクリックすると有効化されます。または、イベントを右クリックし、**イベントの有効化**を選択します。イベントを左クリックすると、マウスポインタが一瞬、稲妻のアイコンに変わり、イベントが起動中であることを示します。

アラーム

マップにあるアラームをクリックして表示するか、アラームを右クリックし、**アラームを有効化する**を選択します。右クリックして、アラームを確認します。

出力

マップにある出力をクリックすると有効化されます。または、出力を右クリックし、**出力の有効化**を選択します。出力を左クリックすると、マウスポインタが一瞬、稲妻のアイコンに変わり、出力が起動中であることを示します。

ホットゾーン

ホットゾーンには通常色が付いており、識別しやすくなっています。ホットゾーンに関連付けられたサブマップに移行するには、ホットゾーンをクリックします。または、必要なホットゾーンを右クリックし、**サブマップへ移行**を選択します。

ホットゾーンが点線で囲まれて表示された場合は、そのホットゾーンに関連付けられたマップはありません。

監視システムの種類によっては、複数の異なるサーバーからのマップが、マップ階層に含まれることがあります。これは、ホットゾーンをクリックした時に、サーバーが使用できないためにサブマップが使用できないことを意味します。サーバーが使用できない理由は、定期メンテナンスからネットワークの問題までさまざまです。問題が解決しない場合は、監視システムの管理者にお問い合わせください。

ホットゾーンが、ユーザーがアクセス権を持たないマップを指していることもあり、この場合、XProtect Smart Client によってユーザーに通知されます。ユーザー権限は時間に基づいているため、以前にアクセスできたマッ

ブにアクセスできない場合もあります。これは、1 日の特定の時間帯、あるいは特定の曜日にアクセス権がないことが理由である可能性があります。ユーザー権限に関して不明な点は、監視システムの管理者にお問い合わせください。

プラグイン

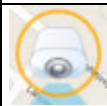
プラグインエレメントは、監視システムで使用されている場合にのみ使用できます。プラグインエレメントの例：アクセスコントロールシステム、火災検知システムなど。

内部接続されたハードウェア

※本機は、Milestone Interconnect には対応していません。

Milestone Interconnect システムの一部の内部接続されたハードウェアはオフラインのことがあるため、内部接続されたハードウェア要素のエラーステータスが頻繁にマップに表示される場合があります。

ステータス可視化は、マップに追加されたエレメントのステータスをグラフィックに表示する機能です。マップが完全に使用でき正常な状態にある場合、視覚的なステータス表示はありません。**ステータス可視化**ウィンドウでは、マップのステータス表示の視覚的表現を定義できます。

	要注意 —エレメントがまだ作動しているが、対処が必要な場合(たとえば、サーバーのディスクの空き容量がなくなっている場合)。問題のデバイスがマップに含まれているとは限らないことに注意してください。デフォルトの表示色は黄色です。
	使用できません —エレメントにエラーがある場合 (たとえば、サーバーがマイクやスピーカーに接続できない場合)。デフォルトの表示色はオレンジ色です。
	アラーム —エレメントにアラームがある場合。デフォルトの表示色は赤色です。
	無効/ステータス不明 —エレメントが監視サーバー上で無効になっているか、サーバーからステータス情報を取得できない場合。デフォルトの表示色は紫色です。
	ステータスを無視する —エレメントのステータスが対応を必要としない場合(たとえば、すでに何が問題であるか判明している場合)。デフォルトの表示色は青色です。

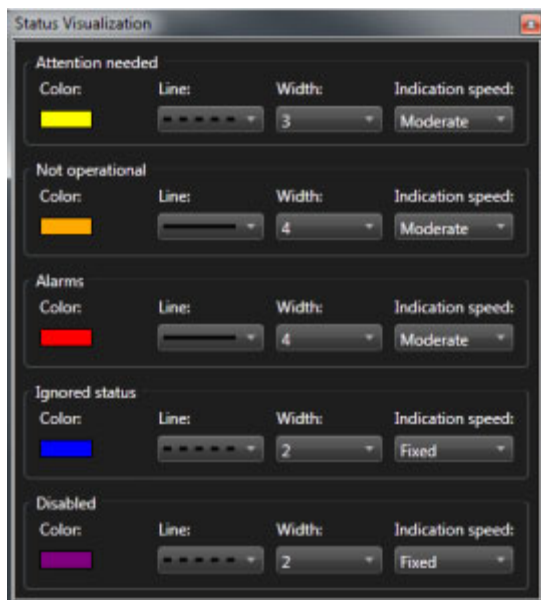
マップのステータスは、マップ上のすべてのエレメントのステータスと同じです。影響を受けたサーバーの名前は、最高 4 つまでマップのタイトルバーに表示できます。使用できないサーバーがあるためにマップ上のエレメントが無効になり、そのサーバー自体はマップに含まれていない場合は、マップに**無効な**エレメントしか含まれていない場合でも、マップに**使用できません**状態が表示されます。使用できないサーバーがマップに含まれている場合は、マップには単純に**無効/ステータス不明**と表示されます。ステータス情報については、**マップ概要**も参照してください。



ステータスが表示されたマップの例

ステータス表示の外観の変更

1. 設定モードで、マップを選択します。マップを右クリックして、**ステータス表示**を選択します。



2. ステータス可視化ウィンドウで、色ボックスをクリックして**色の選択ツール**を起動し、ステータス可視化線に必要な色を選択し、色ボックスをもう 1 度クリックして、選択した色で色ボックスを塗りつぶします。
3. **線**のリストから線の書式を選択します。
4. **幅**のリストから線の太さを選択します。
5. ステータス可視化がどれくらいの速さで点滅するかを設定します。**表示速度**リストから速度を選択します。
6. プロパティペインで、**ステータス可視化**を選択して、ライブモードでのステータス可視化を有効にします。

ヒント：ステータス可視化はすべてのマップに適用されるため、各マップのステータス可視化の外観を個別に定義する必要はありません。

多くのマップがある大規模な監視システムに接続している場合、ステータス設定の読み込みと適切な表示に時間がかかる場合があります。複雑なシステムでは、ステータス可視化が適切に更新されるまで、30 秒以上かかることがあります。

マップ設定

設定モードで、**プロパティペイン**を使用して、各マップに対するさまざまな設定を調整できます。

名前	詳細
ホームマップ	特定のマップビューの基本を構成するマップを表示します。このフィールドは読み取り専用ですが、選択ボタン  をクリックすると、 マップ設定 ウィンドウが開いて、マップを変更できます。
バックグラウンドの変更	マップを変更しますが、マップ上のエレメントの位置の互いの相対関係を保持します。

名前	詳細
マップの名前の変更	マップ名を編集します。
アイコンサイズ	アイコンサイズ ドロップダウンリストでは、マップに追加する新しいエレメントのサイズを、 極小 から 特大 まで選択できます。アイコンの角にあるサイズ変更ハンドルを引っ張ると、マップにあるアイコンのサイズを変更できます。
名前を表示	名前 チェックボックスでは、新しいエレメントを追加するときに、エレメントの名前を表示するかどうかを有効化または無効化できます。 ヒント ：マップにエレメントを追加しているがエレメント名が表示されない場合は、必要なエレメントを右クリックし、 名前 を選択します。エレメント名を表示しない場合は、名前を右クリックし、 テキストの削除 を選択します。 アイコンサイズ ドロップダウンリストでは、マップに追加する新しいエレメントのサイズを、 極小 から 特大 まで選択できます。アイコンの角にあるサイズ変更ハンドルを引っ張ると、マップにあるアイコンのサイズを変更できます。
パンとズームを許可	選択すると、ライブモードでマップのパンとズームが可能になります。
マップを自動最大化	選択すると、XProtect Smart Client タイムアウトに定義されている秒数の間、が使用されないと、ライブモードでマップが自動的に画面全体に最大化されます。タイムアウトの最大秒数は 99,999 秒です。
マウスオーバー時	選択すると、マウスをカメラの上へ移動させたときに、ライブビデオのプレビューを表示します。
デフォルトの表示設定を使用する	選択すると、プレビューウィンドウが他のビューと同じように表示されるように定義します。このチェックボックスをオフにすると、プレビューの タイトルバー および ビデオインジケータ の設定ができます。 タイトルバー ：選択すると、カメラの名前がタイトルバーに表示されます。 ビデオインジケータ ：選択すると、ビデオインジケータが表示され『 100 ページ の"カメラ名と色のインジケータ"参照』、画像が更新されるたびに緑色に点滅します。 ビデオインジケータ を選択できるのは、 タイトルバー も選択した場合のみです。
ステータス可視化	選択すると、マップに追加されたエレメントのステータスが図示『 116 ページ の"参照』されます。
詳細ステータスサポートを有効化	オンになっている場合、ライブモードおよび再生モードでカメラとサーバーの詳細ステータスを表示できます。
アラームのマップの自動変更	選択すると、アラームが関連しているカメラのマップを表示するためにアラームを選択するときに、プレビューのマップを自動的に変更できます。
上に重ねた場合にのみ表示	カメラ、ビューゾーン、またはプリセット上にマウスを動かしたときのみ、カメラビューゾーンと PTZ プリセットを表示するように選択します。この設定は、ビューゾーンが重複していたり、複数のプリセットがあるマップ上に複数のカメラがある場合に便利です。デフォルトでは、ビューゾーンとプリセットを表示します。

ツールボックス

マップのツールボックスは、マップを設定するための複数のツールで構成されています。**カメラ**、**サーバー**、**マイク**、**スピーカー**、**イベント**、または**出力**のいずれかを選択すると、カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント、出力をそれぞれ一覧表示した**エレメントの選択**が表示され、エレメントをマップに配置できます。

ツールボックスのアイコン

	カメラ	
	サーバー	
	マイク	カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント、内部接続されたハードウェア を選択すると、カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント、出力をそれぞれ一覧表示した エレメントの選択 が表示され、エレメントをマップに配置できます。
	スピーカー	
	イベント	
	出力	
	内部接続されたハードウェア	
	ホットゾーン	ホットゾーン描画ツールがアクティブ化されると、マップにホットゾーンを配置できます。
	テキスト	テキストツールが開き、マップに編集可能なテキストボックスを配置できます。
	プラグイン	プラグイン(所属する組織で使用されている場合)が一覧表示された エレメントの選択 が開き、マップにプラグインエレメントを配置できます。
	カラーピッカー	色の選択ツールが開き、カラーピッカーがアクティブ化されて、マップにすでにある色を使用できます。
	色の塗りつぶし	色の選択ツールが開き、テキスト、背景、ホットゾーンなどの色を変更できます。
	選択ツール	選択ツールがアクティブ化され、マップにあるエレメントを選択して、マップをパンおよびズームすることができます。
	マップ概要	マップ概要 が開き、異なるマップ間を移動できます。

右クリックメニュー

設定タブでマップまたはマップのエレメントを右クリックして、ショートカットメニューにアクセスできます。

右クリックコマンド

ショートカットメニューの内容は、右クリックしたマップのエレメントによって異なります。マップを設定モードで表示している場合には、ショートカットメニューから他の機能を利用することもできます。

- **削除 [...]:** 選択したエレメントまたはマップを削除できます。
- **マップの中心をここに設定:** クリックした位置が中心になるようにマップの位置を合わせます。

- **ズームイン**
- **ズームアウト**
- **標準サイズへズーム**：設定されている標準サイズにマップを拡大します。
- **ホーム**：簡単にホームマップへジャンプできます。
- **巻戻し**：前のマップに簡単に戻れます。
- **早送り**：このセッションで以前に表示したマップに簡単に移動できます。
- **(PTZ カメラのプリセットから) プリセットへ移動【プリセット】**：事前に定義されたプリセットにカメラを設定できます。
- **(カメラから) ライブプレビュー**：選択したカメラのライブプレビューを確認できます。
- **(カメラから) ビューゾーン**：カメラのビューアングルを示す、固定カメラのビューゾーンのオン、オフを切り替えることができます。

マップを右クリックしたときに表示されるショートカットメニューは、次のような他の機能も表示します。たとえば、**ホームマップの設定**、**ツールボックス**、**マップ概要**、**エレメントの選択**、**フォントの選択**、**色の選択**、および**ステータス可視化**。

個々のエレメント『114ページ の"参照"』ショートカットメニューには、他のコンテンツがある場合もあります。

一般的な右クリックメニュー項目に加えて、イベントおよび出力の右クリックメニューにも**アイコンタイプの選択機能**があり、イベントアイコンまたは出力アイコンを、ランプ、ドア、ゲートまたはスイッチのいずれの形で表示するかを選択できます。イベント/出力アイコンを、実際のイベント/出力により適したものに変更することで、ユーザーはマップの実際のコンテンツの概要を、より簡単に把握できます。

詳細ステータスを表示するには、必要なエレメントを右クリックし、**詳細ステータス**を選択します。詳細ステータスは、個別のフローティングウィンドウに表示されます。

マップ概要ウィンドウ

マップ概要ウィンドウは、XProtect Smart Client で設定されたマップ階層の概要を示します。**マップ概要**ウィンドウを開くには、マップを右クリックし、**マップ概要**を選択するか、マップのタイトルバーにあるアイコンをクリックします。

マップ名の横に + 記号が付いている場合は、マップに 1 つ以上のサブマップがホットゾーンとして含まれていることを示します。**マップ概要**のマップをクリックすると、選択したマップがすぐにビューに表示されます。

多数のマップを含む大規模な監視システムに接続している場合、**マップ概要**のコンテンツを読み込むのに時間がかかる場合があります。

よくある質問：マップ

マップに使用できる画像ファイルの形式とサイズは？

マップには bmp、gif、jpg、jpeg、png、tif、tiff、および wmp のフォーマットのファイルを使用できます。

画像ファイルサイズと解像度は、10 MB および 10 メガピクセル以下にすることをお勧めします。大きな画像ファイルを使用すると、XProtect Smart Client のパフォーマンスが低下することがあります。20 MB または 20 メガピクセルまたはその両方以上の画像は使用できません。

マップは、グラフィックファイルのプロパティに基づき、Microsoft の標準に従って、XProtect Smart Client に表示されます。マップが小さく表示される場合は、ズームインできます。

マップの背景を変更しても、カメラの相対位置を保つことはできますか？

可能です。マップは更新するが、その中のすべての情報をそのまま保持する場合、マップの背景だけを交換できます(マップの編集に必要な権限がある場合)。これにより、新しいマップで、カメラや他のエレメントを同じ相対位置に保持できます。マップを右クリックするか、**プロパティ**ペインで、**マップの背景を変更する**を選択します。

マップの操作

Milestone Federated Architecture をサポートしている監視システムに接続している場合、追加できるのはログインしている監視システムサーバーからのマップだけになります。Milestone Federated Architecture は、関連していても物理的には別である監視システムの設定です。たとえば、多数の別個の（ただし関連している）監視システムのある店舗チェーンがこのような関係に該当します。

どの監視システムが Milestone Federated Architecture をサポートしているかについては、XProtect 比較表 (<http://www.milestonesys.com>) を参照してください。

ビューにマップを追加する

既存のマップを追加するか、新しいマップを作成することができます。

1. セットアップモードで、**システム概要**ペインで、ビューの位置へ**マップ**のアイテムをドラッグします。
2. 表示される**マップ設定**ウィンドウで、**新規マップを作成**または**既存のマップ使用**のいずれかを選択します。

三角記号がマップ名の横に付いている場合は、マップに 1 つ以上のサブマップがある可能性があることを示します。含まれるサブマップと要素も追加されます。

3. **名前**フィールドにマップの名前を入力します。名前は、マップ位置のタイトルバーに表示されます。

ヒント : **[名前]**フィールドを空欄にし、**[参照...]**をクリックすると、**[名前]**フィールドには、選択した画像の名前が表示されます。

4. **[参照...]**をクリックして、マップとして使用する画像ファイルを参照します。
5. **開く**をクリックして、画像ファイルを選択します。
6. **[OK]**をクリックします。

Smart Wall でマップを表示する

※本機は、Smart Wall には対応していません。

XProtect Smart Wall を使用している場合は、マップを表示できます。

1. ビューにマップを追加する手順に従います。
2. **[詳細]**、**[Smart Wall に送信]**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント : ビューに Smart Wall 概要が含まれている場合は、マップを概要のタイルまでドラッグできます。

マップからフロートウィンドウへカメラを送信

フロートウィンドウで同時にマップ上にすべてのカメラを表示する方法（各ビューにつき最大 25 台）：

1. ライブタブまたは再生タブで、フロートウィンドウに表示するカメラを含むマップを選択します。
2. マップのタイトルバーの上部で、**すべてのカメラをフローティングウィンドウに送信**アイコンをクリックします。

フロートウィンドウでは、ビューに最大 25 台のカメラが表示されます。

マップに 26 台以上のカメラがある場合は、このボタンをクリックすると、表示されるカメラが常に同じカメラとは限りません。

マップの背景を変更する

マップは更新するが、その中のすべての情報をそのまま保持する場合、マップの背景だけを交換できます(マップの編集に必要な権限がある場合)。これにより、新しいマップで、カメラや他のエレメントを同じ相対位置に保持できます。マップを右クリックするか、**プロパティペイン**で、**マップの背景を変更する**を選択します。

マップの削除

ビューのマップを右クリックして、**マップの削除**を選択します。これにより、カメラ、マイク、スピーカーなどの追加されたエレメントを含むマップ全体が削除されます。マップはビューから削除されるだけです。画像ファイルは監視システムにまだ存在しており、新しいマップを作成するために使用できます。

マップは**マップ概要**からも削除できます。

マップのエレメントの追加と削除

1. 設定モードで、マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
2. ツールボックスで、必要なエレメントアイコンをクリックすると、**エレメントの選択**ウィンドウが開きます。
3. フィルターを使用すると、必要なエレメントを簡単に検索できます：検索条件を入力すると、検索条件に合わせて、表示されるエレメントの一覧が絞られます。
4. エレメントを選択し、マップにドラッグします。

ヒント：ツールボックスの選択ツールを使用して、エレメントを選択し、マップで移動させるか、マップをパンします。

エレメントの削除

エレメントを削除するには、必要のないエレメント(カメラ、ホットゾーン、サーバー、イベント、出力、マイク、またはスピーカー)を右クリックして、**削除[エレメント]**を選択します。

エレメントの移動

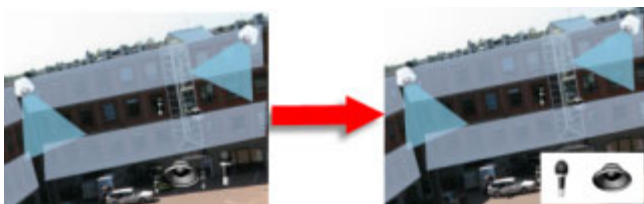
エレメントを移動させるには、エレメントをクリックして、マップ上の新しい位置にドラッグします。

エレメントの回転

エレメントの方向を変えるには、エレメントを選択し、エレメントのサイズ変更ハンドルの 1 つの上へマウスを移動させます。マウスポインタの形が、曲がった矢印に変わったら、エレメントをクリックしてドラッグし、新しい位置へ回転させます。



ヒント：マップが、マップ上のエレメントが見えにくい色になっている場合は、テキストボックスを作成して、マップの上で見やすい色で塗りつぶします。マップに必要なエレメントを追加し、それをテキストボックスにドラッグします。



マップのカメラから録画されたビデオを表示

マップにあるカメラのアイコンの上にマウスを移動させると、カメラからの録画済みビデオをプレビューウィンドウで再生することができます。再生モードのステータス情報は、カメラの現在のライブステータスから取得されます。

- カメラがサポートしている場合は、カメラプレビューからデジタルズームと PTZ コントロールを使用できます。プレビューウィンドウで、詳細ボタンをクリックしてデジタルズームを選択するか、表示される PTZ 『67ページ の"PTZ 画像"参照』コントロールを使用します。特定のカメラで PTZ プリセットが設定されている場合は、プレビューでプリセットを選択して、プリセットを有効にすることができます。
- フロントウィンドウでマップ上で同時にすべてのカメラ（1 つのビューに最大 25 台）を表示するには、マップのタイトルバーの上部にあるすべてのカメラをフローティングウィンドウに送信をクリックします。

マップに 26 台以上のカメラがある場合は、このボタンをクリックすると、表示されるカメラが常に同じカメラではなくなります。

ホットゾーンをマップに追加

- 設定モードで、マップを右クリックして、ツールボックス 『120ページ』を選択します。
- ツールボックスで、ホットゾーンツールを選択します。



- マウスポインタをマップに移動します。マウスポインタがホットゾーンアイコンとして表示され、ホットゾーンの描画ができることを示す小さな白い十字が表示されます。



ホットゾーンを描画するには、ホットゾーンの描画を開始するマップをクリックします。アンカーと呼ばれる大きな青い点によって、開始点がマップに表示されます。



ホットゾーンの描画ツールで作成できるのは、直線のみです。ホットゾーンの境界線を曲線にする場合は、短い直線を多数使用します。

4. ホットゾーンの開始点をクリックして、ホットゾーンの描画を完了します。これでホットゾーンの外形が点線で描かれて、サブマップがホットゾーンに添付されていないことを示します。

ヒント：ホットゾーンの輪郭は、ホットゾーンアンカーを引っぱることで変更できます。

5. サブマップをホットゾーンに追加するには、点線で描かれたホットゾーンをダブルクリックして、**マップ設定**ウィンドウに追加します。

カラーツールを使用してホットゾーンの色を変更できます。異なる色をホットゾーンに使用することで、隣接するホットゾーンを区別できます。

Milestone Federated Architecture をサポートしている監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合、技術的およびパフォーマンス上の理由から、ログインしているシステムとは異なる他の監視システムサーバーからのマップをポイントできる単一のマップに含まれるホットゾーンの最大数は20になります。ログインしているサーバーに属しているマップをポイントするホットゾーンには制限はありません。Milestone Federated Architecture は、関連しているが物理的には別である監視システムの親/子の設定です。たとえば、多数の別個の（ただし関連している）監視システムのある店舗チェーンがこのような関係に該当します。

マップの要素の外観の変更

1. マップ上のテキスト、背景、ホットゾーンなどの色を変えて、マップ要素を互いに区別することができます。**設定モード**で、マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
2. 変更する要素を選択します。
3. ツールボックスで、色塗りつぶしツールを選択します。これにより、**色の選択**ウィンドウが開きます。

ヒント：カラーピッカーツールを使用して、マップから既存の色を選択します。

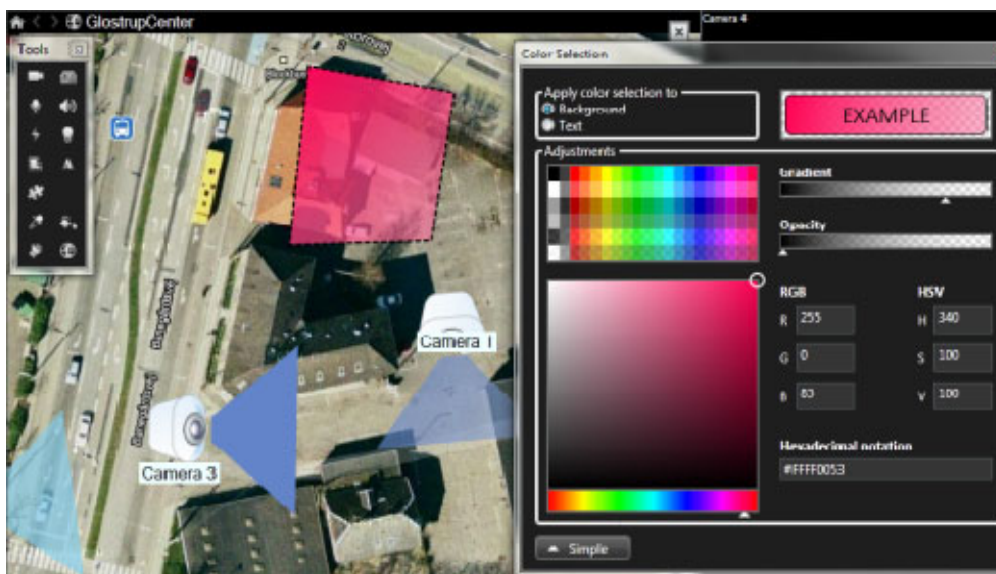
4. テキスト要素にのみ適用されます。色の変更をテキストまたは背景に適用するかを選択します。
5. カラーパレットから色を選択します。選択した色のプレビューが[EXAMPLE]ボックスに表示されます。
6. マップ要素をクリックし、新しい色で塗りつぶします。

階調の調整

階調スライダーを使用して、要素の色を左から右にどのように薄めるかを調整します。

右端にスライダーをドラッグすると、要素の色が即座に薄まります。左端にスライダーをドラッグすると、要素の色はほとんど薄まりません。

階調スライダーを必要なレベルにドラッグし、マップエレメントをクリックして、色と階調を適用します。

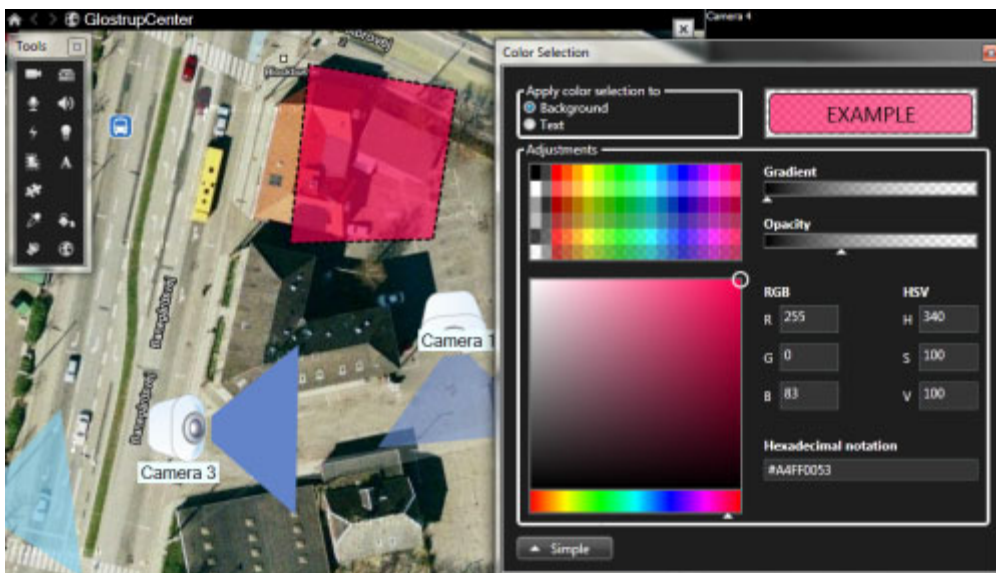


不透明度の調整

不透明度スライダーを使用して、塗りつぶし色の透明度を調整します。

不透明度スライダーを右端にドラッグすると、色が完全に透明になり、不透明度スライダーを左端にドラッグすると色が完全に不透明になります。

不透明度スライダーを必要なレベルにドラッグし、マップエレメントをクリックして、色と不透明度を適用します。



詳細な色変更

マップエレメントは、任意の色で塗りつぶすことができます。色の選択ウィンドウの詳細ボタンをクリックして、色の詳細選択オプションにアクセスします。

色スライドを使用して、主な色合いを選択し、色彩円をドラッグして必要な色調を選択します。

- または -

16 進表記フィールドに **16 進数**の色コードを入力します。

マップ上でのラベルの編集と回転

マップのすべてのエレメントには、識別用のラベルが付けられています。

マップ上に多数のエレメントがある場合、すべてのラベルに十分な場所を確保することが難しい場合があります。デバイス名を編集するには、ラベルを選択し、デバイスの新しい(短い)名前を入力します。

ラベルの名前を変更すると、マップ上のラベルのみが変更され、システムのカメラまたはエレメントの名前は変わりません。

また、ラベルを回転して、ラベルが重複しないようにすることもできます。マップのラベルを回転するには、以下の操作を実行します。

- ラベルを選択し、サイズ変更ハンドルのいずれかの上にマウスを置きます。マウスポインタの形が、曲がった矢印に変わったら、ラベルをクリックしてドラッグし、新しい位置へ回転させます。

マップのスペースを無駄にしないもう 1 つの方法として、ビューゾーンと PTZ プリセットを重ねた場合にのみ表示 『118ページ の"マップ設定"参照』を選択することができます。

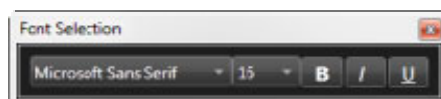
マップのテキストを追加/編集

テキストはマップの任意の場所に挿入できます。たとえば、メンテナンスについてユーザーに情報を提供する場合など。

- 設定モードで、マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
- ツールボックスで、テキストツールを選択します。



- フォントの選択ウィンドウで、テキスト設定を編集します。



ヒント: テキスト設定はいつでも編集できます。必要なテキストボックスをクリックし、ツールボックスからテキストツールを選択して、選択したテキストボックスのテキスト設定を変更します。

- マップ上のテキストを挿入する場所をクリックします。
- テキストを入力します。キーボードの **ENTER** を押すと、テキストボックスが下方に拡張します。

ヒント: 色塗りつぶしツールを使用して、テキストの色と背景を変更することができます。

ヒント：テキストボックスは移動できます。選択ツールを選択し、マップにあるテキストボックスをつかみ、テキストボックスを移動します。

ステータス詳細の表示

カメラ(たとえば、解像度、画像サイズやビットレート、および FPS)とサーバー(たとえば、CPU 使用率、メモリ、ネットワーク使用率)の詳細ステータスを表示できます。

- 詳細ステータスを表示するには、必要なエレメントを右クリックし、**詳細ステータス**を選択します。詳細ステータスは、個別のフローティングウィンドウに表示されます。

エラーメッセージ「イベントサービスのレコーディングサーバーへのアクセス権が不十分です」が表示された場合、レコーディングサーバーから詳細ステータスは表示できません。このエラーメッセージは、監視システムのマップ関連の通信を処理する、Event Server サービスに関係します。Event Server サービスは、監視システムサーバーで管理されます。この問題を処理できる監視システムの管理者にお問い合わせください。

ズームと自動最大化

マップが、XProtect Smart Client のビューエリアより大きい場合、またはマップでズームインしている場合は、マップをパンして、マップの隠れている部分を表示できます。追加されたエレメントの外側のマップの任意の場所をクリックすると、クリックした場所が中心になるようマップが移動します。マップをクリックしてパンし、任意の方向にマップをドラッグします。

- マップのズーム機能を使用するには、マップを右クリックし、必要に応じて**ズームイン**または**ズームアウト**を選択します。または、**標準サイズへズーム**機能を使用して通常のサイズに戻します。

ヒント：または、マウススクロールホイールを使用してズームします。上にスクロールするとズームインし、下にスクロールするとズームアウトします。

マップを自動最大化が有効で、複数の位置があるビューの一部にマップビュー位置がある場合、設定モードで、プロパティペインで指定されている時間が経過すると、マップが画面全体に自動的に最大化されます。元のビューに戻るには、追加されたエレメントの外側にあるマップの任意の場所をダブルクリックします。

Smart Map（説明付き）

※本機は、Smart Map には対応していません。

この機能は選択した監視システムでのみ使用できます。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の XProtect 製品比較表を参照してください。 <http://www.milestonesys.com>。

スマートマップを使用すると、地理的に正確な方法で世界各地の複数の場所にあるカメラを表示したり、カメラにアクセスしたりできます。場所ごとに異なるマップを使用しているマップとは異なり、スマートマップでは、単一のビューで全体像を把握することができます。

複数の都市、地域、国、および大陸のあらゆる場所をズームアウトで確認したり、各場所に迅速に移動してカメラのビデオを表示することができます。たとえば、ローマの営業所の映像をプレビューしてからズームアウトし、1回のドラッグで世界各地をパンして、その後ロサンゼルス事務所にカメラをズームインすることができます。詳細については、スマートマップを探索する『142ページ の"スマートマップをもっと知る"参照』を参照してください。

スマートマップの1つの重要な利点は、背景の空間参照データです。詳細については、地理的背景の概要『129ページ の"背景地図入門"参照』を参照してください。

マップとスマートマップ（説明付き）

XProtect Smart Client では、監視システムを視覚化し、インシデントに迅速に対応する上で役立つマップ機能を提供します。

- **マップ** - これらのマップは、地理参照を含まない地理的静止画像に基づいています。カメラ、マイク、録画サーバーなどのデバイスを追加できます。また、マップから監視システムを直接操作できるアラーム、イベント、およびアクセスコントロールなどの機能も追加できます。デバイスおよび機能の要素をマップ上に手動で配置する必要があります。詳細は、マップの概要 『114ページ の"地図の紹介"参照』を参照してください。
- **スマートマップ** - このタイプのマップでは地理情報システムを使用して、実世界の地理を正確に反映します。これにより、複数の場所にあるカメラのより正確な概要を把握することができます。Bing マップサービスやグーグルマップサービス、または OpenStreetMap のマッププロジェクトを地理的背景として使用し、コンピュータ支援設計(CAD)図面、シェープファイル、および画像をオーバーレイとして追加することができます。詳細については、の「XProtect Smart Client 『128ページ の"Smart Map（説明付き）"参照』スマートサーチ」を参照してください。

注: マップ機能とスマートマップ機能は互いに代替可能ではありません。マップを使用している場合は、スマートマップなどの画像ファイルを使用できますが、再度カメラを追加する必要があります。カメラを含むマップはスマートマップに転送できません。ただし、スマートマップをマップにリンクすることはできます。詳細については、スマートマップのリンクを追加または削除する 『138ページ』を参照してください。

背景地図入門

OpenStreetMaps、Google Maps、Bing Maps 地図サービス、基本世界地図を、スマートマップの地理背景として使用し、カメラなどのデバイスや、ラスター、シェープファイル、または CAD 図面形式の画像をカスタムオーバーレイとして追加できます。また、画像、シェープファイル、CAD 図面を背景として使用し、地図サービスまたは基本世界地図を非表示にできます。詳細については、「スマートマップでのレイヤーの操作 『140ページの"Smart Map 上のレイヤーを扱う"参照』」を参照してください。

注意: 既定では、Bing Maps と Google Maps は衛星画像（衛星）を表示します。航空写真から地上写真のように画像を変更し、別の詳細を表示できます。詳細については、「スマートマップでの地理背景の変更 『133ページの"Smart Map 上の背景地図を変更する。"参照』」を参照してください。

背景地図の種類

スマートマップをビューに追加した後、次の地理背景のいずれかを選択できます。

- **基本世界地図** - XProtect Smart Client で提供された標準地理背景を使用します。この地図は、一般参照を目的としてものもので、国境や街などの他の詳細情報は含まれていません。ただし、他の背景地図と同様、地理参照データは含まれています。
- **Bing Maps** - Bing Maps に接続します。
- **Google Maps** - Google Maps に接続します。

注意: Bing Maps と Google Maps オプションを使用するにはインターネットに接続し、Microsoft または Google からキーを購入する必要があります。詳細については、このトピックの「Google Maps API および Bing Maps API のプランを選択する」を参照してください。

- **OpenStreetMap** - OpenStreetMap 『<http://www.openstreetmap.org/>』（OSM）オープンソース地図プロジェクトに接続します。このオプションは、インターネットへのアクセスを必要とします。OSM の地図データは、組織のオープンデータベースライセンス『www.openstreetmap.org/copyright』の下で提供されます。

- なし - 地理背景が非表示になります。ただし、地理参照データは残ります。詳細については、「スマートマップでのレイヤーの操作『140ページ の"Smart Map 上のレイヤーを扱う"参照』」を参照してください。

背景地図の設定

基本世界地図は既定の地理背景であり、設定は不要です。システムがインターネットにアクセスできる場合、追加の手順無しで、OpenStreetMaps をそのまま利用することもできます。

注意： ユーザーが地理背景として OpenStreetMaps を使用できないようにする場合は、 **【設定】** をクリックし、**【OpenStreetMap 地理背景】** オプションで **【使用不可】** を選択すると、サービスを利用不可にできます。背景地図として利用できないようにした場合、XProtect Smart Client は Smart Map のオプションとしてそれを表示しなくなります。デフォルトでは、利用可能になっています。

ただし、Bing Map と Google Map の使用には、条件があります。Bing Map や Google Map を使用するためには、以下の内容を行う必要があります：

1. システム管理者が、Bing Map キー、またはプロファイル用の Google Map プライベート暗号鍵と Management Client のクライアント ID を Smart Client に入力する必要があります。Bing Map と Google Map の背景地図は、管理者が上記の内容を行った後にのみ、XProtect Smart Client から利用することができます。
2. Google Map または Bing Map のアカウントを使って、Bing Map 用のキー、または Google Map API 用のクライアント ID とプライベートキーを作成または購入してください。詳細な情報については、本トピックの「Google Map API と Bing Map 用のプランを選定する」のセクションをご覧ください。

注意： システム管理者が、プロファイル用に Management Client キーを Smart Client に入力すると、そのプロファイルに割り当てられたすべてのユーザーがそのキーを使うことができますようになります。別のキーを使いたい場合、Smart Client で **オプションダイアログボックス** に入力することができます。これには、システム管理者が Management Client キーをロックしていないこと、また、**フェローサーバー** のチェックボックスが Smart Client で選択されていない必要があります。Smart Client のキーは、あなたのユーザーアカウントに関連付けられており、あなただけが使用することになります。

Smart Client に Bing Map キーを入力したら、変更を反映させるためにビューを再度読み込む必要があります。別のビューを選択して現在のビューに戻るか、**ビューを再度読み込む** をクリックすることにより、ビューを再度読み込むことができます。

Google Map API と Bing Map API のプランを選定します

Bing Map や Google Map は、それぞれの API について異なる利用プランを提供しています。プランを選定するときは、地図をどの程度利用するかを考慮することが重要です。

Bing Map はベーシックキーやエンタープライズキーを提供しており、Google Map はスタンダードやプレミアムプランを提供しています。Bing Map 用のベーシックキーは無料ですが、処理が支払い可能になるまでまたは地図へのアクセスが拒否されるまで、限られた数のトランザクションしか許可されていません。プレミアムキーとエンタープライズキーは無料ではないものの、トランザクションを無制限に実行できます。

XProtect Smart Client で Bing Map または Google Map を利用する場合、Milestone は以下をお勧めします：

- Bing マップではエンタープライズキーを購入してください。ベーシックキーを使うことも可能ですが、利用に制限があるという事を覚えておいてください。

Google Map については、Google Static Map API 用にプレミアムプランを購入する必要があります。詳細な情報については、以下のウェブサイトをご覧ください：

- Bing Maps 『<https://www.microsoft.com/maps/Licensing/licensing.aspx>』

- Google Maps Developer Console
『<https://developers.google.com/maps/pricing-and-plans/>』

Bing Map キー、または Google Map キーまたは、Management Client のクライアント ID を入力します

Smart Client プロファイルに入力することにより、複数のユーザーがそのキーを利用可能になります。そのプロファイルに割り当てられたすべてのユーザーが、このキーを使用することになります。

ヒント : Management Client にコピーできる形式でキーを保管しておくことをお勧めします。

Smart Client プロファイルにキーを入力するには、以下の手順に従ってください :

1. Management Client のサイト・ナビゲーションペインで、**Smart Client** プロファイルをクリックします。
2. プロパティペインで、Smart Client プロファイルを選択し、**スマートマップ**タブをクリックします。
 - Bing Map については、**Bing Map** キーフィールドに貴方のキーを入力します。
 - Google Map については、**Google Maps** 用のクライアント ID と **Google Map** 用のプライベートキーフィールドに、プレミアムプランについて受け取った情報を入力します。

Bing Maps キーを入力するか、Google Map プライベートキーとクライアント ID を XProtect Smart Client に入力します。

割り当てられた Smart Client プロファイルのキーではない、異なるキーを使いたい場合は、XProtect Smart Client にキーを入力することができます。XProtect Smart Client にキーを入力すると、あなたのユーザーアカウントに関連付けられており、あなただけが使用することになります。

ヒント : XProtect Smart Client にコピーできる形式でキーを保管しておくことをお勧めします。

XProtect Smart Client で Bing Map または Google Map 用のキーを提供する場合、以下の手順に従ってください :

1. ワークスペースの右上の隅にある  **設定** をクリックします。
2. 設定ウィンドウのナビゲーション・ペインで、**Smart Map** をクリックします。
3. 利用したい地図により、以下のいずれかを行ってください :
 - Bing Map については、**Bing Map** キーフィールドに貴方のキーを入力します。
 - Google Map については、**Google Maps** 用のクライアント ID と **Google Map** 用のプライベートキーフィールドに、プレミアムプランについて受け取った情報を入力します。

ビューにスマートマップを追加する

スマートマップの使用を開始するには、ビューにスマートマップを追加します。デフォルトでは、基本的な世界地図が表示されます。スマートマップを追加すると、地理的背景を変更できます。詳細については、地理的背景の概要 『129ページ の"背景地図入門"参照』を参照してください。

ビューにスマートマップを追加するには、次の手順に従います。

1. **【ライブ】**タブまたは**【再生】**タブで、スマートマップを追加するビューを選択して、**【設定】**をクリックします。

2. **【システム概要】**ペインを展開し、ビューにスマートマップアイテムをドラッグします。

スマートマップの地理的背景を変更する

※本機は、スマートマップには対応していません。

スマートマップをビューに追加すると、デフォルトで基本的な世界地図が表示されます。スマートマップの追加後は、必要に応じて、別の地理的背景を選択することができます。

注:地理的背景を変更するとすべてのビューに適用されます。そのスマートマップを表示しているすべてのユーザーは、次回ログインすると新しい背景が表示されます。

地理的背景を変更するには、次の手順に従います。

1. スマートマップを含むビューを選択し、**【設定】**をクリックします。
2. ツールバーで  **【オーバーレイの表示または非表示】**をクリックします。
3. **【地理的背景】**で背景を選択します。

注:Bing マップおよびグーグルマップは、システム管理者が設定した場合に限り使用できます。詳細については、地理的背景の概要 『129ページ の"背景地図入門"参照』を参照してください。

Smart Map 上の詳細レベルを上げるため、カスタムオーバーレイを利用します

XProtect Smart Client の Smart Map で、カスタムオーバーレイとして以下の種類のファイルを累加することができます：

- **シェープファイル** - この形式は、壁、道路、または川や池などの地理的特徴などの地図上の物体を表す特性や、点、線、多角形などの地形空間的ベクトルデータを含むことができます。例えば、拡大縮小がしやすく、CAD 図面またはビットマップ画像よりもファイルのサイズが小さいので、都市計画や事務所などは、よくシェープファイルを利用します。
- **CAD** - コンピュータ支援設計（CAD）図面は、シェープファイルのように、座標系や空間参照を使って正確な地理コンテキストを提供することができるので、Smart Map のオーバーレイとして便利です。例えば、あるロケーションの詳細な航空地図または道路地図を使うことができます。
- **画像** - 建物の間取り図などの画像ファイルがある場合、Smart Map 上のオーバーレイとして追加することができます。以下の種類の画像ファイルを使うことができます：PNG、BMP、GIF、JPG、JPEG、PHG、TIF、および TIFF。

デフォルトでは、カスタムオーバーレイを追加すると、XProtect Smart Client が、地図上のオーバーレイを置いた場所にオーバーレイと同じ名前のロケーションを作成します。このことにより、特にズームアウト時に、オーバーレイを見つけやすくなります。ただし、そのオーバーレイとロケーションはリンクしていません。例えば、オーバーレイを変更せずにロケーションの削除や名前の変更をすることができ、その逆もできます。カスタムオーバーレイの追加時、ロケーションを自動的に作成したくない場合、この機能はオフにすることができます。オ

フにするには、 **設定**をクリックし、**レイヤー追加時にロケーションを作成するオプション**について、**いいえ**を選択します。

CAD 図面またはシェープファイルをカスタムオーバーレイとして使います

CAD 図面やシェープファイル（SHP）では、Smart Map に詳細を追加することができ、地理参照を含めることもできます。以下の表には、これらの種類のファイルを使う際の条件が記載されています。

ファイルの種類	要件
CAD	DWG または DXF ファイルを使う必要があります。
シェープファイル	シェープファイルは、対応するファイル群を参照します。対応ファイルは、SHP と同じディレクトリに保管し、ファイル名には同じプレフィックスが必要です。例えば、SHP ファイルの名前が「MAP1.shp」の場合、SHX ファイルの名前は「MAP1.shx」でなければいけません。 必要とされる対応ファイルは、SHP、SHX、と DBF です。 注意： 大きいファイルや複雑なファイル（線や多角形が沢山あるものなど）を初めて追加する際は、Smart Map への読み込みに数秒かかる場合があります。また、一定レベルのズームを使って新しいエリアを閲覧するときは、多少遅く感じる場合があります。ただし、その後はシステムが形を覚え、Smart Map はより速くオーバーレイを表示します。

CAD 図面またはシェープファイルを地理的ロケーションに位置させます

XProtect Smart Client は、空間参照を提供すると、Bing Map、Google Map、OpenStreetMap、Basic 世界地図で CAD 図面やシェープファイルを地理的に位置させることができます。CAD 図面やシェープファイルは、空間参照なしでも利用できますが、背景地図にはマニュアルで位置させる必要があります。

シェープファイルまたは CAD 図面の空間参照は、以下の方法で行ってください：

- 空間参照を含む投影ファイル（PRJ）。シェープファイルについては、PRJ ファイルは通常対応ファイルとして含まれています。ただし、CAD 図面については、異なる場合もあります。シェープファイルについて、PRJ は SHP ファイルと同じディレクトリにある必要があり、CAD 図面については DWG または DXF ファイルでなければならない、ファイル名はそれぞれ同じプレフィックスでなければならない
- データセットで使用されている座標系およびプロジェクションに関連付けられている SRID コードを入力することができます。XProtect Smart Client は、そのコードを使って Smart Map 上に図面を位置させます。

注意： SRID コードは、EPSG や Esri などの組織が割り当てます。これらのコードは、地理的座標や地球上のあるエリアまたは地球全体に関する投影情報を含む PRJ ファイルに関連付けられます。例えば、パリを含んだフランスのエリアの EPSG コードは、3949 です。一つの地域を範囲とした SRID コードは、同じ組織または別の組織によるものが一つ以上ある場合があります。PRJ ファイルがない場合、自分のデータセットに関連付けられた座標参照系用の SRID コードを知っておくことが重要です。そうでない場合、フランスの図面は、スウェーデンに位置してしまう場合があります。

図面やシェープファイルの SRID コードがわからない場合で、PRJ ファイルがない場合は、ファイルの入手先に連絡して情報を入手捨ててください。

Smart Map 上の背景地図を変更する。

デフォルトでは、Smart Map をビューに追加したときに、Basic world map の背景地図が表示されます。Smart Map を追加すると、希望する場合は、異なる背景地図を選択することができます。

注意：背景地図を変更すると、全てのビューに適用されます。Smart Map を使う人は皆、次にビューを表示したときに、新しい背景を見ることになります。

背景地図を変更するには、以下の手順に従ってください：

1. Smart Map が含まれるビューを選択します。
2. ツールバーで、 レイヤーやカスタムオーバーレイを表示または非表示にするをクリックします。
3. 背景地図で、背景と表示したい詳細情報を選択します。例えば、地形に関する情報を閲覧したい場合は、**地形**を選択します。道路を見たいときは、**道路**を選択します。

注意：Bing Map と Google Map の背景地図は、システム管理者が設定を行った場合にのみ利用が可能です。詳細な情報については、背景地図入門 『129ページ』をご覧ください。

OpenStreetMap タイルサーバーの変更

スマートマップの地理的背景として OpenStreetMap を使用する場合は、タイル化された画像を取得する場所を変更することができます。地図はタイル化された画像で構成されます。これはタイルサーバーのアドレスを変更することにより実行できます。例えばご自分の組織に空港や港などの地図があれば、これでローカルタイルサーバーを使用できます。ローカルサーバーの使用とは XProtectSmart Client がインターネットアクセスなしに地図画像を取得できることを意味します。

また商用タイルサーバーも使用できます。Milestone は OpenStreetMap 用のタイルサーバーソリューションを提供していません。

タイルサーバーのアドレスは以下の2つの方法で指定できます。

- Management Client では - タイルサーバーのアドレスを Smart Client プロファイルで設定します。サーバーのアドレスは、各 Smart Client プロファイルに割り当てられるすべての Smart Client ユーザーに適用されます。
- XProtect Smart Client では - タイルサーバーのアドレスを設定ダイアログ 『134ページ』の "OpenStreetMap タイルサーバーの変更"参照』で設定します。サーバーのアドレスは、その Smart Client のインストールに適用されます。

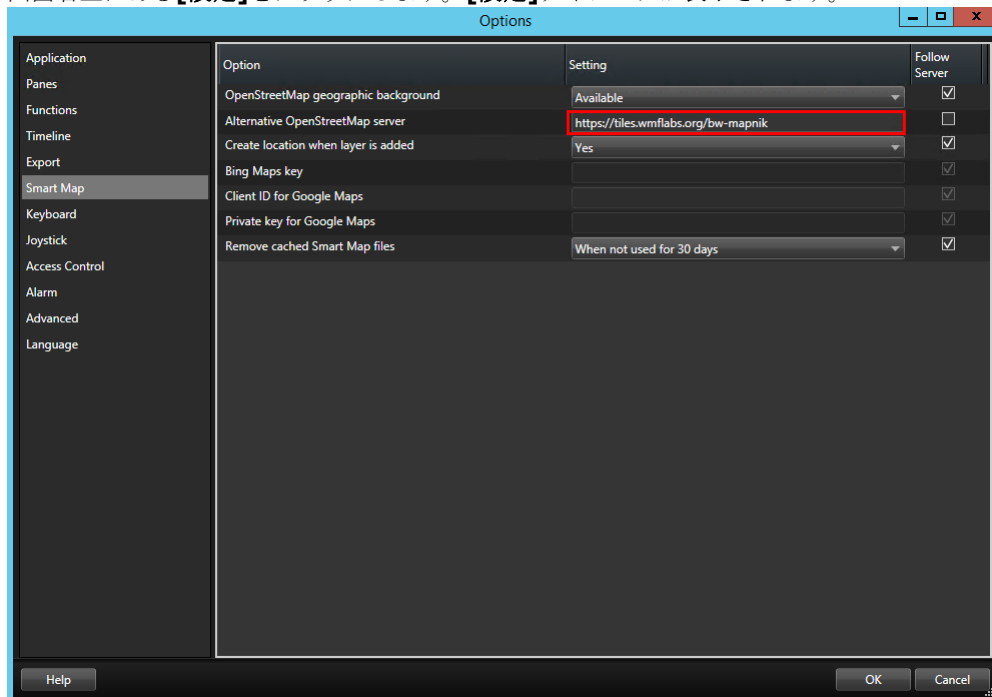
OpenStreetMap タイルサーバーの変更

ユーザープロファイルの種類に応じて、構成で指定した標準サーバー以外にも、OpenStreetMap 用に別のタイルサーバーを指定できます。たとえば、video management software がインターネットに接続されていない場合は、ローカルサーバーを使用できます。または、商用サーバーの使用も可能です。

前提条件：構成で指定されたタイルサーバーが編集用にロックされている場合は、XProtect Smart Client でフィールドがグレイアウトされ、サーバーを変更できなくなります。Management Client の Smart Client プロファイルで機能を有効にする際、不明な点があればシステム管理者に連絡してください。

手順：

1. 画面右上にある**【設定】**をクリックします。**【設定】**ダイアログが表示されます。



2. 左側のセクションで**【スマートマップ】**をクリックします。
3. **【代替 OpenStreetMap タイルサーバー】**フィールドで、サーバーアドレスを入力します。フィールドがグレイアウトされているときは、フィールドは構成でロックされています。
または
構成で指定されたサーバーを使用するには、**【サーバーに従う】**チェックボックスをオンにします。
4. **【OK】** をクリックします。地理的背景を変更します。

タイルサーバーの変更についてさらに詳しくは、OpenStreetMap タイルサーバーの変更 『134ページ』を参照してください。

Smart Map でカスタムオーバーレイを追加または削除します

カスタムオーバーレイを追加することにより、Smart Map の詳細レベルを上げます。

カスタムオーバーレイを追加すると、XProtect Smart Client は、そのオーバーレイと同じ名前のロケーションを作成します。このことにより、特にズームアウト時に、オーバーレイを見つけやすくなります。詳細な情報については、Smart Map で詳細レベルを上げるためカスタムオーバーレイを使用する 『132ページ の"Smart Map 上の詳細レベルを上げるため、カスタムオーバーレイを利用します"参照』をご覧ください。

カスタムオーバーレイを追加するには、以下の手順に従ってください：

1. Smart Map が含まれるビューを選択し、**セットアップ**をクリックします。
2.  **カスタムオーバーレイを追加**をクリックし、以下のいずれかを行います。
 - 追加するオーバーレイが地理参照されている場合、Smart Map の任意のロケーションをクリックします。XProtect Smart Client は、地理参照情報を使って、オーバーレイを正しい地理的ロケーショ

ンに位置させます。また、**Smart Map** は、デフォルトのズームレベルでオーバーレイを中心に位置させます。

- 追加するオーバーレイが地理参照されていない場合、地図上のエレメントを追加したい位置いき、**Smart Map** 上の点をクリックします。

ヒント：オーバーレイを追加する前に、地図上の希望するロケーションにズームインしておくことをお勧めします。そうすることにより、オーバーレイを正確に位置させやすくなります。

3. オーバーレイの名前を入力し、ファイルの種類を選択して追加します。

4. 選択する内容により、以下を行ってください：

- **画像** - 画像ファイルを選択し、**OK** をクリックします。
- **シェープファイル** - SHP ファイルを選択します。PRJ ファイルがある場合、XProtect Smart Client が見つけるので、**OK** をクリックするのみで結構です。PRJ がいない場合、追加後に、マニュアルでオーバーレイの位置を変更することができます。また、色を適用することもできます。例えば、色を追加することにより、**Smart Map** 上のシェープファイルをより目立たせることができます。
- **CAD** - DWG ファイルを選択します。PRJ がある場合、**OK** をクリックします。PRJ ファイルがない場合で、地理参照を使って **Smart Map** 上にファイルを位置させたい場合、空間参照系識別子 (SRID) を入力し、**OK** をクリックします。PRJ ファイルまたは SRID がいない場合、追加後に、マニュアルでオーバーレイの位置を変更することができます。

注意：SRID に関する詳細な情報については、**Smart Map** で詳細レベルを上げるためカスタムオーバーレイを使用する『132ページ の"Smart Map 上の詳細レベルを上げるため、カスタムオーバーレイを利用します"参照』をご覧ください。

5. **保存**をクリックします。

カスタムオーバーレイの位置、サイズ、または配置を調整します

オーバーレイは、地図上の別の位置に移動、拡大または縮小、回転させることができます。これは例えば、オーバーレイが地理参照されていない場合や、オーバーレイが地理参照されているのに何らかの理由で背景地図ときれいに揃わない場合に、便利です。

カスタムオーバーレイの位置またはアラインメントを調整するには、以下の手順に従ってください：

1. **Smart Map** が含まれるビューを選択し、**セットアップ**をクリックします。
2. オーバーレイを右クリックし、**位置を編集**を選択します。
3. 以下のいずれかを行ってください：
 - オーバーレイをサイズ変更または回転させる場合、隅のハンドルをクリック & ドラッグします
 - 地図上のオーバーレイを移動させる場合、オーバーレイをクリック & ドラッグします

ヒント：ピボット点を使って、背景地図上のオーバーレイの配置を調整します。例えば、建物が、オーバーレイ中の右上の角に位置している場合、背景地図上の画像にある建物をおおまかに調節してから建物にピボット点を置くことにより、その建物にオーバーレイを固定することができます。その後、オーバーレイの回転やサイズ変更を行い、背景地図上の他の点と揃えることができます。

4. 変更を保存するには、**保存**をクリックします。

カスタムオーバーレイを削除する

カスタムオーバーレイを削除するには、以下の手順に従ってください：

1. Smart Map が含まれるビューを選択し、**セットアップ**をクリックします。
2. ツールバーで、 **デフォルトの設定を管理する**をクリックします。
3. ポインターをカスタムオーバーレイ上に移動し、**削除**をクリックします。
4. **保存**をクリックすると、カスタムオーバーレイが削除されます。
5. オプション：カスタムオーバーレイ用のロケーションが作成されていた場合、これも削除してください。詳細な情報については、**Smart Map** 上のロケーションを追加、編集または削除する『139ページ』をご覧ください。

ヒント：削除をクリックした後でやはりオーバーレイを保持したい場合は、変更を保存する前に、**削除をキャンセル**をクリックすることができます。

Smart Map にカメラを追加して視界を変える

実際の位置の **Smart Map** にカメラを追加することができます。カメラを追加することにより、監視システムの概要をつかむことができ、異常事態への対応も早めることができます。例えば、発生中の事件について容疑者を追跡したい場合、地図上のカメラをクリックして映像を確認することができます。

Smart Map にカメラを追加すると、全てのカメラが同じレイヤーに含まれます。

Smart Map にカメラを追加した後は、カメラアイコンの視界を調整することにより、実際のカメラの視界を反映させることができます。こうすることにより、特定地域を監視しているカメラを探しやすくなります。更に、アイコンを選択して地図上のカメラを示すことにより、地図上のカメラの種類を特定しやすくなります。

Smart Map にカメラを追加する

1. Smart Map が含まれるビューを選択し、**セットアップ**をクリックします。
2. 1 台以上のカメラを追加するには、以下のいずれかを行ってください：
 - ヒント：**カメラを追加する前に、地図上のロケーションにズームインしておくことをお勧めします。こうすることにより、カメラを正確に位置させやすくなります。
 - **システムの概要**ウィンドウを大きくしてカメラまたはカメラ群を探し、**Smart Map** 上の表示させたい点までドラッグします。後からカメラをドラッグして位置を変更することができます。
 - **Smart Map** ツールバーで、 **カメラを追加**をクリックし、カメラを選択します。
1. 変更を保存するには、**セットアップ**をクリックしてセットアップモードを終了します。

カメラアイコンの視界をカメラの実際の視界と合わせる

地図上でズームアウトしていて、カメラの視界を変更したい場合は、視界が表示されるまでズームインする必要があります。

1. 作業を行いたい **Smart Map** が含まれるビューを選択します。
2.  カメラアイコンをクリックします。

3. 回転ハンドルを使って、カメラを正しい方向に向けます。
4. 視界の幅、長さ、角度を調整する場合、視界の先端にあるハンドルをクリック&ドラッグします。
5. 変更を保存するには、**セットアップ**をクリックし、セットアップモードを終了します。

カメラ用のアイコンを選択または変更する

1. 作業を行いたい Smart Map が含まれるビューを選択します。
2. **セットアップ**をクリックし、地図上の  カメラアイコンをダブルクリックします。
3. **アイコンを選ぶ**をクリックし、カメラ用のアイコンを選択します。
4. ウィンドウを閉じて選択を保存するには、ウィンドウの外をクリックします。

カメラに関する情報を表示または非表示にする

Smart Map 上のカメラに関する情報を表示または非表示にすることができます。これは例えば、地図上のコンテンツを増やしたり減らしたりしたいときに便利です。

1. 作業を行いたい Smart Map が含まれるビューを選択します。
2.  **レイヤーやカスタムオーバーレイの表示または非表示**をクリックし、情報の表示または非表示に関するチェックボックスをオンまたはオフにします。

スマートマップからのカメラの削除

システムで定義された全カメラは、スマートマップに表示されます。カメラの位置を変更することはできますが、カメラそのものを削除することはできません。

カメラの位置が Management Client で指定されていない場合は、カメラはスマートマップに表示されません。

スマートマップのリンクを追加または削除する

スマートマップ上の場所に移動したり、マップに移動するリンクを追加したりできます。これにより、迅速に場所にアクセスしたり、別のビューに変更することなくマップの別のタイプを表示したりすることができます。

注:リンク可能なマップは、XProtect Smart Client の複数のリリースで利用できるスタティックマップです。別のスマートマップに移動するリンクを追加することはできません。詳細については、XProtect Smart Client のマップおよびスマートマップ機能について『129ページ の"マップとスマートマップ（説明付き）"参照』を参照してください。

リンクでは次のように場所とマップが表示されます。

- 場所へのリンクでは、現在のビュー内の場所が表示されます。以前表示した場所に戻るには、スマートマップのツールバーにある  **【戻る】**をクリックします。
- マップへのリンクでは、フローティングウィンドウにマップが表示されます。これは、両方のタイプのマップに同時にアクセスすることができます。フローティングウィンドウでは、マップを表示して操作できるものの、カメラの追加などの変更を行うことはできません。

スマートマップの場所またはマップにリンクを追加する

スマートマップの場所またはマップにリンクするには、次の手順に従います。

1. スマートマップを含むビューを選択し、**【設定】**をクリックします。
2. リンクを追加するマップ上のポイントに移動します。
3. マップツールバーで、 **【リンクの追加】**をクリックして、リンクさせたいマップ上のポイントをクリックします。
4. スマートマップの場所またはマップにリンクするかどうかを指定し、**【追加】**をクリックします。
5. リンクの名前を入力します。

ヒント:表示スタイルとして**【アイコンとテキスト】**を選択した場合は、スマートマップ上のリンクのタイトルを表示できます。通常、名前によりリンク先が示されます。

リンクの名前の変更を元に戻す場合は、**CTRL+Z**を押します。

6. **【宛先】**フィールドでリンク先のマップまたは場所を選択します。
7. **【表示スタイル】**フィールドでは、名前とリンクアイコンを表示するか、マップ上のリンクアイコンのみを表示するかを指定します。
8. **オプション:**リンクを色分けしたり、マップ上でより見やすくする必要がある場合は、リンクの色を指定できます。デフォルトでは、スマートマップの場所へのリンクは青で、従来のマップへのリンクは赤です。他の色を使用する場合は、リンクのタイプごとに同色を使用することをお勧めします。同色を使用することで、レイヤーを使用してマップ上のアイテムをフィルターする場合にリンクの区別がより簡単になります。

スマートマップのリンクを編集または削除する

リンクの設定を変更したり、リンクを削除したりするには、セットアップモードにする必要があります。セットアップモードでリンクを右クリックして、**【リンクを編集】**または**【リンクを削除】**を選択します。リンクを選択して、DELETE キーを押す方法でも、リンクを削除できます。

Smart Map 上のロケーションを追加、編集または削除する

興味のある Smart Map 上の点にロケーションを作成することができます。例えば、個人事務所やサテライトオフィスのロケーションを作成することができます。これらのロケーションは、その環境に関する全容を伝えるだけでなく、Smart Map 内のナビゲートにも役立ちます。詳細な情報については、Smart Map をもっと知る『142 ページ』の「スマートマップをもっと知る」参照』をご覧ください。

注意：カスタムオーバーレイを追加すると、XProtect Smart Client がオーバーレイと同じ名前のロケーションを追加します。このことにより、例えば、ズームアウト時に、Smart Map 上のオーバーレイに行きやすくなります。ただし、オーバーレイとロケーションは、リンクしていません。例えば、オーバーレイを変更せずに、ロケーションの名前を変更したり削除したりすることができ、またその逆もできます。

Smart Map にロケーションを追加する場合、以下の手順に従ってください：

1. Smart Map が含まれるビューを選択し、**セットアップ**をクリックします。
2. 必要な場合、Smart Map 上のロケーションを追加したい点に、パンまたはズームインします。
3. ツールバーで、 **ロケーションを追加**をクリックし、Smart Map 上の点をクリックします。

4. そのロケーションに名前を付けて、必要に応じて以下の詳細を追加します：

- 誰かが **Smart Map** 上の該当ロケーションに行った時に適用するズームレベルを指定します。
- ロケーションアイコン用の色を選択します。ロケーションの色分けは、例えば、ロケーションの種類を見分ける際に便利です。これは、ロケーションの機能や種類、または優先度を示す基準となります。
- オプション：ロケーションをあなたのホームロケーションにする。🏠 **ホーム**をクリックすると、**Smart Map** は、このロケーションを中心としてデフォルトのズームレベル設定を適用します。

ロケーションについて

ホームロケーションは、設定された表示項目特有のものです。別の表示項目では別のホームロケーションを持つことができます。表示項目に対するホームロケーションが指定されていない場合は、**Milestone** 世界地図が表示されます。

Smart Map での作業時は、🏠 **ホーム**をクリックしてホームロケーションに戻ることができます。これは、ビュー中の **Smart Map** のリセットと同様です。表示項目のデフォルト設定に戻ると、システムにより、閲覧したロケーションの履歴は削除されます。

注意：新しいホームロケーションを選択した場合、表示項目を使用する全員が影響を受けます。誰かが別のロケーションをホームとして設定していた場合、その人の設定を変更することになります。

ロケーションを編集または削除する

ロケーションの設定を変更する場合、またはロケーションを削除する場合は、セットアップモードで行う必要があります。セットアップモードで、該当するロケーションを右クリックし、**ロケーションを編集**または、**ロケーションを削除**を選択します。ロケーションを削除する場合、単にロケーションを選択して、キーボード上の **DELETE** キーを押すこともできます。

ホームロケーションを削除すると、次に誰かがビューを表示した時、または🏠 **ホーム**をクリックした時、背景地図がズームアウトし世界地図が表示されます。

Smart Map 上のレイヤーを扱う

Smart Map が表示する情報にフィルターをかける際は、レイヤーを利用します。**Smart Map** には、3種類のレイヤーがあります：

- **システムエレメント** - カメラ、リンク、ロケーションが含まれます。
- **カスタムオーバーレイ** - ビットマップ画像、CAD 図面、シェープファイル。
- **背景地図** - Basic world map、Bing Maps（ビングマップ）、Google Maps（グーグルマップ）、または OpenStreetMap（オープンストリートマップ）。

注意：Bing Map や Google Maps は、該当するシステム管理者が **Management Client** で許可している場合にのみ、背景地図として利用することができます。詳細な情報については、背景地図のレイヤー入門 『129ページの"背景地図入門"参照』をご覧ください。

レイヤーの順番を整理する

同じ種類のシステムエレメントは全て、同じレイヤーにあります。例えば、カメラは全て、同じレイヤーにあります。つまり、カメラのレイヤーを非表示にすると、全てのカメラが非表示になるということです。上から順に、システムエレメントのレイヤーは、次の順に配列されています：ロケーション、カメラ、リンク、背景地図。この順番を変更することはできません。

背景地図は、**Smart Map** 中で常に最下のレイヤーに位置しています。異なる背景地図同士を切り替えることはできますが、一度に 1 つの背景地図しか選択することはできません。

カスタムオーバーレイは、個別のレイヤーとして追加され、**Smart Map** に追加された順にスタックされます。地図のデフォルト設定を構成して順番を変更してください。詳細な情報については、**Smart Map** のデフォルト設定を管理するをご覧ください。

例

都市計画では、各市境を示すシェープファイルと市内の全ての主要道路を含むシェープファイルがあります。この計画では、レイヤーの順番を整理することにより、道路が市境の上に表示されるようにすることができます。こうすることにより、市内のどこにカメラがあるかを把握することができ、また、ズームインして特定のカメラが配置されている道の名前を閲覧することができます。

Smart Map 上のレイヤーを表示または非表示にする

背景地図を含め、**Smart Map** 上のレイヤーを表示または非表示にすることができます。これは例えば、特定の要素に集中したいときや、**Smart Map** が表示するコンテンツを簡略化したいときに便利です。

- レイヤーを表示または非表示にする場合、ツールバーで、 **レイヤーやカスタムオーバーレイを表示または非表示にする**をクリックし、以下のいずれかを行ってください
 - システム要素やカスタムオーバーレイを表示または非表示にする場合、チェックボックスをオンまたはオフにします
 - 背景地図を非表示にする場合、**なし**を選択します。

注意：なしを選択すると、背景地図が非表示になりますが、地理参照は引き続き **Smart Map** に適用されます。例えば、空間参照が含まれる新しいシェープファイルを追加した場合、システムは引き続き空間参照を使って地図上にファイルを位置させます。

スマートマップの既定の設定の管理

スマートマップをビューに追加し、オーバーレイ、カメラ、リンクを追加した後、スマートマップの既定の設定を指定できます。また、オーバーレイを削除して、項目を消去できます。

既定の設定の内容：

- 1 つ以上のカスタムオーバーレイを表示するか、または非表示にするか。
- カスタムオーバーレイが表示される順序（上から下）。リストの最初のカスタムオーバーレイは順序で最高です。たとえば、オーバーレイを積み上げ、建物のレベルを再表示ときには順序が有用です。

スマートマップからのカスタムオーバーレイの削除 **Smart Map** の既定の設定を管理する場合、以下の手順に従ってください：

1. **【設定】** をクリックしてから、 **【既定の設定の管理】** をクリックします。
2. 以下のいずれかを行ってください：
 - オーバーレイを表示または非表示にする場合、チェックボックスをオンまたはオフにします
 - 順序を再度並べ替えるには、オーバーレイの前のドラッグハンドルを使用し、リストの新しい位置にドラッグします。レイヤーはリストの上から下に並べられます。
 - オーバーレイを削除するには、ポインターをオーバーレイ上に移動し、削除をクリックします。

スマートマップをもっと知る

カメラの位置を知り、表示中の画像をプレビューして、別のロケーションと切り替えながら巡回します。

カメラの生の映像をプレビューする

スマートマップ上のカメラ映像をプレビューし、調査することができます。同時に1台以上のカメラ映像をプレビューすることができます。詳細な情報については、スマートマップ上のカメラ映像をプレビュー 『143ページの"Smart Map 上のカメラの映像をプレビューする"参照』をご覧ください。

ズームイン&ズームアウト

複数の方法で、地図のズームイン&ズームアウトをすることができます：

- マウスのスクロールホイールを使用、または右または左ボタンをダブルクリックします
- SHIFT キーを押しながら、ポインターをドラッグして地図上のエリアを選択します。地図にズームインして、選択した場所が中心に移動します

注：ズームの能力は強力で、近くまでズームインすることができます。例えば、一部屋でビュー全体を埋めることができます。ただし、Bing Map、Google Maps、または OpenStreetMap の背景地図では、そこまでの画像を提供することができない場合があります。この場合、表示項目は背景地図の表示を停止します カメラまたはシェプファイル画像などの他のレイヤーには、引き続き表示されます。地理的背景を再度表示するには、ズームアウトします。

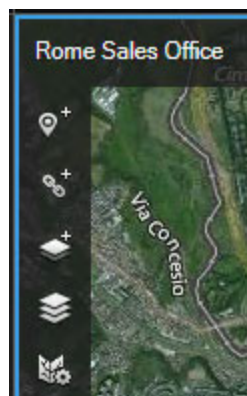
スマートマップ上で複数のカメラが近くに存在する場合は、カメラはそれぞれ異なる領域をカバーするアイコンにグループ化されます。たとえば、このアイコン  はこの領域に 6,001 台のカメラがあることを意味します。拡大すると、アイコンが複数のアイコンに分割し、特定のズームレベルに応じて、カメラのグループされている状態やスマートマップ全体に分散する状態が画面に反映されます。縮小すると、グループ化されているアイコンの数が減り、グループそのものの数が増大します。

スマートマップの新しいエリアにパンする

パンするには、希望の方向にスマートマップをドラッグします。パンする際、ズームイン&ズームアウトすることにより、表示する距離を調整します。

別のスマートマップロケーションに移動する

スマートマップの別のロケーションに移動するには、表示項目の左上の隅にあるドロップダウンリストから、該当するロケーションを選択します。リストには、最後に選択したロケーションの名前が表示されます。以下の画像の場合、現在閲覧しているロケーションは Rome Sales Office です。



以前のロケーションに戻りする

ドロップダウンリストの使用またはロケーションをクリックすることにより場所を移動した場合、XProtect Smart Client には閲覧したロケーションの履歴が保存されます。従って、 **戻る**をクリックすると、後戻りすることができます。履歴は、クリックするロケーションに基づいています。つまり、ロケーションをクリックせずにパンのみ行った場合、そのロケーションは履歴に追加されません。

後戻りすると、XProtect Smart Client がたった今閲覧したロケーションを履歴から取り除きます。履歴には、前進移動のみが含まれます。

ビューを去ると、システムにより履歴はクリアされます。

他のロケーションへリンクする

例えば、異なるロケーション同士を結ぶリンクを作成することにより、巡回経路を作成することができます。ロケーション A からロケーション B へのリンクを作り、ロケーション B からロケーション C へのリンクを作る、といった具合にリンクを作成します。詳細については、スマートマップのリンクを追加または削除する『138ページ』を参照してください。

Smart Map 上のカメラの映像をプレビューする

Smart Map 上の 1 台以上のカメラ映像を、一時プレビューウィンドウで閲覧、またはカメラを一時的に表示項目に追加することができます。別のビューに変更すると、システムにより、プレビューが閉じ、または表示項目での映像表示が停止します。また、映像を表示項目でプレビューした場合、その映像はそのユーザーのみに表示されますが、他のユーザーもアクセスすることは可能です。

一時ウィンドウは、外をクリックすると閉じます。ただし、ウィンドウの中をクリックした場合や、移動または大きさを変更した場合は、フローティングウィンドウとなり、ユーザーが閉じるまで表示されます。フローティングウィンドウは、映像を再生して調査を行いたい場合に便利です。

Smart Map 上のカメラ映像をプレビューする場合、以下の手順に従ってください：

- プレビューウィンドウで 1 台のカメラ映像を閲覧するには、カメラアイコンを右クリックし、**ライブプレビュー**を選択します。映像を別の表示項目でプレビューするには、カメラアイコンを、地図から表示項目へクリック&ドラッグします。
- 1 台以上のカメラ映像をプレビューウィンドウで閲覧するには、以下のいずれかを行ってください：
 - CTRL キーを押しながらカメラを選択し、カメラアイコンを右クリックして**ライブプレビュー**を選択します。映像を表示項目でプレビューするには、カメラアイコンを、ビュー中のいずれかの表示項目にクリック&ドラッグします。

注意：各カメラは、システムにより表示項目ごとに割り当てられているので、ビュー中の表示項目の数は、選択するカメラの数と同じまたはそれ以上である必要があります。

-  **複数のカメラを選択**をクリックし、Smart Map 上でクリック&ドラッグしてカメラを選択します。カメラを選択した後、キーボード上の ENTER を押します。
- カメラ群をダブルクリックします。グループ中、最大 25 台のカメラをプレビューすることができます。グループ中、1 台以上のカメラが選択されている場合、プレビューウィンドウには、選択されたカメラのみの映像が表示されます。カメラ群のアイコンは、グループ中、1 台以上のカメラが選択されているかどうかを示します。例えば  の画像は、1 台のカメラが選択された場合のグループを表示しています。

Smart Map を他者と共有する

Smart Wall をセットアップしている場合、他の人が閲覧できるように Smart Map を表示することができます。

Smart Map を Smart Wall で共有するには、以下のいずれかを行ってください：

- ビュー中の表示項目に Smart Wall の概要が含まれている場合、Smart Map 項目を概要のタイルにドラッグします。
- ビュー中の表示項目に Smart Wall の概要が含まれていない場合、Smart Map を右クリックし、**Smart Wall へ送信**を指し、Smart Wall を選択します。

Matrix

Matrix のコンテンツをビューに追加する機能は、特定の監視システム『13ページ の"監視システムの別の特徴" 参照』へ接続していないと使用できません。Matrix が使用できるのは、監視システムで Matrix が設定されていて、必要な権限がある場合だけです。

Matrix（説明付き）

Matrix は、任意の監視システムカメラからネットワーク上の任意のモニター（Matrix 受信モニターと呼ばれる）へビデオを配信する機能です。一般的な Matrix 設定では、たとえばモーションが検知された場合や別のユーザーが重要なライブ画像を共有する場合など、定義されているイベントが発生すると指定された Matrix 受信モニターにライブビデオが自動的に再生されます。Matrix が監視システムサーバーで設定されている場合に、Matrix のビューに XProtect Smart Client のコンテンツを含めることができます。特定のイベントが発生したり、別のユーザーがビデオを共有する場合、使用している Matrix のビューにライブビデオが自動的に表示されます。

Matrix のコンテンツの表示

Matrix の設定でどのイベントやカメラを使用するかは、監視システムサーバーMatrix 設定や他のユーザーが共有しようとしている内容によって決まります。XProtect Smart Client でこれを制御することはできません。ただし、Matrix のコンテンツを必要な数のビューの位置に追加することはできるので、複数の Matrix によりトリガされたソースからのライブビデオを同時に見ることが可能です。

Matrix 位置はツールバーの Matrix アイコンで表示されます：。Matrix をダブルクリックすると、最大化できます。

ビューに複数の Matrix 位置が含まれている場合があります。これによって、複数の Matrix によりトリガされたソースからのライブビデオを同時に見ることが可能です。複数の Matrix 位置がビューにある場合、それらの位置は、Matrix の一次ポジション、二次ポジション、というように必ず順位が付けられます。最初に Matrix でトリガされたライブビデオストリームが受信されると、Matrix の一次ポジションにそのライブビデオストリームが自動的に表示されます。次の Matrix でトリガーされたビデオストリームを受信すると、FIFO (First-In First-Out) 方式が適用され、その前に受信したビデオストリームを第二 Matrix ポジションへすばやく送信し、最新のビデオストリームをビューのメイン Matrix ポジションへ送ります。このように、受信した順に送信し、表示していきます。Matrix 位置のランクが自動的に適用されます。追加した最初の Matrix 位置が Matrix の一次位置となり、次に追加した位置は自動的に二次位置などとなります。この順位付けは設定モードで変更できます。Matrix のプロパティ『145ページ の"Matrix 設定"参照』を参照してください。

注:再生タブでは、Matrix の位置には何も表示しません。

Matrix 設定

設定モードで、プロパティ 『**101**ページ の"カメラ設定"参照』 ペインで、Matrix の位置の設定を指定できます。

名前	詳細
Window インデックス	別の番号を選択して、Matrix 位置のランキングを変更します。ビューの Matrix 位置数に対応する範囲にある番号のみを選択できます。 1 は最新のイベントのビデオが常に表示されるメイン位置です。 2 には以前に検出されたイベントのビデオが表示されます。 3 には位置 2 より前に検出されたイベントなどのビデオが表示されます。
接続設定...	TCP ポートとパスワードを指定し、Matrix でトリガされたビデオを監視サーバーから XProtect Smart Client ビューに転送できます。これは、Matrix 位置 1 が選択されている場合にのみ使用可能です。他の Matrix 位置は位置 1 に対して指定された接続設定を継承します。デフォルトでは、Matrix で使用する TCP ポートは 12345 です。使用するポート番号とパスワードについては、監視システムサーバー管理者にお問い合わせください。

ビューに Matrix のコンテンツを追加する

- 設定モードのシステム概要ペインで、Matrix のアイテムを、Matrix のコンテンツを追加するビューの位置へドラッグします。青い枠線が表示され、そのビューの位置に Matrix のコンテンツがあることを示します。
- Matrix の位置を選択すると、プロパティペインでプロパティを指定できます。

ライブビデオまたは録画ビデオを再生している場合、Matrix の位置(またはビュー内の他のカメラの位置)をダブルクリックして最大化することができます。最大化すると、選択している画質の設定に関係なく、Matrix の位置のカメラのビデオは、デフォルトで最高画質で表示されます。最大化した場合も選択した画質を適用する場合は、**最大画面で画質を保持**を選択します。

- 追加する Matrix のそれぞれの位置に対して、繰り返します。

手動で Matrix の受信コンピュータにビデオを送信する

ビデオをホットスポット 『**98**ページ の"ホットスポット (説明付き)"参照』 や画面自動切替 『**97**ページ の"画面自動切替 (説明付き)"参照』 に送信することはできません。

- ビューを選択します。
- カメラのツールバーで、**詳細 > Matrix** をクリックして、関連する Matrix の受信コンピュータを選択します。

マルチウィンドウ

この機能は選択した監視システムでのみ使用できます。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の XProtect 製品比較表を参照してください。 <http://www.milestonesys.com>。

XProtect Smart Client のメインウィンドウを背景に維持しながら、異なるウィンドウまたはディスプレイに個別のビューを送信できるので、複数のビューを同時に見ることができます。選択されたカメラまたはアイテムは常に青い境界線で表示されます。

ビューは、以下に送ることができます。

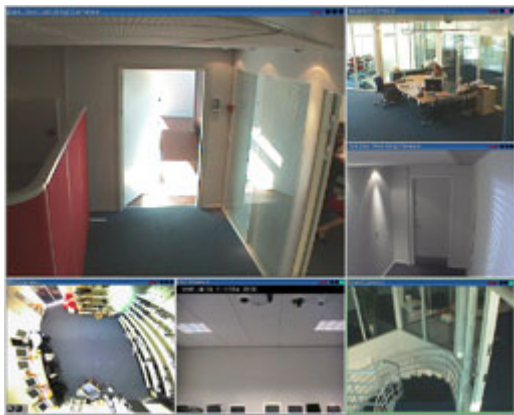
- コンピュータのメインディスプレイの個別のフル画面ウィンドウにビューと、その背景にメインウィンドウを表示するフルスクリーン。
- 別のモニター（ある場合）のフル画面ウィンドウにビューを表示するセカンダリディスプレイ。
- 別の小さなウィンドウにビューを表示するフローティングウィンドウ。必要に応じて、任意の数のフローティングウィンドウを使用したり、サイズを調整することができます。

プライマリ表示とセカンダリ表示では、タブとコントロールが非表示の状態でウィンドウがフル画面で表示されます。タブとコントロールを表示するには、**フル画面アイコン**をクリックします。 

フロートウィンドウには選択されたビューが表示され、**ライブ**および**再生**タブが表示されます。ドロップダウンボタンをクリックすると、ツールバーから新しいビューを選択できます。以下の**フル画面アイコン**をクリックすると、タブが非表示のフル画面フロートウィンドウと、タブのある小さいフロートウィンドウとを切り替えることができます。 。また、フロートウィンドウをメインウィンドウにリンクし、時間を同期するか、**ライブ**または**再生**タブに合わせるすることができます。。

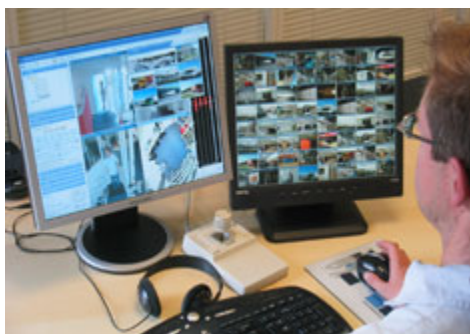
ビューの設定は XProtect Smart Client に保存されるので、次にログインする場合に再使用することができます。ただし、これは設定したコンピュータにしか当てはまりません。複数のコンピュータの XProtect Smart Client でマルチウィンドウを使用するには、コンピュータごとにマルチウィンドウを設定する必要があります。

プライマリディスプレイ



フルスクリーンへ送信されたビューの例です。別のフル画面ウィンドウを表示している間、メインの XProtect Smart Client ウィンドウはその後ろに隠れています。

セカンダリディスプレイ



セカンダリディスプレイに送られた 8×8 ビューの例です。この例では、メインの XProtect Smart Client ウィンドウは左側のディスプレイに表示されています。

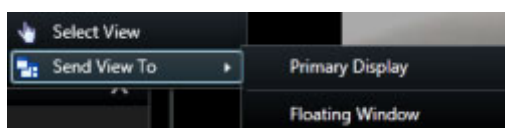
フローティングウィンドウ



フローティングウィンドウへ送信されたビューの例です。メインの XProtect Smart Client ウィンドウはフローティングウィンドウのすぐ後ろに隠れています。

ディスプレイ間でビューを送信する

1. ビューペインで、関連するビュー(あるいはカメラペインで、ビューにあるカメラ)を右クリックします。
2. ビューを分ける をクリックしてから、ビューを表示する場所を選択します。



さらに使用可能なセカンダリディスプレイがある場合は、番号が付けられます。

3. ウィンドウをリンクするをクリックし、メインビューのいずれかでフロートウィンドウでビューを同期します。フロートウィンドウをリンクする場合、対応するタイムラインはフロートウィンドウに表示されませんが、メインウィンドウのタイムラインに含まれます。
4. 別に開いているビューウィンドウを閉じるには、ウィンドウの右隅にある閉じるボタンをクリックしてください:



フルスクリーンまたはセカンダリディスプレイに送信されたビューのタイトルバーは非表示になります。タイトルバーを表示して、[閉じる]ボタンへアクセスするには、マウスをビューのトップへ移動させます。

ビューに含まれているホットスポット、画面自動切替、Matrix 位置、静止画像または HTML ページは、フローティングウィンドウで通常通り動作します。

よくある質問：マルチウィンドウ

セカンダリディスプレイはいくつまで使用できますか？

XProtect Smart Client では、制限はありません。ただし、使用できるセカンダリディスプレイの数は、ハードウェア(ディスプレイアダプタなど)や Windows のバージョンによって異なります。

プライマリディスプレイまたはセカンダリディスプレイに送信されたビューを閉じるボタンはどこにありますか？

表示エリアを最大化するため、フルスクリーンまたはセカンダリディスプレイに送信されたビューのタイトルバーは非表示になっています。タイトルバーを表示して、[閉じる]ボタンへアクセスするには、ビューの一番上へマウスポインタを移動させてください。

2つの異なるウィンドウで同じ画面自動切替が同期されていないのはなぜですか？

画面自動切替は、設定モードで設定した一定の間隔でカメラを切り替えます。例：10 秒間隔の場合、画面自動切替はカメラ 1 を 10 秒間、次にカメラ 2 を 10 秒間というように再生します。このタイミングは、画面自動切替を設定したビューの表示を始めるときに開始されます。後から別のビューで画面自動切替を表示し始めると、別のウィンドウや別のディスプレイであっても、その画面自動切替のインスタンスのタイミングが開始されます。このため画面自動切替が同期していないように見えます。実際には、画面自動切替の 2 つの別のインスタンスが表示されています。詳細については、画面自動切替のプロパティ 『98ページ の"自動切替設定"参照 』を参照してください。

調査と文書

インシデントが発生した後、録画されたビデオを調査し、いつ何が起こったのかを正確に特定できます。たとえば次の方法でインシデントを素早く検索できます。

- ビデオの再生と視聴
- 検査できる短いシーケンスにビデオをスライス
- 録画の選択した領域のモーションを検索

このセクションのトピックでは、録画されたビデオの各手法について説明します。

録画済みビデオの検索

シーケンスエクスプローラ、**録画検索** 『153ページ』の"**録画検索ペインを使用した検索**"参照』ペイン、または**スマートサーチ** 『159ページ』の"**スマートサーチを使用したモーション検索**"参照』ペインを使用して、録画済みビデオを検索することができます。

再生タブで、**録画検索**ペインを使用して、選択したカメラまたはビューにあるすべてのカメラで録画されたシーケンスやブックマークを簡単に検索できます。あるいは、**スマートサーチ**ペインを使って、特定のカメラのからの録画の中にある、1つまたは複数の選択した領域でモーションを検索することができます。

魚眼レンズカメラからのビデオにはスマートサーチは使用できません。スマートサーチの使用は、ユーザー権限によって制限される場合があります。

個別再生を使用する録画済みビデオの表示

この機能は、ホットスポット、画面自動切替、または **Matrix** 位置ではなく、通常の単一のカメラ位置に対してのみ使用可能です。

1. 録画ビデオを再生するカメラをマウスで横切ります。表示されるツールバーで、**独立再生**ボタンをクリックします。



独立再生のタイムラインが表示されます：

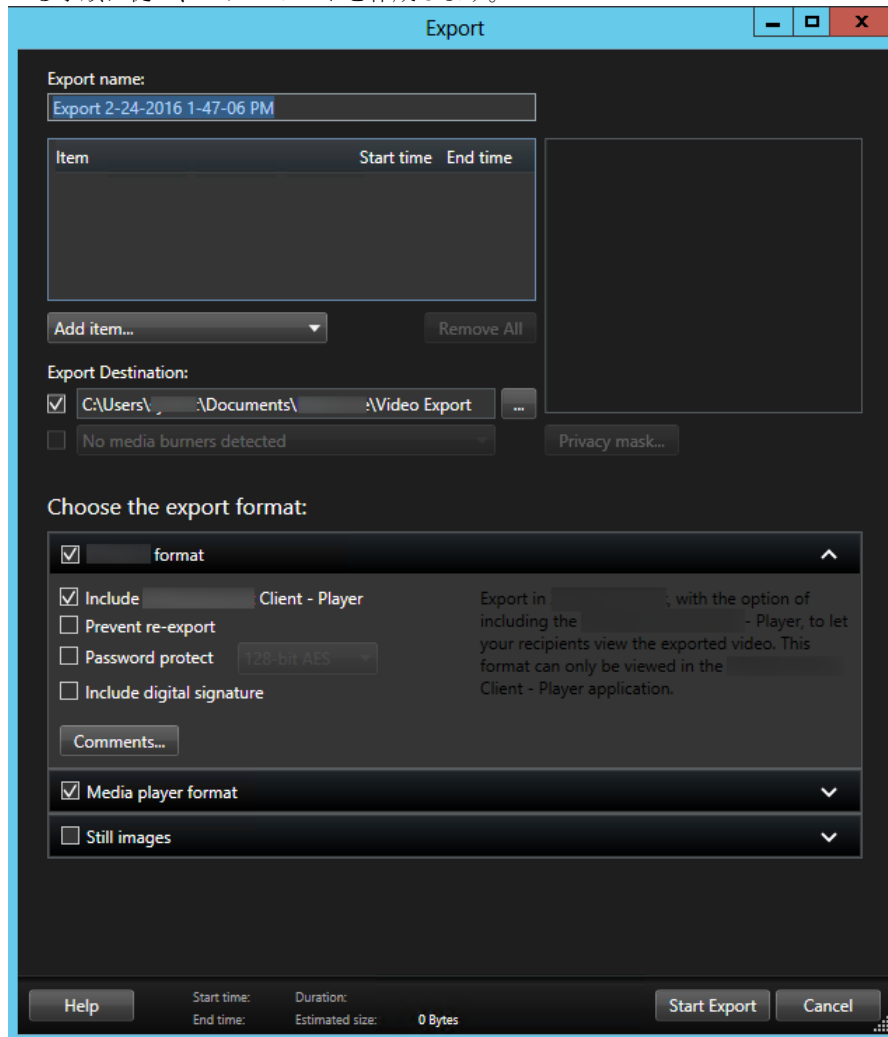


2. タイムライン 『161ページ』をドラッグして、再生するビデオが含まれる時間を選択します。
3. 選択した時間のすべてのカメラの録画ビデオをビューで同時に再生するには、**再生タブ**で**選択された時間の録画を表示**をクリックします。  この操作で、すべてのカメラが選択した時間に同期されて**再生タブ**で再生されます。

エクスポートされたビデオの表示

XProtect Smart Client で作成するエクスポートは、別のフォルダを指定しないかぎり、ローカルコンピュータのデフォルトフォルダに保存されます。作成した直後またはその後からエクスポートを表示できます。

1. 作成した直後にエクスポートされたビデオを表示するには、
 1. ビデオクリップ、音声、XProtect データ、静止画像のエクスポート 『175ページ』で説明されている手順に従い、エクスポートを作成します。



2. エクスポートが完了したときに、右上端にある【詳細】ボタンをクリックします。出力フォルダへのリンクがあるダイアログボックスが表示されます。
 3. リンクをクリックすると、出力フォルダが開きます。
2. 以前のある時点でビデオをエクスポートした場合
 1. エクスポートファイルを保存するフォルダに移動します。デフォルトの場所は、**C:\Users\ユーザー名\Documents\Milestone\Video Export** です。フォルダの場所は、エクスポートウィンドウで確認できます。これは、常に同じエクスポート先を使用している場合にのみ動作します。

- 出力形式に応じて、該当するフォルダを開き、ビデオファイルまたは静止画像をダブルクリックします。形式が **XProtect 形式** の場合、.exe 拡張子の **Smart Client Player** ファイルをダブルクリックします。

シーケンスエクスプローラを使用したビデオの検索

【シーケンスエクスプローラ】タブには、ビデオのシーケンスを検索することで、インシデントを調査できます。

- シーケンス検索

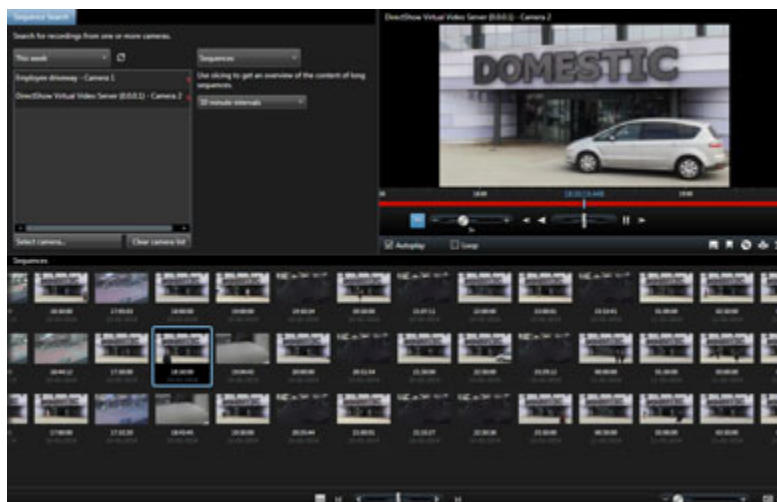
モーション検知、イベント、ブックマークなどに基づいて、1 つ以上のカメラで録画シーケンスを検索します。

- スマートサーチ

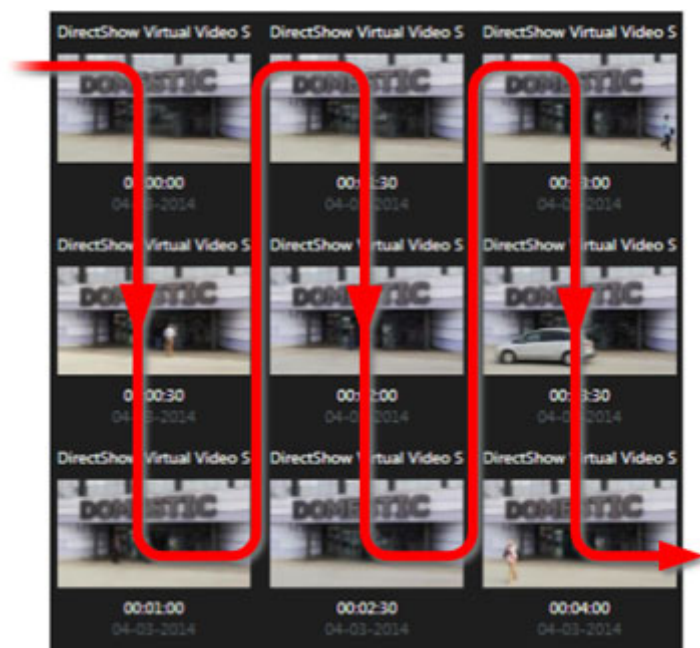
単一のカメラで選択したエリアのみからモーションを検索します。

シーケンス検索

シーケンス検索では、選択したカメラからの録画を簡単に調査できます。録画ビデオがサムネイル概要で表示され、そこで録画をブラウズし、**Player** ウィンドウですぐに再生できます。



サムネイル概要はコンテンツを左から右へ時系列的に表示し、直近のサムネイルをビューの右下部に配置します。

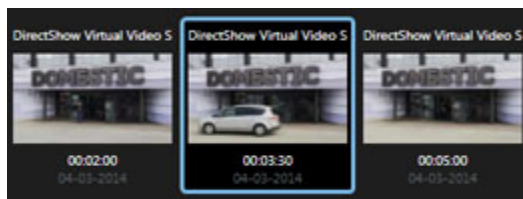


サムネイルのサイズは、サムネイル概要下部のサイズスライダーをドラッグすることによって調整できます。



サムネイルは、選択した個々のカメラまたはビューで選択したすべてのカメラに関連付けることができます。サムネイル概要をドラッグして時間を移動し、サムネイル画像を隣り合わせて比較できるため、大量の録画ビデオを迅速に表示し、最も関係のあるビデオを特定して、すぐに再生することができます。

特定のサムネイルに関連するビデオを表示するには、サムネイルをクリックします。サムネイルをクリックすると、そのサムネイルが強調表示され(自動再生が選択されている場合 d)、関連するシーケンスがシーケンスエクスポーラの右側に再生されます。



ヒント：サムネイルをクリックし、サムネイル概要をドラッグしてそこを離れてナビゲートしている場合、更新ボタンをクリックすることによって、選択したサムネイルにすばやく戻ることができます。

サムネイル概要には、指定した時間間隔内だけ録画が表示されます。すべてのシーケンスの表示を選択していなければ、サムネイル概要の左右へマウスを移動させることで、時間幅を前後に移動できます。

シーケンスの検索

1. メニューでシーケンスを選択します。
2. スライス機能を使用して、特定の時間間隔でサムネイルを表示します。たとえば、30 秒毎に 1 つのサムネイルを表示します。また、カスタムスライス間隔...で独自の間隔を指定することもできます。特に連続録画、あるいは長期間の録画がある場合、スライスを使用してサムネイルを短いシーケンスに分割すると非常に便利です。

3. サムネイル更新のリストを見る。これで、選択したシーケンスを表示するリストの準備ができます。

検索の定義

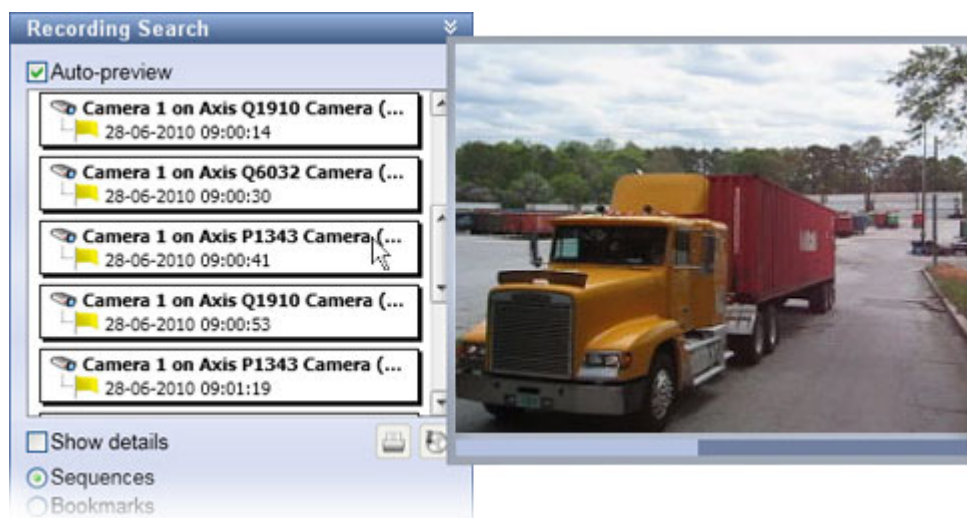
1. シーケンスエクスプローラタブで、**シーケンス検索**を選択します。
2. **カメラの選択...** メニューで、シーケンスを表示させたいカメラを検索します。シーケンス検索には、最大で **100** のカメラを追加できます：
 - 検索フィールドを使用して、カメラの名前または説明で検索するか、
 - リストでカメラへ移動
3. カメラをクリックして、ビューに追加します。

タイムライン

シーケンスエクスプローラのタイムライン 『161ページ の"タイムライン"参照 』により、ビデオの内容をナビゲートできます。

録画検索ペインを使用した検索

1. **再生**タブの**録画検索**ペインで、**シーケンス**または**ブックマーク**のどちらかを選択します。
2. ブックマークの場合、関心がある検索基準を選択します。たとえば、時間、ブックマークのみ、あるいはブックマークのブックマーク ID、表題や説明などのフィールドです。
3. ビューで選択したカメラだけ、あるいはビューの中のすべてのカメラのどちらを検索範囲に入れるか選択します。
4. **検索**をクリックします。これにより結果のリストが取得されます。表示するよう選択した時間に最も近いシーケンスは、リストの中央に表示されます。選択した時間より前のシーケンスまたはブックマークは、上、後、下に表示されます。各シーケンスは、カメラ情報、日付、時刻と共に一覧表示されます。リスト内のシーケンスを選択すると、ビュー内のすべてのビデオが、選択したシーケンスの時間に移動します。
5. リストにあるそれぞれのシーケンスまたはブックマークに関する詳細を表示するには、**詳細を表示**を選択します。シーケンスの場合、シーケンス内の最初の画像の日付と時刻(緑色のフラグ)、最後の画像(格子模様のフラグ)、録画をトリガしたモーション検知、イベント(黄色いフラグ)が表示されます。ブックマークの**詳細を表示**では、ブックマーク時間からの画像や詳細説明（ある場合）から構成される追加情報が表示されます。
6. リスト内のブックマークやシーケンスの上にマウスを移動した時に、ビデオのプレビューを簡単に表示するには、**自動プレビュー**を選択します。



7. リストでシーケンスまたはブックマークを選択していれば、印刷版のレポートを生成またはエクスポートできます。ブックマークの場合は(ユーザー権限によります)、編集や削除することもできます。詳細については、ブックマークの追加および編集、証拠の印刷 『183ページ』の"証拠を印刷する"参照』およびエクスポート 『172ページ』の"XProtect フォーマットの設定"参照』を参照してください。

ブックマークの検索

※本機は、ブックマーク機能には対応していません。

ブックマーク機能が使用できるのは、一部の監視システムに接続している場合のみです。監視システム別の特徴 『13ページ』の"監視システムの別の特徴"参照』を参照してください。ユーザー権限によっては、一部のカメラからブックマークを表示できない場合があります。ブックマークを追加できなくても表示される場合があります、この逆もある点に注意してください。

1. メニューで**ブックマーク**を選択します。
2. 検索フィールドを使用して、ブックマークの表題や説明を検索します。一致した結果が、すぐにサムネイル概要に表示されます。
3. 自分が作成したブックマークだけを表示したい場合は、**マイブックマークのみ**を選択します。マウスをサムネイルの上に移動させると、ポップアップウィンドウにブックマークの詳細が表示されます。

プレビューの右側に、選択したブックマークの詳細が表示されます。付与されているユーザー権限によって異なりますが、ブックマークを編集、削除、印刷、またはエクスポートすることができます。

- ブックマークの時間設定、ヘッドライン、または説明を編集するには、をクリックします。
- ブックマークを削除するには、をクリックします。

ブックマークを削除すると、ブックマークは、サムネイル概要からだけでなく監視システム全体から削除されます。選択したブックマークを削除してもいいかどうか確認するメッセージが表示されます。

シーケンスのナビゲート

サムネイルをナビゲートするには、複数のオプションがあります。

クリックしてドラッグする

サムネイル概要をクリックして、サムネイル概要内で左（時間の後方向）または右（時間の前方向）へドラッグします。

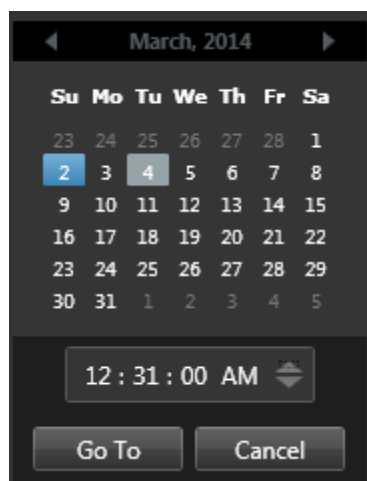
シーケンススライダー

サムネイル概要の下にあるシーケンススライダーを、左（時間の後方向）または右（時間の前方向）へドラッグします。



日付と時刻

サムネイル概要の下にある**カレンダー**アイコンをクリックし、カレンダーにアクセスして、日付や時刻を指定できます。**移動**をクリックして、新しい日次のサムネイルを表示します。



ヒント： カレンダーで、青い背景は、選択した日付を示します。灰色の背景は、現在の日付を示します。

感嘆符が付いたサムネイル

ナビゲーションの方法によって異なりますが、特定の時点から録画された画像がない場合、感嘆符が付いたプレースホルダサムネイルが表示されることがあります：



これらは、たとえばサーバー通信エラー、デコードエラーなどによって、シーケンスエクスプローラが適切なサムネイルを取得できない場合に表示されます。ただし、監視システムから取得したサムネイルが要求された時点と正確に一致しない場合も、プレースホルダサムネイルが表示されることがあります。これは、一致しないサムネイルは混乱を招くためです。

シーケンス検索でスライスを選択していると、取得したサムネイルが要求した時間間隔外であると、プレースホルダサムネイルが表示されます。例：要求した時間間隔が **12:00:00-12:00:30** であり、最初の使用できるサムネイルが **12:00:33** であるとします。この間隔に該当する録画シーケンスがなければ、システムはサムネイルを取得しようとせず、表示される次のサムネイルは次の間隔(**12:00:30-12:01:00**)から取得されます。この間隔に該当する録画シーケンスがある場合は、プレースホルダサムネイルが表示されます。

シーケンス検索で、取得したサムネイルが、要求された時刻(つまり、問題のシーケンスの録画が監視システムでトリガされた時刻)から **3 秒以上** 離れている場合、プレースホルダサムネイルが表示されます。

プレースホルダサムネイルをクリックして、ビデオを表示することができます。こうすると、プレースホルダサムネイルが示す時点より**後**の、最初の使用できる記録に移動します。

サムネイル概要のナビゲーション

サムネイル概要の左右をドラッグするか、サムネイル概要の下にあるナビゲーションコントロールを使用して、時間を前後に移動できます。

サムネイルの下にある**カレンダー**アイコンをクリックし、カレンダーにアクセスして、日付や時刻を指定できます。矢印をクリックして、時間を前後に移動します。**移動**をクリックして、新しい日次のサムネイルを表示します。

サムネイル概要には、指定した時間間隔内だけ録画が表示されます。すべてのシーケンスの表示を選択していなければ、サムネイル概要の左右にあるボタンを使用することで、時間幅を前後に拡大できます。



最も早いシーケンスへ移動します。



最も遅いシーケンスへ移動します。



時間間隔を拡大して、早いシーケンスを表示します。



時間間隔を拡大して、遅いシーケンスを表示します。

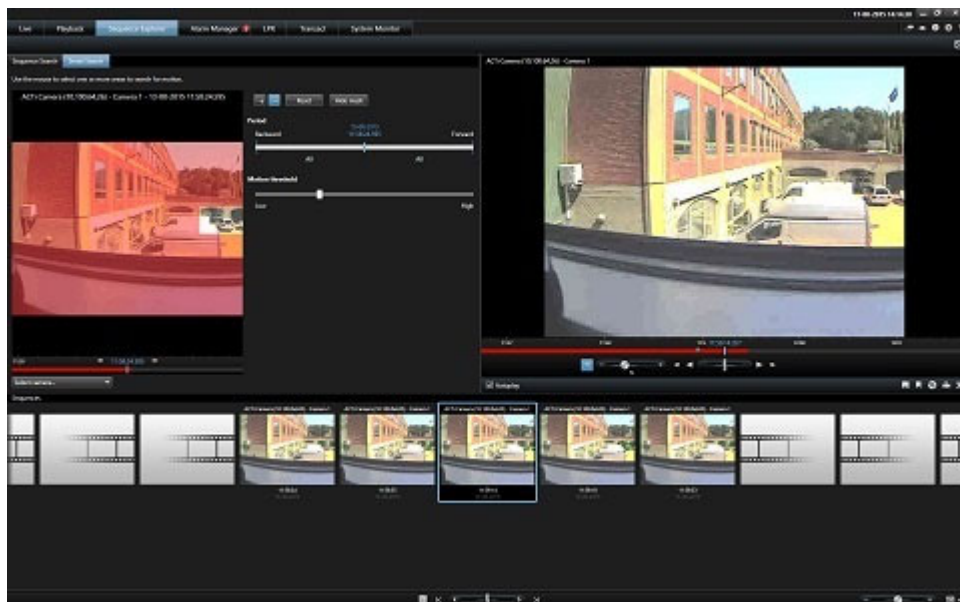


データベースの終わりです。これ以上シーケンスはありません。

録画されたビデオのモーションを検索する

スマートサーチを使用して、録画の選択された領域のモーションを検索します。たとえば、パッケージが棚から取り出されたときや人が裏口から入ったときを特定するときに、スマートサーチが有効です。インシデントが発生した場所とその領域に対応するカメラがわかっている場合は、録画内のその特定の領域におけるモーションを検索できます。

デフォルトでは全体の選択イメージがマスクされます。特定の領域でモーションを検索するには、その領域のマスクを消去する必要があります。システムはモーションのあるエリアが緑色のボックスで示されたサムネイルシーケンスを検索結果として表示します。



注: スマートサーチは、モーション録画ビデオと共に生成されるモーションメタデータに基づいています。システム管理者はサーバーでカメラのスマートサーチを有効または無効にできます。また、感度、処理時間、検出方法などの設定を指定できます。検索結果が生成されない場合は、カメラのスマートサーチが有効ではない可能性があります。

シーケンスエクスプローラを使用したモーションの検索

スマートサーチを使用すると、録画の選択された領域内のモーションを検索し、インシデントを調査できます。詳細については、「スマートサーチ 『157ページ』 の"録画されたビデオのモーションを検索する"参照 』」を参照してください。

注: スマートサーチ機能は、使用している XProtect 製品によって異なります。次の手順がご使用の製品に合わない場合は、「スマートサーチを使用したモーション検索 『159ページ 』」を参照してください。

手順：

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。

- 検索するカメラフィールドを既に表示している場合は、ビューアイテムツールバーで【スマートサーチ】アイコン  をクリックします。シーケンスエクスプローラウィンドウがスマートサーチタブと選択されたカメラに表示されます。
- 【シーケンスエクスプローラ】タブ、【スマートサーチ】タブの順にクリックします。

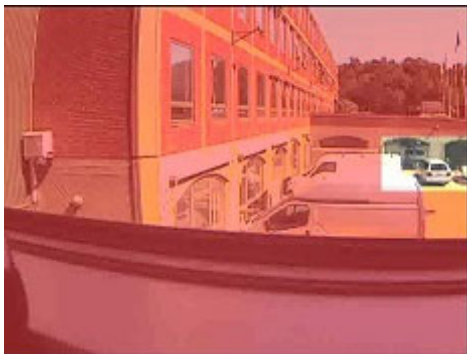
2. カメラがまだ選択されていない場合は、選択画像の下でビデオを録画したカメラを選択します。マスクを適用した状態で、カメラからの画像が表示されます。



3. 【期間】の下で、時間選択ツールを使用し、検索のタイムフレームを指定します。

4. 【モーションしきい値】の下で、スライダを使用し、検索するモーションの量を指定します。しきい値が高くなると、必要なモーションが多くなり、検索結果が少なくなります。しきい値が低いと、検索結果が多くなります。

5. 検索対象を指定し、 ボタンをクリックしてから、選択画像をクリックして、マスクされていない領域までドラッグします。その他のマスクされていない領域にもこの手順を繰り返します。



ヒント: マスクとマスク解除モードを一時的に切り替えるには、**CTRL** ボタンを押し続けます。たとえば、想定したよりも大きい領域のマスクを解除した場合、**CTRL** ボタンを押し続けると、 ボタンをクリックせずに選択した部分をマスクできます。

6. 領域を選択すると、モーションが検出されたシーケンスが表示され、検出された最初のシーケンスが再生されます。再生コントロールとツールバーオプションを使用し、ビデオを調査します。

スマートサーチを使用したモーション検索

スマートサーチを使用すると、録画の選択された領域内のモーションを検索し、インシデントを調査できます。詳細については、「スマートサーチ 『157ページ』 の"録画されたビデオのモーションを検索する"参照」を参照してください。

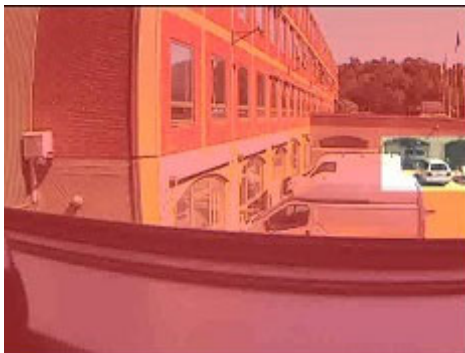
注: スマートサーチ機能は、使用している XProtect 製品によって異なります。次の手順がご使用の製品に合わない場合は、「シーケンスエクスプローラを使用したモーションの検索 『157ページ』」を参照してください。

1. カメラを含むビューを選択します。
2. **【再生】**タブで、**【スマートサーチ】**ウィンドウを拡張します。
3. **【マスクの表示】**チェックボックスを選択します。マスクを適用した状態で、カメラからの画像が表示されます。



ヒント: 画像をダブルクリックすると拡大されて見やすくなります。

4. 検索対象を指定し、 ボタンをクリックしてから、画像をクリックして、マスクされていない領域までドラッグします。その他のマスクされていない領域にもこの手順を繰り返します。



ヒント: マスクとマスク解除モードを一時的に切り替えるには、**CTRL** ボタンを押し続けます。たとえば、想定したよりも大きい領域のマスクを解除した場合、**CTRL** ボタンを押し続けると、 ボタンをクリックせずに選択した部分をマスクできます。

5. **【感度】**リストで、検索するモーションの量を指定します。感度が高くなると、必要なモーションが多くなり、検索結果が少なくなります。感度が低いと、検索結果が多くなります。
6. **【間隔】**リストでは、モーションのコンテンツを表示、操作、または再生できる役割を分析するために、システムがフレームを選択する頻度を指定します。たとえば、**10 秒**を選択する場合は、**10 秒ごとに 1 つ**のフレームを解析します。間隔を長くすると、検索結果の出力がより高速になる場合があります。ただし、この間隔よりも短いモーションシーケンスが検索されない場合があります。**【すべての画像】**を選択すると、すべてのフレームが解析されます。

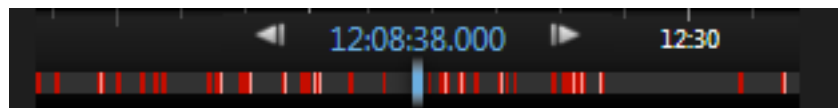
7. オプション: タイムラインを使用して、検索を開始する時間を指定します。録画内では、前方および後方に向かって検索できます。
8. 検索を開始するには、**【次へ】**をクリックして時系列に検索するか、**【前へ】**をクリックして時系列と反対に検索します。検索結果では、モーションが検出された領域がハイライト表示されます。

時間の調整

スマートサーチで検索する時間を調整できます。選択した時間で、プレビュー画像が表示されます。

また、検索する期間を定義することもできます。期間は、常に選択した開始時間に基づきます。開始時間を選択するには、次の2つのオプションがあります:

- プレビューグリッドの下にあるタイムラインを左右にドラッグして、開始時間を設定します。使用できる録画は、色で示されます。また、矢印を使って、前または次のフレームへ移動することもできます。
- 現在の時間をクリックしてカレンダーにアクセスし、そこで日時を指定することができます。**移動**をクリックして、この時間を開始時間として設定します。



モーションしきい値（説明付き）

モーション閾値によって、スマートサーチを細かく定義できます。

より高い閾値を選択すると、スマートサーチがモーションを検知するのに、選択したエリアで必要なモーションが多くなります。

より低い閾値を選択すると、スマートサーチがモーションを検知するのに、選択したエリアで必要なモーションが少なくなります。

低い閾値は、必ずしも、より多くの結果を与えるわけではありません。高い閾値は、必ずしも、より少ない結果を与えるわけではありません。

スナップショットの作成

証拠ビデオをエクスポートする代わりの方法として、静止画像を保存または共有する場合は、画像のクイックスナップショットを作成できます。ライブ、再生、またはシーケンスエクスプローラの各タブで、あるいは画面自動切替、ホットスポット、またはカメラナビゲータからスナップショットを作成できます。

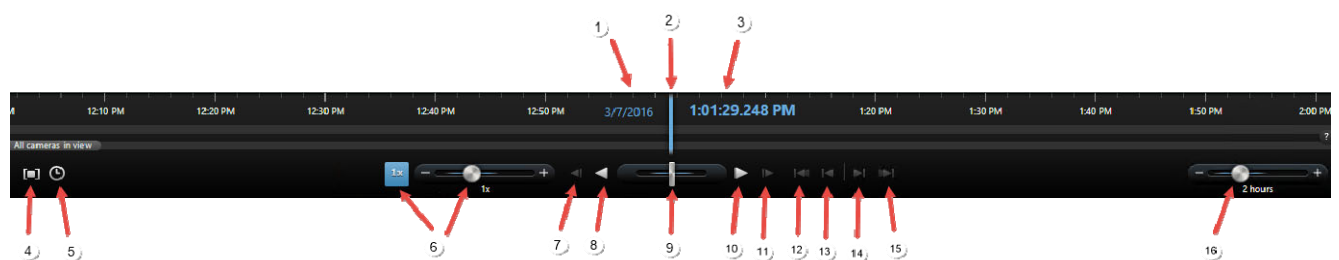
- スナップショットを作成するには、選択されたカメラのカメラツールバーで、スナップショットアイコンをクリックします: 。スナップショットが作成されると、スナップショットアイコンが一時的に緑になります。

スナップショットファイルの場所を参照して、スナップショットを表示できます。スナップショットファイルは、アプリケーションオプション『42ページ の"設定ウィンドウ（説明付き）"参照』で指定されたデフォルトのファイルの場所に保存されます。

画像にプライバシーマークが含まれる場合は、このプライバシーマークもスナップショット画像に適用されます。

時間ナビ制御

タイムラインのボタンとコントロール



- 1: 再生の日付
- 2: タイムラインの時刻
- 3: 再生の時刻
- 4: 時間選択モード
- 5: 開始時間/終了時間の設定
- 6: 再生速度および再生速度スライダー

再生ボタン

- 7: コマ戻し
- 8: 逆方向再生
- 9: シャトルスライダー
- 10: 順方向再生
- 11: コマ送り

ナビゲーションボタン:

- 12: 最初のシーケンス
- 13: 前のシーケンス
- 14: 次のシーケンス
- 15: 最後のシーケンス
- 16: 時間幅スライダー

タイムライン

タイムラインには、現在のビューで表示されているすべてのカメラの記録の一定期間の概要が表示されます。例えば、タイムラインは、再生モードに関係なく、ブックマークを追加または編集した時に、**再生およびシーケンスエクスプローラ**タブに表示されます。

タイムラインエリア 『161ページ の"タイムラインのボタンとコントロール"参照』には、2本のタイムラインが表示されます。上のタイムラインは選択したカメラの録画期間を示しており、下のタイムラインは選択したカメラを含めてビューにあるすべてのカメラを示します。フロートウィンドウをリンクした場合は、下のタイムラインにも表示されます。

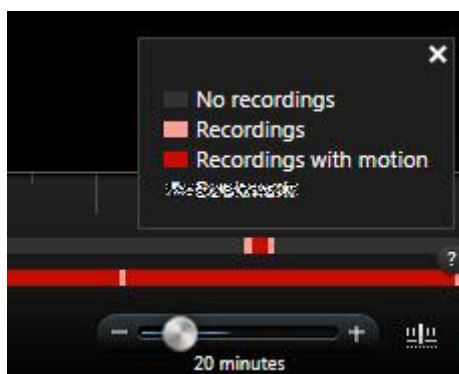
タイムラインを右へドラッグすると時間をさかのぼり、左へドラッグすると先へ進みます。マウスのスクロールホイールを使用して、タイムラインを前後に移動することもできます。タイムラインの範囲をズームして時間単位を増減するには、CTRL キーを押しながらスクロールホイールを使用します。

タイムラインは、録画中は明るい赤色、モーションは赤色、入力音声は明るい緑色、そして出力音声は緑色で表示されます。使用可能な追加のデータソースがある場合は、これらは他の色で表示されます。「追加データ『164 ページ の"追加情報"参照』」と「追加マーカー『165 ページ の"詳細マーカー"参照』」を参照してください。タイムラインの時刻は、青色の縦線で示されます。

右下隅の簡易タイムライン/高度なタイムラインボタンを切り替えることで、簡易タイムラインと高度なタイムラインを切り替えることができます。簡易タイムラインを選択すると、表示されるのはシャトルスライダー、時間幅スライダー、逆方向再生および順方向再生ボタン、コマ送りおよびコマ戻しボタンだけです。

初めて XProtect Smart Client – Player を開くと、簡易タイムラインモードで開きます。

タイムラインの右の端の方で、カラーコードの凡例の小さい疑問符をクリックします。

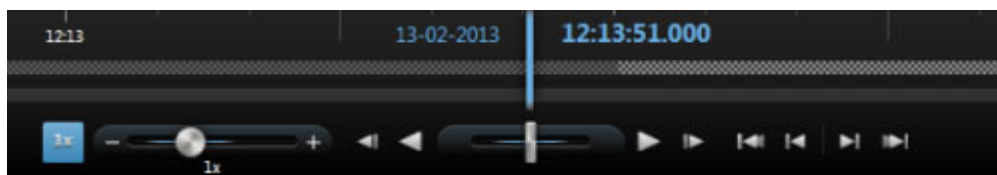


タイムラインおよび Milestone Interconnect

※本機は、Milestone Interconnect には対応していません。

選択したカメラが Milestone Interconnect 設定の一部で、内部接続されたデバイスである場合、選択したカメラのタイムラインには取得データが表示されます。実行された取得は録画として表示されます。タイムラインでは、網掛けによって録画を含む期間と取得要求『184 ページ の"Milestone Interconnect からデータを取得する"参照』が必要な期間をすばやく識別できます。

- 濃い灰色は、その期間に録画がないことを示します。
- 濃いチェックパターンは、録画が要求されていないため、録画があるかどうか不明であることを示します。
- 赤色の網掛けは、録画があることを示します。
- 明るいチェックパターンは、データの取得要求があったことを示します。



録画が要求されていないため、録画があるかどうか不明な濃いチェックパターンのタイムラインと、ビデオの取得要求があった明るいチェックパターンのタイムライン

再生の日時

タイムラインの上のエリアは、録画の再生の日時を青色で表示します。再生時間は、すべてのカメラに共通の時間です(独立再生モードは除きます)。録画を再生する場合、ビューにあるすべてのビデオは同じ時刻から再生されます。ただし、カメラによっては、モーションを検知した場合だけ録画しているものがあります。また、特定の時間に一致する、1台または複数のビデオで録画されたビデオがビューにない場合もあります。この場合、そのカメラのデータベースから、その時間より前の最も近い時間帯に録画された画像がビューに表示され、画像は灰色表示されます。

日付と時刻のナビゲーション

再生の日付または再生の時刻をクリックして移動ウィンドウを開くと、移動する日時を選択できます。タイムライン上の任意の場所をダブルクリックすると、その特定の時刻へ移動します。

時間選択

開始時間/終了時間の設定をクリックすると、日時を指定して、特定の時点へジャンプできます。時間選択モードをクリックすると、タイムラインで開始時間インジケータと終了時間インジケータをドラッグして期間を選択できます(通常は、ビデオをエクスポート『172ページ の"XProtect フォーマットの設定"参照』する場合)。もう一度クリックすると、時間が選択されていない状態でタイムラインが表示されます。

再生スピード

再生スピードスライダーを使って、現在の再生スピードを変更します。スライダーを左へ移動させると再生速度が遅くなり、右へ移動させると再生速度が速くなります。[1x]をクリックすると通常速度になります。

再生ボタン

再生ボタンを使用して録画を再生します：



コマ戻し：現在表示している画像のすぐ前の画像へ移動します。



時間内で逆方向再生



時間内で順方向再生



コマ送り：現在表示している画像のすぐ後の画像へ移動します。



一時停止：時間内で逆方向再生または時間内で順方向再生をクリックすると、ボタンが一時停止ボタンになります。これにより、マウスポインタを移動しなくても再生を一時停止できます。



シャトルスライダー：速度を調整できます。右にドラッグすると、順方向再生速度を上げることができます。左にドラッグすると、逆方向再生速度を上げることができます。

ビデオ録画を参照するには、左または右にタイムラインをドラッグします。

ナビゲーションボタン

ナビゲーションボタンを使用して録画シーケンスをナビゲートできます。



最初のシーケンス：選択したカメラのデータベースにある最初の画像へ移動します。



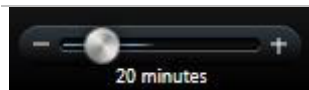
前のシーケンス：1 つ前のシーケンスの最初の画像へ移動します。



次のシーケンス：次のシーケンスの最初の画像へ移動します。



最後のシーケンス：選択したカメラのデータベースにある最後の画像へ移動します。



時間幅スライダー：タイムラインで再生の時間幅を指定してみましょう。

時間幅

時間幅スライダーを使用して、再生の時間幅、独立再生、タイムラインでの録画のシーケンス(例、1 時間、2 時間、または最大 4 週間まで)を指定できます。

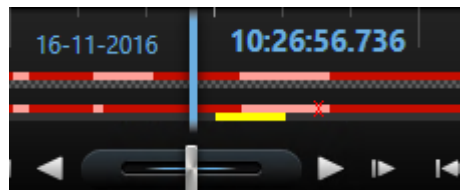
タイムラインのブックマーク

※本機は、ブックマーク機能には対応していません。

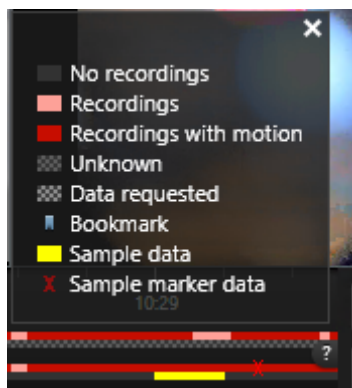
タイムラインのブックマークは、青いブックマークのアイコンで示されます：。ブックマークされたビデオを再生するには、マウスをアイコンの上に置きます。

追加情報

Smart Client プロファイル用に有効にされた**タイムライン**の下に追加データがあり、追加のソースが利用できる時には、定義されたデータを示すタイムラインに追加のレイヤーが表示されます。このレイヤーにより、他のソースから追加された追加情報があることが分かります。

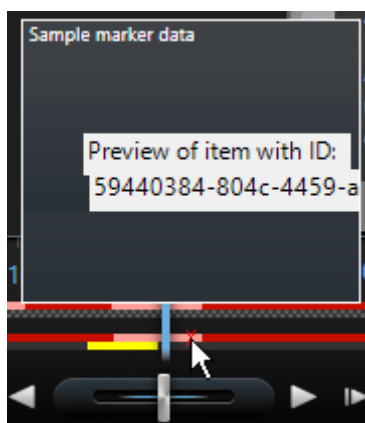


追加情報の色と名前は、ソース別に定義されます。詳しくは凡例を参照してください。

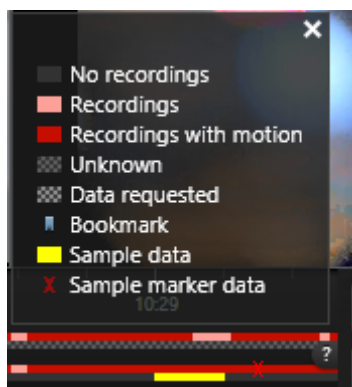


詳細マーカー

Smart Client プロファイルの [タイムライン] の下で**追加マーカー**を有効にし、追加ソースがある場合は、ソースによって提供されたインシデントを指定する追加マーカーがタイムラインに表示されます。これらはタイムラインのポップアップとして表示されます。



追加マーカーのアイコンと名前はソースによって定義されます。これらは凡例で確認できます。



ブックマーク

※本機は、ブックマーク機能には対応していません。

ブックマーク（説明付き）

ブックマーク機能は、一部の監視システム『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』でのみ使用できます。ユーザー権限によっては、一部のカメラからブックマークを追加できない場合があります。ブックマークを追加できなくてもブックマークを表示できる場合があります、この逆もあります。

ライブビデオまたは録画ビデオのインシデントにブックマークを付けることができます。ブックマークは、基本的には小さなビデオクリップです。インシデントにブックマークを付けると、プログラムが自動的に ID および、ブックマークを付けたユーザーを割り当てます。ブックマークは検索可能なので、ブックマークを付けたユーザーも他のユーザーも後で簡単に見つけることができます。遅延があっても確実にインシデントが記録されるように、通常、ブックマークビデオクリップには、インシデントにブックマークを付けた時の数秒前から数秒後まで(監視システムの管理者が指定)のビデオが含まれます。

ブックマークが付けられたビデオは、以下の方法で検索および編集します：

- **再生**タブの録画検索 『149ページ の"録画済みビデオの検索"参照』 ペイン
- シーケンスエクスプローラ
- タイムライン 『164ページ の"タイムラインのブックマーク"参照』

特定のブックマークが見つからない場合は、次のような理由が考えられます。

- ブックマークを表示するユーザー権限がない。
- ブックマークが削除された（十分な権限があるユーザーは、**再生**タブの録画検索 『153ページ の"録画検索ペインを使用した検索"参照』ペインまたは**シーケンスエクスプローラ**を使用してブックマークを削除できます）。
- ブックマークが付けられたビデオが監視システムに存在しない。

ブックマークウィンドウ

ブックマークに詳細情報を追加するには、まず**機能** 『44ページ の"機能設定"参照』の下**の設定**ウィンドウで、**ライブ**および**再生**の両方のタブで指定しなければなりません。これを指定していないと、簡易ブックマークしか作成できません。

詳細ブックマークを作成するか、ブックマークを編集する際は、多数の設定を指定できます。

名前	説明
タイムライン	ブックマーク時間およびクリップの開始時間と終了時間は監視システムの管理者によって指定されていますが、変更できます。時間を変更するには、タイムラインでインジケータ『161ページ の"時間ナビ制御"参照』を必要な時間へドラッグします。  クリップ開始時間：監視システムの管理者が指定した、指定ブックマークの推奨されるクリップ開始時間(ブックマーク時間より一定秒数前)。 ブックマーク時間：ブックマークしたビデオクリップの時間。 クリップ終了時間：監視システムの管理者が指定した、ブックマークの推奨されるクリップ終了時間(ブックマーク時間より一定秒数だけ後)。
ヘッドライン	ヘッドラインには最大 50 文字を指定できます。
説明	説明を指定できます。

ブックマークの追加および編集

1. ビューで使用するカメラを選択します。
2. ブックマークのアイコンをクリックします。設定『44ページ の"機能設定"参照』ウィンドウで、詳細を追加できると指定していれば、インシデントの詳細な説明を追加できる**ブックマーク**ウィンドが表示されます。ブックマーククリップの長さは、監視システムサーバーで規定されますが、タイムラインインジケータをドラッグして変更することもできます。

ヒント：ブックマークの詳細の入力に時間がかかっても、問題ありません。**保存**をクリックするまで、ブックマークは XProtect Smart Client に保存されています(ブックマークの作成に数日かかり、ビデオが監視システムに存在しなくなった場合を除いて)。

3. **[OK]**をクリックします。

イベントおよびアラーム

アラームの操作

アラームリストから、アラームの確認、アラームの詳細の編集、アラームに関する情報を記載したレポートの印刷ができます。

アラームの詳細の表示および編集

ビューの位置にアラームリストを追加した後、アラームをダブルクリックして、個別のウィンドウに情報を表示できます。ウィンドウには、アラームインシデントとライブビデオのプレビューが表示されます。

アラームは以下の方法で管理できます。

- **状態**：アラームの状態は、誰かがイベントに対応したかどうかを示します。アラームの状態を変更できます。通常は、**新規**から**進行中**に状態を変更し、その後で**保留中**または**終了**に変更します。ただし、必要な場合は、たとえば、**保留中**から**新規**に変更することもできます。
- **優先度**：アラームの優先度を変更できます。
- **割り当て先**：自分自身を含めて、組織内のユーザーにアラームを割り当てることができます。アラームを割り当てられたユーザーは、アラームの所有者になり、アラームリストの**所有者**列に表示されます。
- **コメント**：アクティビティセクションに追加されるコメントや備考を入力します。コメントは通常、ユーザーが行ったアクションに関連します。たとえば、「警備員が容疑者を確保」、「容疑者を警察に引き渡した」、「誤警報」など。コメントフィールドはウィンドウの下部に表示されます。
- **アクティビティ**：アクティビティはユーザーがアラームをどのように処理したかを簡単に示します。アラームの状態または優先順位にユーザーが変更を加えると、ユーザー間でのアラームの再割り当て、追加されたコメントが**アクティビティ**セクションに自動的に含められます。

注：監視システムサーバーの構成によっては、アラームにアラームが表示されたときの処理方法についての説明が含まれていることがあります。指示は、アラーム定義の一部としてサーバー側で定義されます。この場合、アラームを編集するときにアクティビティが自動的に表示されます。

- **印刷**：アラーム履歴や、画像が利用できる場合は、アラームの時刻での静止画像を含め、アラームに関する情報を記載したレポートを印刷できます。

アラームの確認

- アラームを受信し、それに対応したことを記録するには、対象となるアラームを右クリックして**確認**を選択します。これにより、アラームの状態が**新規**から**進行中**に変わります。確認できるのは新規のアラームだけです。

複数のアラームを同時に確認することができます。Ctrl キーを押したままにして、確認するアラームを選択します。

アラームの無効化

「誤警報」の原因となった活動が分かっている場合、一定の期間、このタイプの活動に対するアラームを無効にする必要がある場合があります。これによって、対応する必要がある正しいアラームが区別しにくくなることが

あります。たとえば、あるカメラの周囲に多くの動きがあり、これがいくつかの「誤警報」を生じている場合、このカメラで **10 分間** モーション検知を無効にすることができます。

1. **アラームリスト**で、アラームを選択します。
2. 右クリックして、**新しいアラームを無効にする**を選択します。
3. **アラームの無効化**ウィンドウで、アラームを無効にする期間を指定します。

アラームの無視

マップで指定した期間、エレメントに対するアラームを無視することができます。たとえば、カメラが修理中で接続が解除されている場合、修理中はマップにエラーが表示されても無視する必要があります。マップでアラームを無視しても、アラームはマップから削除されるだけで、アラームリストには残ります。

アラーム情報を記載したレポートの印刷

XProtect Corporate、XProtect Expert、XProtect Professional+、または XProtect Express+ を使用しているときは、アラームレポートを利用できます。

アラーム履歴や、利用できる場合はアラームの時刻での静止画像を含め、アラームに関する情報を記載したレポートを印刷できます。アラームリストで複数のアラームを選択している場合は、この機能は使用できません。

手順：

1. アラームリストで、アラームを右クリックします。
2. **【印刷】**を選択します。ウィンドウが表示されます。
3. メモを追加するには**メモ**フィールドにテキストを入力します。
4. **【印刷】**ボタンをクリックします。

アラームレポートの表示

XProtect Corporate、XProtect Expert、XProtect Professional+、または XProtect Express+ を使用しているときは、アラームレポートを利用できます。

- **レポート**ボタンをクリックして、**アラームレポート**ウィンドウを開くと、以下の事前定義のレポートの **1** つを表している **2** つのグラフを表示できます。
 - カテゴリ
 - ステータス
 - 優先度
 - 閉じる理由
 - サイト
 - 応答時間

レポートをフィルターして、**24 時間**、**7 日**、**30 日**、**6 か月**、または **1 年**の期間のアラームを表示することができます。

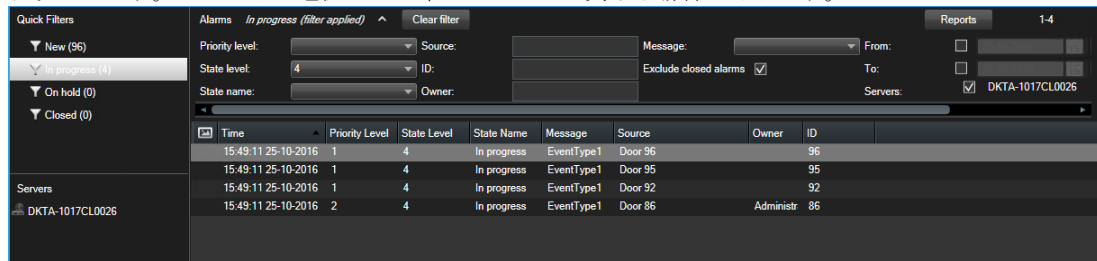
カテゴリ、状態、優先度、終了の理由、サイト、応答時間などを選択して、**2** つのグラフを横に並べて表示し、比較することができます。グラフの縦軸はアラームの数、横軸は時間枠になります。

アラームのフィルタリング

関心があるアラームやイベントだけが表示されるように、複数の方法でアラームリストをフィルタすることができます。マップでエレメントをクリックすると、そのエレメントに関連しているアラームだけが表示されます。また、**簡易フィルタ**ペインで事前に定義されているフィルタをクリックしたり、独自のカスタムフィルタを定義することも可能です。

アラームリストの内容をフィルタリングするには、

1. アラームリストのツールバーで、**カスタム（フィルタ適用）** または **フィルタなし** テキストをクリックします。テキストは選択したフィルタによって異なる場合があります。



2. フィルタをかける列のフィルタ条件を入力します。たとえば、**ID** フィールドにユーザーIDを入力すると、そのユーザーに割り当てられているアラームだけが表示されます。
3. フィルタは組み合わせることができます（例えば、**状態名**や**所有者（担当者）**）。
4. フィルタ処理していないアラームリストに戻るには、**フィルタのクリア**ボタンをクリックします。
5. アラームリストの内容を並べ替えるには、アラームリストで、列の最上部にある  ボタンをクリックします。

アラーム処理にマップコンテンツが含まれる場合、マップ上のエレメント（カメラ、サーバーなど）を右クリックして、**アラームの表示**を選択することでアラームリストをフィルタ処理することもできます。これにより、選択したエレメントからのアラームだけがアラームリストに表示されます。

イベント

イベントは、監視システムで事前に定義されたインシデントであり、アラームをトリガするように設定できます。イベントは、事前に定義されたシステムインシデントまたはユーザー指定のイベント（たとえば、アナリティックイベント、ジェネリックイベント、またはユーザー指定）のいずれかです。イベントは必ずアラームにリンクしなければならないわけではありませんが、リンクすることができます。

通常、イベントはバックグラウンドで自動的にアクティブ化（たとえば、外部センサーからの入力、モーションの検知、あるいは他のアプリケーションから受け取ったデータの結果として）されますが、手動で起動することもできます。イベントは、録画の開始や停止、ビデオの設定の変更、出力の起動、あるいは複数のアクションの組み合わせなどのアクションをトリガするために監視システムによって使用されます。使用している **XProtect Smart Client** でイベントをアクティブ化すると、自動的に監視システムでアクションを起動します。たとえば、特定の期間、特定のフレームレートで特定のカメラで録画したり、事前に指定したインシデントの説明のテキストメッセージを特定のセキュリティ担当者の携帯電話に送信するなどです。

監視システムの管理者は、手動でイベントをアクティブ化した場合の動作を指定します。監視システムの管理者は、手動でアクティブ化されるイベントに対して、条件イベントのボタン、ユーザー定義イベントやカスタムイベントを使用することがあります。

手動でイベントをアクティブ化する

- ライブタブのイベントペインで、関連するイベントを選択してから、**アクティブ化**をクリックします。

選択可能なイベントのリストは、サーバーと、イベントが関連付けられているカメラ/デバイスごとにグループ分けされています。階層構造内では、グローバルイベントが関連するサーバーの下に表示されます。サーバーが赤色のアイコン  付きでリストされている場合は使用することができず、その場合、そのサーバーではイベントをアクティブ化できません。

代わりに、カメラで使用可能であれば、マウスを画像の上に移動した時に表示されるオーバーレイボタンをクリックします。

出力を以前にアクティブ化していれば、確認はありません。

証拠のエクスポート

エクスポートウィンドウの設定（説明付き）

ユーザー権限、サーバーの種類、サーバーでの設定によって、一部のエクスポート設定が制限されたり、使用できないことがあります。

XProtect Smart Client では、ムービークリップ、音声、静止画像、または XProtect フォーマットで記録した証拠を簡単にエクスポートできます。エクスポートは、単一シーケンスまたはストーリーボード 『174ページ の"ストーリーボードのエクスポート（説明付き）"参照』のいずれかで行えます。設定したフォーマットおよび設定は保存され、次回エクスポートする際に表示されます。

一般的なエクスポート設定

氏名	説明
エクスポート名	プログラムが自動的にローカルの日付と時間を使って入力しますが、名前を変更することができます。保存するフォルダまたはデータを焼くディスクは、このエクスポート名を継承します。

項目	たとえばビデオシーケンスなど、エクスポートで選択したアイテムをリストします。 それぞれのアイテムについて、日時を変更できます。日付をクリックすると、カレンダーが開きます。ここで、表示する新しい日付を選択できます。移動をクリックして、日付を変更します。カレンダーの下にある時間インジケータを使用して、アイテムの開始時間および終了時間を変更することができます。 アイテムをクリックして、エクスポートクリップのプレビューを、アイテムリストの右にあるプレビューペインに表示させます。SHIFT または CTRL ボタンを押しながら、さらにアイテムをクリックして、複数のアイテムを選択すると、複数のプレビューにアクセスできます。それぞれのプレビューについて、タイムラインで開始時間および終了時間を調整できます。 横にある赤い x をクリックすることで、アイテム リストからアイテムを削除することができます。マウスをアイテムの上に移動させると、赤い x が表示されます。アイテムを 2 つに分割したい場合は、分割アイコンをクリックします。プレビューペインで、それぞれのアイテムの開始時間や終了時間を編集することができます。
アイテムの追加	アイテムの追加... ボタンを使用して、エクスポートのリストに含めたい他のアイテムを選択します。すべて削除 ボタンを使って、アイテム ウィンドウにあるリストをクリアします。
エクスポート先	パス - パスはユーザーが指定できます(フィールドによってパスが提案されることがあります)。この方法でパスを指定する場合、指定するフォルダは既に存在しないフォルダである必要があります。既に存在していない場合は、自動的に作成されます。 メディアバーナー - バーナーを選択します。エクスポート先に送信したいバーナーを指定できます。こうして、エクスポートを作成し、必ず一度に光学メディアに直接書き込まれるようにします。
プライバシーマスク	クリックして、カメラのプライバシーマスクを設定します。画像の一部が表示されないように、選択したエリアを不透明の黒いエリアで覆います。既存のプライバシーマスクは削除できません。新しく追加できるだけです。

プライバシーマスク、メディアプレイヤー形式、静止画像は、詳細モードでのみ使用できます。

XProtect フォーマットの設定

XProtect フォーマットでエクスポートできるのは、一部の監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合のみです。ユーザー権限によっては、一部またはすべてのカメラからの証拠のエクスポートが制限される場合があります。

名前	詳細
を含める XProtectSmart Client – Player	選択すると、エクスポートするデータに XProtect Smart Client – Player アプリケーションが含まれます。XProtect フォーマットは、XProtect Smart Client – Player でのみ再生できます。
再エクスポートしない	ビデオや音声の再エクスポートを許可しない場合に選択します。受信者は、いかなるフォーマットでもエクスポートできません。

名前	詳細
パスワード保護	エクスポートするデータに適用する暗号化の長さを選択します。 エクスポート開始 をクリックすると、システムは 8 文字以上のパスワードを要求します。
デジタル署名を含める	選択すると、エクスポートするデータにデジタル署名が含まれます。監視システムの設定によって、ビデオや音声にすでに署名が含まれていることがあります。この場合は、これらの署名はエクスポート中に検証され、検証が成功するとエクスポートに含まれます。検証が失敗すると、デバイスに対するエクスポートも失敗します。エクスポートされたファイルを受信者が開く時に、XProtect Smart Client – Player で署名を検証することができます。 デジタル署名を含めない場合、サーバーからの署名もエクスポートも含まれられず、ビデオや音声が増変されていてもエクスポートが成功することになります。 エクスポートプロセスでデジタル署名が除外される、次の 2 つのシナリオがあります。 プライバシーマスクが追加されると、レコーディングサーバーの電子署名はエクスポートに含まれません。 エクスポートしているデータが現在の日付および時刻と非常に近い場合、シーケンス全体でレコーディングサーバーの電子署名が含まれない可能性があります。この場合、電子署名はエクスポートの一部にしか追加されません。 エクスポートプロセスは完了しますが、署名を確認すると、レコーディングサーバーの電子署名が削除されているか、部分的に OK になっていることが分かります。
コメント	クリックして エクスポートにコメントを追加する ウィンドウを開くと、個別のカメラやプロジェクト全体にコメントを追加することができます。

メディアプレイヤーのフォーマット設定

メディアプレイヤーのフォーマットを使用すると、標準のメディアプレイヤーがインストールされている、ほぼすべてのコンピュータで再生または聴くことのできる標準のビデオクリップまたは音声クリップをエクスポートすることができます。また、コンピュータにはエクスポートで使用するコーデックもインストールされている必要があります。

氏名	説明
コンテンツの選択	ビデオのみ、音声のみ、またはビデオと音声の両方をエクスポートするか選択してください。
形式の選択	AVI 形式または MKV 形式でビデオをエクスポートするか選択してください。

氏名	説明
コーデック	ビデオコーデックは、ビデオファイルを生成する際に使用される特別な圧縮/解凍テクノロジーです。選択したコーデックは、AVI ファイルの品質とサイズに影響します。 リストには、使用中の PC で使用可能なビデオコーデックが含まれています。 コーデックを変更することはできますが、変更するべき十分な理由がない限り、デフォルトのコーデックの設定を使用することをお勧めします。 使用するコーデックは、ビデオクリップを再生するコンピュータと類似のものである必要があります。
タイムスタンプを含める	監視システムからの日付と時刻をエクスポートされた画像に追加する場合に選択します。エクスポートしたビデオの最上部にタイムスタンプが表示されます。
フレームレートの低減	選択すると、エクスポートのフレームレートを低減させます。1 つおきに画像をエクスポートしますが、リアルタイムで再生できます。
ビデオのテキスト	ビデオのテキストのウィンドウをクリックして開き、AVI ファイルの前後のテキストを作成することができます。これらのテキストは、エクスポートするすべてのカメラに追加され、ビデオの前(プレスライド)および/または後(ポストスライド)に静止画像として表示されます。

重要：MKV 形式でエクスポートを実行する場合、プライバシーマスクを使用せず、JPEG または MPEG-4/H.264/H.265 形式でビデオを録画すると、録画したビデオはエクスポートにトランスコードされません(録画したビデオの元の品質が保持されます)。対照的に、プライバシーマスクを使用しているか、他のコーデック（例、MxPEG または MPEG-4 ショートヘッダモード）を使用してビデオを録画した場合、録画されたビデオはエクスポートで JPEG にトランスコードされます。

静止画像設定

単一のビデオフレームをエクスポートする場合は、これらを静止画像としてエクスポートすることができます。

名前	詳細
タイムスタンプを含める	監視システムからの日付と時刻をエクスポートされた画像に追加する場合に選択します。エクスポートしたビデオの最上部にタイムスタンプが表示されます。

ストーリーボードのエクスポート（説明付き）

ストーリーボード機能は、1 つのカメラから、または複数のカメラからのビデオシーケンスと一緒に 1 つの結合フローに貼り付けるのに役立ちます。イベントのシーケンス、ストーリーボードを内部調査や法定での証拠として使用することができます。

関連しないシーケンスをすべて省略したり、必要のないビデオの長いシーケンスを見ることで時間を無駄にすることを避けられます。また、関連するビデオが含まれていないシーケンスの保存でストレージを無駄にすることも回避できます。

ストーリーボード 『176ページ の"ストーリーボードのエクスポート"参照』を構成するビデオシーケンスを選択すると、時間選択モードの再生タブで作業ができます。ここで、**エクスポート > エクスポートリストに追加機能**を使用すると、**エクスポート**ウィンドウを開くことなく、複数のシーケンスをリストに保存できます。リスト全体を構築すると、次にシーケンスの集合、ストーリーボードと一緒にエクスポートすることができます。また、エクスポートウィンドウからアイテムを直接エクスポート 『176ページ の"エクスポートウィンドウからアイテムを直接エクスポートする"参照』することもできます。

ビデオクリップ、音声、XProtect データ、静止画像のエクスポート

1. タイムラインの再生タブで、時間選択モードボタンをクリックし、エクスポートするシーケンスの開始時間と終了時間を選択 『163ページ の"時間選択"参照』します。

注意：ストーリーボードをエクスポート 『176ページ の"ストーリーボードのエクスポート"参照』したい場合は、個別に開始時間および終了時間を設定した複数のシーケンスを選択することができます。

2. タイムラインの右側にある**[エクスポート] > [エクスポート...]**をクリックして、**[エクスポート]**ウィンドウを開きます。

既に選択していて、関連するビデオデータを含んでいるアイテムに、さらにアイテムを追加したい場合は、**アイテムの追加...**ボタンを使用して選択することで、これらをエクスポートに含めることができます。また、選択を**[エクスポート]**ウィンドウで変更することもできます。

3. **エクスポート名**フィールドに、エクスポートの名前を入力します。システムは、現在の日時で名前を自動的に作成します。名前は変更できます。
4. エクスポート先のパスおよび/またはメディアバーナーを指定します。
5. 関連するタブをクリックして、以下からエクスポートするフォーマットを 1 つまたは複数選択します：

- **XProtect フォーマット** - エクスポートに Milestone XProtect を含めるオプションを使用して XProtectSmart Client – Player データベース形式でエクスポートします。この形式でエクスポートしたビデオを表示するには、XProtect Smart Client – Player を使用する必要があります。他のメディアプレーヤーでは動作しません。
- **メディアプレーヤーのフォーマット** - ほとんどのメディアプレーヤーで再生できる形式でファイルをエクスポートします。これには、ビデオを再生するコンピュータにメディアプレーヤーがインストールされている必要があります。
- **静止画像** - 選択した期間の各フレームを 1 つの静止画像ファイルとしてエクスポートします。

6. **XProtect[フォーマット]**を選択して、エクスポート後のファイルが改変されていないことをエクスポートの受信者が確認できるようにするには、**[デジタル署名を含める]**チェックボックスを選択します。この操作で XProtect Smart Client – Player の**[署名の検証]**ボタンが有効になります。

重要：デジタル署名は 2017 R2 以降のシステムにログインする XProtect Smart Client 2017 R1 以前のバージョンには機能せず、エクスポートは失敗します。

7. 選択した形式の設定 『171ページ の"エクスポートウィンドウの設定 (説明付き)"参照』を指定します。これらの設定に基づいて、プログラムはエクスポートのサイズを推定し、ウィンドウの下部のバーに表示します。

注意：エクスポートで表示したくない項目や情報がビデオに含まれている場合は、プライバシーマスクを追加して、ビデオ内のこれらの項目を非表示にできます。詳細については、「エクスポート中に録画の領域をマスクする 『177ページ』」を参照してください。

8. **エクスポートの開始**をクリックすると、証拠のエクスポートが始まります。

ストーリーボードのエクスポート

ストーリーボード 『174ページ』の"ストーリーボードのエクスポート（説明付き）"参照』を構成している複数のアイテムをエクスポートする場合は、以下の手順に従います。

1. **【再生】**タブのタイムラインにある**【時間選択モード】**ボタンをクリックします。
 2. エクスポートしたいそれぞれのアイテムについて、開始時間と終了時間を選択 『163ページ』の"時間選択"参照』してから、**【エクスポート】** > **【エクスポートリストに追加】**の順にクリックします。これで、**【エクスポート】**ウィンドウを開くことなく、それぞれのアイテムがエクスポートのリストに追加されます。ストーリーボードに必要なアイテムがすべて追加されるまで、繰り返します。
 3. タイムラインの右側にある**【エクスポート】** > **【エクスポート...】**をクリックして、**【エクスポート】**ウィンドウを開きます。選択したアイテムがすべて**【アイテム】**リストに表示され、エクスポートの準備が完了します。
- 【アイテムの追加】**をクリックして、追加アイテムを追加します。**【すべて削除】**をクリックすると、リストはクリアされます。
4. **【エクスポート名】**フィールドに、エクスポートの名前を入力します。プログラムにより、現在の日時で名前が自動的に作成されます。この名前は変更できます。
 5. エクスポート先のパスおよび/またはメディアバーナーを指定します。
 6. 関連するタブをクリックして、エクスポート先のフォーマットを選択します。
 7. 選択したフォーマットに必要な設定 『171ページ』の"エクスポートウィンドウの設定（説明付き）"参照』を指定します。これらの設定に基づいて、プログラムはエクスポートサイズを推定し、ウィンドウの下部のバーに表示します。
 8. **【エクスポートの開始】**をクリックして、エビデンスをエクスポートします。

変更を行いたい場合、あるいは後でアイテムを追加したい場合は、**【キャンセル】**をクリックします。選択したエクスポートアイテムを削除するかどうかを確認されたら、**【いいえ】**をクリックします。こうすることで、再度開いた時に、必ずエクスポートアイテムのリストが**【エクスポート】**ウィンドウで使用可能になります。

エクスポートウィンドウからアイテムを直接エクスポートする

エクスポートアイテムを直接**【エクスポート】**ウィンドウに追加することでアイテムをエクスポートするには、次の手順に従います。

1. **【再生】**タブでタイムラインの右側にある**【エクスポート】** > **【エクスポート】**をクリックして、空の**【アイテム】**リストを含む**【エクスポート】**ウィンドウを開きます。
2. **【アイテムの追加】**をクリックして、カメラなどのエクスポートリストに追加したいアイテムを追加します。
3. それぞれのエクスポートアイテムをクリックしてから、リストの右にあるプレビューペインで開始時間と終了時間を指定します。リストにあるすべてのアイテムについて繰り返します。
4. **【エクスポート名】**フィールドに、エクスポートの名前を入力します。デフォルトでは、現在の日時が使用されます。この名前は変更できます。
5. エクスポート先のパスまたはメディアバーナーを指定します。
6. 関連するタブをクリックして、エクスポート先のフォーマットを選択します。

7. 選択したフォーマットに必要な設定『171ページ の"エクスポートウィンドウの設定(説明付き)"参照』を指定します。これらの設定に基づいて、プログラムはエクスポートサイズを推定し、ウィンドウの下部に表示します。

注:エクスポートで表示したくない項目や情報がビデオに含まれている場合は、プライバシーマスクを追加して、ビデオ内のこれらの項目を非表示にできます。詳細については、エクスポート中に録画の領域をマスクする『177ページ』を参照してください。

8. **【エクスポートの開始】**をクリックして、エビデンスをエクスポートします。

注:変更を行いたい場合、あるいは後でアイテムを追加したい場合は、**【キャンセル】**をクリックします。選択したエクスポートアイテムを削除するかどうかを確認されたら、**【いいえ】**をクリックします。こうすることで、再度開いた時に、必ずエクスポートアイテムのリストが**【エクスポート】**ウィンドウで使用可能になります。

エクスポート中に録画の領域をマスクする

ビデオをエクスポートするときには、プライバシーマスクを追加して、選択した領域を非表示にできます。ビデオを表示すると、マスクされた領域は塗りつぶされたブロックとして表示されます。詳細については、「プライバシーマスク『84ページ』」を参照してください。

注意: プライバシーマスクはエクスポートするビデオにのみ影響します。元のビデオはマスクされません。

録画の1つ以上の領域をマスクするには、次の手順に従います。

-  ボタンをクリックしてから、マスクする領域の上にポインタをドラッグします。その他の領域をマスクするには、この手順を繰り返します。

注意: プレビュー画像には表示されないグリッドがあります。プライバシーマスクを追加すると、グリッドのセルが選択されます。選択する領域にセルの一部分が含まれている場合、セル全体がマスクされます。この場合、想定しているよりも若干大きい画像がマスクされる可能性があります。

ヒント: CTRL ボタンを押しながら選択すると、マスクとマスク解除モードを一時的に切り替えることができます。たとえば、マスクを追加し、選択した領域が想定したよりも大きい場合、CTRL ボタンを押すと、 ボタンをクリックせずに選択した部分をマスク解除できます。

プライバシーマスクの一部を解除するには、次の手順に従います。

-  ボタンをクリックしてから、マスク解除するマスク領域の上にポインタをドラッグします。マスク解除する各部分でこの手順を繰り返します。

すべてのプライバシーマスクを削除するには、次の手順に従います。

- **【リセット】**をクリックします。

ヒント: マスクが適用されていない画像を表示する場合は、**【マスクの非表示】**ボタンをクリックし続けます。ボタンをリリースすると、マスクが再表示されます。

よくある質問：エクスポート

音声もエクスポートできますか？

メディアプレイヤーのフォーマットおよび XProtect のフォーマットをエクスポートする場合、監視システムが音声に対応していれば、録音音声もエクスポートできます。データベースフォーマットでエクスポートできるのは、選択した監視システムに接続している場合のみです。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、

以下の XProtect 製品比較表を参照してください。 <http://www.milestonesys.com>。 JPEG（静止画）フォーマットでエクスポートする場合は、音声を含めることはできません。

ブックマークビデオクリップをエクスポートすると、何がエクスポートに含まれますか？

指定されたクリップの開始時間から指定されたクリップの終了時間まで、ブックマークビデオクリップ『166ページ の"ブックマーク"参照』の全体が含まれます。

シーケンスをエクスポートすると、何がエクスポートに含まれますか？

シーケンスの最初の画像からシーケンスの最後の画像まで、シーケンス全体が含まれます。

証拠ロックをエクスポートすると、何がエクスポートに含まれますか？

削除から保護されているすべてのデータが含まれる：すべてのカメラおよびカメラに関連するデバイスからのデータ、選択した間隔の最初の画像から選択した間隔の最後の画像まで。

魚眼レンズ記録をエクスポートできますか？

はい。監視システムが魚眼レンズカメラ(例、360°のパノラマ画像を録画できる特殊カメラ)をサポートしている場合は可能です。

エクスポートパスを指定できないのはなぜですか？

通常は独自のパスを指定できますが、特定のタイプの監視システム『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』に接続していなければ、監視システムサーバーがエクスポートパスの設定を管理し、ユーザーは独自のパスを指定することができません。

エクスポートしたビデオから、デジタル署名が削除されているのはなぜですか？

エクスポートプロセスでデジタル署名が除外される、次の2つのシナリオがあります。

プライバシーマスクが追加されると、レコーディングサーバーの電子署名はエクスポートに含まれません。

エクスポートしているデータが現在の日付および時刻と非常に近い場合、シーケンス全体でレコーディングサーバーの電子署名が含まれない可能性があります。この場合、電子署名はエクスポートの一部にしか追加されません。

エクスポートプロセスは完了しますが、署名を確認すると、レコーディングサーバーの電子署名が削除されているか、部分的に OK になっていることが分かります。

不正な変更や悪意のあるユーザーから、エクスポートする証拠を保護できますか？

可能です。XProtect フォーマットでエクスポートする際、受信者による『172ページ の"XProtect フォーマットの設定"参照』素材の再エクスポートを禁止する、エクスポートした証拠をパスワードで保護する『172ページ の"XProtect フォーマットの設定"参照』、エクスポートした素材に署名を追加する『172ページ の"XProtect フォーマットの設定"参照』のいずれかを選択できます。

証拠ロック

※本機期は、証拠ロックには対応していません。

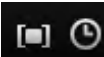
証拠ロック（説明付き）

証拠ロック機能で、たとえば調査や試行を行っているときに、ビデオシーケンスを削除から保護することができます。この保護は、選択したカメラに係するデバイスからの音声やその他のデータをカバーします。

証拠ロックが設定されると、システムはそのデータを削除から保護します。これは、十分なユーザー権限を持つユーザーが証拠のロックを解除するまでは、あなた自身も、他の XProtect Smart Client ユーザーもデータを削除できないことを意味します。また、証拠ロックでは、データはシステムのデフォルト保持時間に基づいて行われる自動削除からも保護されます。

システム管理者が定義したユーザー権限に応じて、証拠ロックを作成、表示、編集、削除することができる場合とできない場合があります。

エビデンスロックを作成する

1. **【再生】**タブを選択します。
2. タイムラインの**【時間選択モード】**または**【開始時間の設定】**ボタンをクリックします。

3. 削除から保護したいビデオシーケンスの開始時間および終了時間を選択します。
4. 保護したいビデオシーケンスや、関連するデバイスのデータを持つカメラを **1** つ以上選択します。
5. タイムラインの右側にある**【エビデンスロック】**をクリックして**【作成】**を選択します。
6. **【エビデンスロックの作成】**ウィンドウで、エビデンスロックの表題を入力し、オプションとして説明を追加します。
7. **【カメラの選択】**をクリックして、エビデンスロックにさらにカメラを追加します。
8. **【削除】**または**【すべて削除】**をクリックして、エビデンスロックからカメラを削除します。
9. 時間間隔を調整し、保護しているエビデンスを保持したい期間を定義することができます。詳細については、エビデンスロック設定 『181ページ の"証拠ロック設定"参照』を参照してください。
10. **【作成】**をクリックします。
11. エビデンスロックが正常に作成されると、ウィンドウが表示されます。 **【詳細】**をクリックして、うまくいったこと、うまくいかなかったことを確認します。詳細は、証拠ロックのステータスメッセージ 『182ページ』を参照してください。

既存のエビデンスロックを表示する

1. **【再生】**タブをクリックします。
2. タイムラインの右側にある**【エビデンスロック】**をクリックして**【表示】**を選択します。
3. **【再生】**タブではなく**【ライブ】**タブにとどまりたい場合は、アプリケーションのツールバーで**ステータスボタン**  をクリックしてから、**【エビデンスロックリスト】**を選択します。ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。
4. 表題や説明のテキストを検索し、異なる列を並び替えたり、フィルターオプションを使って必要なエビデンスロックを検索しやすくします。詳細については、エビデンスロックをフィルターする 『182ページ の"証拠ロックフィルター"参照』を参照してください。
5. エビデンスロックを選択し、**【詳細】**をクリックすると、そのエビデンスロックや他の情報に含まれるカメラが表示されます。詳細については、エビデンスロック設定 『181ページ の"証拠ロック設定"参照』を参照してください。

証拠ロックの編集

1. 再生タブを選択します。
2. ワークスペースツールバーで、**証拠ロック**をクリックして、**ビュー**を選択します。

再生タブを選択する代わりに、**ライブ**タブに留まりたい場合：

アプリケーションのツールバーで**ステータス**ボタン  をクリックしてから、**証拠ロックリスト**を選択します。

1. 証拠ロックを選択し、**詳細**をクリックします。新しい証拠ロックを作成する時と同じオプションを持つウィンドウが表示されます。詳細については、証拠ロック設定 『181ページ』を参照してください。
2. ユーザー権限に応じて、証拠ロックの間隔を長くしたり、短くしたり、あるいはより長い/短い期間の間証拠ロックを保持したり、カメラを追加または削除したりすることができます。
3. 完了したら、**更新**をクリックします。
4. 更新が成功すると、ウィンドウが表示されます。**詳細**をクリックして、うまくいったこと、うまくいかなかったことを確認します。詳細は、証拠ロックのステータスメッセージ 『182ページ』を参照してください。

エビデンスロックを含むビデオを再生する

ビデオが保護されているかどうかに関わらず、**再生**タブでいつでもビデオを再生することができます。特定のエビデンスロックに含まれているビデオシーケンスを再生したい場合は、次の操作を実行します。

1. **再生**タブをクリックします。
2. タイムラインの右側にある**エビデンスロック**をクリックして**表示**を選択します。
3. **再生**タブではなく**ライブ**タブにとどまりたい場合は、アプリケーションのツールバーで**ステータス**ボタン  をクリックしてから、**エビデンスロックリスト**を選択します。ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。
4. エビデンスロックを選択し、**再生**をクリックします。新しいウィンドウが開き、エビデンスロックのすべてのカメラがあるビューが表示されます。
5. いずれかのタイムライン機能を使って、特定の時刻へ移動するか、単に**順方向再生**をクリックします。

エビデンスロックをエクスポートする

1. **再生**タブをクリックします。
2. タイムラインの右側にある**エビデンスロック**をクリックして**表示**を選択します。
3. **再生**タブではなく**ライブ**タブにとどまりたい場合は、アプリケーションのツールバーで**ステータス**ボタン  をクリックしてから、**エビデンスロックリスト**を選択します。
4. エビデンスロックを選択し、**エクスポート**をクリックします。

5. **【エクスポート】**ウィンドウが開きます。設定を定義します。詳細については、**【エクスポート】**ウィンドウ『171ページ』の**"エクスポートウィンドウの設定（説明付き）"**参照』を参照してください。

参照

エビデンスロックをエクスポートすると、何がエクスポートに含まれますか？

エビデンスロックを削除する

エビデンスロックを削除する場合、ビデオシーケンスを削除するのではなく、それらの保護を削除することになります。ビデオシーケンスがシステムのデフォルトの保持時間より古くなると、システムはこれを知らせ、ユーザーはエビデンスロックの保持を選択して、保護の削除後にシステムによって自動的に削除されるのを防ぐことができます。

1. **【再生】**タブをクリックします。
2. タイムラインの右側にある**【エビデンスロック】**をクリックして**【表示】**を選択します。
3. **【再生】**タブではなく**【ライブ】**タブにとどまりたい場合は、アプリケーションのツールバーで**ステータス**ボタン  をクリックしてから、**【エビデンスロックリスト】**を選択します。
4. 1つ以上のエビデンスロックを選択し、**【削除】**をクリックします。
5. 削除が成功すると、ウィンドウが表示されます。 **詳細**をクリックして、うまくいったこと、うまくいかなかったことを確認します。詳細は、証拠ロックのステータスメッセージ『182ページ』を参照してください。

証拠ロック設定

氏名	説明
ヘッドライン	証拠ロックの表題です。
説明	証拠ロックの説明です。
証拠ロック間隔の開始	保護したいビデオシーケンスの開始日時を調整します。
証拠ロック間隔の終了	保護したいビデオシーケンスの終了日時を調整します。
証拠ロックの保持期間	証拠ロックを保護しておく期間を指定します。 ユーザー権限に応じて、次にオプションのいずれかを使用できます：時間、日、週、月、年、無限、ユーザー定義。 ユーザー定義を選択する場合、カレンダーボタンをクリックして、日付を選択してから、時刻を手動で調整します。 完了すると、証拠ロックの有効期限が終了する日時が表示されます。
カメラの選択	クリックして、証拠ロックにさらに含めるカメラを選択します。
削除/すべて削除	クリックして、証拠ロックから選択したカメラを1つ削除するか、すべてのカメラを削除します。

証拠ロックフィルター

氏名	説明
ロック間隔	保護される間隔の開始時間に基づいて、証拠ロックをフィルターします。使用できるオプションは、本日、昨日、最近 7 日、すべて、です。
作成済み	いつ作成されたかに基づいて、証拠ロックをフィルターします。使用できるオプションは、本日、昨日、最近 7 日、すべて、カスタム間隔です。カスタム間隔を選択する場合、カレンダーで開始と終了の日付を選択します。
有効期限日	有効期限に基づいて、証拠ロックをフィルターします。使用できるオプションは、本日、明日、今後 7 日、すべて、カスタム間隔です。カスタム間隔を選択する場合、カレンダーで開始と終了の日付を選択します。
ユーザー	すべてのユーザーまたはあなただけによって作成された証拠ロックをフィルターします。
カメラ	すべてのカメラからのデータを持つ証拠ロックをフィルターするか、証拠ロックに含める必要があるカメラを 1 つ以上選択します。

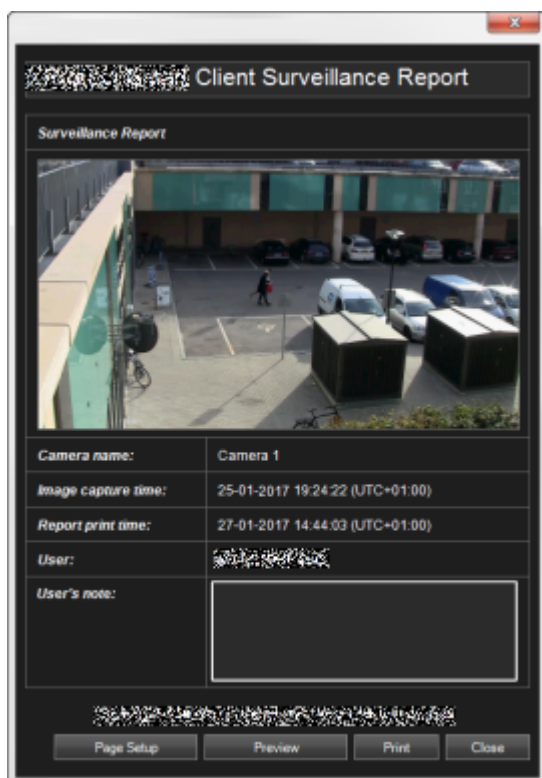
証拠ロックのステータスメッセージ

メッセージ	説明および結果	シナリオおよびソリューション
成功	すべてが成功です。 結果： 証拠ロックは作成済み/更新済み/削除済みです。	
部分的にのみ成功	証拠ロックの作成、更新、削除が完全に成功したわけではない場合、部分的にのみ成功のメッセージが表示され、進行状況バーは黄色になります。 詳細 をクリックして、何がうまくいかなかったかを確認します。 結果： 証拠ロックは作成/更新/削除されましたが、選択したカメラおよび/またはそれらに関連するデバイスの一部が含まれませんでした。	シナリオ： - デバイスが証拠ロックに含まれている録画サーバーの一部がオフラインです。 - システム管理者は、あなたが XProtect Smart Client にログインした後、あなたの証拠ロックのユーザー権限を変更しました。 解決策： シナリオに応じて 後でやり直すか、システム管理者に連絡します。

失敗しました	証拠ロックの作成、更新、削除が成功しなかった場合、失敗のメッセージが表示され、進行状況バーは赤色になります。詳細をクリックして、何がうまくいかなかったかを確認します。 結果： 証拠ロックは作成済み/更新済み/削除済みではありません。	シナリオ： - デバイスが証拠ロックに含まれている録画サーバーのすべてがオフラインです。 - 管理サーバーはオフラインです。 - 更新および削除に対してだけ：証拠ロックの1つ以上のデバイスに対するユーザー権限がありません。 解決策： シナリオに応じて 後でやり直すか、システム管理者に連絡します。
---------------	--	---

証拠を印刷する

複数の方法で、録画されたビデオから単一の静止画像またはビュー全体を印刷できます。印刷すると、その画像は自動的に監視レポートに含まれます。この監視レポートには、記録されているインシデントに関するメモを含めることができます。



組織でアラーム処理機能を使用している場合、アラームに関する情報も印刷できます。

監視レポートを印刷する

1. 監視レポートの一部として印刷する、関連するカメラ、ビュー、またはブックマークを選択します。
2. 関連する時間またはシーケンスを参照します。

- マウスを画像の上に移動し、カメラのツールバーに表示されるメニューで、**印刷アイコン**  をクリックします。ブックマークを印刷する場合は、ブックマークのプレビューツールバーの**シーケンスエクスプローラ**タブで、**印刷アイコン**  をクリックします。

監視レポートが表示され、以下に関する情報と共に画像のプレビューが表示されます。

- カメラ名
- 画像取得時間
- 印刷時間
- ユーザーの名前

ブックマークについて：

- ブックマーク ID
- 時間の詳細
- ブックマークの表題
- ブックマークの説明(該当する場合)。

ユーザーのメモ：に、インシデントの説明を含めることができます。

ヒント：画像にデジタルズームを使用した場合は、拡大した部分のみが印刷されます。

オプション：用紙サイズ、ソース、印刷方向を変更または確認するには、**監視レポート**ウィンドウの**ページ設定**ボタンをクリックして、**ページ設定**ウィンドウを開きます。



準備ができたなら、**OK** をクリックして、XProtect Smart Client **監視レポート**ウィンドウに戻ります。レポートをプレビューする場合は、**プレビュー**をクリックします。

- 印刷をクリックすると、画像とその関連情報が印刷されます。

Milestone Interconnect からデータを取得する

※本機は、Milestone Interconnect には対応していません。

Milestone Interconnect™を使用すると、船舶やバスなどに設置されたモバイルなど、多数の独立監視システムを中央管理サイトに統合できます。

お使いの XProtect Smart Client が Milestone Interconnect セットアップの一部であり、1 つ以上のカメラがエッジストレージをサポートし、必要なユーザー権限がある場合は、内部接続された 1 つ以上のデバイスからデータを取得する必要があります。

1. タイムラインの【再生】タブで、【時間選択モード】 ボタンをクリックし、データを取得するシーケンスの開始時間と終了時間 『163ページ の"時間選択"参照』を選択します。
2. ツールバーの右側にある【取得】をクリックして、【取得】ウィンドウを開きます。
3. 該当するカメラを選択し、【取得開始】をクリックします。

アプリケーションツールバーの【ステータス】ボタンをクリックすると、【ステータス】ウィンドウ 『40ページ』の"[ステータス]ダイアログボックス"参照』に取得ジョブの進捗状況が表示されます。

- 進行中の取得ジョブを停止するには、ワークスペースエリアの上部にある通知エリア、または進行中のジョブの隣にある【ステータス】ウィンドウの【停止】をクリックします。

拡張

XProtect アドオン製品は個別のソフトウェアコンポーネントであり、追加の価値と機能でビデオ管理システムを拡張できます。たとえば、XProtect Transact を使用する場合は、キャッシュレジスターのトランザクションデータをビデオにリンクし、小売業務を最適化することで、セキュリティ関連以外の目的でもビデオシステムを使用できます。

XProtect Smart Wall

※本機は、Smart Wall には対応していません。

XProtect Smart Wall（説明付き）

このアドオン製品、選択した監視システム『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』でのみ使用できます。ユーザー権限によって、一部の機能へのアクセスが制限されることがあります。

XProtect Smart Wall はコラボレーションツールであり、セキュリティ担当者は、常時監視する必要がある領域の概要を、優れた視覚的効果を使用して確認できます。1 人以上のオペレータは、モニターおよびビデオウォール上でビデオ、画像、マップ、テキスト、HTML ページなどのさまざまなコンテンツを共有でき、セキュリティチームはより迅速かつ効果的にインシデントに対応できます。

一般的に、Smart Wall はコマンドセンター、都市監視、交通管制センターなどのオペレータによって使用されます。



ビデオウォールの例

Smart Wall の設定

システム管理者は、Smart Wall のレイアウトと動作を定義します。これには次の項目が含まれます。

- Smart Wall の名前などの一般プロパティ、ステータステキスト、タイトルバー、またはライブインジケータを表示するかどうか。
- ディスプレイのレイアウトを制御するプリセット、およびビデオの表示元のデフォルトカメラ。
- コンテンツを表示、操作、追加、または再生できるユーザーの役割、および役割が各操作を実行できるタイミング。

- ルールと組み合わせて、アラームまたはコンテンツの表示などのシステムアクションをトリガするイベント。

アクションがイベントによってトリガされるか、スケジュールに基づくかどうかを決定するルール。動作に関するこのような設定のいずれかを変更する場合は、システム管理者に相談してください。

XProtect Smart Wall でのライブまたは録画されたコンテンツの表示

XProtect Smart Wall コンテンツは、XProtect Smart Client のすべての**ライブ**および**再生**タブで表示できます。

注意：ユーザー権限により、カメラが Smart Wall 上でビデオを表示できないようにすることができます。

Smart Wall のコンテンツを表示するには、次の手順に従います。

1. ビューペインで、**Smart Wall**を展開し、Smart Wall フォルダを展開してから、モニターを選択します。
2. 実行する操作に応じて、**[ライブ]**または**[再生]**タブをクリックします。

別のウィンドウで Smart Wall コンテンツを表示する

Smart Wall コンテンツは、メインコンピュータモニターの別のウィンドウ、または使用しているセカンダリコンピュータモニターに送信できます。たとえば、次の状況で有用です。

- 初めてビデオウォールを設定し、モニター上でコンテンツを全画面表示する。
- Smart Wall とは別の部屋で作業しながら表示内容を確認する必要がある。
- Smart Wall で状況を監視しながら、Smart Client で作業を行う。たとえば、インシデントが発生した瞬間をブックマークに追加したり、**[再生]**タブで状況を調査したり、不審者のスナップショットを作成したりできます。

次の表には、別のウィンドウまたはディスプレイで Smart Wall コンテンツを表示する方法について説明します。

オプション	説明
フルスクリーン	現在表示しているコンテンツをディスプレイ上に全画面表示します。 Smart Client は Smart Wall コンテンツの後ろで開いた状態です。ウィンドウは最小化またはサイズ変更できます。 このオプションは、Smart Wall が対応する領域に集中する場合に有用です。たとえば、警備員が建物内部の不審者を見失った後に、正面の駐車場を監視するときなどです。
セカンダリディスプレイ	別のディスプレイでコンテンツを表示し、現在のディスプレイでは Smart Client を表示し続けます。 このオプションでは、Smart Client で作業しながら、Smart Wall を監視できます。たとえば、インシデントのビデオをエクスポートしながら、駐車場を監視し続けることができます。
フロートウィンドウ	現在表示しているディスプレイのフロートウィンドウでコンテンツを表示します。ウィンドウは最大化またはサイズ変更できます。 たとえば、このオプションは、複数の Smart Wall からコンテンツを表示する場合に有用です。駐車場と屋根を同時に監視できます。

Smart Wall からディスプレイにコンテンツを送信するには、次の手順に従います。

- Smart Wall ビューアイテムの上で、 アイコンをクリックし、**【ビューを分ける】**を選択してから、ディスプレイオプションを選択します。

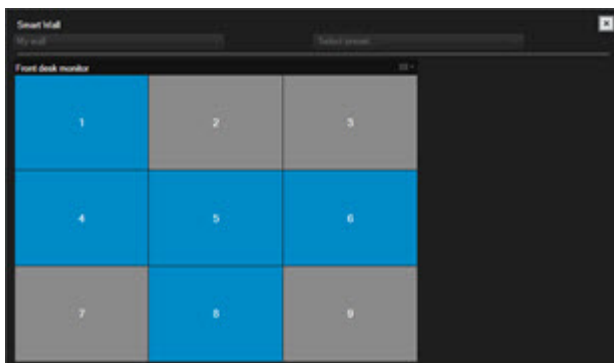
ビデオウォールに表示中の内容を妨害せずにコンテンツを確認する

【Smart Wall モニターの切断】をクリックすると、Smart Wall が表示するコンテンツを変更せずに、ライブまたは録画されたコンテンツを表示できます。切断中に行う変更は、Smart Wall が表示するコンテンツに影響しません。たとえば、タイムラインで時系列と反対に移動しても、Smart Wall は現在のビデオを表示し続けます。共有されたコンテンツに再接続する場合は、**【Smart Wall モニターの再接続】**をクリックします。

注意： **【再生】**タブで録画されたビデオを操作するには、自分が割り当てられているユーザー役割に**再生権限**が付与されている必要があります。この権限がない状態で、タイムラインスライダの移動などの変更を行おうとすると、共有ビューから自動的に切断されます。共有ビューに戻るには、**【Smart Wall モニターの再接続】**をクリックします。

Smart Wall の操作を開始する

システム管理者が Smart Wall を設定した後は、Smart Client で操作できるようになります。デフォルトでは、Smart Wall 概要は、システム管理者が指定したレイアウト、サイズ、およびカメラを反映しますが、これらの設定を変更し、他のタイプのコンテンツを追加できます。詳細については、「**Smart Wall** でのコンテンツの追加と削除 『190ページ の"Smart Wall のコンテンツの追加と削除"参照 』」を参照してください。



ビューアイテムの 3x3 レイアウトの Smart Wall 概要

Smart Wall 概要の青色のタイルはコンテンツを表示しています。灰色のタイルは空です。次の手順を実行し、タイルが表示しているコンテンツのタイプを特定できます。

- タイルの上にマウスカーソルを置きます。タイル番号がカメラなどのアイコンに変わり、コンテンツのタイプを示します。
- タイルをクリックすると、**【プレビュー】**ウィンドウにコンテンツが表示されます。

注意： プレビューウィンドウのツールバーには、コンテンツの印刷または別の Smart Wall に送信するためのオプションがあります。

Smart Wall 概要をビューに追加するには、次の手順に従います。

1. **【設定】**をクリックします。
2. ビューペインで、ビューを作成または選択します。

ヒント:幅が広いレイアウトを含むビューは **Smart Wall** コンテンツを表示するのに適しています。たとえば、**1+1+2** ビューの下部は幅が広い位置を示します。**1×3** ビューには同時に **3** つの **Smart Wall** を含めることができます。

3. **【システム概要】**ペインで、作業するビューの位置まで **Smart Wall** 概要をドラッグします。
4. **【設定】**をクリックし、セットアップモードを解除します。
5. **Smart Wall** メニューで、操作する **Smart Wall** を選択します。

カメラからビデオを表示する

Smart Wall でカメラのビデオを表示するには、次の手順に従います。

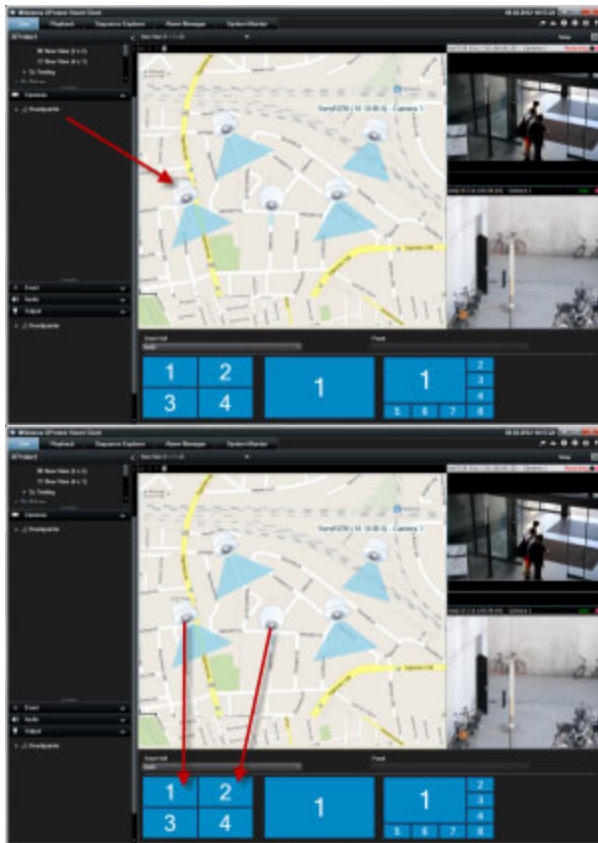
1. **【ビュー】**ペインの**【ライブ】**または**【再生】**タブで、**Smart Wall** 概要を含むビューを選択します。
2. カメラを追加するには、次の手順のいずれかを使用します。
- **【カメラ】**ペインで、カメラを **Smart Wall** 概要のタイルまでドラッグします。

注意: **【カメラ】**ペインはサーバー  によってカメラをグループ化します。赤色のアイコン  は、サーバーが使用できないことを示します。このサーバーからカメラを選択することはできません。

マップから **Smart Wall** までカメラをドラッグします。

マップ上でカメラのビデオを表示するには、マップから **Smart Wall** ビューアイテムまでカメラをドラッグします。たとえば、この方法で、アラームがトリガするときにビデオをすばやく共有することができます。

ヒント:ローディングビューやセカンダリディスプレイのビューなどの他のディスプレイのマップからカメラをドラッグすることもできます。



Smart Wall のコンテンツの追加と削除

XProtect Smart Wall では、カメラからのビデオフィードなどのコンテンツ、HTML ページ、画像、テキスト、およびモニターとビデオウォールのホットスポットおよび画面自動切替などのコントロールを表示できます。

監視する状況と環境によっては、異なるタイプのコンテンツを組み合わせることで、応答時間と効果を改善できます。たとえば、不審者の画像を表示し、パトロール中の担当者が不審者認識できるようにする場合は、画像を追加できます。応答測定のガイダンスを提供する場合は、テキストを追加できます。

ビデオまたは画像の表示

カメラからビデオを表示する

Smart Wall でカメラのビデオを表示するには、次の手順に従います。

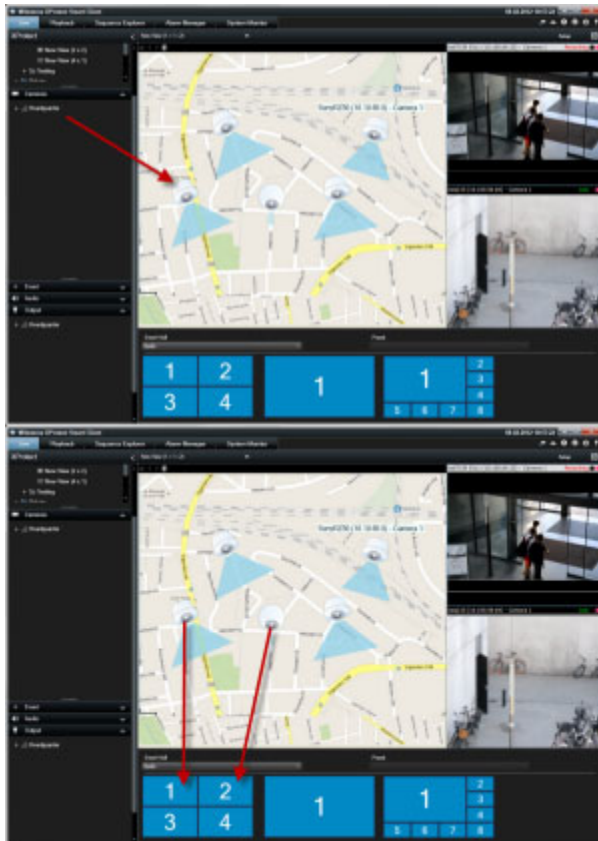
1. **【ビュー】**ペインの**【ライブ】**または**【再生】**タブで、**Smart Wall** 概要を含むビューを選択します。
2. カメラを追加するには、次の手順のいずれかを使用します。
 - **【カメラ】**ペインで、カメラを **Smart Wall** 概要のタイルまでドラッグします。

注意： **【カメラ】**ペインはサーバーによってカメラをグループ化します。赤色のアイコンは、サーバーが使用できないことを示します。このサーバーからカメラを選択することはできません。

マップから **Smart Wall** までカメラをドラッグします。

マップ上でカメラのビデオを表示するには、マップから **Smart Wall** ビューアイテムまでカメラをドラッグします。たとえば、この方法で、アラームがトリガするときビデオをすばやく共有することができます。

ヒント: ローディングビューやセカンダリディスプレイのビューなどの他のディスプレイのマップからカメラをドラッグすることもできます。



画像の表示

Smart Wall には静的な画像を表示できます。たとえば、不審者のスナップショットまたは緊急避難用出口の図を共有する場合に有用です。

画像ファイルのネットワークロケーションにアクセスできないユーザーまたは **Smart Wall** と画像を共有している場合は、**【プロパティ】**の**【埋め込む】**をクリックして、画像を埋め込むことができます。画像を埋め込むと、**Smart Client** に保存され、元のファイルの場所への接続は削除されます。埋め込まれた画像を **Smart Wall** から削除するか置換して、再表示する場合は、もう一度 **Smart Wall** に画像ファイルを追加する必要があります。

ヒント: フロアプランまたはマップを共有する場合は、マップ機能 『114ページ の"マップ"参照』の使用を検討してください。マップ機能は、特定の監視システム 『13ページ の"監視システムの別の特徴"参照』でのみ使用できます。

このトピックの手順は、**Smart Wall** 概要が既にビューに追加されていることを前提としています。詳細については、「**Smart Wall** の操作を開始する 『188ページ』」を参照してください。

Smart Wall で画像を表示するには、次の手順に従います。

1. コンピュータで、画像ファイルの場所に移動します。
2. **Smart Client** のナビゲーションペインで、**Smart Wall** 概要を含むビューを選択します。

3. 画像を表示する概要のタイルまで画像ファイルをドラッグします。

注意：画像を Smart Wall 概要までドラッグすると、画像が自動的に埋め込まれ、[プロパティ]ペインは使用できません。

複数の Smart Wall で画像を表示するには、次の手順に従います。

1. Smart Wall 概要を含むビューを選択し、**[設定]**をクリックします。
2. システム概要ペインで、ビューの特定の位置まで**画像**項目をドラッグします。
3. 追加する画像ファイルを選択し、**[開く]**をクリックします。

注意：ビューに画像を追加すると、位置に合わせて、画像のサイズが変更されます。これにより、画像がゆがむ場合があります。ゆがみを回避するには、画像の**[プロパティ]**ペインで、**[画像のアスペクト比を維持]**チェックボックスを選択します。

4. **[プロパティ]**ペインで**[埋め込む]**をクリックします。
5. **[詳細]**、**[Smart Wall に送信]**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。この手順を繰り返し、各 Smart Wall に画像を送信します。

スナップショットを作成し、Smart Wall に表示します。

次の方法で、インシデントのスナップショットを共有できます。

1. **[ライブ]**または**[再生]**タブで、映像を表示するビューアイテムの上にマウスマウスカーソルを置きます。
2. ビューアイテムツールバーで、**スナップショットの作成アイコン**  をクリックします。画像は、[アプリケーションオプション]『42ページ の"アプリケーション設定"参照 』で指定された場所に保存されます。
3. スナップショットを表示するには、Smart Wall 概要でフォルダからタイルにスナップショットをドラッグします。

ブックマークから Smart Wall のモニターへビデオクリップまたは静止画像を送信する

ビデオクリップまたは静止画像をブックマークから Smart Wall に送信するときには、ブックマークの詳細が含まれます。詳細にはブックマーク見出し、開始日時、ブックマークが作成された時点、作成したユーザーが含まれます。ブックマーク詳細を表示するには、カメラ名の上にマウスポインタを置きます。

ブックマークから Smart Wall へビデオクリップまたは静止画像を送信するには、次の手順に従います。

1. **[ライブ]**または**[再生]**タブで、ブックマークを送信するモニターを選択します。
2. **ブックマークアイコン**  をクリックし、**[ブックマークの追加]**ウィンドウを開きます。
3. **[ヘッドライン]**フィールドにブックマークの名前またはタイトルを入力します。
4. **[Smart Wall に表示]**をクリックし、Smart Wall、モニターの順に参照して、ビデオまたは画像を表示するタイルをクリックします。
5. ビデオクリップまたは静止画像を送信するかどうかによって、次のいずれかを実行します。
 - ビデオクリップを送信するには、**[OK]**をクリックします。
 - 静止画像を送信するには、**[静止画像のみを送信する]**チェックボックスを選択し、**[OK]**をクリックします。

テキスト、Web ページ、アラームの表示

ビューまたは Smart Wall へのテキストの追加

ビューの位置にテキストを追加できます。たとえば、メッセージまたは手順をオペレータに送信したり、セキュリティ担当者の作業スケジュールを投稿する場合に有用です。最大 **1000** 文字まで使用できます。

ビューアイテムにテキストを追加するには、次の手順に従います。

1. **【設定】**をクリックします。
2. **【システム概要】**ペインで、**テキストコンテンツ**をビューにドラッグします。
3. **【テキストエディタ】**ウィンドウでは次の操作ができます。
 - 表示するテキストを入力する
 - **【貼り付け】**を右クリックして選択し、Microsoft Word や WordPad などの外部テキストエディタからコピーしたテキストを貼り付ける。
 - フォントタイプ、サイズ、色などの基本書式設定をテキストに適用する。
4. テキストを保存し、表示するには、**【保存】**をクリックします。保存した後にテキストを変更する場合は、**【編集】**をクリックして、**【プロパティ】**ペインからもう一度テキストエディタを開くことができます。

注意：

[テキストエディタ]ウィンドウのサイズを変更すると、テキストのサイズが変わります。表示されるときには、ビューアイテムに追加されたコンテンツのサイズがビューに合わせて変更されます。

Microsoft Word や Microsoft Excel などの製品から表を挿入することはできますが、表の変更はできません。たとえば、行のサイズ変更、行の追加と削除はできません。また、XProtect Smart Client の暗いテーマと明るいテーマに対応するために、明るいテキストまたは暗いテキストの色が変更されます。テキストが表示されない場合は、テキストに別の色を適用してください。

Smart Wall でのテキストの表示

XProtect Smart Wall アドオンを使用している場合は、ビデオウォールでテキストを表示することもできます。たとえば、ビデオウォールを表示できるユーザー全員に情報を提供する場合に有用です。テキストを共有する最適な方法は、1 つの Smart Wall にテキストを表示するか、複数の Smart Wall に送信するかによって異なります。

注意：テキストを Smart Wall に表示するときには、元のテキストのみが表示されます。つまり、ビューのテキストを編集する場合は、Smart Wall に変更が表示されません。

複数の Smart Wall でテキストを表示するには、次の手順に従います。

1. ビューアイテムにテキストを追加するトピックで説明している手順を実行します。
2. 保存した後に、**【詳細】**、**【Smart Wall へ送信する】**をクリックし、Smart Wall 設定を選択し、モニターを選択してから、モニターの位置を選択します。この手順を繰り返し、各 Smart Wall にテキストを送信します。

1 つの Smart Wall でテキストを表示するには、次の手順に従います。

注意：この手順では、テキストエディタがドラッグアンドドロップ操作をサポートする必要があります。サポートされていない場合は、このセクションの前の手順でテキストを Smart Wall に送信してください。

1. XProtect Smart Client のナビゲーションペインで、Smart Wall 概要を含むビューを選択します。

2. テキストエディタで、表示するテキストを入力し、選択します。テキストが既に存在する場合は、選択します。
3. テキストを表示する概要のタイルまでテキストをドラッグします。
4. テキストエディタで、テキストを確認し、必要に応じて変更を行います。
5. テキストを保存し、表示するには、**【保存】**をクリックします。保存した後にテキストを変更する場合は、**【編集】**をクリックして、**【プロパティ】**ペインからもう一度テキストエディタを開くことができます。

Smart Wall でのアラームまたはアラームリストの表示

Smart Wall では、アラームリストまたは 1 つ以上の個別のアラームを表示できます。たとえば、アラームのリストを共有すると、対応が必要な複数のインシデントの概要が表示されます。個別のアラームを共有すると、1 つの特定のインシデントに注目することができます。

ビューまたは Smart Wall でのアラームリストの表示

アラームリストを追加すると、すべてのアラームおよびイベントの優先順序付けされた概要を共有できます。リストでアラームをダブルクリックすると、アラームの詳細を表示して操作できます。詳細については、「アラームの詳細の表示および編集 『168ページ』」を参照してください。アラームリストをビューに追加した後でイベントのリストを表示するには、**【設定】**をクリックし、**【プロパティ】**ペインを展開して、**【データソース】**フィールドで**【イベント】**を選択します。

アラームのリストを表示するには、次の手順に従います。

1. **【ビュー】**ペインで、アラームリストを追加するビューを選択し、**【設定】**をクリックします。
2. **【システム概要】**ペインで**【アラーム】**を展開し、**【アラームリスト】**概要をビューアイテムまでドラッグします。
3. **【設定】**をクリックし、セットアップモードを解除します。
4. アラームリストを Smart Wall に送信するには、ビューアイテムツールバーで**【詳細】**、**【Smart Wall に送信】**をクリックして、Smart Wall、モニター、およびリストを表示するタイルを選択します。

ヒント : あるいは、ビューに Smart Wall 概要が含まれる場合は、Smart Wall 概要のタイルにアラームリストを直接ドラッグできます。

Smart Wall での個別のアラームの表示

個別のアラームを追加するときには、アラームに関する次の詳細が Smart Wall に表示されます。

- イベントがアラームをトリガした日時
- アラームをトリガしたデバイス名とビデオフィード、そのデバイスに関連付けられたすべてのデバイス
- 詳細を表示し、アラームの一部の設定を変更するには、ビューの右上の矢印をクリックします。詳細は次のとおりです。
 - アラームが割り当てられたユーザー、優先度、アラームの状態。これらは任意の時点で変更できます
 - ソースまたはアラームをトリガしたもの（カメラがモーションを検出したときやアナリティックイベントが発生したときなど）

- 手順。一般的に、これらはアラームに対して実行すべき対応を示します。Management Client でアラームの手順を定義します。
- アクティビティ。これらはユーザーが入力したコメントです。一般的に、アラームに関連付けられた決定またはアクションを示します。また、誰かがアラームの詳細を変更すると、アクティビティのリストに変更が追加されます。
- アラームにはコメントを追加できます。アクティビティとしてコメントが表示されます。
- イベントが発生したときにビデオを記録していた場合は、**[再生]**タブ、**[アラーム時間へ移動]**をクリックすると、アラームがトリガされた時点のビデオを表示できます。

注意：ビューアイテムの上にポインタを置いたときに自動的に表示されるビューアイテムツールバーはスクロールバーに重なり、詳細を表示するためにスクロールできません。ビューアイテムの詳細を表示するには、ポインタがビューアイテム外にあるときに、CTRL キーを押し続け、スクロールバーを使用します。

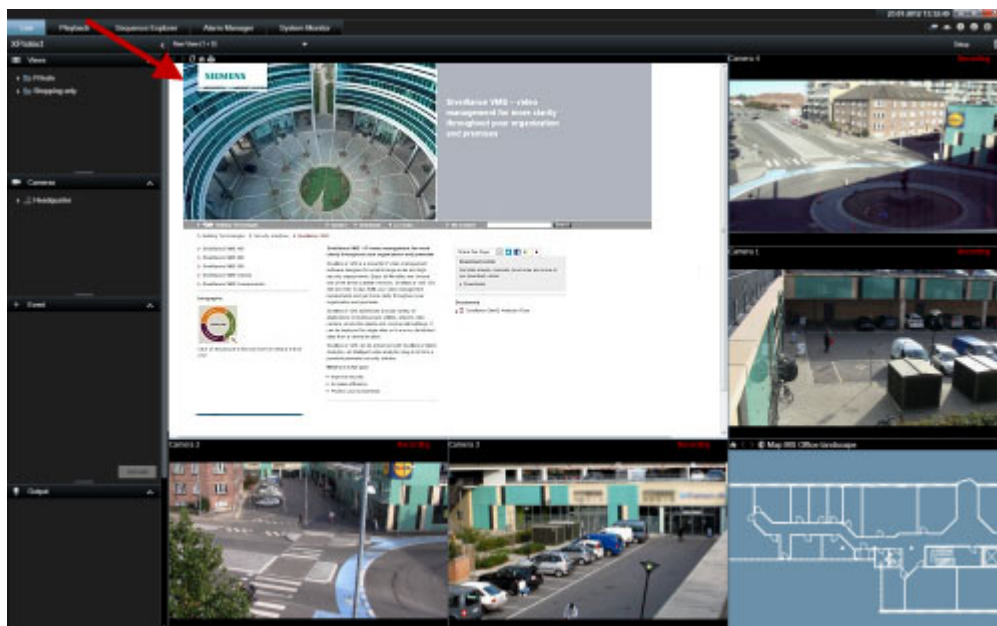
個別のアラームを表示するには、次の手順に従います。

1. ビューにアラームリストを追加する手順に従います。
2. **[アラームリスト]**で、アラームを Smart Wall 概要のタイルまでドラッグします。

注意：個別のアラームを送信するには、Smart Wall までドラッグする必要があります。**[詳細]**メニューを使用して、リスト全体を追加します。

ビューまたは Smart Wall に HTML ページを追加する

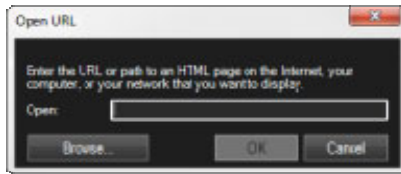
ビューおよび Smart Wall には HTML ページを追加できます。たとえば、これは、企業の Web ページ、インターネット地図サービス、リンクのコレクション、E ラーニングページなどで手順を表示する場合に有用です。



例：ビューに挿入された会社のホームページ

1. セットアップモードで、**システム概要**ペインで、ビューへ **HTML ページ**のアイテムをクリックして、ドラッグします。

2. **URL** を開くウィンドウが開きます。



3. **URL** を開くウィンドウの開くフィールドに、表示する HTML ページの場所を入力します（例：
http://www.mywebsite.com/mywebpage.htm）。

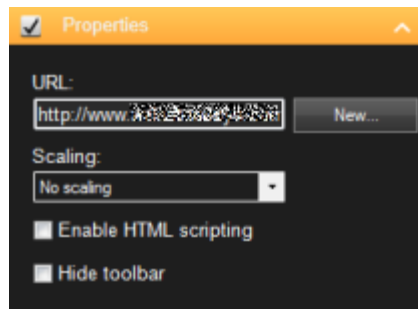
- または -

HTML ページが使用しているコンピュータにローカルに保存されている場合は、コンピュータ上のその場所を指定するか(例：C:\¥myfiles¥mywebpage.htm)、または**参照...**をクリックして、必要な HTML ページを参照します。

4. **[OK]**をクリックします。

ビューに HTML ページを追加した後に、ページのプロパティを指定できます。

1. セットアップモードで、ビューへインポートした HTML ページを選択します。**プロパティ**ペインで、必要なプロパティを変更します。



- **URL** : **新規**をクリックして、新しい URL または HTML ページの場所を指定します。
- **スケーリング** : HTML ページのスケーリングを選択します。最適なスケーリングは、インポートされた HTML ページのコンテンツとその表示法によってまったく異なります。

原則として、**1280×1024** のような高スケーリング値の場合は HTML ページのテキストが比較的小さく表示され、スクロールしなくても多くのコンテンツを見ることができます。反対に、**320×200** のような低スケーリング値では、HTML ページのテキストが比較的大きく表示されるため、スクロールせずに表示できるコンテンツ量が比較的に少なくなります。

- **HTML スクリプトを有効化** : この機能は、HTML ページが XProtect Smart Client 内でナビゲートしたり機能をトリガするためにカスタマイズされている HTML ページである場合にのみ、使用してください(HTML ページを使ってナビゲートする『92ページ の"HTML ページを使ったナビゲーション"参照』にあるカスタム HTML ページの例を参照)。

この機能を選択すると、XProtect Smart Client 内でのナビゲーションや多数の機能のコントロールに必要なクライアントスクリプトが、HTML ページに追加されます。このような目的に使用しない HTML ページの場合は、クライアントスクリプトを使用できないだけでなく、HTML ページが正しく動作しない場合があります。

- **ツールバーを隠す**：デフォルトで、インポートされた各 HTML ページに、単純なナビゲーションバーが挿入されます。ナビゲーションバーには、以下の 5 つのボタンがあります。巻き戻し、早送り、更新、ホーム、印刷。



ナビゲーションバーが必要ない場合は、**ツールバーを隠す**を使って非表示にできます。

インポートした HTML ページにリンクが含まれている場合は、それらのリンクに `target='blank'` 属性を含めることをお勧めします(例：`<a href="otherwebpage.htm" target="blank">Link</a>`)。これにより、リンクをクリックすると新しいウィンドウで開くようになり、XProtect Smart Client と同じブラウザウィンドウにリンク先の Web ページが表示されて現在の XProtect Smart Client のビューが失われることはありません。

Smart Wall に HTML ページを表示する

XProtect Smart Wall を使用している場合は、HTML ページを表示できます。

1. ビューに HTML ページを追加する手順に従います。
2. **【詳細】**、**【Smart Wall に送信】**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

Smart Wall 機能を展開するコントロールの追加

カメラナビゲータをビューに追加する

カメラナビゲータにより、1 つのビューの領域に対応するすべてのカメラを追加して、領域の完全な概要を設定できます。たとえば、建物周辺の誰かを追跡する場合に有用です。その人が移動すると、次のカメラに切り替えることができます。詳細については、カメラナビゲータ（説明付き）『107ページ』を参照してください。

カメラナビゲータをビューに追加するには、次の手順に従います。

1. **【設定】**をクリックします。

ヒント：カメラナビゲータを最大限に活用して、右側のペインにカメラビューを表示できるようにするには、1x1 ビューを選択してください。
2. システム概要ペインで、カメラナビゲータをビューにドラッグします。
3. ホームマップとカメラの選択ウィンドウで、ナビゲーションに使用するマップを選択します。
4. カメラナビゲータを開くたびに、デフォルトのカメラとして選択するカメラをクリックして、**OK** をクリックします。
5. **【設定】**をクリックし、セットアップモードを解除します。

Smart Wall でカメラナビゲータを表示する

XProtect Smart Wall を使用している場合は、カメラナビゲータを表示できます。

注：カメラナビゲータを Smart Wall に送信するときには、ナビゲータは元の設定のみを使用します。つまり、ビューの別のカメラを選択すると、Smart Wall は変更を表示しません。

1. ビューにカメラナビゲータを追加する手順に従います。
2. **【詳細】**、**【Smart Wall に送信】**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント：ビューに Smart Wall 概要が含まれている場合は、カメラナビゲータを概要のタイルまでドラッグできます。

ビューにホットスポットを追加する

1. セットアップモードのシステム概要ペインで、ビュー内の位置へホットスポットのアイテムをクリックして、ドラッグします。

ヒント：位置にはホットスポットアイコンが表示され 、ホットスポットであることを示します。

2. プロパティペインで、ホットスポットのプロパティ 『99ページ』の"ホットスポット設定"参照』を指定します。ホットスポットには高画質を指定し、ビューの他の位置には低画質を指定して、帯域幅を節約することができます。

Smart Wall にホットスポットを追加する

XProtect Smart Wall を使用している場合は、ホットスポットを表示できます。

1. ビューにホットスポットを追加する手順に従います。
2. **【詳細】、【Smart Wall へ送信する】**をクリックし、**Smart Wall** 設定を選択し、モニターを選択してから、モニターの位置を選択します。

ヒント: ビューに **Smart Wall** 概要が含まれている場合は、ホットスポットを概要のタイルまでドラッグできます。

ビューに画面自動切替を追加する

1. セットアップモードの**システム概要**ペインで、ビュー内の位置へ**画面自動切替**のアイテムをクリックして、ドラッグします。
2. **画面自動切替設定**ウィンドウの左側で、サーバーをクリックして展開してから、自動切替に含めるカメラを選択します。追加をクリックします。画面自動切替に含める各カメラについて、同じ操作を繰り返します。

サーバーが赤いアイコンで表示されている場合は使用できない状態であり、この場合そのサーバーのカメラは一覧表示できません。

3. 画面自動切替でカメラが表示される順序を指定するには、**選択したカメラ**のリストで、カメラを選択して、上下に移動させます。
4. 各カメラが画面自動切替に表示される秒数を入力します。すべてのカメラで同じ値を指定するか、カメラごとに異なる値を指定することができます。
5. **【OK】**をクリックして**画面自動切替設定**ウィンドウを閉じます。

画面自動切替の設定を変更するには、**【設定】**をクリックし、**【プロパティ】**ペインで**【画面自動切替設定】**をクリックして、**【画面自動切替設定】**ウィンドウを開きます。

Smart Wall で画面自動切替を表示する

XProtect Smart Wall を使用している場合は、画面自動切替を表示できます。

1. ビューに画面自動切替を追加する手順に従います。
2. **【詳細】、【Smart Wall に送信】**をクリックし、**Smart Wall** のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント: ビューに **Smart Wall** 概要が含まれている場合は、画面自動切替を概要のタイルまでドラッグできます。

ビューまたは **Smart Wall** へのマップの追加

既存のマップを追加するか、新しいマップを作成することができます。

1. セットアップモードで、**システム概要**ペインで、ビューの位置へ**マップ**のアイテムをドラッグします。
2. 表示される**マップ設定**ウィンドウで、**新規マップを作成**または**既存のマップ使用**のいずれかを選択します。

三角記号がマップ名の横に付いている場合は、マップに 1 つ以上のサブマップがある可能性があることを示します。含まれるサブマップと要素も追加されます。

3. **名前**フィールドにマップの名前を入力します。名前は、マップ位置のタイトルバーに表示されます。

ヒント：【名前】フィールドを空欄にし、【参照...】をクリックすると、【名前】フィールドには、選択した画像の名前が表示されます。

4. 【参照...】をクリックして、マップとして使用する画像ファイルを参照します。
5. 開くをクリックして、画像ファイルを選択します。
6. 【OK】をクリックします。

Smart Wall でマップを表示する

XProtect Smart Wall を使用している場合は、マップを表示できます。

1. ビューにマップを追加する手順に従います。
2. 【詳細】、【Smart Wall に送信】をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント：ビューに Smart Wall 概要が含まれている場合は、マップを概要のタイルまでドラッグできます。

別のビューまたは Smart Wall で表示されている情報の表示

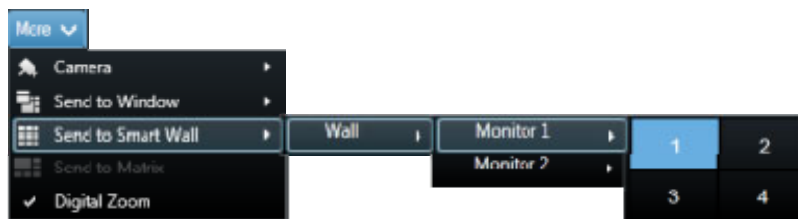
Smart Wall 間のビデオの送信

ビューアイテムから Smart Wall へのビデオの送信

現在のビューに Smart Wall 概要が含まれるかどうかによって、次の方法でコンテンツを Smart Wall に送信できます。

現在のビューに Smart Wall 概要が含まれない

- ビューアイテムツールバーで、詳細、Smart Wall へ送信するをクリックし、Smart Wall を選択し、モニターを選択してから、モニターの位置を選択します。



現在のビューに Smart Wall 概要が含まれる

現在のビューに Smart Wall 概要がある場合は、ビューアイテムを Smart Wall 概要のタイルまでドラッグできます。

ビューアイテムが追加される方法は、システム管理者がモニターの要素挿入方法をどのように設定したのかによって異なります。ビューアイテムのコンテンツは、タイルに表示されるコンテンツを置換するか、Smart Wall 概要の次のタイルに挿入されます。たとえば、コンテンツをタイル 1 にドラッグすると、タイル 1 のコンテンツがタイル 2 に移動します。

ヒント：Smart Wall 概要のコンテンツを置換する前に、タイルが表示する内容を十分に確認することをお勧めします。占有されたタイルにマウスカーソルを置くと確認できます。タイルにはアイコンが表示され、表示しているコンテンツのタイプを示します。

Smart Wall で一部またはすべてのコンテンツの表示を停止する

インシデントが管理されているか、コンテンツが関連しない場合などは、複数の方法で Smart Wall にコンテンツを表示しないようにできます。

注意：他のユーザーは手動で Smart Wall のコンテンツを変更できます。コンテンツはスケジュールまたはルールに応じて変更できます。つまり、削除するコンテンツは後から再表示できます。永久的にコンテンツが表示されないようにするには、システム管理者に問い合わせてください。

Smart Wall 概要をビューから削除するには、次の手順に従います。

1. **【ビュー】**ペインで、Smart Wall を含むビューを選択し、**【設定】**をクリックします。
2. Smart Wall を含むビューアイテムで、 アイコンをクリックします。

注意：ビューのみがクリアされます。Smart Wall 概要のタイルには、Smart Wall のコンテンツが表示され続けます。

Smart Wall ですべてのコンテンツを表示しないようにするには、この手順に従います。

- クリアするモニターの Smart Wall 概要の上で、 アイコンをクリックし、**【ビューのクリア】**を選択します。

Smart Wall 概要の特定のタイルからコンテンツを削除するには、次の手順に従います。

- Smart Wall 概要で、クリアするタイルを右クリックし、**【ビューから削除】**を選択します。

ビューから Smart Wall にコンテンツを送信する

現在のビューに Smart Wall 概要が含まれるかどうかによって、次の方法でコンテンツを Smart Wall に送信できます。

現在のビューに Smart Wall 概要が含まれない

- ビューアイテムツールバーで、**詳細、Smart Wall へ送信する**をクリックし、Smart Wall を選択し、モニターを選択してから、モニターの位置を選択します。



現在のビューに Smart Wall 概要が含まれる

現在のビューに Smart Wall 概要がある場合は、ビューアイテムを Smart Wall 概要のタイルまでドラッグできます。

ビューアイテムが追加される方法は、システム管理者がモニターの要素挿入方法をどのように設定したのかによって異なります。ビューアイテムのコンテンツは、タイルに表示されるコンテンツを置換するか、Smart Wall 概要の次のタイルに挿入されます。たとえば、コンテンツをタイル 1 にドラッグすると、タイル 1 のコンテンツがタイル 2 に移動します。

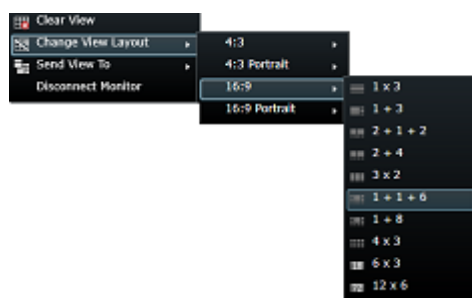
ヒント: Smart Wall 概要のコンテンツを置換する前に、タイルが表示する内容を十分に確認することをお勧めします。占有されたタイルにマウスカーソルを置くと確認できます。タイルにはアイコンが表示され、表示しているコンテンツのタイプを示します。

Smart Wall モニターのレイアウトの変更

モニターのレイアウトとコンテンツがモニター上に配置される方法を変更するには、複数の手順があります。

Smart Wall のモニターに別のレイアウトを適用する

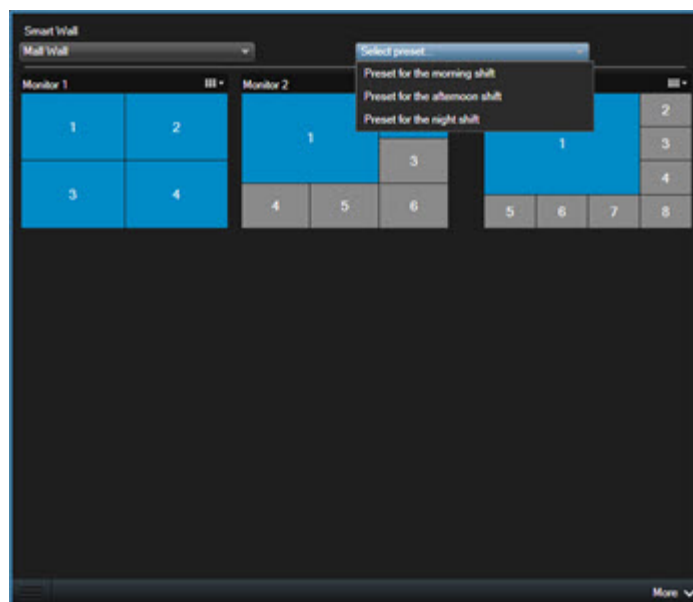
- Smart Wall 概要で、モニターの  アイコンをクリックし、**【ビューレイアウトの変更】**を選択し、表示フォーマット（たとえば **4:3** または **16:9**）を選択して、次に必要なビューレイアウトを選択します。



別のプリセットの適用

Smart Wall 概要の別のプリセットを選択できます。ただし、プリセットを変更すると、Smart Wall のすべてのモニターが変更される可能性があります。

別のプリセットを適用する場合は、**【プリセットの選択】**メニューを使用してください。**注意:** 他のユーザーがプリセットを手動で変更できるか、ルールが自動的にプリセットを変更できます。

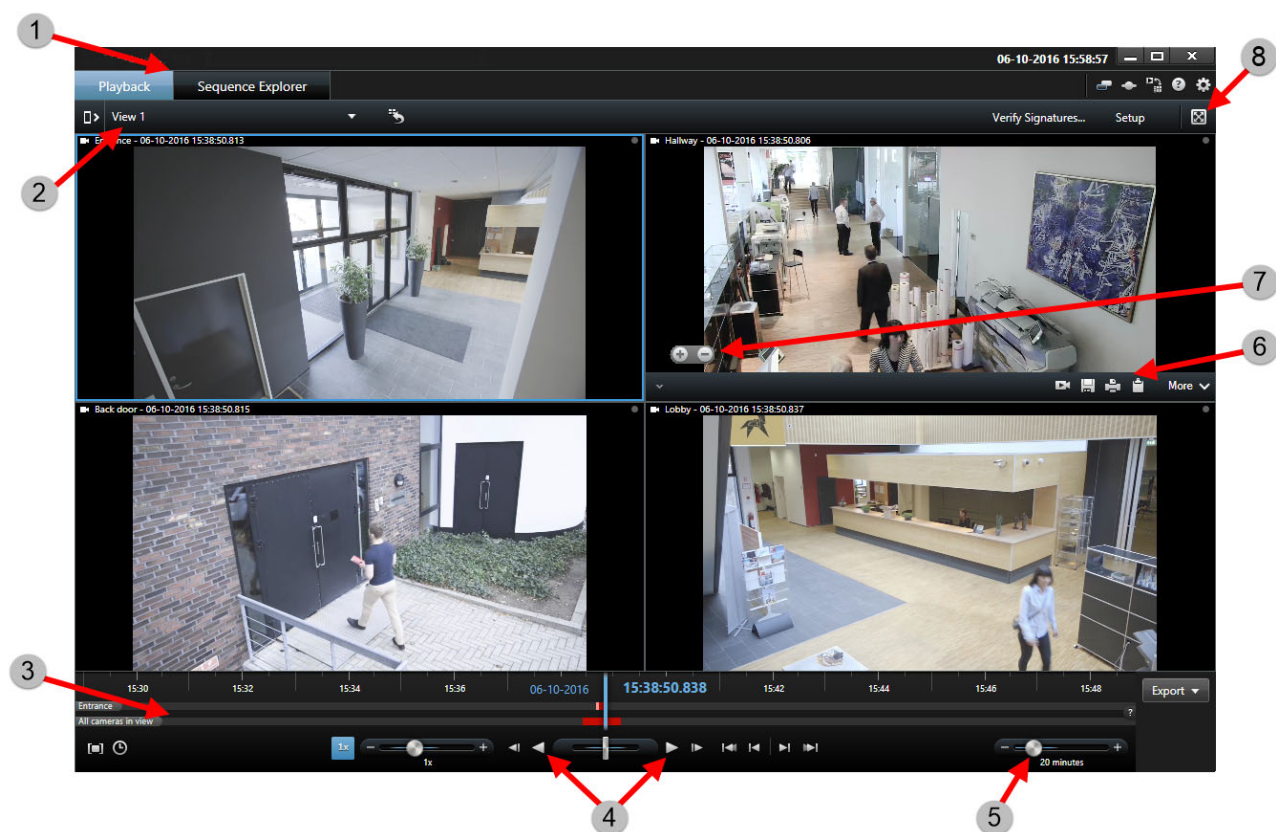


XProtect Smart Client – Player

XProtect Smart Client – Player（説明付き）

XProtect Smart Client – Player は、エクスポートされたビデオデータに含まれるバージョンの XProtect Smart Client であり、受信者は監視ソフトウェアをインストールしなくてもエクスポートされたファイルを表示できます。録画されたディスクが取り出された場合の記録の可用性を確保するために、XProtect Smart Client – Player もビデオアーカイブと記録データベースフォルダに自動的に含まれます。XProtect Smart Client – Player を使用してビデオデータを再生、アーカイブし、壊れたデータベースを修復することができます。このアプリケーションには、XProtect Smart Client の多くの機能があり、外観も似ています。

XProtect Smart Client – Player クイックガイド



1	再生／シーケンスエクスプローラタブ	続きを読む 『28ページ の "タブ"参照 』
2	現在のビュー	続きを読む 『29ページ の "ビュー"参照 』
3	タイムライン	続きを読む 『161ページ の "タイムライン"参照 』

4	録画されたビデオの再生	続きを読む 『161ページの"タイムラインのボタンとコントロール"参照』
5	タイムラインスパンの変更	続きを読む 『164ページの"時間幅"参照』
6	画像のコピー／印刷	
7	ズームインまたはズームアウト	
8	全画面表示への切り替え	

XProtect Smart Client – Player のビューの操作

XProtect Smart Client – Player のツールバーにある**設定**をクリックして、ビューを作成、管理します。

プロジェクトペイン

XProtect Smart Client – Player のプロジェクトは、ビデオを XProtect Smart Client からデータベースフォーマットでエクスポートした時に作成されるファイルの集合です。

設定をクリックして、ビューやアプリケーションの設定を変更し、変更をプロジェクトに保存します。ビューに関する情報を含むユーザー設定は、プロジェクトの一部として保存されます。**パスワード**

たとえば、権限を持つユーザーしかビデオを表示できないように、プロジェクトにはパスワードを割り当てることができます。また、エクスポートする際に、デバイスにパスワードを割り当てることもできます。複数のデータベースのパスワード管理の手間を避けるために、プロジェクト全体に単一のパスワードを割り当てることができます。全体用パスワードを割り当てていなくて、パスワード保護されたデータベースがプロジェクトに追加されると、プロジェクトを開く際に各データベースに対するパスワードを入力するよう求められます。プロジェクトにパスワードを割り当てると、削除することはできません。ただし、**プロジェクトペイン**でパスワードを変更したり、新しい同内容のプロジェクトを作成することができます。

- **新しいプロジェクト**をクリックしてから、**データベースを開く**  をクリックし、**データベースを開くウィザード**を起動して、該当するデバイスを追加します。

ビューペイン

ビューペインで、ビューを追加、作成、編集、削除することができます。ビューで可能な操作の詳細については、ビュー 『78ページの"ビュー（説明付き）"参照』を参照してください。

概要ペイン

概要ペインには、カメラ、マイク、スピーカー、HTML、画像、およびプロジェクトに割り当てられたプラグインが表示されます。

- **データベースを開く**  をクリックして、**データベースを開くウィザード**を開きます。プロジェクトから、**名前の変更**  または**削除**  をクリックして、デバイスの名前を変更したり、プロジェクトからデバイスを削除することができます。

デバイスを削除しても、デバイスに関連付けられている実際のデータベース ファイルが削除されるのではなく、プロジェクトから削除されるだけです。

音声のリンク

音声をデバイスにリンクできます。

- **音声をカメラにリンクする**  をクリックして、特定のカメラで録画したビデオを表示する時に、関連する音声を自動的に選択することができます。

データベースを開くウィザード

データベースを開くウィザードにより、アーカイブまたは以前にエクスポートした素材からデータベースを開くことができます。たとえば、アーカイブされたデータベースまたは以前エクスポートした素材を表示する際に、このウィザードを使用して、データベースを開き、プロジェクトに追加することができます。また、データベースを開くウィザードは、壊れたデータベースを自動的に修復します。データベースを開くウィザードを起動するには、XProtect Smart Client のツールバーで、[設定] をクリックし、概要ペインで、[データベースを開く] をクリックします。

 **警告：** ライブのデータベースまたはライブのアーカイブを開かないでください。システムが破損する可能性があります。

関連するファイルを含むフォルダを選択します。データベースを選択すると、**カメラ**、**マイク**、または**スピーカー**フィールドの横にデバイス名が表示されます。システムがカメラを認識しない場合、たとえば、アーカイブされた録画を開いて、名前が**不明**である場合は、**3 種類**のデバイスすべてが**不明デバイス**として（デバイスが存在しない場合も）データベースのファイル名が割り当てられて追加されます。デバイスがない場合、フィールドには**該当なし**と表示されます。

また、データベースに署名が含まれているかどうかを確認することも可能です。プロジェクトに追加する時に、データベースを検証できます(以下のセクションを参照)。

開こうとしているデータベースが壊れている場合、ウィザードで修復することができます。

ビデオエビデンスの真偽の確認

デジタル署名を使用して、録画したビデオの真偽を確認できます。この機能は、ビデオが改変されたものでないことを実証したいときに便利です。

確認は 2 段階で行われます。確認される内容：

- ビデオが撮影されたあと、そのビデオに変更が加えられたかどうか。録画サーバーにより録画のためのデジタル署名が作成されます。その後、**Smart Client – Player** でエクスポートされたビデオを表示するとき、録画サーバーで元々作成されたデジタル署名と、記録された署名とを比較できます。
- XProtect Smart Client でエクスポートしたビデオが、エクスポート後に変更が加えられたかどうか。ビデオをエクスポートすると、XProtect Smart Client によりエクスポートファイルの署名が作成されます。その後、**Smart Client – Player** でエクスポートされたエビデンスを確認するとき、エクスポート中に作成されたデジタル署名と、エクスポート署名とを比較できます。

万一、比較中に矛盾を見つけた場合は、ビデオエビデンスの信頼性を問い合わせる理由となります。

オリジナルのデジタル署名には **PublicKey.xml** および **Public Key Certificate.xml** ファイルが以下の場所に格納されています。

- XProtect Smart Client - **<export destination folder>¥<export name>¥Client Files¥Data¥Mediadata¥<camera name>¥<camera name>¥Export signatures**

- Management Client - **C:\Program Files\Milestone\Management Server\Tools\CertificateIssuer**

エクスポートプロセスでデジタル署名が除外される、次の2つのシナリオがあります。

プライバシーマスクが追加されると、レコーディングサーバーの電子署名はエクスポートに含まれません。

エクスポートしているデータが現在の日付および時刻と非常に近い場合、シーケンス全体でレコーディングサーバーの電子署名が含まれない可能性があります。この場合、電子署名はエクスポートの一部にしか追加されません。

エクスポートプロセスは完了しますが、署名を確認すると、レコーディングサーバーの電子署名が削除されているか、部分的に OK になっていることが分かります。

注: デジタル署名は XProtect Expert および XProtect Corporate のみで使用できます。

デジタル署名の検証

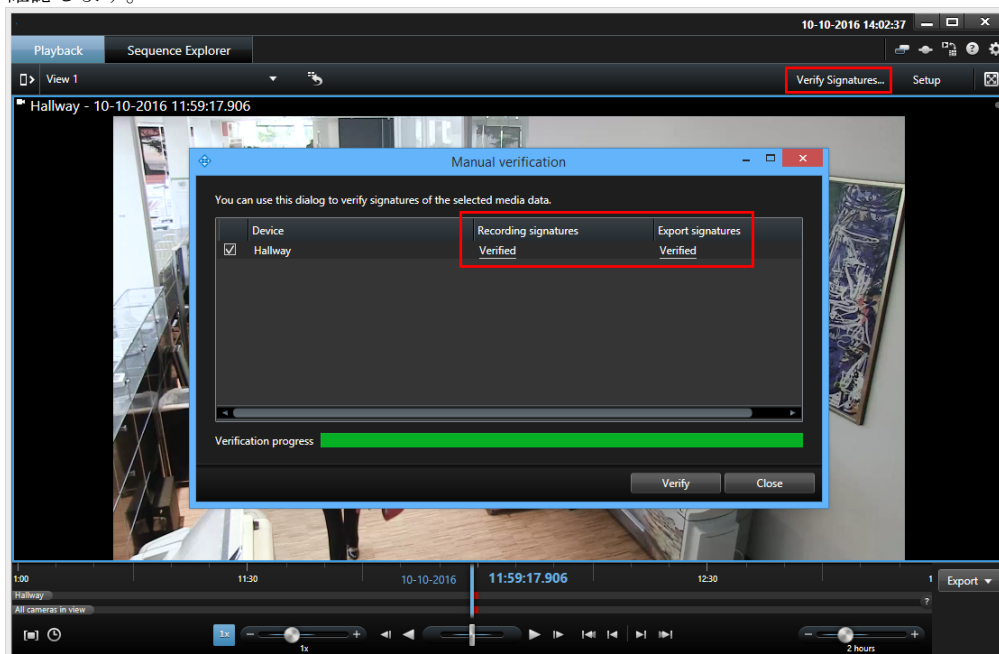
Smart Client – Player でビデオエビデンスを確認していて、エクスポートされたファイルにデジタル署名が施されていた場合は、録画された時点以降、またはエクスポートされたあと、あるいは、その両方で録画された映像に何らかの変更があったかを確認できます。

前提条件:

- Management Client で、録画サーバーの署名がオンになっています。
- XProtectSmart Client で、エクスポート処理中、**XProtect 形式**と**[デジタル署名を含める]**のチェックボックスが選択されました。

手順:

1. ツールバーで**[署名の検証]**ボタンをクリックします。**[手動検証]**ウィンドウが表示されます。ここでは、エクスポート用に選択されたデバイスを見ることができます。
2. **[検証]**をクリックして検証プロセスを開始します。システムは録画の署名とエクスポートの署名の真偽を確認します。



3. 録画の署名の検証結果を信頼できるか確認するには：

1. **【録画中の署名】**列で、**【確認済み】**リンクをクリックします。**【証明書】**ダイアログが表示されます。
2. **public_key** と **signature** の値と **PublicKey.xml** ファイル (**C:\Program Files\Milestone\Management Server\Tools\CertificateIssuer**) の対応する値とを比較します。これらの値が異なる場合は、録画された内容は改変されています。

4. エクスポートの署名の検証結果を信頼できるか確認するには：

1. **【エクスポートの署名】**列で、**【確認済み】**リンクをクリックします。**【証明書】**ダイアログが表示されます。
2. **public_key** および **signature** の値と **Public Key Certificate.xml** ファイル (**<export destination folder>\<export name>\Client Files\Data\Mediadata\<camera name>\<camera name>\Export signatures**) の対応する値とを比較します。これらの値が異なる場合は、エクスポートされたファイルは改変されています。

データベースは、確認済み、部分的に確認済み(一部のファイルに署名がない)、または署名なしのいずれかになります。

XProtect Access

※本機は、XProtect Access およびアクセスコントロールには対応していません。

XProtect Access（説明付き）

XProtect Access を使用する場合、XProtect VMS 内でこの機能の使用を許可する基本ライセンスを購入しておく必要があります。また、制御する各ドア用のアクセスコントロールドアライセンスも必要です。

XProtect Access に対するベンダー固有のプラグインを持つベンダーからのアクセスコントロールシステムで、XProtect Access を使用することができます。

XProtect Access では、1 つ以上のアクセスコントロールシステムのイベントが、XProtect 動画管理ソフトウェアの機能に統合されます。アクセスコントロールシステムからのインシデントにより、XProtect システムでイベントが生成されます。

- **【ライブ】**タブでは、ドアに関連付けられたカメラからリアルタイムでアクセスコントロールイベント『208ページ の"アクセスコントロールイベントのライブビデオの表示"参照』を監視できます。セットアップモードでは、**オーバーレイボタン**を使用して、アクセスモニター『209ページ の"ビューのカスタマイズ"参照』ビュー項目をカスタマイズできます。マップビューアイテムでは、アクセスコントロールユニットをマップ『210ページ の"マップを使用したドアの監視"参照』までドラッグできます。
- **【アクセスコントロール】**タブでは、イベント、ドア状態、またはカードホルダーを表示および調査『210ページ の"アクセスコントロールイベントの調査"参照』できます。イベントを検索またはフィルタリングして、関連する映像を表示できます。エクスポートのイベントのレポートを作成できます。
- あるユーザーがアクセスを要求し、システムがそのように構成されている場合、カメラフィールドの隣に関連情報の一覧とは別に通知がポップアップ表示されます『215ページ の"アクセスリクエスト通知の操作"参照』。ドアのロックおよびロック解除などのアクセスコントロールコマンドをトリガできます。使用可能なコマンドはシステム構成によって異なります。

アクセスコントロールイベントのライブビデオの表示

ライブタブのアクセスコントロール（説明付き）

ライブタブで、ビデオの右側にイベントのリストとともに表示される、アクセスコントロールソースに関連付けられたカメラのライブビデオを表示できます。

リスト内のイベントのいずれかをクリックすると、ライブビデオが自動的に一時停止し、イベントの個別再生に変更されます。ライブビデオの表示に戻るには、イベントをサイドクリックするか、**カメラツールバー**の個別再生『149ページ の"個別再生を使用する録画済みビデオの表示"参照』アイコンをクリックしてください。

システムとイベントにカードホルダー情報が保持されている場合、選択したイベントのカードホルダー名の横にある検索アイコンをクリックし、**アクセスコントロールタブ**にジャンプして、そのユーザーに関連付けられたすべてのイベントを表示できます。

アクセスモニターをビューに追加

まずアクセスコントロールのビューアイテムを定義します。

1. セットアップモードの**ライブ**『32ページ の"ライブタブ"参照』タブで、アクセスコントロール監視で使用するビューを選択します。
2. システム概要ペインで、**アクセスモニター**をクリックし、ビューアイテムへドラッグします。
3. 表示される**【アクセスモニター設定】**『208ページ の"アクセスモニター設定"参照』ダイアログボックスで設定を指定します。ドアを選択すると、デフォルト設定を保持するか、必要に応じて変更できます。
4. **[OK]**をクリックすると、アクセスモニターがビューに追加されます。

イベントをトリガするアクセスコントロールインシデントが発生したら、ビューアイテムの右側に表示されます。

アクセスモニター設定

アクセスモニターについて、以下の設定を指定します。

名前	説明
ドア	アクセスコントロールイベントを表示するドアを選択します。ドアを選択すると、ダイアログボックスの残りの設定が現在の値で表示されます。
ソース	イベントを受信するアクセスコントロールソースのタイプを選択します。リストには、ドアまたはドア固有のアクセスポイントなどを含めることができます。アクセスポイントは、カードリーダー、キーパッド、センサー、ボタンなどの関連付けられた物理装置を含む入口のことです。一般的に、ドアには、ドアからの入退出をそれぞれ制御する 2 つのアクセスポイントがあります。 ソースのリストはシステム管理者によって設定されます。
カメラ	ドアに関連付けられたビデオを表示するカメラを選択します。デフォルトでは、システム管理者が選択したドアに関連付けたカメラが一覧表示されますが、システムの別のカメラを選択することもできます。

名前	説明
イベント	受信するイベントのタイプを選びます。XProtect システム管理者が定義したイベントカテゴリ、またはアクセスコントロールシステムで定義したイベントの一覧からイベントを選択できます。
コマンド	アクセスモニターで使えるコマンドボタンを使用します（ドアのロック、ドアのロック解除など）。コマンドの一覧はシステム構成によって異なります。
順序	新しいイベントをイベントリストの最上位または最下位に表示するかどうかを選択します。

アクセスモニター設定の変更

【ライブ】タブでは、アクセスモニターの設定を変更できます。

1. **【設定】**をクリックし、変更するビューアイテムを選択します。
2. **【プロパティ】**ペインで、**【アクセスモニター設定】**ボタンをクリックします。
3. 表示される**【アクセスモニター設定】**『208ページ の"アクセスモニター設定"参照』ダイアログボックスで設定を指定します。
4. **【OK】**をクリックしてダイアログを閉じ、**【設定】**をクリックしてライブ表示に戻ります。

ビューのカスタマイズ

オーバーレイボタンを使用すると、インターフェイスをカスタマイズできます。ドアやアクセスポイント用に設定したコマンドのリストから、アクセスコントロール用のオーバーレイコマンドボタンをビューアイテムに追加できます。

たとえば、オーバーレイボタンを使用することを選択できます。

- アクセスモニター以外のビュー項目でコマンドボタンに直接アクセスできます。
- ビューアイテムのドアの近くに直接コマンドボタンを配置します。
- **【アクセスモニター設定】**『208ページ の"アクセスモニター設定"参照』で指定した以外のコマンドボタンを追加します。

オーバーレイボタンを追加するには：

1. **【ライブ】**タブで、**【設定】**をクリックし、変更するビューアイテムを選択します。
2. **【オーバーレイボタン】**ペインで、**【アクセスコントロール】**をクリックします。
3. 追加するコマンドを見つけ、ビューアイテムまでドラッグします。
4. **【設定】**をクリックし、ライブ表示に戻ります。

ビューアイテムの上にマウスをドラッグすると、オーバーレイボタンが表示されます。

マップを使用したドアの監視

監視およびアクセスコントロールタスクをサポートするマップ機能を使用する場合、マップにアクセスコントロールのユニットを追加できます。

1. セットアップモードで、**【ライブ】**タブの**【システム概要】**ペインを展開します。
2. リストから**【マップ】**を選択し、ビューアイテムまでドラッグします。
3. マップファイルを探し、**【OK】**をクリックします。
4. 表示されるマップツールボックスで**【アクセスコントロールの追加】**をクリックします。
5. 表示されるリストで、ドアなどの該当するアクセスコントロールユニットをマップにドラッグします。ドアアイコンがマップに表示されます。
6. **【設定】**をクリックし、ライブ表示に切り替えます。
7. 人が入室を要求すると、ドアのロックが解除されます。ドアのロックが解除されます。関連する人がアクセスを許可されたか、誰かがアクセスリクエスト通知またはマップ自体でコマンドボタンを使用してアクセスを付与したためです。アクセスが付与されると、ドアアイコンが緑色になり、開いているドアとして表示されます。
8. 自動または手動でドアがもう一度ロックされると、ドアアイコンが赤色になり、閉じたドアとして表示されます。
9. ドアアイコンを右クリックすると、コマンドのトリガといった操作ができます。

アクセスコントロールのユニットの状態は常に表示されているため、このような方法でマップ 『114ページ』を使用することで、監視しているエリアや建物のアクセスコントロールのユニットの状態のグラフィカルな概要を簡単に確認することができます。

アクセスコントロールイベントの調査

アクセスコントロールタブ（説明付き）

アクセスコントロール関連のイベント、ドアの状態、およびカードホルダー情報は、**アクセスコントロールタブ**に表示されます。イベントとカードホルダーを調査し、現在のドアの状態を表示し、特定のコマンドを実行することができます。

バックグラウンドでメインウィンドウを維持しながら、別々のフロートウィンドウに**【アクセスコントロール】**タブをドラッグして、同時に複数のビューを表示することができます。また、列を並べ替え、列を別の位置までドラッグできます。

リスト

以下に関連するデータをフィルタ、ソート、レビューすることができます。

- **イベント**：イベントは、タイムスタンプ、イベントタイプ、関連するドアまたはアクセスコントロールユニット、およびカードホルダー名（利用可能な場合）とともに記録されます。XProtect システムが複数のアクセスコントロールシステムと統合されている場合、イベントがトリガされたアクセスコントロールシステムが一覧表示されます。
- **ドア**：ドア、各アクセスコントロールシステム内のアクセスポイントおよび他のアクセスコントロールのユニット、およびそれらの現在の状態を一覧表示します。

- **カードホルダー**：各アクセスコントロールシステムのカードホルダーと詳細を一覧表示します。

フィルタを組み合わせることも可能です（特定の日付の特定のカードホルダーなど）。また、列の任意の値を右クリックすると、データにその値で即時にフィルターをかけます。

検索フィールドを使用して、特定のカードホルダーを検索できます。

ライブ更新を選択しない限り、リストには検索またはフィルターした時からのデータしか表示されません。最新のデータを表示する場合は、**更新**アイコンをクリックします。

アクセスコントロール管理

アクセスコントロールシステムによっては、右上端にある**【アクセスコントロール管理】**ボタンを使用して、アクセスコントロールシステムアプリケーションに接続し、アクセス権の指定やカードホルダーの管理などができる場合があります。

イベントの操作

アクセスコントロールイベントの検索とフィルタ

イベントにフィルタをかける複数の方法により、関心のあるデータを表示できます。

1. **【アクセスコントロール】**タブで**【イベント】**リストを選択します。
2. リストの最上部で任意のフィルタをクリックし、条件を指定します。
3. あるいは、リストで特定の時間、イベント、ソース、またはカードホルダーを右クリックし、値を使用してフィルタリングします。

適用するフィルタが直ちにリストに反映されます。

次の項目でフィルタリングできます。

イベントリスト	説明
時間	その特定期間のデータを参照するには、利用可能な時間帯のいずれか 1 つを選択します。例えば、今日をクリックすると、今日起こったイベントだけを参照します。または特定の期間を指定するには、カスタム間隔を使用します。 ライブ更新を選択すると、フィルター条件に一致する新しいイベントが発生した時に、イベントのリストがすぐに更新されます。リストには、最大で 100 のイベントが表示されます。ライブ更新モード『213ページの“イベントリストのライブ更新モードの切り替え”参照』で操作するときには、カードホルダーを検索できません。
イベント	イベントカテゴリと未分類イベントのリストから使用可能なイベントタイプを 1 つ以上を直接選択するか、特定のアクセスコントロールイベントのいずれかを選択します。
ソース	ドアのリストから利用可能なソースの 1 つ以上を直接選択するか、他のソースのいずれか（例えば、アクセスコントロールシステムのアクセスポイントまたはコントローラ）を選択して、それらのユニットのイベントのみ表示します。
アクセスコントロールシステム	XProtect システムが複数のアクセスコントロールシステムと統合する場合は、イベントを表示するアクセスコントロールシステムを選択します。

イベントリスト	説明
カードホルダー	使用可能なカード所有者を一人以上選択します。

パフォーマンスを最適化するために、リストには同時に最大 **100** 行のみが表示されます。前の/次の **100** 行を参照するには、リストの右上にある矢印ボタンを使用します。 **< 101 - 200 >** .

イベントを選択すると、右側のプレビューで、イベントの関連ビデオシーケンスを表示できます。プレビューカメラタイトルバーは、イベントをトリガしたユニットに関連するカメラを示します。

- ドアに複数のカメラが関連付けられていると、それらはすべてプレビューに表示されます。
- 標準の再生オプションは、ツールバーから利用可能です。
- 関連するカードホルダー情報は、選択したイベントに関する詳細とともにビデオのプレビューの下に表示されます。
-  をクリックすると、フロートウィンドウでライブビデオを表示したり、録画ビデオを再生することができます。

アクセスレポートのエクスポート

ライブ更新モードではない場合には、**【アクセスコントロール】**タブで、PDF ファイルにイベントリストのレポートを作成またはエクスポートできます。

1. レポートで任意のイベントをフィルタリングまたは検索します。

イベント数が非常に高い場合、検索を改良する推奨を受け取り、これによって検索結果の数を低減できます。

2. **【アクセスレポート】**ボタンをクリックします。
3. フィールドを入力します。レポートに含まれる内容：
 - レポート名。
 - レポート先。
 - 適用されるフィルターのリスト。
 - コメントフィールド。
 - スナップショットを含めるオプション。
4. **【OK】**をクリックして、レポートが完了するのを待機します。
5. 右上端で**【詳細】**をクリックし、表示されるダイアログボックスで**【開く】**をクリックします。

レポートが PDF 形式で開きます。

イベントリストのライブ更新モードの切り替え

【ライブ】タブでアクセスコントロールイベントのライブビデオを表示する代わりに、【アクセスコントロール】タブでライブ更新モードで作業できます。

ライブ更新モードでは、フィルター条件に一致する新しいイベントが発生した時に、イベントのリストがすぐに更新されます。リストには、最大で **100** のイベントが表示されます。

次の手順に従い、ライブ更新モードに切り替えます。

1. 【アクセスコントロール】タブで【イベント】リストを選択します。
2. 期間を選択するフィルタのドロップダウンリストで、【ライブ更新】を選択します。

検索フィールドの横には、モードを変更したことが表示されます。フィルタ条件を満たすイベントが発生するとすぐにリストが更新されます。

ライブ更新モードで操作するときには、カードホルダーを検索できません。アクセスレポートも作成できません。

3. ライブ更新モードから戻すには、新しい期間でフィルタリングします。

ドア状態の監視と制御

【ドア】リストには、ドア、各アクセスコントロールシステム内のアクセスポイントおよび他のアクセスコントロールのユニット、およびそれらの現在の状態を一覧表示します。これは、特定のドアの状態を把握する必要がある場合などに有用です。

ドアリストにフィルタをかける複数の方法により、関心のあるデータを表示できます。

1. 【アクセスコントロール】タブで【ドア】リストを選択します。
2. リストの最上部で任意のフィルタをクリックし、条件を指定します。
3. フィルタを組み合わせるか、検索フィールドに条件を入力し、ドアを検索します。
4. あるいは、リストでドアまたは状態を右クリックし、値を使用してフィルタリングします。

適用するフィルタが直ちにリストに反映されます。

次の項目でフィルタリングできます。

ドアのリスト	説明
名前	利用可能なドア、アクセスポイントおよび未分類タイプのうち 1 つ以上を選択するか、他のアクセスコントロールのユニットのいずれかを選択して、選択したものの状態のみ表示します。
アクセスコントロールシステム	XProtect システムが複数のアクセスコントロールシステムと統合する場合は、ドアを表示するアクセスコントロールシステムを選択します。
ステータス	状態カテゴリと未分類状態のリストから使用可能な状態を 1 つ以上を直接選択するか、特定のアクセスコントロール状態のいずれかを選択します。

監視領域のドア状態を監視する別の方法は、マップにドアを追加『**210**ページの"マップを使用したドアの監視"参照』することです。

リストでドアを選択すると、詳細情報とともに、関連付けられたカメラが画面の右側にライブビデオを表示します。

- ドアに複数のカメラが関連付けられていると、それらはすべてプレビューに表示されます。
- 標準の個別再生オプションは、ツールバーから利用可能です。
- アクションボタンにより、例えば、ドアのロック/ロック解除といったドアに関連する特定のコマンドを実施できます。使用可能なコマンドはシステム構成によって異なります。
- 選択したドアに関連付けられた情報は、ライブビデオプレビューの下に表示されます。
-  をクリックすると、フロートウィンドウでライブビデオを表示したり、録画ビデオを再生することができます。

カードホルダーの調査

【カードホルダー】リストには、各アクセスコントロールシステムのカードホルダーと詳細が一覧表示されます。これは、特定の人に関する詳細情報が必要な場合に有用です。

カードホルダーリストにフィルタをかける複数の方法により、関心のあるデータを表示できます。

1. **【アクセスコントロール】**タブで**【カードホルダー】**リストを選択します。
2. リストの最上部にあるフィルタをクリックし、カードホルダーを調査するアクセスコントロールシステムを指定します。一度に 1 つのアクセスコントロールシステムを操作できます。
3. フィルタを組み合わせるか、検索フィールドに条件を入力し、カードホルダーを検索します。
4. あるいは、リストでカードホルダーまたはタイプを右クリックし、値を使用してフィルタリングします。

適用するフィルタが直ちにリストに反映されます。

次の項目でフィルタリングできます。

カードホルダーリスト	説明
名前	使用可能なカードホルダーのいずれかを選択し、この人の詳細情報を表示します。
タイプ	使用可能なカードホルダータイプのいずれかを選択し、このタイプのカードホルダーを一覧表示します。

カードホルダーを選択するときには、この人の詳細情報が画面の右側に表示されます。システムによっては、画像またはアクセスコントロールシステムでカードホルダー記録を管理『214ページ の"カードホルダー情報の管理"参照』するためのリンクが含まれることがあります。

カードホルダー情報の管理

アクセスコントロールシステムが設定されている場合、カードホルダー記録の **Web** ページに直接移動して、ユーザー管理などの作業を実行したり、カードホルダーの詳細情報を入手できます。

プラグインが深いリンクをサポートする場合は、アクセスコントロールシステムで次の前提条件が適用されます。

- **Web** クライアントが存在する必要がある。
- 深いリンクをサポートする必要がある。

カードホルダー情報を管理するには：

1. **【アクセスコントロール】**タブで**【カードホルダー】**リストを選択します。
2. カードホルダーを検索し、リストから個人を選択します。
3. 右側のカードホルダー情報の下で、**Web** ページなどへのリンクをクリックできます。プラグインによっては、より多くのリンクがサポートされている場合や、その他のログイン資格情報を要求される場合があります。
4. カードホルダー情報やアクセス権など、さまざまな機能を編集できます。
5. この例では、**Web** ページを閉じ、XProtect Smart Client に戻ります。

アクセスリクエスト通知の操作

アクセスリクエスト通知（説明付き）

あなたの組織では、人があなたの建物に入る際にセキュリティ担当者がドアを開けなければならないように選択している場合があります。そのような条件が適用される場合、例えば、ある人が 1 つ以上のエリアに入る際にアクセスリクエストの通知を受け取ることがあります。アクセスリクエストの通知をトリガするすべての条件は、動画管理システムで指定しなければなりません。通知には、アクセスリクエストに関連するライブビデオが表示されるため、誰がアクセスを要求しているかを確認することができます。開くべきドアの名前は、例えば、**アクセスリクエスト - フロントドア**など、見出しとして表示されます。ドアの状態（例えば、開、閉または強制開）も表示されます。ドアに複数のカメラが関連付けられていると、それらは互いの下に表示されます。

アクセスリクエストの通知は一時的なものです。アクセスリクエストの通知を閉じると、この通知はシステムから消去されます。アクセスリクエストの通知が表示されているときに XProtect Smart Client を閉じると、再起動してもこの通知は復元されません。

アクセスリクエスト通知の管理

XProtect Smart Client が実行中の場合は、他のアプリケーションを使用している場合でも、画面上にアクセスリクエスト通知がポップアップ表示されます。

フロートウィンドウでライブビデオを表示している場合は、 をクリックします。

アクセスリクエストがアクセスリクエスト通知ウィンドウに重なって表示され、同じ通知ウィンドウからすべての受信したアクセスリクエスト通知を処理することができます。画面の反対側または別の画面（接続されている場合）に通知をドラッグします。

必要に応じて、アクセスリクエスト通知ウィンドウを最小化して、機能をバックグラウンドで続行させることもできます。新しい通知がある場合は、XProtect Smart Client アイコンがタスクバーで点滅します。

アクセス要求への応答

VMS システムが双方向音声をサポートし、スピーカーとマイクが、アクセスリクエスト通知を表示する該当するカメラに接続されている場合は、アクセスリクエスト通知によって、入室を許可する人と会話することができます。

1. アクセスを要求している人の話を聞くには、 ボタンをクリックします。

2. 例えば、エリア内でどう進むか、またはどう行動するかの手引を与えるために、アクセスを要求している

人に話しかけるには、 ボタンをクリックしたまま保持します。

マイクおよびスピーカーボタンの右側には、特定のアクションを実行するためのコマンドボタンがあります。最も標準的なアクションは、アクセスを要求する人のためにドアのロックを解除することですが、関連する出入口に近いエリアのライトをオンにすることもあります。

アクセスコントロールシステムが XProtect システムにこのような情報を提供している場合は、カードホルダー情報を確認できます。カードホルダー情報の例：

- カードホルダーの ID 番号。
- 名前。
- 部署。
- 電話番号。
- 権限レベル。

システム構成によっては、カードホルダー情報を管理 『214ページ の"カードホルダー情報の管理"参照』 できる場合があります。

アクセスリクエスト通知をオンまたはオフにする

例えば、1 人だけでアクセスリクエストを処理すべきケースでは、アクセスリクエストの処理をオフにすることができます。

1. 右上端で**【設定】**アイコン  をクリックします。設定ウィンドウが表示されます。
2. **【アクセスコントロール】**を選択し、アクセスリクエスト通知をオフにします。

後で再度アクセスリクエストの処理が必要になった場合、アクセスリクエストの通知をオンにします。アクセスリクエスト通知内から**【設定】**アイコンをクリックして、アクセスコントロールのオプションを変更することもできます。

【サーバーに従う】フィールドが選択されている場合は、システム管理者が**【アクセスコントロール通知を表示する】**設定を制御します。

XProtect LPR

ナンバープレート認識(LPR)は、画像にある文字や数字を認識して、車両のナンバープレートを読み取り、英数字を抽出してシステムに記録として保存します。認識の結果、システムで LPR イベントが生成されます。次の操作に従ってください。

- システムで発生する LPR イベントを**ライブタブ** 『217ページ の"ライブタブの LPR"参照』 でモニターします。
- **LPR タブ** 『218ページ』 で特定の LPR イベントを表示して調べ、LPR イベントをレポートとしてエクスポートします。
- 特定の LPR アラームを**アラームマネージャタブ** 『221ページ の"アラームマネージャタブの LPR"参照』 で表示して調べることができます。

ライブタブの LPR

【ライブ】タブには、ライセンスプレート認識(LPR)に設定されたカメラからライブビデオが表示されます。複数の LPR カメラからのライブビデオを同時に表示することができます。ビューアイテムの右側には、一致する LPR イベントがあるたびに表示されます。セットアップモードで、ナンバープレートの番号のリストの表示方法を定義する設定を変更することができます。

LPR イベントリスト内のいずれかのナンバープレートをクリックすると、ライブビデオが自動的に一時停止し、イベントの個別再生に変更されます。ライブビデオの表示に戻るには、ナンバープレートを再度クリックするか、カメラツールバーの個別再生アイコンをクリックしてください。

LPR カメラをビューに追加する

1. セットアップモードのライブタブで、LPR カメラを追加するビューを選択します。
2. システム概要ペインで、**LPR** をクリックし、関連するビューアイテムの位置へドラッグします。
3. **LPR カメラの選択**ダイアログボックスで、該当するサーバーを展開して、そのサーバーで使用できる LPR カメラを一覧表示します。

プロパティペインの『217ページ の"LPR 表示設定の調整"参照』ライブタブで、LPR カメライベントを表示する方法を指定できます。

LPR 表示設定の調整

1. ライブタブで、**設定**をクリックします。
2. **LPR カメラ**の横にある**プロパティ**で、ブラウズボタンをクリックして **LPR カメラの選択**ダイアログボックスを開き、別の LPR カメラを選択します。
3. プレビューの右側にあるリストで、LPR イベントの順番を選びます。
 - **最新を最上位に表示**：最新の LPR イベントを、リストの先頭に表示します。
 - **最新を最下位に表示**：最新の LPR イベントを、リストの末尾に表示します。
4. 1 台のカメラからナンバープレートのリストを表示したいが、別のカメラからのビデオも表示したい場合は、**カメラ名**フィールドで別のカメラを選択します。

マップで LPR サーバーのステータスを有効にする

マップで LPR サーバーを表示し、マップに現在の状態を表示させることができます。マップで LPR サーバーのステータスを有効にするには：

1. ライブタブで、**設定**をクリックします。
2. **ビュー**で、関連するマップを選択します。
3. マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
4. ツールボックスで、**プラグイン要素の追加**アイコンをクリックすると、**エレメントの選択**ウィンドウが開きます。



プラグイン要素の追加アイコン

5. 関連する LPR サーバーを選択し、マップにドラッグします。
6. マップで、LPR サーバーのアイコンを右クリックし、**詳細ステータス**を選択すると、LPR サーバーおよびそのサーバーに関連する LPR カメラの現在のライブステータスを取得できます。

マップを**アラームマネージャ**タブに追加することで、LPR の特定のマップとアラームリストを関連付けることができます。

LPR タブ

LPR タブでは、すべての LPR カメラからの LPR イベントを調べることができます。このタブには **LPR** イベントリスト、個別の LPR イベントに関連付けられたビデオの LPR カメラでのプレビューがあります。プレビューの下には、ナンバープレートに関する情報が、関連付けられているナンバープレートのマッチリストの詳細と共に表示されます。

イベントリストには、期間、国モジュール、LPR カメラ、ライセンスプレートマッチリストでフィルター『**218** ページ の"**LPR イベントのフィルタリング（説明付き）**"参照』をかけることができます。**検索**フィールドを使用して、特定のナンバープレート番号を検索することができます。デフォルトでは、このリストには直前 **1** 時間の LPR イベントが表示されています。

関連するイベントを PDF 形式で『**220** ページ の"**LPR イベントをレポートとしてエクスポートする**"参照』指定し、エクスポートすることができます。

ナンバープレートマッチリスト『**219** ページ の"**ナンバープレートマッチリストを編集**"参照』機能を使用すると、既存のマッチリストを更新することができます。

更新を使って、最新のイベントが含まれるようにイベントリストを更新します。

LPR イベントリスト（説明付き）

LPR イベントリストには、すべての LPR イベントが表示されます。デフォルトでは、このリストには、直前 **1** 時間の LPR イベントが、最新のイベントが一番上に表示されますが、システム管理者はこれを変更することもできます。

リストから **LPR** を選択すると、右側にプレビューが表示され、そのイベントに関連するビデオシーケンスを表示できます。プレビューのタイトルバーには、その LPR イベントをトリガーした LPR カメラの名前が表示されます。また、ライセンス番号、国モジュール、イベントの時刻、トリガーしたイベントに割り当てられているマッチリストなども表示できます。

LPR イベントリストの表示方法は変更することができます。列で並び替えたり、別の位置にドラッグすることができます。リストの一番上にあるフィルターを使って、LPR イベントにフィルター『**218** ページ の"**LPR イベントのフィルタリング（説明付き）**"参照』をかけたり、検索フィールドを使って検索したりすることができます。

LPR イベントリストには、検索またはフィルター時の LPR イベントのみが表示されます。最新の LPR イベントを表示するには、**更新**ボタンをクリックします。

パフォーマンスを最適化するために、リストには同時に最大 **100** の LPR イベントのみが表示されます。前の/次の **100** の LPR イベントを参照するには、LPR イベントリストの右上にあるボタンを使用します: **< 101 - 200 >**。

LPR イベントのフィルタリング（説明付き）

LPR イベントリストにフィルターをかける方法は複数あり、関心のある LPR イベントだけを表示することができます。そのフィルターに関連付けられた LPR イベントだけを参照するには、リストの上部にあるフィルターのいずれかをクリックします。適用するフィルターが直ちにリストに反映されます。

- **期間**：その特定期間の LPR イベントを参照するには、利用可能な時間帯のいずれか 1 つを選択します。
- **国モジュール**：国モジュールを選択または選択解除して、特定の国、州、地域のナンバープレートにリンクされている LPR イベントだけを表示させることができます。
- **LPR カメラ**：使用可能な LPR カメラを 1 つ以上選択すると、選択したカメラの LPR イベントだけが表示されます。
- **ナンバープレートマッチリスト**：ナンバープレートリストを 1 つ以上の選択すると、それらのリストから生成された LPR イベントだけが表示されます。

フィルターを組み合わせることも可能です（ある日付の特定の国モジュールなど）。

また、**検索**フィールドを使って、特定のナンバープレートを検索することもできます。文字の組み合わせを入力して、それらの文字の組み合わせによる結果を出力します。たとえば、文字「**XY 12**」を入力すると、番号に「**XY**」と「**12**」の両方が含まれているナンバープレートが検索できます。**XY12** と入力すると、番号に「**XY12**」が含まれているナンバープレートを検索できます。

ナンバープレートマッチリストを編集

ナンバープレートマッチリストで、ナンバープレートを追加または削除することができます。

1. **LPR** タブで、ウィンドウの右上で、**ナンバープレートマッチリスト**をクリックすると**ナンバープレートマッチリスト**ダイアログボックスが開きます。
2. **ナンバープレートマッチリスト**を**選択**で、編集したいリストを選択します。
3. ナンバープレートを追加するには、**追加**をクリックします。関連する情報を入力して、**OK**をクリックします。
4. 既存のナンバープレートを編集する場合は、検索機能を使って、関連するナンバープレートを見つけます。
5. 単一の列をダブルクリックして編集するか、複数の行を選択して、**編集**をクリックします。
6. ダイアログボックスに情報を入力して、**OK**をクリックします。マッチリストに複数の列が含まれている場合、すべてのフィールドの情報を編集することができます。
7. ナンバープレートを削除する場合は、検索機能を使って、関連するナンバープレートを見つけます。
8. 必要に応じて複数の行を選択して、**削除**をクリックします。
9. **閉じる**をクリックします。

あるいは、リストされていない LPR イベントを右クリックして、**リストに追加**を選択することで、ナンバープレートをナンバープレートマッチリストに追加することもできます。また、プレビューの右下で関連する LPR イベントを選択して、**リストから削除**アイコンをクリックしてナンバープレートを削除することも可能です。

ナンバープレートマッチリストのインポート/エクスポート

ナンバープレートマッチリストで使いたいナンバープレートのリストが含まれているファイルをインポートすることができます。インポートには、以下のオプションがあります。

- ナンバープレートを既存のリストに追加する。
- 既存のリストを置換する。

たとえば、リストを中央で集中管理している場合には、これが便利です。次に、ファイルを配信することで、すべてのローカルインストールを更新することができます。

同様に、ナンバープレートの完全なリストを、マッチリストから外部の場所へエクスポートすることもできます。

サポートされているファイル形式は.txt または.csv です。

インポートするには：

1. **LPR** タブで、ウィンドウの右上で、**ナンバープレートマッチリスト**をクリックすると**ナンバープレートマッチリストダイアログボックス**が開きます。
2. 関連するリストを選択します。
3. ファイルをインポートするには、**インポート**をクリックします。
4. ダイアログボックスで、インポートファイルの場所およびインポートのタイプを指定します。**次へ**をクリックします。
5. 確認を待ってから、**閉じる**をクリックします。

エクスポートするには：

1. ファイルをエクスポートするには、**エクスポート**をクリックします。
2. ダイアログボックスで、エクスポートファイルの場所を指定して、**次へ**をクリックします。
3. **閉じる**をクリックします。
4. エクスポートしたファイルは、たとえば、Microsoft Excel で開いて、編集することができます。

LPR イベントをレポートとしてエクスポートする

LPR イベントのレポートを PDF ファイルにエクスポートすることができます。

1. **LPR** タブで、レポートに含めたいイベントにフィルターをかけたり、検索することができます。

検索結果のイベント数が非常に多い場合、検索を絞り込むよう推奨されます。これによって検索結果の数を低減できます。

2. **LPR レポートボタン**をクリックします。
3. 以下の値を指定して、**OK**をクリックします。
 - レポート名
 - レポート先
 - コメントフィールド

- スナップショットを含めるオプション

XProtect Smart Client ウィンドウの右上隅に進行状況バーが表示されます。

4. **詳細**をクリックして、レポートを表示します。

用紙のフォーマットやフォントを変更したい場合は、**設定**ウィンドウを開き、**詳細**を選択して、**PDF レポート形式**または**PDF レポートフォント**設定を変更します。

アラームマネージャタブの LPR

アラームマネージャタブで、LPR に関連するアラームを表示して、調べることができます情報を表示する前に、若干のカスタマイズが必要です。

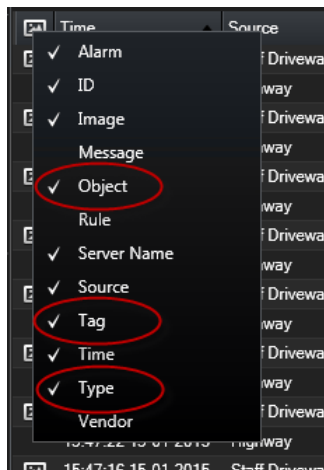
- LPR 固有のエLEMENTを有効にする 『221ページ 』
- アラームリストは、イベントモードでなければなりません。 『222ページ の"LPR 認識の表示"参照 』

XProtect Smart Client の機能の詳細一般については、アラーム管理のセクションを参照してください。

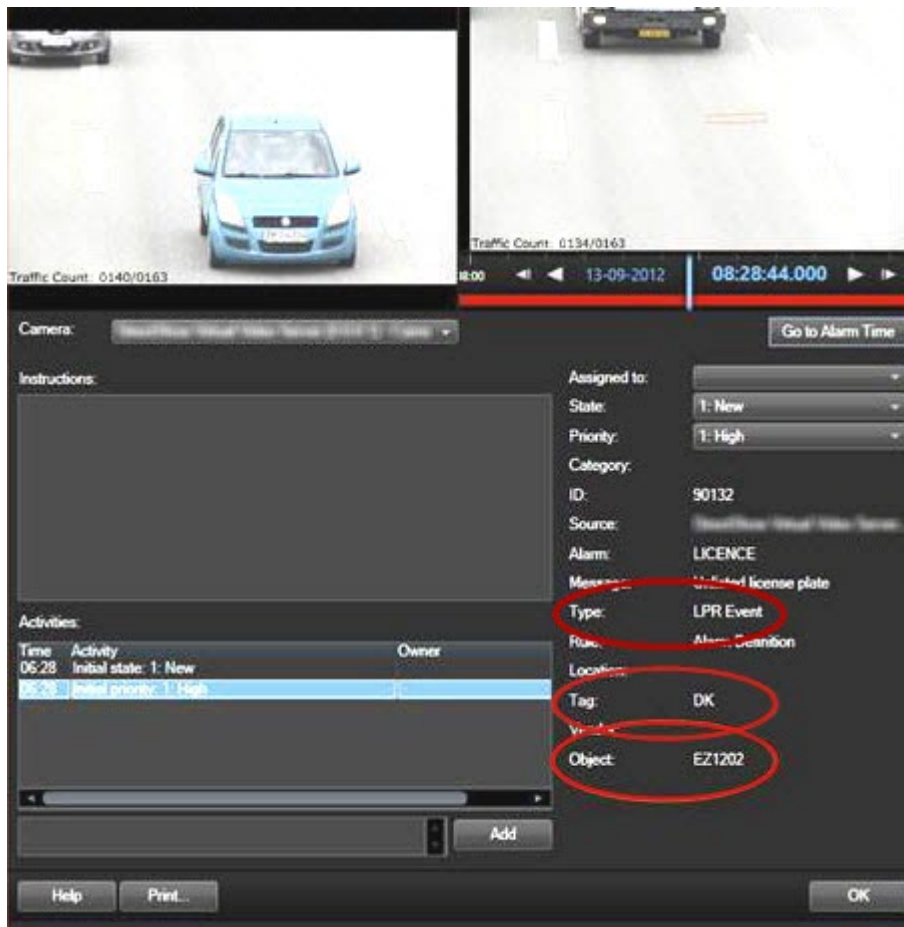
LPR 固有のエLEMENTを有効にする

XProtect Smart Client で LPR 認識に関するすべての関連情報を表示できるようにするには、**アラームマネージャ**タブで、次の手順を実行してください。

1. アラームマネージャタブの**アラーム**リストで、**簡易フィルター**列の横にある**画像**アイコンを右クリックします。 メニューで、以下を選択します。**オブジェクト**、**タグ**、**タイプ**。



2. ここで、**タイプ**はすべての LPR に関連するイベント、**タグ**は国コードを、**オブジェクト**は登録車両のナンバープレートを表示します。



LPR 認識の表示

アラームリストで LPR 認識を確認できます。データソースとしてイベントを選択すると、すべての認識が表示されます。データソースとしてアラームを選択すると、アラームに関連付けられた認識のみが表示されます。

前提条件: 以下の手順で参照された **[タイプ]** フィールドを使用するには、システム管理者が **Management Client** または **Management Application** でフィールドを有効にする必要があります。

手順：

1. **[アラームマネージャ]** タブに移動します。
2. **[設定]** ボタンをクリックし、セットアップモードにします。
3. アラームに関連付けられた認識を表示するには、
 1. **[データソース]** リストで、**[アラーム]** を選択します。

2. **【設定】**をもう一度クリックし、セットアップモードを解除します。認識はアラームリストに表示されます。
3. 受信 LPR アラームを表示するには、**【タイプ】** フィールドに **LPR** と入力します。

4. すべての認識を表示するには、
 1. **【データソース】** リストで、**【イベント】** を選択します。
 2. **【設定】**をもう一度クリックし、セットアップモードを解除します。認識はアラームリストに表示されます。
 3. すべての受信 LPR イベントを表示するには、**【タイプ】** フィールドに **LPR** と入力します。

アラームリストには、修正したフィールドから移動するときのみ、フィルタリングされた結果が表示されます。

XProtect Transact

※本機は、XProtect Transact には対応していません

XProtect Transact について

XProtect Transact は、Milestone の IP ビデオ監視ソリューションへのアドオンです。

XProtect Transact は、実行中のトランザクションを監視し、過去のトランザクションを調査するためのツールです。トランザクションは、詐欺を証明したり、犯人のエビデンスを提示したりするためなどに、トランザクションを監視するデジタル監視動画にリンクしています。トランザクションラインと動画画像の間には 1 対 1 の関係があります。

トランザクションデータは、さまざまなタイプのトランザクションソースから発生します。一般的には、POS システムや ATM などです。

Transact ワークスペース（説明付き）

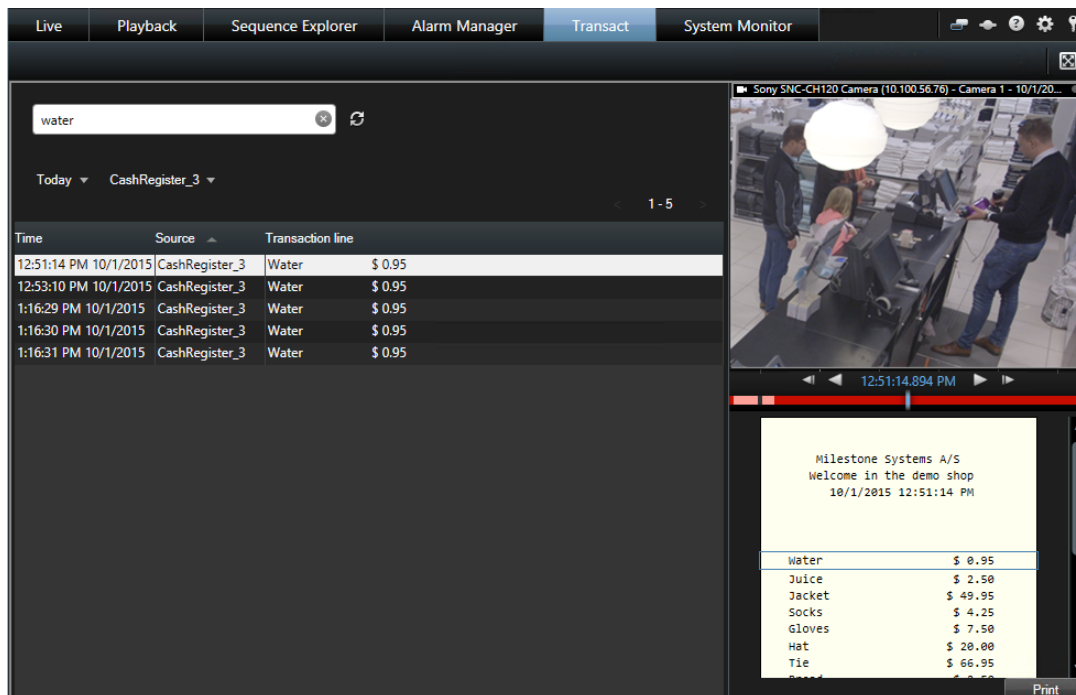
【トランザクト】タブでは、1 つ以上のトランザクションソースに関連付けられたトランザクションラインを調査できます。トランザクションラインを選択するときには、各関連付けられたカメラのビデオ静止フレームがビデオビューアに表示され、録画を確認できます。ビデオプレビューアの下に、選択されたラインに関連付けられたトランザクションがレシートビューに表示されます。

デフォルトでは、最新のトランザクションラインが最上位に表示され、タイムスタンプに従ってトランザクションラインが並べ替えられます。ラインは降順に並べ替えることもできます。トランザクションソースまたはトランザクションラインの名前で並べ替える場合は、ラインがアルファベット順に表示されます。

検索フィールドと 2 つのフィルターがあります。

- **検索フィールド**：検索語をここに入力し、フリーテキスト検索を実行します。検索によって、検索語を含むトランザクションラインが返され、大文字と小文字は区別されません。レシートでは、検索に一致するトランザクションラインがハイライト表示されます。

- タイムインターバル：このフィルターを使用して、**過去 7 日**などのタイムインターバルを指定します。また、任意のカスタム間隔を設定することもできます。デフォルトでは、このフィルターは**今日**に設定されています。
- ソース：このフィルターを使用して、トランザクションを表示するトランザクションソースを選択します。デフォルトでは、このフィルターは**すべて**に設定されています。



パフォーマンスを最適化するために、リストには同時に最大 **100** のトランザクションラインのみが表示されます。前または次の **100** 件のトランザクションラインを参照するには、トランザクションリストの右上にあるボタンを使用します：**< 101 - 200 >**。

列を再配置するには、リストの列をドラッグアンドドロップします。

参照

検索とフィルターを使用したトランザクションの調査 『230ページ の"検索とフィルタを使用したトランザクションの調査"参照』

XProtect Transact の概要

このトピックでは、XProtectSmart Client で XProtect Transact を使用してできることについて概要を説明します。機能はタブごとに説明されています。

タブ	説明
ライブ	【ライブ】タブでは、トランザクションを監視するカメラからライブトランザクションと監視ビデオを観察できます。ビューには複数のトランザクションビュー項目が表示されます。トランザクションは、最大 2 台のカメラのビデオストリームと同期して画面を移動するレシートとして表示されます。 セットアップモードでは、トランザクションビューを作成して変更できます。
再生	【再生】タブでは、トランザクションを監視するカメラから過去のトランザクションと監視ビデオを確認できます。ビューには複数のトランザクションビュー項目が表示されます。トランザクションは、最大 2 台のカメラのビデオストリームと同期して画面を移動するレシートとして表示されます。 セットアップモードでは、トランザクションビューを作成して変更できます。
アラームマネージャ	アラームマネージャタブでは、トランザクションに関連するアラームとイベントを表示して、調べることができます イベントはイベントリストとして表示されます。トランザクションイベントをグループ化するには、タイプがトランザクションのイベントでフィルタリングする必要があります。イベントリストの行をクリックすると、イベントに関連付けられたビデオがプレビューに表示されます。
Transact	Transact タブでは、フリーテキスト検索を実行し、フィルターを適用して、トランザクションを調査できます。トランザクションラインは、時間、トランザクションソース、およびライン名別に並べ替えることができるリストに表示されます。行をクリックすると、関連付けられたカメラの関連付けられたビデオの静止フレームが表示されます。ビデオプレビューアの下には、レシートが表示されます。 詳細については、Transact ワークスペース（説明付き） 『223ページ』を参照してください。

参照

トランザクションのビューの設定 『226ページ』

ライブトランザクションを観察する 『229ページ の"ライブトランザクションの監視"参照』

トランザクションの調査 『230ページ』

XProtect Transact 試用版ライセンス

XProtect Transact 試用版ライセンスを使用して、最大 30 日まで XProtect Transact 機能を試すことができます。すべての関連する機能が有効になり、キャッシュレジスターなどのトランザクションソースを 1 つ追加できます。30 日間の試用期間が終了したら、**Transact** ワークスペースとトランザクションビュー項目を含む、すべての XProtect Transact の機能が無効になります。XProtect Transact 基本ライセンスと必要なトランザクションソースライセンスを購入して認証すると、もう一度 XProtect Transact を使用でき、設定とデータは維持されます。

XProtect Professional VMS 製品を使用している場合は、試用版ライセンスはビルトインライセンスです。システム管理者が構成にトランザクションソースを追加すると、試用版ライセンスが認証されます。

その他の製品については、Milestone から試用版ライセンスを取得する必要があります。システム管理者は構成で試用版ライセンスを認証する必要があります。

使用開始

XProtect Smart Client でトランザクションの監視と調査を開始する前には、次の手順を実行する必要があります。

1. XProtect Transact 基本ライセンスが video management software のインストール中に認証されたことを確認します。このためには、XProtect Smart Client を開き、**【トランザクト】**タブが表示されていることを確認します。基本ライセンスがない場合は、試用版ライセンスで Transact を使用できます。詳細については、「XProtect Transact 試用版ライセンス 『225ページ』」を参照してください。
2. トランザクションが正しく表示されていることを確認します。これには、個別のトランザクションラインとレシートがあります。このためには、**【トランザクト】**タブをクリックし、トランザクションソースとタイムインターバルを選択します。正しく構成されていない場合は、トランザクションラインのリストが表示されます。行をクリックすると、接続されたカメラごとに 1 つの対応するビデオの静止フレームが表示されます。
3. **【ライブ】**タブでリアルタイムのトランザクションを開始するか、**【再生】**タブでトランザクションを調査する場合は、トランザクションのビューを設定します。詳細については、「トランザクションのビューの設定 『226ページ』」を参照してください。

参照

ライブトランザクションの監視 『229ページ』

トランザクションの調査 『230ページ』

トランザクションのビューの設定

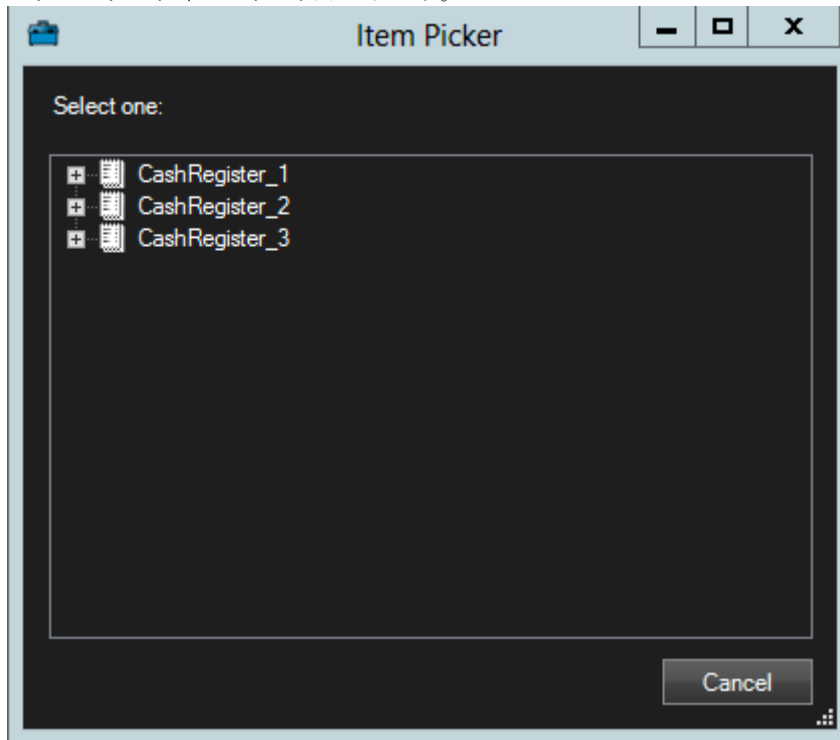
トランザクションのビューの設定

【ライブ】または**【再生】**タブでトランザクションを表示する前に、各トランザクションソースのトランザクションが含まれるビューアイテムを設定する必要があります。実行中のトランザクションの場合、セットアップモードを終了すると、ビューアイテム内の画面上をレシートが回転します。

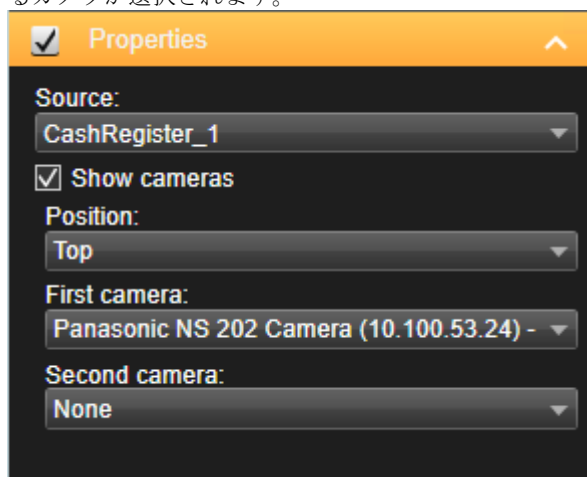
手順：

1. **【ライブ】**タブまたは**【再生】**タブで、右上端の**【設定】**をクリックし、セットアップモードに切り替えます。
2. 新しいビューを作成するか、既存のビューを選択します。

3. **【システム概要】**ペインを展開します。
4. トランザクションとビデオフィードを表示するビューアイテムまで、**トランザクト**項目をドラッグします。ポップアップウィンドウが表示されます。



5. キャッシュレジスタなどのトランザクションソースを選択し、**【OK】**をクリックします。ビューアイテム内にレシートプレビューが表示されます。
6. **【プロパティ】**を展開し、**【カメラを表示する】**チェックボックスを選択して、トランザクションソースに関連付けられたカメラを追加します。デフォルトでは、設定で最初にトランザクションソースに追加されるカメラが選択されます。



7. **【最初のカメラ】**と**【2 番目のカメラ】**ドロップダウンリストを使用し、ビューアイテムで表示されるカメラを指定します。デフォルトでは 2 番目のカメラは選択されません。2 番目のカメラが必要ではない場合、そのままにします。

8. カメラの位置を変更する場合は、たとえばレシートにある**【位置】**ドロップダウンリストの値を選択します。

ビューに追加するトランザクションビューアイテムごとに、手順 4～8 を繰り返します。

参照

トランザクションビューアイテムの設定の調整 『228ページ』

ビューの作成および管理 『79ページ』

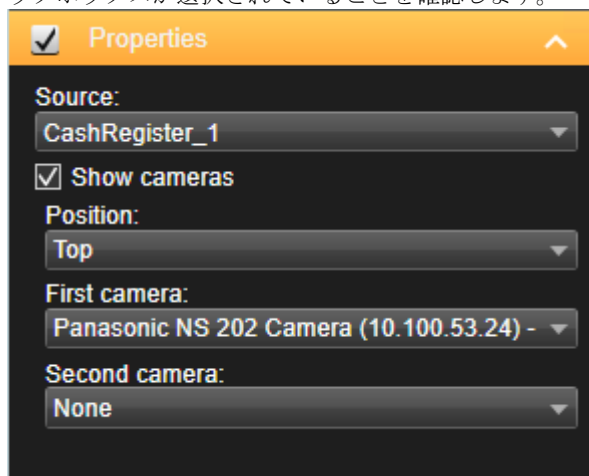
トランザクションビューアイテムの設定の調整

1 つ以上のトランザクションビュー項目を含むビューを作成すると、次のことができます。

- 選択したカメラと表示順を変更する。トランザクションビューアイテムごとに最大 2 台のカメラと、トランザクションソースに関連付けられたカメラのみを選択できます。
- レシートに関連してカメラが配置される方法を変更する。
- トランザクションビュー項目を追加または削除する。

手順：

1. **【ライブ】**タブまたは**【再生】**タブで、右上端の**【設定】**をクリックし、セットアップモードに切り替えます。
2. 調整するビュー、ビューアイテムの順に選択します。
3. 選択されたカメラまたはその位置を変更する場合は、**【プロパティ】**を展開し、**【カメラを表示する】**チェックボックスが選択されていることを確認します。



4. **【位置】**ドロップダウンリストを使用し、レシートに関連してカメラが表示される方法(レシートの下など)を指定します。
5. **【最初のカメラ】**と**【2 番目のカメラ】**ドロップダウンリストを使用し、ビューアイテムで表示されるカメラを変更します。
6. トランザクションソースをビューに追加する場合は、「トランザクションのビューの設定 『226ページ』」の手順 3～8 に従います。

参照

ビューの作成および管理 『79ページ』

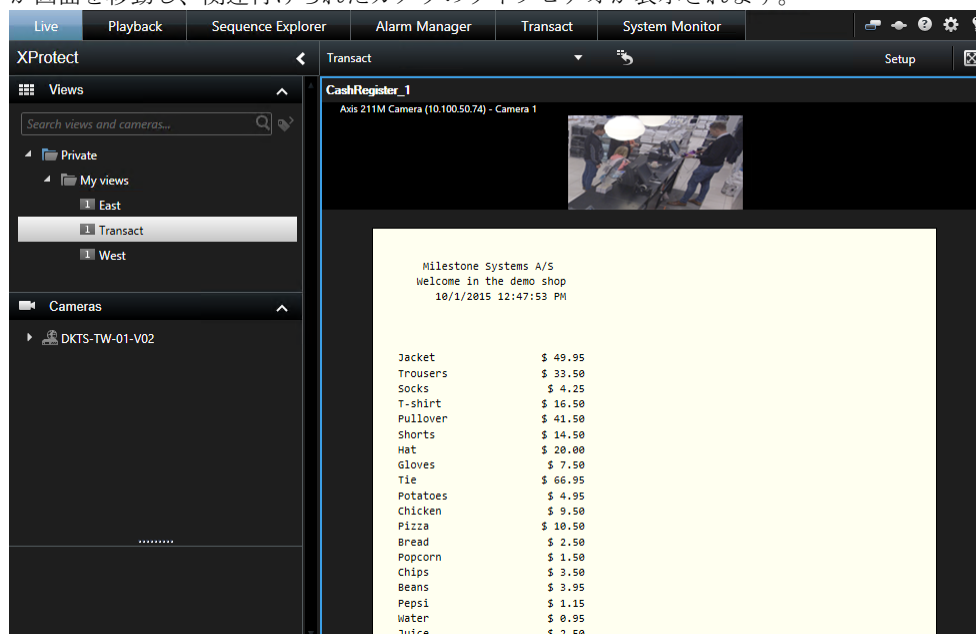
ライブトランザクションの監視

トランザクションを録画するカメラのライブビデオ監視と組み合わせて、リアルタイムのトランザクションを観察できます。たとえば、キャッシュレジスター、販売員、および実行中のトランザクションを観察できます。

前提条件：トランザクションを表示するビューを設定していること。詳細については、「トランザクションのビューの設定 『226ページ』」を参照してください。

手順：

1. **【ライブ】**タブで、**【ビュー】**ペインを選択します。
2. トランザクションに設定されたビューを選択します。実行中のトランザクションがある場合は、レシートが画面を移動し、関連付けられたカメラのライブビデオが表示されます。



トランザクションビューアイテムがレシートより狭い場合は、横のスクロールバーを使用して、非表示のレシートの部分を表示できます。スクロールバーにアクセスしようとすると、ビューアイテムツールバーが表示され、スクロールバーを覆います。スクロールバーにアクセスするには、カーソルがビューアイテム領域に移動している間に、**Ctrl** を押したままにします。

参照

ビューのトランザクションの調査 『230ページ』

トランザクションの調査

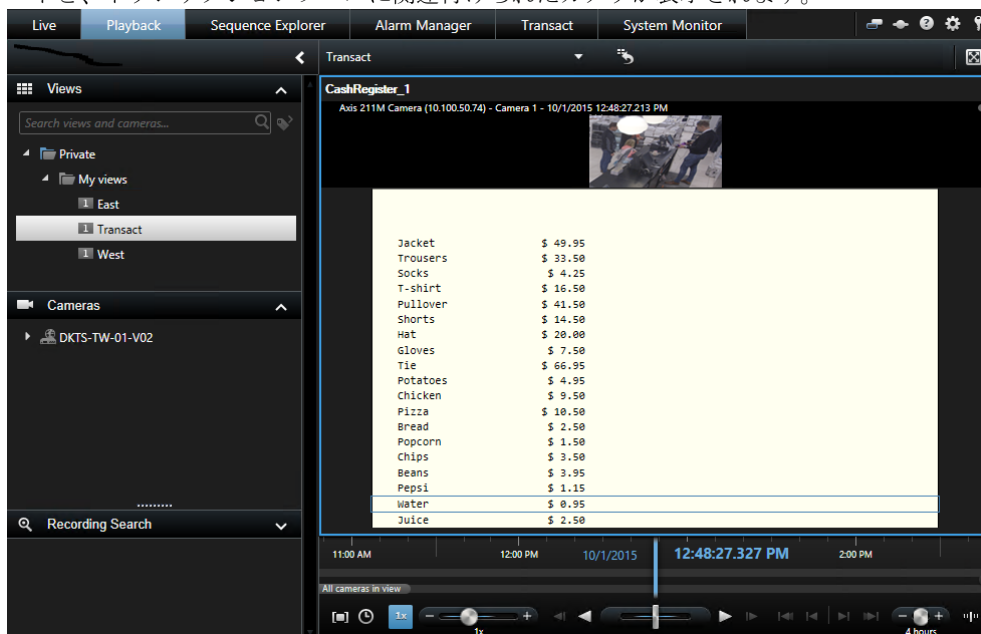
ビューのトランザクションの調査

トランザクションを調査する最も簡単な方法は、ビューでトランザクションを確認することです。ここでは、ビデオの録画と同期して、レシートが画面を移動します。

前提条件：トランザクションを表示するビューを設定していること。詳細については、「トランザクションのビューの設定 『226ページ』」を参照してください。

手順：

1. 再生タブを選択します。
2. ビューペインで、トランザクションビューを選択します。ビューの構成方法によっては、1 つ以上のレシートと、トランザクションソースに関連付けられたカメラが表示されます。



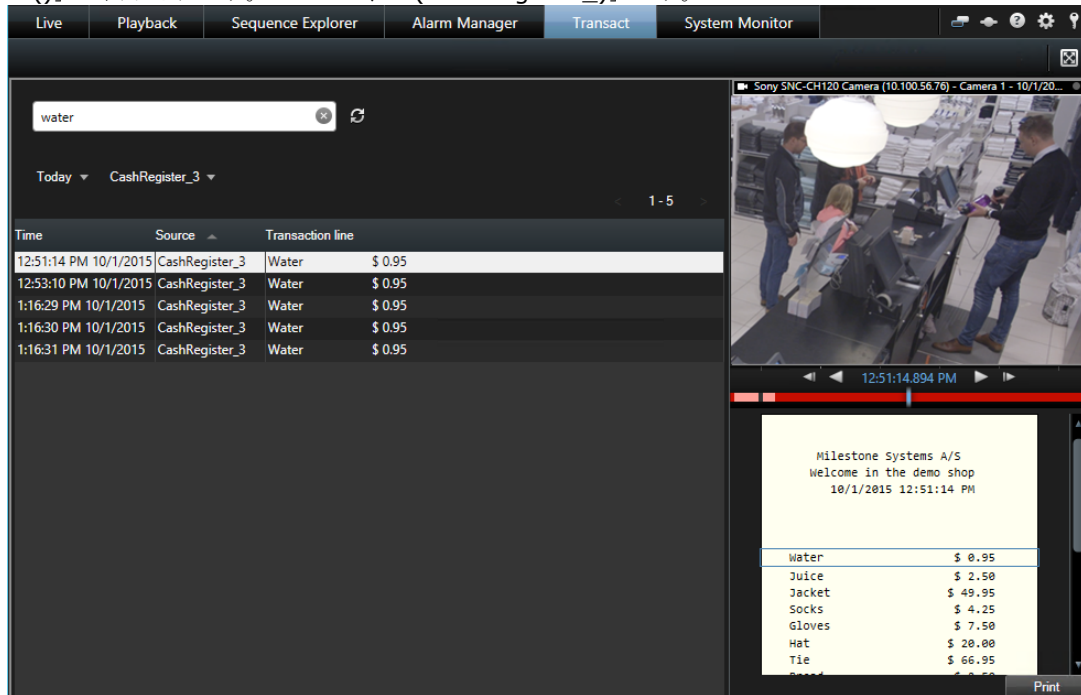
3. 逆方向モードでビデオシーケンスを表示する場合は、タイムラインを右側にドラッグします。
4. 順方向モードでビデオシーケンスを表示する場合は、タイムラインを左側にドラッグします。
5. ◀ または ▶ ボタンを使用して、逆方向または順方向再生モードでビデオ録画を再生します。

トランザクションビューアイテムがレシートより狭い場合は、横のスクロールバーを使用して、非表示のレシートの部分を表示できます。スクロールバーにアクセスしようとすると、ビューアイテムツールバーが表示され、スクロールバーを覆います。スクロールバーにアクセスするには、カーソルがビューアイテム領域に移動している間に、**Ctrl** を押したままにします。

検索とフィルタを使用したトランザクションの調査

フィルタと検索語を使用すると、トランザクションと関連付けられたビデオの録画を調査できます。フィルタを使用すると、過去 7 日間のトランザクションや特定のキャッシュレジスターなど、検索を絞り込むことができます。検索語を使用すると、販売員の名前や未承認の割引など、トランザクションの特定のデータを特定できます。

1. 【トランザクト】タブをクリックします。
2. 【今日】ドロップダウンリストでタイムインターバルを選択します。
3. 【ソース】ドロップダウンリストで、調査するトランザクションソースを選択します。無効なソースには「()」が表示されます。たとえば、「(CashRegister_)」です。



4. 検索語を入力します。検索結果はフィルタの下にトランザクションラインとして表示されます。レシートでは検索項目がハイライト表示されます。
5. リストを更新するには、をクリックします。
6. トランザクションラインをクリックし、関連付けられたビデオの静止フレームを表示します。またはボタンを使用して、逆方向または順方向再生モードでビデオ録画を開始します。

デフォルトでは、トランザクションデータは 30 日間保存されますが、構成によっては、データを最大 1000 日間保存できます。

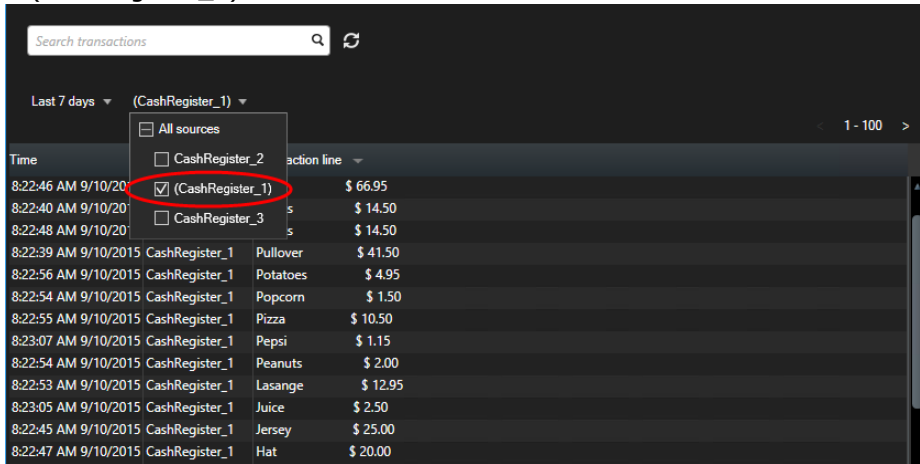
検索メカニズムは、大文字と小文字を識別しません。

無効なソースからのトランザクションの調査

トランザクションソースがシステム管理者によって無効にされている場合でも、関連付けられたビデオ録画と組み合わせて、そのソースの過去のトランザクションを表示できます。

手順：

1. 【トランザクト】タブをクリックします。
2. 【すべてのソース】ドロップダウンリストで、無効なトランザクションソースを選択します。
「(CashRegister_1)」のような括弧はソースが無効であることを示します。



3. 【過去 7 日間】などのタイムインターバルを選択するか、カスタム期間を設定します。
4.  をクリックして、指定されたタイムインターバルのトランザクションラインを表示します。
5. トランザクションラインを選択し、正確な特定の時点から、関連付けられたビデオ静止フレームを表示します。
6.  または  ボタンを使用して、逆方向または順方向再生モードでビデオの録画を表示します。

デフォルトでは、保存されたトランザクションデータは 30 日後に削除されます。ただし、システム管理者が、1～1000 日の間で保持期間を変更している場合もあります。

参照

検索語とフィルタを使用したトランザクションの調査 『230ページ の"検索とフィルタを使用したトランザクションの調査"参照』

トランザクションイベントの調査 『232ページ』

トランザクションイベントの調査

特定の項目が購入されたトランザクションの特定などによって、トランザクションイベントを調査できます。トランザクションイベントの調査では、アラームリストのイベントと関連付けられたビデオの録画の詳細が表示されます。

前提条件: トランザクションイベントでフィルタリングするには、【タイプ】フィールドが XProtect Smart Client に追加される必要があります。これはシステム管理者のみが実行できます。

手順：

1. 【アラームマネージャ】タブをクリックします。
2. 右上端の【設定】をクリックし、セットアップモードに切り替えます。
3. プロパティペインを展開します。

4. **【データソース】**リストで、**【イベント】**を選択し、もう一度**【設定】**をクリックして、セットアップモードを終了します。すべてのイベントはリストに表示されます。最新のデータが一番上に表示されます。
5. トランザクションイベントのみを表示するには、**【フィルタ】**セクションを展開し、**【タイプ】**フィールドに「トランザクションイベント」と入力します。自動的にフィルタが適用され、トランザクションイベントのみがリストに表示されます。

Source:		Message:	Juice	From:	☐		00	00	00
ID:				To:	☐		00	00	00
Type:	transaction			Servers:	☒	DKTS-TW-01-V02			
Time	Message	Source	ID	Type					
10:52:20 AM 10/1/2015	Juice	CashRegister_1	100421	Transaction event					
10:52:18 AM 10/1/2015	Juice	CashRegister_1	100420	Transaction event					
10:52:18 AM 10/1/2015	Juice	CashRegister_1	100419	Transaction event					
10:51:06 AM 10/1/2015	Juice	CashRegister_1	100418	Transaction event					

6. システム管理者が定義した特定のイベントを表示する場合は、**【メッセージ】**リストを開き、イベントを選択します。
7. イベントに関連付けられたビデオの録画を表示するには、リストのイベントをクリックします。ビデオがビデオプレビューアで再生されます。

トランザクションアラームの調査

トランザクションイベントによってトリガーされたアラームを調査できます。アラームはアラームリストに表示され、アラームと関連付けられたビデオの録画に関する詳細を確認できます。

前提条件: トランザクションイベントでフィルタリングするには、**【タイプ】**フィールドが XProtect Smart Client に追加される必要があります。これはシステム管理者のみが実行できます。

手順:

1. **【アラームマネージャ】**タブをクリックします。
2. 右上端の**【設定】**ボタンをクリックし、セットアップモードに切り替えます。
3. **プロパティペイン**を展開します。
4. **【データソース】**ドロップダウンメニューで、**【アラーム】**を選択し、もう一度**【設定】**をクリックして、セットアップモードを終了します。最新のアラームは、一番上に表示されます。
5. トランザクションイベントによってトリガーされたアラームのみを表示するには、**【フィルタ】**セクションを展開し、**【タイプ】**フィールドに「トランザクションイベント」と入力します。自動的にフィルタがリストに適用されます。
6. 特定のイベントによってトリガーされたアラームを表示する場合は、**【メッセージ】**ドロップダウンリストを開き、イベントを選択します。
7. アラームに関連付けられたビデオの録画を表示するには、リストのアラームをクリックします。ビデオがビデオプレビューアで再生されます。

参照

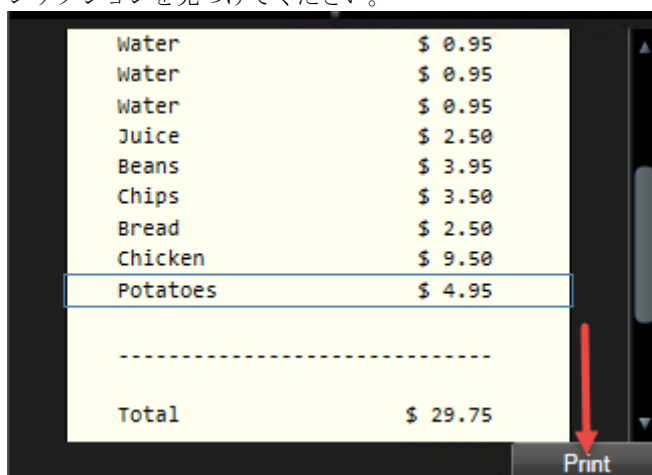
アラームの詳細の表示および編集 『168ページ』

トランザクションの印刷

Transact ワークスペースでトランザクションを表示しているときには、1 度に 1 つずつトランザクションを印刷できます。印刷物には、トランザクションラインと一致する時間の、関連付けられたカメラのレシートと静止画像が表示されます。

手順：

1. **【トランザクト】**タブをクリックします。
2. 「検索とフィルタを使用したトランザクションの調査 『230ページ 』」の説明に従い、印刷できるトランザクションを見つけてください。



3. 印刷するトランザクションの下に**【印刷】**をクリックします。Windows ダイアログボックスが表示されます。
4. 任意のプリンタを選択して、**OK**をクリックします。

スクリプト

※本機は、スクリプトには対応していません。

起動スクリプト

スクリプトを使用して、XProtect Smart Client ログイン手続きの一部またはすべてを制御することができます。

例：

- **基本認証**または **Windows 認証**を使用している場合、XProtect Smart Client ログインウィンドウに、あらかじめ情報が入力されたサーバーアドレスフィールドとユーザー名フィールドを表示できます。これで、ユーザーはパスワードを入力するだけでログインできます。
- **Windows 認証（現行ユーザー）**を使用している場合、ユーザーの現在の Windows ログインに基づいて XProtect Smart Client を監視システムに自動的に接続できます。

認証方法によっては、XProtect Smart Client ユーザーが特定の Milestone 監視システムへログインしていなければ使用できないものがあります。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の XProtect 製品比較表を参照してください。 <http://www.milestonesys.com>。

パラメータ

次のパラメータを使用できます。

ServerAddress

XProtect Smart Client が接続するサーバーの URL を参照します。

XProtect Corporate または XProtect Expert の場合、これは管理サーバーの URL になります。
XProtect Professional、XProtect Express、または XProtect Essential の場合、これは画像サーバーの URL になります。

次の例は、ダイアログのサーバーアドレスフィールドに `http://ourserver` と入力された XProtect Smart Client のログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe - ServerAddress="http://ourserver"
```

デフォルト認証タイプは **Windows 認証（現行ユーザー）**です。これを変更しない限り、**AuthenticationType** パラメータ（以下のセクションで説明）を使用すると、ログインウィンドウのユーザー名フィールドに現在の Windows ユーザーの名前が自動的に表示されます。

UserName

特定のユーザー名を指します。

次の例は、ダイアログのサーバーアドレスフィールドに `http://ourserver`、ユーザー名フィールドに Tommy と入力された XProtect Smart Client のログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe - ServerAddress="http://ourserver" - UserName "Tommy"
```

このパラメータは、**Windows 認証**および**基本認証**にのみ適用されます。どの認証方法を使用するかは、**AuthenticationType** パラメータを使って指定します。

パスワード

特定のパスワードを参照します。

次の例は、ダイアログのサーバーアドレスフィールドに `http://ourserver`、ユーザー名フィールドに `Tommy`、パスワードフィールドに `T0mMy5Pa55w0rD` と入力された XProtect Smart Client のログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe - ServerAddress="http://ourserver" - UserName "Tommy" -Password "T0mMy5Pa55w0rD"
```

このパラメータは、**Windows 認証**および**基本認証**にのみ適用されます。どの認証方法を使用するかは、**AuthenticationType** パラメータを使って指定します。

AuthenticationType

+XProtect Smart Client で使用できる 3 つの認証方法、**Windows 認証（現行ユーザー）**（起動スクリプトでは **WindowsDefault** と呼ばれる）、**Windows 認証**（起動スクリプトでは **Windows** と呼ばれる）、または**基本認証**（起動スクリプトでは **Simple** と呼ばれる）のうち 1 つを指します。

次の例は、ダイアログのサーバーアドレスフィールドに `http://ourserver`、認証フィールドに基本認証、ユーザー名フィールドに `Tommy`、パスワードフィールドに `T0mMy5Pa55w0rD`（アスタリスクでマスキング）と入力された XProtect Smart Client のログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName "Tommy" -Password "T0mMy5Pa55w0rD" -AuthenticationType Simple
```

Windows 認証を使用する場合、例は次のようになります：

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName "Tommy" -Password "T0mMy5Pa55w0rD" -AuthenticationType Windows
```

Windows 認証（現行ユーザー）を使用している場合、**UserName** パラメータと **Password** パラメータは不要となるため、例は次のようになります。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -AuthenticationType WindowsDefault
```

Script

.scs スクリプト（XProtect Smart Client を制御するスクリプトタイプ）へのフルパスを指します。

次の例では、.scs スクリプトを使ってログインします。

```
Client.exe -Script=c:\¥startup.scs
```

現在の Windows ユーザーを使用して `http://ourserver` へログインする.scs は次のようになります。

```
<ScriptEngine>
  <Login>
    <ServerAddress>http://ourserver</ServerAddress>
    <AuthenticationType>WindowsDefault</AuthenticationType>
  </Login>
</ScriptEngine>
```

XProtect Smart Client の関数呼び出しを使用して、.scs スクリプトへ機能を追加できます(関数呼び出しリストを表示するを参照)。以下の例では、以前の例からの.scs スクリプトも XProtect Smart Client アプリケーションを最小化するように、行を追加しています。

```
<ScriptEngine>
  <Login>
```

```
<ServerAddress>http://ourserver</ServerAddress>  
<AuthenticationType>WindowsDefault</AuthenticationType>  
</Login>  
<Script>SCS.Application.Minimize();</Script>  
</ScriptEngine>
```

フォーマット

有効なパラメータフォーマットは次のとおりです。

```
{-, /, --}param{ , =, : } ( (".")value(", '))
```

例：

```
-UserName Tommy  
--UserName Tommy /UserName:"Tommy" /UserName=Tommy -Password 'Tommy'
```

トラブルシューティング

スマートマップ（トラブルシューティング）

※本機は、スマートマップには対応していません。

スマートマップにカメラが表示されないのはなぜですか？

スマートマップに表示されるはずの 1 台以上のカメラが表示されないときは、カメラが正しく配置されていないことが考えられます。カメラを正しく配置するには次の 2 つの方法があります。

- 階層表示されたカメラのリストから、スマートマップに該当するカメラをドラッグします。この操作にはユーザープロファイルで予めカメラの編集を有効にしておく必要があります。
- Management Client のカメラプロパティでカメラの GPS 位置情報を設定する方法については、システム管理者におたずねください。

Smart Wall（トラブルシューティング）

※本機は、Smart Wall には対応していません。

一部の解決策では、システム管理者のサポートが必要です。

モニターで Smart Wall 用に指定したレイアウトが表示されない。

一般的に、システム管理者がモニターのプリセットをアクティブ化していないことが原因です。システム管理者に問い合わせ、プリセットが Management Client でアクティブであることを確認してください。

カメラがプリセットの一部ではない。プリセットをアクティブ化するとき削除されない。

【空のプリセット項目】がプリセットで選択されていない可能性があります。システム管理者に問い合わせ、Management Client のプリセットの設定を確認してください。

カメラなどの項目をビューまでドラッグできない。項目をクリックしても何も表示されない

これは Microsoft Windows の既知の問題であり、XProtect Smart Wall でも発生することがあります。回避策としては、ESC を 1 回押すと、ドラッグ機能が動作するようになります。

ビューから Smart Wall に画像をドラッグしても表示されない。なぜですか？

ビューに画像を埋め込んでいない可能性があります。また、Smart Wall を実行するコンピュータが画像ファイルにアクセスできません。確実に全員が画像を表示できるようにするには、ビューに埋め込むことをお勧めします。詳細については、「Smart Wall でのコンテンツの追加と削除 『190ページ の"Smart Wall のコンテンツの追加と削除"参照 』」を参照してください。

Smart Wall モニターが相互の上に表示される原因。

システム管理者がモニターを Smart Wall に追加したときに、システム管理者がモニターのレイアウトを定義していません。管理者がモニターを追加すると、モニターは追加された順序で自動的にレイアウトに積み上げられます。管理者はニーズに応じてモニターを配置する必要があります。

Windows エクスプローラから Smart Wall モニターに画像をドラッグできない。カーソルがドロップの許可アイコンにならない

Smart Client が Windows エクスプローラと同じユーザープロファイルで実行されていないことが原因です。たとえば、ローカル管理者ユーザープロファイルで Smart Client を実行し、Windows エクスプローラを標準ユーザーで実行する場合です。この問題を解決するには、両方のプログラムが同じユーザープロファイルで実行されていることを確認します。

アラームリストをビューアイテムに追加した後に、スクロールバーを使用して詳細を表示できない。

これは XProtect Smart Wall の既知の問題です。スクロールバーを使用するには、ビューアイテム外にポインタを置き、CTRL キーを押し続けます。これにより、ビューアイテムのツールバーがスクロールバーに重なりません。これでポインタをビューアイテムに移動し、スクロールバーを使用できます。

XProtect Transact（トラブルシューティング）

※本機は、XProtect Transact には対応していません。

表のエラーメッセージはイベントサーバーに関連しています。これらのエラーのいずれかが発生した場合、Milestone は、システム管理者に連絡することをお勧めします。

エラーメッセージ	説明
イベントサーバーからのトランザクションデータの検索に失敗しました。	- イベントサーバーが実行中ではないか、応答していません。あるいは、サーバーへの接続が失われました。 - これはイベントサーバーまたは関連付けられたデータベースの内部エラーです。データベースへの接続の問題が含まれる場合があります。
完了前に検索がタイムアウトしました。検索期間を短くして、検索を絞り込んでください。	これはイベントサーバーまたは関連付けられたデータベースの内部エラーです。データベースへの接続の問題が含まれる場合があります。

エラーが内部サーバーまたはデータベースエラーの場合、エラーはサーバーログのいずれかに出力されます。

用語集

1

16 進数

16 を基準とする数値システムで、16 の異なった記号を使用します。ここでは、マップビューの色ツールで色の微妙な差異を定義するために使用します。

A

AVI

ビデオでよく使用されるファイル形式。この形式のファイルには、**.avi** というファイル拡張子が付いています。

D

DirectX

高度なマルチメディア機能を提供する Windows の拡張機能。

F

FPS

秒当たりのフレーム数で、ビデオに含まれている情報量を示す単位です。各フレームは 1 つの静止画像を表しますが、数多くのフレームを連続して表示することでモーションを見ているように見えます。FPS の値が高いほど、より滑らかなモーションになります。ただし、FPS が高くなるとビデオを保存したときのファイルサイズも大きくなります。

G

GOP

画像のグループの意味で、個別のフレームをグループ化し、ビデオモーションのシーケンスを形成します。

H

H.264

デジタルビデオ圧縮の標準です。

MPEG 『241ページ』などの標準は、いわゆる不可逆圧縮を使用しており、キーフレーム間の変化だけを保存し、冗長する情報の多くを除外します。キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体のデータを保持しますが、他のフレームは変化したピクセルデータだけを保持します。大規模圧縮と併用すれば、H.264 フォーマットのビデオサイズが大幅に縮小できます。ただし H.264 の大規模圧縮では、データ通信に使用するデバイスで大量のリソースを使用します。

例えば、XProtect Smart Client を実行しているコンピュータでは、監視システムから受信した H.264 ビデオを解凍することで、大量のリソースを使用できる可能性があります。

I

I/O

入力／出力の省略語。

I-フレーム

インターフレームの省略語。デジタルビデオ圧縮のための MPEG 『241ページ』標準で使用されます。I フレームは指定された間隔で保存される 1 つのフレームです。I フレームはカメラのビュー全体を録画しますが、その後のフレーム（P フレーム）は変化したピクセルだけを録画します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。I フレームはキーフレームと類似しています。

J

JPEG

画像圧縮方法の 1 つで、JPG または Joint Photographic Experts Group と呼ばれます。この方法はいわゆる不可逆の圧縮で、画像詳細の一部が圧縮時に失われることを意味します。この方法で圧縮した画像は、通常 JPG または JPEG と呼ばれます。

JPG

JPEG を参照してください。

M

MAC アドレス

メディアアクセスコントロールアドレスの意味で、ネットワーク上の各デバイスを一意に識別する 12 文字の 16 進数です。

Matrix

一部の監視システムに組み込まれている製品で、分散表示を可能にするためにリモートコンピュータ上でのライブカメラビューを制御できます。Matrix によってトリガされたビデオが表示できるコンピュータは、Matrix 受信 PC 『241ページ の"Matrix 受信者"参照』と呼ばれます。

Matrix 受信者

Matrix によってトリガされたビデオが表示できるコンピュータ。

MPEG

Moving Pictures Experts Group (MPEG)によって開発された、デジタルビデオの圧縮標準とファイルフォーマットの集合。MPEG 標準は不可逆圧縮を使用しており、キーフレーム間の変化だけを保存し、冗長する情報の多くを除外します。キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体のデータを保持しますが、他のフレームは変化したピクセルデータだけを保持します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。

P

PTZ

パン/チルト/ズームの意味で、動きと柔軟性に優れたカメラです。

P フレーム

predictive frame の略語。デジタルビデオ圧縮の MPEG 『241ページ』標準で、P フレームと I フレーム 『240ページ の"I-フレーム"参照』を使用します。I フレームはキーフレームとも呼ばれ、指定し

た間隔で保存される 1 つのフレームです。I フレームはカメラのビュー全体を録画しますが、続くフレーム (P フレーム) は変化したピクセルだけを録画します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。

S

SCS

XProtect Smart Client のコントロールを目的とする種類のスクリプトに使用されるファイル拡張子 (.scs) です。

T

TCP

Transmission Control Protocol の略で、ネットワーク上でデータパケットを送信する際に使用するプロトコル(標準)です。TCP は、多くの場合、別のプロトコルである IP (Internet Protocol)と組み合わせて使用されます。この組み合わせを TCP/IP と呼び、ネットワーク上の 2 つのポイント間でデータパケットを長時間にわたって送受信することができます。コンピュータとインターネット上にある別のデバイスを接続するためにも使用します。

TCP/IP

Transmission Control Protocol/Internet Protocol の略で、インターネットを含むネットワーク上でコンピュータと他のデバイスを接続する際に使用するプロトコル(標準)の組み合わせです。

U

URL

Uniform Resource Locator の略語で、ワールドワイドウェブ上のリソースのアドレス。URL の最初の部分はリソースへアクセスするためのプロトコル (データ通信標準)を指定し、2 つめの部分はそのリソースが置かれているドメインまたは IP アドレスを示しています。例：
<http://www.myorganization.org>

V

VMD

ビデオモーション検知の略。IP ビデオ監視システムでは、多くの場合、モーションを検知するとビデオの録画が開始されます。そのため、不必要な録画を防ぐことができます。ビデオの録画は、その他のイベントや時間スケジュールによって開始することもできます。

X

XProtect Transact

監視システムのアドオンとして使用できる製品です。XProtect Transact では、時間にリンクした POS または ATM トランザクションデータとビデオを組み合わせたことができます。

アーカイブ

カメラのデフォルトのデータベースから、別の場所への自動的に録画を転送します。これにより、保存できる録画の量は、カメラのデフォルトのデータベースの最大サイズによる制限を受けません。またアーカイブによって、任意のバックアップメディアに記録データを保存することもできます。

アラーム

XProtect Smart Client でアラームをトリガするように監視システムで定義したインシデント。組織でこの機能を使用している場合、トリガされたアラームは、アラームのリストまたはマップを含んでいるビューで表示されます。

イベント

監視システムで発生する定義済みの状態で、これを基に監視システムはアクションをトリガします。監視システムの設定によっては、外部センサーからの入力、モーションの検知、あるいは他のアプリケーションから受け取ったデータによって、イベントが発生します。また、ユーザーの入力を通じて手動でイベントを発生させることも可能です。イベントの発生は、特定のフレームレートでカメラを録画したり、出力を開始したり、Eメールの送信や操作の組み合わせなどからトリガするよう設定できます。

オーバーレイボタン

ライブタブのビューの個別のカメラ位置にマウスカーソルを移動させた時に、ビデオにレイヤーとして

表示されるボタンです。オーバーレイボタンを使用して、スピーカー、イベント、出力を起動し、PTZ 『241ページ』カメラを動かし、録画を開始し、カメラからシグナルを消去することができます。

カメラ ナビゲータ

たとえば、間取り図に基づいて配置されているかなど、すべてのカメラの相対位置を表示確認することができる機能です。カメラナビゲータを使用して、1つのビューで、1つのカメラから次のカメラに移動することができます。

キーフレーム

デジタルビデオ圧縮の標準(MPEG 『241ページ』など) で使用されます。キーフレームは指定された間隔で保存される1つのフレームです。キーフレームはカメラのビュー全体を録画しますが、続くフレームは変化したピクセルだけを録画します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。キーフレームはIフレーム 『240ページ の"I-フレーム"参照』と類似しています。

コーデック

エクスポートされた AVI 『240ページ』ファイルなど、音声とビデオデータを圧縮および解凍するテクノロジー。

シーケンスエクスプローラ

シーケンスエクスプローラは、ビュー内の各カメラまたはすべてのカメラからの録画シーケンスを表わすサムネイル画像を一覧表示します。

サムネイル画像をドラッグして簡単に時間を移動でき、サムネイル画像を隣り合わせて比較できるため、多数のシーケンスでも簡単にアクセスでき、もっとも関係のあるシーケンスを特定して、すぐに再生できます。

スピーカー

XProtect Smart Client の状況:カメラデバイスに付いている拡声器で、XProtect Smart Client ユーザーはカメラが実際に取り付けられている場所にいる人と話すことができます。

デッドゾーン

デッドゾーンは、情報をシステムに送信するためのジョイスティックハンドルの動作範囲を決定します。

ジョイスティックハンドルは、使用していない時は完全に垂直であるのが理想的ですが、多くの場合、少し傾いています。PTZ 『241ページ』カメラの制御にジョイスティックを使用していると、ジョイスティックが少しでも傾いているとPTZカメラが動きます。このため、デッドゾーンを設定可能としておくことが望ましい場合があります。

ビュー

1 つまたは複数のカメラからのビデオ群で、XProtect Smart Client で表示します。ビューには、HTML ページや静止画像など、カメラからのビデオ以外のコンテンツが含まれている場合もあります。

ビューには、個人ビュー(作成したユーザーだけが見ることができる)と他のユーザーと共有できる共有ビューがあります。

ブックマーク

ビデオ録画の中の重要な時点であり、ユーザーやユーザーの同僚が後から簡単に見つけられるように、ある時点にマークを付け、オプションとして注記を付けることもできます。

プリセット

XProtect Smart Wall の個別のモニター用の定義済みレイアウト。

フレームレート

モーションビデオに含まれている情報量を示す単位です。通常、FPS 『240ページ』(秒当たりのフレーム数)で計算します。

ペイン

XProtect Smart Client ウィンドウの左側にある、ボタン、フィールドなどの小さな集まりです。

ペインから、XProtect Smart Client のほぼすべての機能にアクセスできます。表示されるペインは、使用している設定および実行しているタスクによって異なります。たとえば、**ライブ**タブでライブビデオを見ている場合と、**再生**タブで録画されたビデオを見ている場合ではペインが異なります。

ポート

データトラフィックの論理的終点。ネットワークでは、データトラフィックの異なる種類ごとに異なる

ポートが使用されます。そのため、場合によっては、特定のデータ通信でどのポートを使用するかを指定する必要があります。ほとんどのポートは、通信に含まれるデータの種別に基づいて自動的に使用されます。TCP/IP ネットワークの場合、ポート番号は 0 から 65536 ですが、0 から 1024 までは特定用途のために予約されています。たとえば、ポート 80 は Web ページの表示に使用される HTTP トラフィック用です。

ホスト

TCP/IP ネットワークに接続されているコンピュータ。ホストには専用の IP アドレスがありますが、ネットワーク設定によっては、識別しやすくするために名前(ホスト名)が付いている場合があります。

ホスト名

ネットワーク上にある特定のコンピュータを識別する名前。ホスト名の方が、IP アドレスよりも覚えやすいのが一般的です。

ホットスポット

XProtect Smart Client のビュー 『243ページ』で、拡大または高品質で表示されているカメラ画像の特定の位置。

マップ

1) XProtect Smart Client は、ナビゲーションやステータス可視化で、マップ、間取り図、写真などを使用する機能です。2) 実際のマップ、間取り図、写真などをビュー 『243ページ』で使用します。

モニター

XProtect Smart Wall の各モニター。

漢字

画面自動切替

XProtect Smart Client ビュー 『243ページ』で、複数のカメラからのビデオを次々に再生できる特定の位置です。

記録

IP ビデオ監視システムの場合、**記録**とは**ビデオを保存**することを意味し、場合によっては**カメラからの音声を監視システムのデータベースへ保存すること**も意味します。多くの IP 監視システムでは、カメラから受信したビデオと音声のすべてを保存する必要はありません。ビデオと音声の保存は、多くの場合、モーションが検知された、特定のイベントが発生した、あるいは特定の時刻になったなどの理由がある場合のみ開始されます。そのため、モーションが検知されなくなったり、他のイベントが発生しなくなっ
てから一定時間後に録画は停止されます。元々**記録**は、録音／録画ボタンを押すまでビデオや音声をテープに保存できなかったアナログの世界の用語です。

魚眼レンズ

魚眼レンズ画像を作成、表示できるレンズです。

縦横比

画像の高さと幅の関係

出力

コンピュータから外へ送られるデータです。IP 監視システムで、出力はゲートやサイレン、ストロボなどのデバイスを起動するために使用されます。

索引

[
[ステータス]ダイアログボックス - 30, 40, 185

1
16 進数 - 240

A
AVI - 240, 242

B
BIOS での Intel HD アダプタの有効化 - 54, 56

C
CPU Quick Sync のサポート確認 - 54, 55

D
DirectX - 240
DVD からのインストール - 21

F
FPS - 240, 243

G
GOP - 240

H
H.264 - 240
HTML ページを使ったナビゲーション - 87, 92, 196

I
I/O - 240
Intel ビデオドライバの更新 - 54, 56, 57

I-フレーム - 240, 241, 242

J
JPEG - 240
JPG - 241

L
LPR イベントのフィルタリング (説明付き) - 218, 219

LPR イベントリスト (説明付き) - 218

LPR イベントをレポートとしてエクスポートする - 218, 220

LPR カメラをビューに追加する - 217

LPR タブ - 216, 218

LPR 固有のエLEMENTを有効にする - 221

LPR 認識の表示 - 221, 222

LPR 表示設定の調整 - 217

M
MAC アドレス - 241

Matrix - 241

Matrix - 91, 107, 144

Matrix (説明付き) - 144

Matrix 設定 - 145

Matrix 受信者 - 241

Milestone Federated Architecture - 41

Milestone Interconnect からデータを取得する - 162, 184

MPEG - 240, 241, 242

O
OpenStreetMap タイルサーバーの変更 - 15, 47, 134, 135

P
PTZ - 62, 241, 242, 243
PTZ および魚眼レンズ画像 - 32, 58, 60, 66, 101
PTZ セッションのリリース - 76
PTZ セッションの予約 - 76

PTZ パトロールの停止 - 70

PTZ プリセットの管理 - 34, 68, 73, 74

PTZ プリセットの編集 - 69

PTZ 画像 - 67, 97, 124

P フレーム - 241

S

SCS - 241

Smart Map（説明付き） - 128, 129

Smart Map でカスタムオーバーレイを追加または
削除します - 47, 135

Smart Map にカメラを追加して視界を変える -
137

Smart Map 上のカメラの映像をプレビューする -
142, 143

Smart Map 上のレイヤーを扱う - 129, 130, 140

Smart Map 上のロケーションを追加、編集または
削除する - 137, 139

Smart Map 上の詳細レベルを上げるため、カスタ
ムオーバーレイを利用します - 132, 135, 136

Smart Map 上の背景地図を変更する。 - 129, 134

Smart Map 設定 - 47

Smart Wall（トラブルシューティング） - 238

Smart Wall に画像を表示する - 88

Smart Wall のコンテンツの追加と削除 - 188,
190, 238

Smart Wall の操作を開始する - 38, 88, 188,
191

Smart Wall モニターのレイアウトの変更 - 202

System Monitor タブ - 28, 41

T

TCP - 241

TCP/IP - 241

Transact ワークスペース（説明付き） - 18, 223,
225

U

URL - 241

V

VMD - 242

X

XProtect Access - 207

XProtect Access（説明付き） - 207

XProtect LPR - 216

XProtect Smart Client - Player - 203

XProtect Smart Client - Player（説明付き） -
203

XProtect Smart Client - Player クイックガイド
- 203

XProtect Smart Client - Player のビューの操作
- 204

XProtect Smart Client のインストール - 21

XProtect Smart Client のモードについて - 26,
30, 31

XProtect Smart Client の開始 - 21

XProtect Smart Client の概要 - 26

XProtect Smart Client の設定 - 42

XProtect Smart Client の操作 - 57

XProtect Smart Wall - 91, 186

XProtect Smart Wall（説明付き） - 17, 35, 186

XProtect Smart Wall でのライブまたは録画され
たコンテンツの表示 - 187

XProtect Transact - 223, 242

XProtect Transact (トラブルシューティング) - 239

XProtect Transact について - 223

XProtect Transact の概要 - 224

XProtect Transact 試用版ライセンス - 225, 226

XProtect フォーマットの設定 - 60, 64, 84, 106, 154, 163, 172, 178

あ

アーカイブ - 242

アクセスコントロールイベントのライブビデオの表示 - 207, 208

アクセスコントロールイベントの検索とフィルタ - 211

アクセスコントロールイベントの調査 - 207, 210

アクセスコントロールシステム (説明付き) - 23

アクセスコントロールタブ (説明付き) - 210

アクセスコントロール設定 - 49

アクセスモニターをビューに追加 - 208

アクセスモニター設定 - 208, 209

アクセスモニター設定の変更 - 209

アクセスリクエスト通知 (説明付き) - 215

アクセスリクエスト通知の管理 - 215

アクセスリクエスト通知の操作 - 207, 215

アクセスリクエスト通知をオンまたはオフにする - 216

アクセスレポートのエクスポート - 212

アクセス要求への応答 - 215

アプリケーションボタン - 28, 30, 34

アプリケーション設定 - 42, 89, 192

アラーム - 242

アラームのフィルタリング - 170

アラームの確認 - 168

アラームの詳細の表示および編集 - 168, 194, 233

アラームの操作 - 168

アラームの無効化 - 168

アラームの無視 - 169

アラームマネージャタブの LPR - 216, 221

アラームレポートの表示 - 169

アラーム情報を記載したレポートの印刷 - 169

アラーム設定 - 49

イベント - 106, 170, 242

イベントおよびアラーム - 168

イベントの操作 - 211

イベントリストのライブ更新モードの切り替え - 211, 213

エクスポートウィンドウからアイテムを直接エクスポートする - 175, 176

エクスポートウィンドウの設定 (説明付き) - 171, 175, 176, 177, 181

エクスポートされたビデオの表示 - 150

エクスポート設定 - 46

エクスポート中に録画の領域をマスクする - 84, 175, 177

エビデンスロックをエクスポートする - 180

エビデンスロックを含むビデオを再生する - 180

エビデンスロックを作成する - 29, 36, 179

エビデンスロックを削除する - 181

オーディオ（説明付き） - 111

オーバーレイボタン - 37, 106, 242

オペレーティングシステムの確認 - 54, 55

お気に入りの魚眼レンズの位置の定義 - 67

か

カードホルダーの調査 - 214

カードホルダー情報の管理 - 214, 216

カメラ - 99

カメラ ナビゲータ - 242

カメラからビデオを表示する - 189

カメラツールバー - 28, 33, 36, 39

カメラナビゲータ - 107

カメラナビゲータ（説明付き） - 107, 110, 198

カメラナビゲータの設定 - 108, 109

カメラの切り替え - 92

カメラ設定 - 37, 42, 43, 45, 58, 61, 86, 98,
99, 100, 101, 109, 145

カメラ名と色のインジケータ - 43, 100, 104,
119

キーフレーム - 242

キーボードのショートカット - 47, 61, 62, 84,
92

キーボード設定 - 47, 63

コーデック - 242

このマニュアルの対象ユーザー - 12

さ

サムネイル概要のナビゲーション - 156

シーケンスエクスプローラ - 242

シーケンスエクスプローラを使用したビデオの検索
- 28, 60, 151

シーケンスエクスプローラを使用したモーションの
検索 - 157, 159

シーケンスのナビゲート - 154

シーケンスの検索 - 152

シーケンス検索 - 151

ジョイスティック設定 - 48, 67

ズームと自動最大化 - 128

スクリプト - 235

ステータス詳細の表示 - 128

ストーリーボードのエクスポート - 175, 176

ストーリーボードのエクスポート（説明付き） - 19,
171, 174, 176

スナップショットの作成 - 34, 36, 39, 160

スピーカー - 242

スマートサーチを使用したモーション検索 - 36,
149, 157, 159

スマートマップ（トラブルシューティング） - 238

スマートマップからのカメラの削除 - 138

スマートマップのリンクを追加または削除する -
129, 138, 143

スマートマップの既定の設定の管理 - 141

スマートマップをもっと知る - 15, 128, 139,
142

セットアップモード - 37

た

タイムライン - 19, 28, 36, 41, 61, 149, 153,
161, 203

タイムラインのブックマーク - 164, 166

タイムラインのボタンとコントロール - 161, 204

タイムライン設定 - 45

タスクボタン - 27, 29

タブ - 28, 33, 203

ツールボックス - 120, 124

ディスプレイ間でビューを送信する - 147

データベースを開くウィザード - 205

デジタルズーム - 64

デジタルズーム（説明付き） - 64

デジタルズーム、パンチルトズーム、360° レンズ
画像 - 64

デジタルズームの使用 - 34, 39, 60, 64

デジタル署名の検証 - 206

デッドゾーン - 242

デバイスマネージャの確認 - 54, 55, 56

ドア状態の監視と制御 - 213

トラブルシューティング - 24, 238

トランザクションアラームの調査 - 233

トランザクションイベントの調査 - 232

トランザクションのビューの設定 - 225, 226,
228, 229, 230

トランザクションの印刷 - 234

トランザクションの調査 - 225, 226, 230

トランザクションビューアイテムの設定の調整 -
228

な

ナビゲーションボタン - 164

ナンバープレートマッチリストのインポート/エク
スポート - 220

ナンバープレートマッチリストを編集 - 218, 219

は

バージョンおよびプラグイン情報の表示 - 20, 30

ハードウェアアクセラレーション（説明付き） - 54

ハードウェアアクセラレーションの有効化 - 54

パトロールの一時停止 - 71, 72, 74

パトロールプロファイルの管理 - 71, 72

パネル - 28

ビデオエビデンスの真偽の確認 - 205

ビデオクリップ、音声、XProtect データ、静止画像
のエクスポート - 29, 36, 150, 175

ビデオの手動録画 - 34, 39, 59

ビュー - 22, 28, 29, 203, 243

ビュー（説明付き） - 78, 204

ビューアイテムまたは Smart Wall へのテキストの
追加 - 90

ビューおよびカメラの検索 - 19, 85

ビューおよびビューのグループ - 80

ビューから Smart Wall にコンテンツを送信する -
201

ビューグループの作成 - 82

ビューに Matrix のコンテンツを追加する - 38,
145

ビューにオーバーレイボタンを追加する - 89

ビューにカメラを追加する - 37, 85, 91, 99

ビューにコンテンツを追加する - 37, 38, 85

ビューにスマートマップを追加する - 131

ビューにマップを追加する - 122

ビューのカスタマイズ - 207, 209

- ビューのカメラを変更 - 33, 35, 39, 91, 92
- ビューのトランザクションの調査 - 18, 229, 230
- ビューの作成 - 37, 82
- ビューの作成および管理 - 37, 79, 228, 229
- ビューの選択 - 33, 61
- ビューヘショートカット番号を割り当てる - 61, 84
- ビューまたは Smart Wall に HTML ページを追加する - 86
- ビューまたは Smart Wall にカメラナビゲータを追加する - 38, 108, 110
- ビューまたは Smart Wall にホットスポットを追加する - 99
- ビューまたは Smart Wall に画面自動切替を追加する - 97
- ビューやグループをコピー、名前変更、または削除する - 83
- ビュー間でビデオを送信する - 34, 39, 91
- ブックマーク - 166, 178, 243
- ブックマーク（説明付き） - 39, 45, 166
- ブックマークウィンドウ - 166
- ブックマークの検索 - 154
- ブックマークの追加および編集 - 36, 167
- プライバシーマスク - 84, 86, 100, 177
- プリセット - 243
- フル画面表示 - 29, 36, 42, 62
- フレームレート - 243
- フレームレート効果（説明付き） - 102, 105
- ペイン - 243
- ペイン設定 - 44, 61
- ヘルプの表示 - 19, 30
- ポート - 243
- ホスト - 243
- ホスト名 - 243
- ホットスポット - 32, 58, 62, 91, 98, 107, 115, 243
- ホットスポット（説明付き） - 98, 145
- ホットスポット設定 - 99, 198
- ホットゾーンをマップに追加 - 124
- ま
- マップ - 88, 114, 191, 210, 243
- マップからフロートウィンドウへカメラを送信 - 122
- マップで LPR サーバーのステータスを有効にする - 217
- マップとスマートマップ（説明付き） - 114, 129, 138
- マップのエLEMENTの外観の変更 - 125
- マップのエLEMENTの追加と削除 - 123
- マップのカメラから録画されたビデオを表示 - 114, 124
- マップのテキストを追加/編集 - 127
- マップの削除 - 123
- マップの操作 - 122
- マップの背景を変更する - 123
- マップを使用したドアの監視 - 207, 210, 213
- マップ概要ウィンドウ - 121
- マップ上でのラベルの編集と回転 - 127

マップ設定 - 118, 127

マルチウィンドウ - 24, 27, 91, 112, 145

メディアプレイヤーのフォーマット設定 - 173

モーションしきい値（説明付き） - 160

モジュール設定の確認 - 54, 57

モニター - 243

や

ユーザー権限によって、操作方法が決定されます - 57

ようこそ - 15

よくある質問：エクスポート - 177

よくある質問：カメラ - 107

よくある質問：デジタルズーム - 65

よくある質問：ビュー - 95

よくある質問：マップ - 121

よくある質問：マルチウィンドウ - 148

よくある質問：音声 - 113

ら

ライブタブ - 28, 32, 58, 208

ライブタブの LPR - 216, 217

ライブタブのアクセスコントロール（説明付き） - 208

ライブトランザクションの監視 - 18, 225, 226, 229

ライブビデオ（説明付き） - 58

ログインウィンドウ（説明付き） - 22

ログインおよびログアウト - 24

ログインプロセス - 22, 30

ログイン認証（説明付き） - 19, 22, 23, 24

ロックされた PTZ プリセット - 70

漢字

右クリックメニュー - 120

音による通知 - 101, 106

音声設定 - 32, 58, 111, 112

仮想ジョイスティックおよび PTZ オーバーレイ ボタン - 101

画面自動切替 - 32, 58, 91, 97, 107, 243

画面自動切替（説明付き） - 97, 145

拡張 - 186

拡張設定 - 49

監視システムの別の特徴 - 13, 22, 24, 26, 44, 45, 49, 58, 68, 70, 71, 72, 74, 75, 80, 84, 88, 96, 99, 100, 106, 111, 112, 114, 125, 144, 154, 166, 172, 178, 186, 191

監視と通信 - 78

管理サーバーからのインストール - 21

簡易モードでのビデオのエクスポート - 31

簡易モードでのビューの変更 - 31

簡易ワークスペースの使用 - 17, 26, 30

既存のエビデンスロックを表示する - 41, 179

機能設定 - 44, 60, 166, 167

記録 - 244

起動スクリプト - 235

魚眼レンズ - 244

魚眼レンズ画像 - 66

境界ボックス - 106

境界ボックスプロバイダー（説明付き） - 104, 106

検索とフィルタを使用したトランザクションの調査
- 224, 230, 232, 234

検索の定義 - 153

言語設定 - 53

個別再生を使用する録画済みビデオの表示 - 33,
36, 39, 58, 149, 208

再生スピード - 163

再生タブ - 28, 35

再生の日時 - 163

再生ボタン - 31, 163

最低限のシステム要件 - 14

使用開始 - 226

時間ナビ制御 - 60, 161, 167

時間の調整 - 160

時間選択 - 35, 163, 175, 176, 185

時間幅 - 164, 204

自動切替設定 - 98, 148

手動で **Matrix** の受信コンピュータにビデオを送信
する - 145

手動でイベントをアクティブ化する - 171

手動での出力のアクティブ化 - 76

手動パトロールの開始および停止 - 71

縦横比 - 244

出力 - 244

証拠のエクスポート - 171

証拠ロック - 178

証拠ロック（説明付き） - 18, 36, 178

証拠ロックのステータスメッセージ - 179, 180,
181, 182

証拠ロックの編集 - 180

証拠ロックフィルター - 179, 182

証拠ロック設定 - 179, 180, 181

証拠を印刷する - 36, 39, 60, 64, 106, 154,
183

詳細マーカー - 162, 165

上級版ワークスペースを使う - 26, 27, 97

新機能 - 15

静止画像設定 - 174

設定ウィンドウ（説明付き） - 30, 42, 67, 105,
160

設定モードに入る - 29, 34, 36, 38, 61

相手と話す - 112

単一の画像のコピー - 34, 39, 62

地図の紹介 - 114, 129

著作権、商標、および免責条項 - 11

調査と文書 - 149

追加情報 - 162, 164

定義済みの PTZ プリセット位置までカメラを移動す
る - 66, 67

日付と時刻のナビゲーション - 163

背景地図入門 - 128, 129, 131, 132, 134, 140

無効なソースからのトランザクションの調査 -
231

予約済み PTZ セッション(解説済み) - 75

録画されたビデオ（説明付き） - 35, 59

録画されたビデオのモーションを検索する - 19,
39, 157, 159

録画検索ペインを使用した検索 - 149, 153, 166

録画済みビデオの検索 - 36, 149, 166

**JVCケンウッド
カスタマーサポートセンター**

固定電話  **0120-2727-87**

携帯電話・PHS  **0570-010-114**

一部のIP電話など **045-450-8950**

FAX **045-450-2308**

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

株式会社 JVCケンウッド・公共産業システム

〒 221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12

ホームページ <https://jkpi.jvckenwood.com/>